

青森市子どもの権利に関する
子ども・大人の実態把握調査
報告書

平成 24 年 4 月
青森市

目 次

1. 調査の概要	1
2. 調査結果から見えてくるもの	5
3. 調査結果<子ども>	29
4. 調査結果<大人>	100

1. 調査の概要

1. 調査目的

本調査は、本市の子どもの現状や、子どもに対する大人の意識、子どもと大人の認識のずれなどを把握し、「子どもの権利条例」の制定に向けた基礎資料とすることを目的とした。

2. 調査方法

(1) 調査対象

- ・子ども 概ね 500 人

対象者	回収件数
小学校 5 年生の児童	102 件
中学校 1 年生の生徒	97 件
中学校 2 年生の生徒	88 件
高校 1 年生の生徒	97 件
高校 2 年生の生徒	113 件
特別支援学校の児童生徒	19 件
計	516 件

- ・大人 概ね 500 人

対象者		回収件数
就学前児童の保護者	保育所入所児童の保護者	73 件
	幼稚園入所児童の保護者	25 件
小中高児童生徒の保護者	小学校児童の保護者	39 件
	中学校生徒の保護者	107 件
	高校生徒の保護者	92 件
特別支援学校児童生徒等の保護者		29 件
小中高の教員		4 件
その他一般の大人	大学生・専門学校生	21 件
	公共施設利用者	70 件
	町会長	9 件
	市ホームページアンケート	5 件
計		474 件

(2) 調査方法

- ・各学校等（小中高・特別支援学校・大学・専門学校・幼稚園・保育所）については、市で選定した対象校に直接訪問のうえ調査を依頼し、後日、直接回収した。
- ・公共施設利用者及び町会長については、市で直接出向き、利用者等に声かけをして調査にご協力をいただいた。
- ・子どもによるアンケート記載にあたっては、大人（保護者・教員）の影響を排除するため、学校で記入後、本人が封入封緘し提出してもらった。

(3) 調査期間

平成 24 年 2 月 6 日～17 日

3. 調査内容

(1) 子ども調査

- ・回答者の属性
- ・今、打ち込んでいること、やりがいを感じていること
- ・疲れること、不安に思うこと
- ・大人から傷つけられた体験の有無、内容、その時の気持ち、対処方法等
- ・友だち・先輩・後輩から傷つけられた体験の有無、内容、その時の気持ち、対処方法等
- ・他者が傷つけられた体験への対応
- ・ホッとでき、安心していられる場所
- ・自分が話したいことを何でも話せる人
- ・大切に思ってくれていると思える人
- ・日頃、納得がいかないこと、おかしいと感じることの有無、内容
- ・子どもの自己肯定感
- ・「子どもの権利条約」の認知度
- ・子どもの相談・救済制度の認知度、期待度
- ・子どもの生活に関する自由意見

(2) 大人調査

- ・回答者の属性
- ・子どもが今、打ち込んでいること、やりがいを感じていると思うこと
- ・子どもが疲れること、不安に思うこと
- ・子どもが大人から傷つけられた体験の有無、内容、その時の気持ち
- ・子どもが友だち・先輩・後輩から傷つけられた体験の有無、内容、その時の気持ち
- ・子どもがホッとでき、安心していられると思う場所
- ・子どもが話したいことを何でも話せると思う人
- ・子どもが大切に思ってくれていると思う人
- ・子どもが日頃、納得がいかないこと、おかしいと感じることの有無、内容
- ・子どもの自己肯定感
- ・大人が疲れること、不安に思うこと
- ・大人が子ども時代に大人から傷つけられた体験の有無、内容
- ・大人の自己肯定感
- ・「子どもの権利条約」の認知度
- ・子どもの相談・救済制度の認知度、期待度

4. 分析方法

分析は、単純集計のほか、子どもにおいては、

- ①学校の種別（調査票【子ども】問2）
- ②子どもの自己肯定感（調査票【子ども】問23）

によるクロス集計、大人においては、

- ①子どもの有無（調査票【大人】問3）
- ②大人の自己肯定感（調査票【大人】問21）

によるクロス集計を行った。

このほか、

- ①子どもの自己肯定感に関する質問（調査票【子ども】問23～問26）を学校の種別（調査票【子ども】問2）ごとに、

また、

- ②大人の自己肯定感に関する質問（調査票【大人】問21～問24）を子どもの有無及びその実態（1番年長の子どもの種別）（調査票【大人】問3）ごとに

クロス集計を行った。

なお、小数点は第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合もある。また、回答の比率は、その設問の回答者数（n）を基礎として算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると、100%を超える。

また、「2. 調査結果から見えてくるもの」について、札幌市で行った「札幌市子どもの安心と救済に関する実態・意識調査」（平成19年実施）の実態及びそれとの比較を掲載している。

2. 調査結果から見えてくるもの

* 「2. 調査結果から見えてくるもの」では、特別支援学校の児童生徒は母数が少ないため、分析結果について記載していない。

1. 学校・家庭等における子どもの生活

(1) 子どもと学校

① 「クラブ活動・部活動」「学校の勉強」

子どもが「今、打ち込んでいることや、やりがいを感じていること」として、「クラブ活動・部活動」と答える子どもが47.1%、「学校の勉強」と答える子どもが34.7%あった。

一方、「クラブ活動・部活動」「学校の勉強」を「疲れること、不安に思うこと」としてあげる割合を見ると、「クラブ活動・部活動」は16.9%であったが、「学校の勉強」は43.2%と高い割合を占め、中でも、高校生（1、2年）が50.7%、中学生（1、2年）が44.6%と高かった。

【子ども 問3、問4】

学校におけるクラブ活動・部活動や勉強に取り組むことで、学校で充実感を得られている子どもが相当数いる一方で、学校の勉強に疲れや不安を感じている子どもが中学生世代以降で多い傾向となった。

《札幌市の実態及びそれとの比較》

- 「今、打ち込んでいることや、やりがいを感じていること」（問3）
 - ・ 「クラブ活動・部活動」43.6%
 - ・ 「学校の勉強」33.6%（15歳（65.6%）、16歳（60.6%）、13歳（54.5%）が高くなっている）
- 「疲れること、不安に思うこと」（問4）
 - ・ 「クラブ活動・部活動」13.1%
 - ・ 「学校の勉強」53.0%

本市の結果と大きな差異は見られない。

※札幌市の調査は、11歳～17歳を対象としており、年齢ごとにクロス集計を行っている。

②子どもと先生の関係

大人からの傷つき体験として「先生や職員から心を傷つけられる言葉を言われる」経験がある子どもは8.5%、「先生から、たたかれる、なぐられる」経験がある子どもは4.1%あった。中でも、高校生において、「先生や職員から心を傷つけられる言葉を言われる」経験があると答えた割合が11.5%と高かった。

一方、「何でも話せる人」として「担任の先生」をあげる子どもが、小学生で24.3%あった（子ども全体では10.9%）。

また、「大切に思ってくれていると思える人」として「担任の先生」を上げる子どもが27.7%あり、中でも、小学生で47.6%と高い割合だった。このほか、「クラブ・部活動の顧問の先生」をあげる子どもが13.6%あり、中でも、小学生では14.6%、中学生では18.5%と高い割合だった。

【子ども 問5、問19、問20】

子どもの生活の中でも多くの時間を過ごす学校において、子どもと直接顔を合わせる機会が多い先生は、子どもからの信頼を得られれば、子どもが傷つき悩んだとき、それを近くで察して話を聞くことが可能で、子どもの救済にとって重要な位置にいると言える。

＜札幌市の実態及びそれとの比較＞

●「大人からの傷つき体験」（問5）

- ・「先生や職員から心を傷つけられる言葉を言われる」9.2%（17歳（12.5%）、14歳（10.8%）が高くなっている）
- ・「先生から、たたかれる、なぐられる」1.8%（17歳（4.0%）、14歳（3.0%）が高くなっている）

●「何でも話せる人」（問19）

- ・「担任の先生」10.7%（11歳（35.6%）、12歳（15.3%）が高くなっている）

●「大切に思ってくれていると思える人」（問20）

- ・「担任の先生」25.5%（11歳（45.2%）、12歳（38.8%）が高くなっている）
- ・「クラブ・部活動の顧問の先生」12.2%（12歳（20.4%）、13歳（16.3%）が高くなっている）

本市の結果と大きな差異は見られないものの、「何でも話せる人」として「担任の先生」と回答する割合が、年代によっては本市より高い傾向にある。

※札幌市の調査は、11歳～17歳を対象としており、年齢ごとにクロス集計を行っている。

③友だちとの関係の重要性

「疲れること、不安に思うこと」として、「学校の勉強」「受験・進路」に次いで多くあげられたのが「友だち・先輩・後輩との関係」で24.4%あった。具体的に、友だち・先輩・後輩に「心を傷つけられる言葉を言われる」経験がある子どもは26.4%あり、中でも、小学生が36.9%と高く、また、「無視される」経験がある子どもは17.2%あり、中でも、小学生では35.0%と高かった。

一方で、「何でも話せる人」として「友だち・先輩・後輩」をあげる子どもが69.2%あり、中でも、高校生で73.2%、中学生で70.7%と高くなっている。また、「大切に思っている人」として「友だち・先輩・後輩」をあげる子どもが59.5%あり、中でも、高校生が65.1%と高くなっている。

【子ども 問4、問10、問19、問20】

子どもにとって友だちは、その関係性で悩むこともあるが、話したいことを何でも話し、自分の存在価値を感じることができる、とても大きな存在と言える。

＜札幌市の実態及びそれとの比較＞

- 「疲れること、不安に思うこと」(問4)
 - ・「友だち・先輩・後輩との関係」29.6%
- 「友だち・先輩・後輩からの傷つき体験」(問10)
 - ・「心を傷つけられる言葉を言われる」28.3% (11歳(19.2%)、12歳(21.4%)、13歳(31.7%)、14歳(28.6%)、15歳(30.5%)、16歳(29.2%)、17歳(28.6%)となっている)
 - ・「無視される」18.4% (11歳(15.1%)、12歳(15.3%)、13歳(13.8%)、14歳(21.9%)、15歳(19.9%)、16歳(20.3%)、17歳(16.1%)となっている)
- 「何でも話せる人」(問19)
 - ・「友だち・先輩・後輩」73.0% (11歳(65.8%)、12歳(65.3%)、13歳(69.9%)、14歳(71.7%)、15歳(76.4%)、16歳(75.4%)、17歳(75.4%)となっている)
- 「大切に思っていると思える人」(問20)
 - ・「友だち・先輩・後輩」67.2% (11歳(64.4%)、12歳(69.4%)、13歳(64.2%)、14歳(65.1%)、15歳(68.7%)、16歳(69.9%)、17歳(66.9%)となっている)

友だち、先輩・後輩に「心を傷つけられる言葉を言われる」「無視される」が本市では小学生に高かったが、札幌市では小学生は低くなっている。

※札幌市の調査は、11歳～17歳を対象としており、年齢ごとにクロス集計を行っている。

④大きなストレスとなる受験・進路

「疲れること、不安に思うこと」として「受験・進路」をあげる子どもが38.6%あり、中でも、高校生で54.5%、中学生で39.7%と高く、日常生活の中でかなりのストレスとなっていることがわかる。

【子ども 問4】

＜札幌市の実態及びそれとの比較＞

- 「疲れること、不安に思うこと」(問4)
 - ・「受験・進路」43.3% (14歳(59.1%)、17歳(55.2%)が高くなっている)

本市の結果と大きな差異は見られない。

※札幌市の調査は、11歳～17歳を対象としており、年齢ごとにクロス集計を行っている。

(2) 子どもと家庭

①親との関係

親との関係を「疲れること、不安に思うこと」と回答する割合は 12.8%であり、中でも、中学生 14.1%、高校生 15.8%と高かった。また、「親から、たたかれる、なぐられる」経験がある子どもは 11.6%、「親から、心を傷つけられる言葉を言われる」経験がある子どもは 11.2%あった。

一方、「何でも話せる人」として「親」をあげる子どもが 59.1%と半数以上あり、中でも、小学生で 78.6%と高かった。また、「大切に思ってくれていると思える人」として「親」をあげる子どもは 84.5%あり、中でも、小学生で 91.3%と高かった。

【子ども 問4、問5、問19、問20】

子どもにとって、親とは、自分を大切に思ってくれているという信頼感を抱ける基本的な存在であり、裏返せば、子どもは、親に対して、自分を大切に思っていてほしいと感じていると言える。

《札幌市の実態及びそれとの比較》

- 「疲れること、不安に思うこと」(問4)
 - ・ 「親との関係」 15.8% (16歳 (19.1%)、15歳 (18.1%) が高くなっている)
- 「大人からの傷つき体験」(問5)
 - ・ 「親から、たたかれる、なぐられる」 10.6%
 - ・ 「親から、心を傷つけられる言葉を言われる」 13.9%
- 「何でも話せる人」(問19)
 - ・ 「親」 58.5% (11歳 (83.6%)、13歳 (64.2%) が高くなっている)
- 「大切に思ってくれていると思える人」(問20)
 - ・ 「親」 86.1% (11歳 (94.5%)、16歳 (89.8%) が高くなっている)

本市の結果と大きな差異は見られない。

※札幌市の調査は、11歳～17歳を対象としており、年齢ごとにクロス集計を行っている。

②家族（祖父母、兄弟姉妹等）との関係

「疲れること、不安に思うこと」として「兄弟姉妹との関係」と回答する割合が 8.9%あり、中でも、小学生で 13.6%と高かった。

一方、「何でも話せる人」として、「友だち・先輩・後輩」「親」に次いで多くあげられたのが「兄弟姉妹」で 30.6%、「祖父母」が 15.9%であった。また、「大切に思っていると思える人」としても「祖父母」が 50.8%、「兄弟姉妹」が 45.9%と高かった。中でも、「祖父母」については、小学生が 64.1%と高かった。

【子ども 問 4、問 19、問 20】

子どもにとって、親以外の家族も日常生活の中で大きな存在であることを示している。

＜札幌市の実態及びそれとの比較＞

- 「疲れること、不安に思うこと」（問 4）
 - ・ 「兄弟姉妹との関係」 8.9%（13 歳（13.0%）、14 歳（11.9%）が高くなっている）
- 「何でも話せる人」（問 19）
 - ・ 「兄弟姉妹」 26.7%
 - ・ 「祖父母」 12.2%
- 「大切に思っていると思える人」（問 20）
 - ・ 「祖父母」 52.0%（11 歳（65.8%）、13 歳（63.4%）が高くなっている）
 - ・ 「兄弟姉妹」 49.0%

本市の結果と大きな差異は見られない。

※札幌市の調査は、11 歳～17 歳を対象としており、年齢ごとにクロス集計を行っている。

(3) 子どもと地域

「今、打ち込んでいることや、やりがいを感じていること」として、「ボランティア活動、子ども会活動」が3.5%あり、小学生は13.6%と高くなっているが、中学生1.1%、高校生1.0%と低くなっている。また、「知らない大人に、声をかけられる、追いかける」経験がある子どもが4.7%あったほか、「大切に思ってくれていると思える人」として「住んでいる地域の知り合いの人」と回答する割合が5.6%と低かった。

【子ども 問3、問5、問20】

地域が子どもの居場所・活動の場所になっていくための環境整備が求められていると言える。

《札幌市の実態及びそれとの比較》

- 「今、打ち込んでいることや、やりがいを感じていること」(問3)
 - ・ 「ボランティア活動、子ども会活動」3.2%
- 「大人からの傷つき体験」(問5)
 - ・ 「知らない大人に、声をかけられる、追いかける」9.2%
- 「大切に思ってくれていると思える人」(問20)
 - ・ 「住んでいる地域の知り合いの人」3.0%

本市の結果と大きな差異は見られない。

(4) 子どもの安心していられる場所

子どもが安心していられる場所として、最も多く回答があったのは「自分の部屋」で73.6%、次いで「家族といっしょにくつろぐ部屋」で57.2%だった。

これを学校別に見ると、中・高生は、「自分の部屋」(中学生74.5%、高校生78.9%)、次いで「家族といっしょにくつろぐ部屋」(中学生56.5%、高校生47.8%)となっている一方で、小学生は、「家族といっしょにくつろぐ部屋」75.7%、次いで「自分の部屋」61.2%だった。いずれにしても、子どもは、自分の家を安心していられる場所として捉えていると同時に、家の中におけるプライベート空間を大事に考えていると言える。

それ以外の場所としては、「祖父母の家」が24.2%、「友だちの家」が23.6%あった。なお、学校で1番高かったのは、「学校の教室」で15.9%あった。

【子ども 問18】

これらの場所は、「自分の部屋」を除いて、自分以外の他者との関わりがある場所であるが、これらが安心していられる場所としてあげられる背景には、その場所が、自分を大切に思ってくれていると思える人がいるところ(親、友だち・先輩・後輩、祖父母、兄弟姉妹)であると考えられる。

◀札幌市の実態及びそれとの比較▶

●「子どもが安心していられる場所」(問18)

- ・「自分の部屋」85.6% (11歳(74.0%)、13歳(83.7%)、17歳(86.7%)となっている)
- ・「家族といっしょにくつろぐ部屋」52.0% (11歳(67.1%)、13歳(52.8%)、17歳(49.6%)となっている)
- ・「祖父母の家」17.0%
- ・「友だちの家」22.4%
- ・「学校の教室」24.5%

本市の結果と大きな差異は見られないものの、札幌市では、すべての年代において、「自分の部屋」と回答する割合が「家族といっしょにくつろぐ部屋」と回答する割合を上回っている。

※札幌市の調査は、11歳～17歳を対象としており、年齢ごとにクロス集計を行っている。

2. 子どもの自己肯定感の現状

自己肯定感の基本的な要素である「自分のことが好きか」という項目については、「そう思う」と回答する子どもは15.3%、「まあそう思う」と回答した子どもは29.7%で、合わせて半数以下(45.0%)である一方、「そう思わない」と回答する子どもは24.8%、「あまりそう思わない」と回答する子どもは29.5%で、合わせて半数を超えた(54.3%)結果となった。

なお、学校別で見ると、小学生の58.3%が「そう思う」「まあそう思う」と過半数で自己を肯定的に捉えている一方で、中学生は41.3%、高校生は41.1%であり、過半数に達しなかった。

【子ども 問23】

《札幌市の実態及びそれとの比較》

● 「自分のことが好きか」

- ・「そう思う」14.3%
- ・「まあそう思う」38.3% 計 52.6%
- ・「あまりそう思わない」31.5%
- ・「そう思わない」14.9% 計 46.4%

札幌市の子ども過半数で自己を肯定的に捉えている一方で、本市の子ども過半数で自己を肯定的に捉えていない結果となった。

※札幌市は、この項目について年齢別に集計はしていない。

また、「自分は人から必要とされていると思うか」という項目についても、小学生の63.1%が「そう思う」「まあそう思う」と回答している一方で、中学生は46.2%、高校生は47.4%と回答している。

【子ども 問24】

《札幌市の実態及びそれとの比較》

● 「自分は人から必要とされていると思うか」

- ・「そう思う」12.1%
- ・「まあそう思う」43.6% 計 55.7%
- ・「あまりそう思わない」32.2%
- ・「そう思わない」10.7% 計 42.9%

本市の結果と大きな差異は見られない。

※札幌市は、この項目について年齢別に集計はしていない。

このように、子どもの中でも、年代別などで自己肯定感の高低に違いが見られるが、「誰かのために何かをしてあげたいと思うか」「社会に役立つことをしたいと思うか」の項目については、すべての年代で肯定的に捉えている割合が高く、中でも、「誰かのために何かをしてあげたいと思うか」の項目について、小学生の68.9%が「そう思う」と回答している。

【子ども 問25、問26】

3. 子どもの自己肯定感の影響

今回の調査では、子どもの自己肯定感と子どもの生活の充実度等に相関関係があるのではないかと仮定し、自己肯定感の高低の観点から、子どもの生活実態を分析してみた。

問 23 の「自分のことが好きか」という項目について、「そう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の 4 つの選択肢が設定されているが、以下の分析では、自己肯定感の高低における違いを分かりやすくするため、「自己を肯定的に捉えている子ども」を「そう思う」と回答した子ども、「自己を肯定的に捉えていない子ども」を「そう思わない」と回答した子どもとした。

(1) 活動への取組み姿勢・日常生活における人間関係の違い

①学校等における活動への積極性

自己を肯定的に捉えている子どもは、

- ・「学校のクラブ活動・部活動」 54.4%
- ・「学校の勉強」 50.6%
- ・「学校の運動会・体育大会などの運動行事」 19.0%
- ・「学校の発表会・文化祭などの文化行事」 15.2%

と、学校における諸活動に打ち込んでいると回答する子どもが多かった。

一方、自己を肯定的に捉えていない子どもは、

- ・「学校のクラブ活動・部活動」 35.2%

と、自己を肯定的に捉えている子どもより約 20%も少なく、このほか、

- ・「学校の勉強」 21.9%
- ・「学校の運動会・体育大会などの運動行事」 7.0%
- ・「学校の発表会・文化祭などの文化行事」 4.7%

と、いずれも自己を肯定的に捉えている子どもの半数以下という結果となった。中でも、「学校の勉強」については、「疲れること、不安に思うこと」として回答する割合が 46.1%と高かった。(自己を肯定的に捉えている子どもは 25.3%)

自己を肯定的に捉えていない子どもに際立った特徴は、「今、打ち込んでいることや、やりがいを感じていること」が「特にない」と回答する子どもが 14.1%もあったことである。

(自己を肯定的に捉えている子どもは 1.3%)

【子ども 問 3、問 4、】

自己肯定感の高い子どもは、学校の諸活動に積極的だが、自己肯定感の低い子どもは、逆に学校の諸活動にストレスを感じる傾向があると言える。

《札幌市の実態及びそれとの比較》

- 自己を肯定的に捉えている子どもの学校における諸活動
 - ・「学校のクラブ活動・部活動」48.4%
 - ・「学校の勉強」43.6%
 - ・「学校の運動会・体育大会などの運動行事」18.6%
 - ・「学校の発表会・文化祭などの文化行事」30.3%
- 自己を肯定的に捉えていない子どもの学校における諸活動
 - ・「学校のクラブ活動・部活動」31.8%
 - ・「学校の勉強」24.1%
 - ・「学校の運動会・体育大会などの運動行事」10.8%
 - ・「学校の発表会・文化祭などの文化行事」18.5%
- 「疲れること、不安に思うこと」として「学校の勉強」と回答する割合
 - ・自己を肯定的に捉えている子ども40.4%
 - ・自己を肯定的に捉えていない子ども63.6%
- 「今、打ち込んでいることや、やりがいを感じていること」が「特にない」と回答する割合
 - ・自己を肯定的に捉えている子ども1.1%
 - ・自己を肯定的に捉えていない子ども9.2%

本市の結果と大きな差異は見られないものの、札幌市では、「学校の発表会・文化祭などの文化行事」に打ち込む子どもの割合が、自己肯定感の高低に限らず本市より高い。

なお、札幌市において、自己を肯定的に捉えていない子どもに際立った特徴としてあげているのが、「今、打ち込んでいることや、やりがいを感じていること」として、次のように、主に1人で行うものを多く上げる傾向があったことである。本市では、札幌市ほど顕著ではないが、高い割合となっている。

- ・「パソコンやインターネット」32.3%（自己を肯定的に捉えている子ども25.5%）
- ・「読書」30.3%（自己を肯定的に捉えている子ども26.6%）
- ・「1人でするゲーム」24.1%（自己を肯定的に捉えている子ども14.9%）

※本市の集計結果

- ・「パソコンやインターネット」32.0%（自己を肯定的に捉えている子ども30.4%）
- ・「読書」23.4%（自己を肯定的に捉えている子ども27.8%）
- ・「1人でするゲーム」21.1%（自己を肯定的に捉えている子ども26.6%）

②子どもが信頼できる人間関係を築ける場所の有無

「子どもが安心していられる場所」について、自己を肯定的に捉えている子どもは、

- ・「家族といっしょにくつろぐ部屋」68.4%
- ・「学校の教室」26.6%
- ・「学校の図書室」13.9%
- ・「学校の体育館・グラウンド」13.9%

であるのに対し、自己を肯定的に捉えていない子どもは、

- ・「家族といっしょにくつろぐ部屋」41.4%
- ・「学校の教室」9.4%
- ・「学校の図書室」7.0%
- ・「学校の体育館・グラウンド」1.6%

と、いずれも大きな差異が見受けられる結果となった。

【子ども 問18】

身近な家族と過ごす場所や、毎日多くの人と関わりを持つ学校を、安心していられる場所と感じられるかどうかと、子どもの自己肯定感の高低には、何らかの関連があるものと推測できる。

＜札幌市の実態及びそれとの比較＞

●自己を肯定的に捉えている子どもが「安心していられる場所」

- ・「家族といっしょにくつろぐ部屋」66.0%
- ・「学校の教室」35.6%
- ・「学校の体育館・グラウンド」11.7%

※「学校の図書室」は分析値なし

●自己を肯定的に捉えていない子どもが「安心していられる場所」

- ・「家族といっしょにくつろぐ部屋」29.7%
- ・「学校の教室」11.3%
- ・「学校の体育館・グラウンド」11.3%

※「学校の図書室」は分析値なし

自己を肯定的に捉えていない子どもが「安心していられる場所」として「家族といっしょにくつろぐ部屋」と回答している割合に若干の開きはあるものの、そのほかでは、本市の結果と大きな差異は見られない。

次に「何でも話せる人」について、自己を肯定的に捉えている子どもは、

- ・「親」 74.7%
- ・「兄弟姉妹」 29.1%
- ・「祖父母」 25.3%
- ・「担任の先生」 25.3%

など、身近な存在の家族や、毎日学校で関わりを持つ先生と何でも話せる関係を築けていることがうかがえる。

一方、自己を肯定的に捉えていない子どもは、

- ・「親」 39.1%
- ・「兄弟姉妹」 21.9%
- ・「祖父母」 7.0%
- ・「担任の先生」 6.3%

と、いずれも大きな差異が見受けられる結果となった。

しかしながら、「何でも話せる人」として最も回答の割合が高かった「友だち・先輩・後輩」については、自己を肯定的に捉えている子どもが 58.2%であるのに対し、自己を肯定的に捉えていない子どもは 71.1%と、家族や学校の先生より、友だちに対し、何でも話せる関係が築けていると感じる子どもが多い結果となった。

また、自己を肯定的に捉えていない子どもに特徴的だったのは、「何でも話せる人はいない」と回答した割合が 15.6%もあったことである。（自己を肯定的に捉えている子どもは 8.9%）

【子ども 問 19】

親や友だちに何でも話せる関係を築けているかどうかと、子どもの自己肯定感の高低には、何らかの関連があるものと推測できる。

＜札幌市の実態及びそれとの比較＞

●自己を肯定的に捉えている子どもが「何でも話せる人」

- ・「親」 73.4%
- ・「兄弟姉妹」 38.8%
- ・「祖父母」 23.4%
- ・「担任の先生」 22.9%
- ・「友だち・先輩・後輩」 75.0%
- ・「何でも話せる人はいない」 5.3%

●自己を肯定的に捉えていない子どもが「何でも話せる人」

- ・「親」 40.5%
- ・「兄弟姉妹」 14.9%
- ・「祖父母」 6.7%
- ・「担任の先生」 7.2%
- ・「友だち・先輩・後輩」 62.1%
- ・「何でも話せる人はいない」 22.1%

「何でも話せる人」として、「友だち・先輩・後輩」と回答している割合について、札幌市では、自己を肯定的に捉えている子どものほうが高いが、本市は自己を肯定的に捉えていない子どものほうが高い。

「自分を大切に思ってくれていると思える人」については、自己を肯定的に捉えている子どもは、

- ・「親」 89.9%
- ・「友だち・先輩・後輩」 64.6%
- ・「祖父母」 68.4%
- ・「兄弟姉妹」 59.5%
- ・「担任の先生」 46.8%

と、身近な存在の家族や、毎日多くの関わりを持つ人から大切に思われていると感じることができていると言える。

一方、自己を肯定的に捉えていない子どもについては、

- ・「親」 66.4%
- ・「友だち・先輩・後輩」 49.2%
- ・「祖父母」 31.3%
- ・「兄弟姉妹」 27.3%
- ・「担任の先生」 16.4%

と、いずれも大きな差異が見受けられ、中でも、「友だち・先輩・後輩」については、自己を肯定的に捉えていない子どもの半数以上（71.1%）が、「何でも話せる人」ではあるものの、大切に思われているとは感じる事ができない（49.2%）という結果となった。

また、自己を肯定的に捉えていない子どもに特徴的だったのは、「大切に思ってくれている人はいないと思う」と回答した割合が 14.1%もあったことである。（自己を肯定的に捉えている子どもは 2.5%）

【子ども 問 19、問 20】

親や友だち、学校の先生など、日常生活における身近な人から大切に思われているかどうかと、子どもの自己肯定感の高低との間には、何らかの関連があるものと推測できる。

《札幌市の実態及びそれとの比較》

- 自己を肯定的に捉えている子どもが「大切に思ってくれていると思える人」
 - ・「親」 94.1%
 - ・「友だち・先輩・後輩」 74.5%
 - ・「祖父母」 64.9%
 - ・「兄弟姉妹」 59.0%
 - ・「担任の先生」 41.5%
 - ・「大切に思ってくれている人はいないと思う」 1.6%
- 自己を肯定的に捉えていない子どもが「大切に思ってくれていると思える人」
 - ・「親」 70.3%
 - ・「友だち・先輩・後輩」 49.7%
 - ・「祖父母」 34.9%
 - ・「兄弟姉妹」 28.2%
 - ・「担任の先生」 9.7%
 - ・「大切に思ってくれている人はいないと思う」 10.3%

本市の結果と大きな差異は見られない。「友だち・先輩・後輩」について、自己を肯定的に捉えていない子どもの半数以上（62.1%）が、「何でも話せる人」ではあるものの、大切に思われているとは感じる事ができない（49.7%）という同じような結果となっている。

子どもの自己肯定感が、諸活動への積極性、子どもが信頼できる人間関係を築けるかどうかに関係していることがうかがえた。

この結果、子どもは、日常生活において安心していられる場所や、そこで関わりを持つ人との関係を良好に保つことができれば、自己肯定感を感じることができ、安心して充実した生活を送ることができるものと推測できる。

(2) 悩んだり傷ついたりした体験の差

大人からの傷つき体験について、自己を肯定的に捉えている子どもは、

- ・「親（保護者）から、たたかれる、なぐられる」3.8%
- ・「親（保護者）から、心を傷つけられる言葉を言われる」7.6%
- ・「学校などの先生から、心を傷つけられる言葉を言われる」5.1%

であるのに対し、自己を肯定的に捉えていない子どもは、

- ・「親（保護者）から、たたかれる、なぐられる」19.5%
- ・「親（保護者）から、心を傷つけられる言葉を言われる」10.9%
- ・「学校などの先生から、心を傷つけられる言葉を言われる」9.4%

と、さまざまな傷つき体験を多くしている。

なお、大人からの傷つき体験を「されたことはない」と回答した割合は、自己を肯定的に捉えている子どもが77.2%に対し、自己を肯定的に捉えていない子どもが46.9%と大きな差異が見受けられ、自己を肯定的に捉えていない子どもの半数以上は、何かしらの傷つき体験を経験しているという結果となった。

また、友だち・先輩・後輩からの傷つき体験についても同様で、自己を肯定的に捉えている子どもは、

- ・「心を傷つけられる言葉を言われる」8.9%
- ・「無視される」11.4%

であるのに対し、自己を肯定的に捉えていない子どもは、

- ・「心を傷つけられる言葉を言われる」35.9%
- ・「無視される」25.0%

と、大人からの傷つき体験の割合をはるかに超える回答があった。

なお、友だち・先輩・後輩からの傷つき体験を「されたことはない」回答した割合は、自己を肯定的に捉えている子どもが75.9%に対し、自己を肯定的に捉えていない子どもが49.2%と大きな差異が見受けられ、自己を肯定的に捉えていない子どもの半数以上は、何かしらの傷つき体験を経験しているという結果となった。

【子ども 問5、問10】

＜札幌市の実態及びそれとの比較＞

- 自己を肯定的に捉えている子どもの「大人からの傷つき体験」
 - ・「親（保護者）から、たたかれる、なぐられる」5.3%
 - ・「親（保護者）から、心を傷つけられる言葉を言われる」8.5%
 - ・「学校などの先生から、心を傷つけられる言葉を言われる」7.4%
 - ・「されたことはない」63.8%
- 自己を肯定的に捉えていない子どもの「大人からの傷つき体験」
 - ・「親（保護者）から、たたかれる、なぐられる」16.9%
 - ・「親（保護者）から、心を傷つけられる言葉を言われる」24.6%
 - ・「学校などの先生から、心を傷つけられる言葉を言われる」15.9%
 - ・「されたことはない」46.7%
- 自己を肯定的に捉えている子どもの「友だち・先輩・後輩からの傷つき体験」
 - ・「心を傷つけられる言葉を言われる」20.7%
 - ・「無視される」14.4%
 - ・「されたことはない」63.8%
- 自己を肯定的に捉えていない子どもの「友だち・先輩・後輩からの傷つき体験」
 - ・「心を傷つけられる言葉を言われる」41.5%
 - ・「無視される」22.1%
 - ・「されたことはない」44.6%

自己を肯定的に捉えていない子どもが、「大人からの傷つき体験」として、「親（保護者）から、心を傷つけられる言葉を言われる」と回答した割合について、本市10.9%に対し、札幌市は24.6%と差異が見られたほか、自己を肯定的に捉えている子どもが傷つき体験を「されたことはない」と回答した割合も、本市は「大人」77.2%、「友だち・先輩・後輩」75.9%に対し、札幌市は「大人」63.8%、「友だち・先輩・後輩」63.8%とそれぞれ差異が見られた。

一方で、自己を肯定的に捉えていない子どもの半数以上が、大人や友だち・先輩・後輩から何かしらの傷つき体験を経験しているという結果は同じであった。

(3) 悩んだり傷ついたりしたときの対処方法

大人から何らかの傷つき体験をしたときの対処方法について、自己を肯定的に捉えていない子どもは、「がまんした」と回答した割合が43.8%で最も高かった。(自己を肯定的に捉えている子どもは42.1%)

次いで、「やめてほしいと言った」と回答した割合が27.4%あり、自己を肯定的に捉えている子ども24.1%を上回る結果となった。

また、友だち・先輩・後輩からの傷つき体験をしたときの対処方法についても、「がまんした」と回答した割合が32.9%で最も高かったが、自己を肯定的に捉えている子ども43.8%を下回る結果となった。

次いで、「やめてほしいと言った」と回答した割合が27.4%あったが、これも自己を肯定的に捉えている子ども31.3%を下回る結果となった。

なお、「誰か他の人に相談した」と回答した割合は、自己を肯定的に捉えていない子どもが、

- ・大人からの傷つき体験をしたとき 6.8%
- ・友だち・先輩・後輩からの傷つき体験をしたとき 24.7%

また、自己を肯定的に捉えている子どもが、

- ・大人からの傷つき体験をしたとき 15.8%
- ・友だち・先輩・後輩からの傷つき体験をしたとき 31.3%

と、いずれも自己を肯定的に捉えている子どもと比較して低い割合になっている。

【子ども 問7、問12】

自己を肯定的に捉えていない子どもであっても、何らかの傷つき体験をした際には、がまんできるか、あるいは、ある程度自分の思いを相手に伝えることができるものと推測できるが、それ以上に、他者に助けを求めやすい環境を整え、積極的に問題解決を図ることができる体制の整備が必要ではないかと考える。

《札幌市の実態及びそれとの比較》

- 自己を肯定的に捉えている子どもが「大人から傷つき体験をしたときの対処方法」
 - ・「がまんした」43.9%
 - ・「やめてほしいと言った」10.5%
 - ・「誰か他の人に相談した」42.1%
- 自己を肯定的に捉えていない子どもが「大人から傷つき体験をしたときの対処方法」
 - ・「がまんした」62.1%
 - ・「やめてほしいと言った」13.7%
 - ・「誰か他の人に相談した」15.8%
- 自己を肯定的に捉えている子どもが「友だち・先輩・後輩から傷つき体験をしたときの対処方法」
 - ・「がまんした」39.7%
 - ・「やめてほしいと言った」28.6%
 - ・「誰か他の人に相談した」36.5%
- 自己を肯定的に捉えていない子どもが「友だち・先輩・後輩から傷つき体験をしたときの対処方法」
 - ・「がまんした」62.5%
 - ・「やめてほしいと言った」21.9%
 - ・「誰か他の人に相談した」30.2%

自己を肯定的に捉えていない子どもについて、何らかの傷つき体験をしたときの対処方法として「がまんした」と回答した割合が、本市は「大人」43.8%、「友だち・先輩・後輩」32.9%に対し、札幌市は「大人」62.1%、「友だち・先輩・後輩」62.5%と大きな差異が見られた。

また、「大人からの傷つき体験をしたときの対処方法」として「誰か他の人に相談した」と回答した割合について、本市は、自己を肯定的に捉えている子ども15.8%、自己を肯定的に捉えていない子ども6.8%に対し、札幌市は、自己を肯定的に捉えている子ども42.1%、自己を肯定的に捉えていない子ども15.8%と大きな差異が見られた。

4. 納得いかないことや、おかしいと感じることについて

(1) 子どもが感じる「納得いかないことや、おかしいと感じること」について

「納得いかないことや、おかしいと感じること」について、「ある」(44.4%)、「ない」(52.3%)となっている。

内容については、「親」に対することが一番多く、次に「友達・先輩・後輩」、「担任の先生」の順で多くなっている。

親については、「行動・言動が矛盾していること」(30.6%)、「一方的に怒ること」(29.3%)、「兄弟姉妹・友だちなどと比べられること」(25.8%)が多くなっている。

友達・先輩・後輩については、「行動・言動が矛盾していること」(24.0%)、「一方的に怒ること」(14.8%)、「決まりや約束を押しつけてくること」(9.6%)が多くなっている。

担任の先生については、「行動・言動が矛盾していること」(14.4%)、「一方的に怒ること」(12.2%)、「決まりや約束を押しつけてくること」(8.3%)が多くなっている。

「行動・言動が矛盾していること」が、親、友達・先輩・後輩、担任の先生のほかに、兄弟姉妹(14.4%)、祖父母(7.9%)、クラブ・部活動の先生(7.4%)に対する項目などで一番多くなっている。

【子ども 問21、問22】

(2) 大人から見て、子どもが感じる「納得いかないことや、おかしいと感じること」について

「納得いかないことや、おかしいと感じること」について、「ある」(57.4%)、「ない」(38.2%)となっている。

内容については、子どもが感じる以上に、「親」に対することが一番多く、次に「担任の先生」、「友達・先輩・後輩」の順で多くなっている。

親については、「一方的に怒ること」(43.0%)、「決まりや約束を押しつけてくること」(37.1%)「兄弟姉妹・友だちなどと比べられること」(25.4%)、「行動・言動が矛盾していること」(23.5%)が多くなっている。

担任の先生については、「行動・言動が矛盾していること」(15.1%)、「決まりや約束を押しつけてくること」(9.9%)、「一方的に怒ること」(9.6%)が多くなっている。

友達・先輩・後輩については、「行動・言動が矛盾していること」(12.5%)、「いじめられている子がいるのに(自分も含めて)誰も助けようとしめないこと」(6.3%)、「決まりや約束を押しつけてくること」(5.9%)が多くなっている。

「一方的に怒ること」が、親のほかに、兄弟姉妹(8.8%)に対する項目で一番多くなっている。

【大人 問13、問14】

「納得いかないことや、おかしいと感じること」について、子ども(44.4%)よりも大人(57.4%)が「ある」と回答した割合が多くなっている。

内容については、全体として、親に対することが際立って多くなっているとともに、多い項目としては「行動・言動が矛盾していること」、「一方的に怒ること」があげられる。

※本調査項目について、札幌市は行っていない。

5. 子どもと大人の認識のズレ

子どもが安心して充実した日常生活を送ることができる環境を整えるためには、前述のような子どもの実態を、大人が正確に把握しているかが重要となってくる。しかしながら、調査の結果、大人の子どものに対する認識は、子どもの実態とズレがあった。

(1) 子どもがいる大人の子どもの認識とそのズレ

まず、親や家族に関する子どもの認識とのズレについて、「子どもにとってホッとでき、安心していられる場所」として、子どもは、

- ・「自分の部屋」73.6%
- ・「家族といっしょにくつろぐ部屋」57.2%

であるのに対し、子どもがいる大人は、

- ・「自分の部屋」48.5%
- ・「家族といっしょにくつろぐ部屋」88.2%

と、上位2項目においてそれぞれ25%以上のズレが見られた。

また、「子どもが何でも話せる人」について、子どもは、

- ・「友だち・先輩・後輩」69.2%
- ・「親」59.1%

であるのに対し、子どもがいる大人は、

- ・「友だち・先輩・後輩」52.1%
- ・「親」89.9%

と、上位2項目においてそれぞれ大きなズレが見られ、中でも、「親」とする回答には実に30%ものズレが見受けられた。

次いで、子どもと先生に関する子どもの認識とのズレについて、「子どもが自分を大切に思ってくれていると思える人」として、「担任の先生」と回答した子どもは27.7%であるのに対し、子どもがいる大人は17.8%だった。

また、友だちとの関わりに関する子どもの認識とのズレについて、「子どもが自分を大切に思ってくれていると思える人」として、「友だち・先輩・後輩」と回答した子どもは59.5%であるのに対し、子どもがいる大人は39.2%と、20%以上のズレが見られた。

【子ども 問18、問19、問20 大人 問10、問11、問12】

《札幌市の実態及びそれとの比較》

- 子どもが「ホッとでき、安心していられる場所」
 - ・「自分の部屋」85.6%
 - ・「家族といっしょにくつろぐ部屋」52.0%
- 子どもがいる大人が思う「子どもがホッとでき、安心していられる場所」
 - ・「自分の部屋」63.7%
 - ・「家族といっしょにくつろぐ部屋」78.3%
- 子どもが「何でも話せる人」
 - ・「友だち・先輩・後輩」73.0%
 - ・「親」58.5%
- 子どもがいる大人が思う「子どもが何でも話せる人」
 - ・「友だち・先輩・後輩」62.1%
 - ・「親」82.6%
- 子どもが「大切に思ってくれていると思える人」
 - ・「担任の先生」25.5%
 - ・「友だち・先輩・後輩」67.2%
- 子どもがいる大人が思う「子どもが大切に思ってくれていると思える人」
 - ・「担任の先生」16.5%
 - ・「友だち・先輩・後輩」39.1%

個々の回答割合については、多少の差異が見られるものの、全体の傾向としては、本市と同様に、子どもの実態と大人の認識にズレが見られる。

(2) 子どもがいない大人の子どもの認識とそのズレ

まず、子どもと先生に関する子どもの認識とのズレについて、「子どもが自分を大切に思ってくれていると思える人」として、「担任の先生」と回答した子どもは 27.7%であるのに対し、子どもがいない大人は 17.7%だった。

また、友だちとの関わりに関する子どもの認識とのズレについて、「子どもが自分を大切に思ってくれていると思える人」として、「友だち・先輩・後輩」と回答した子どもは 59.5%であるのに対し、子どもがいない大人は 36.5%と、子どもがいる大人と同様、20%以上のズレが見られた。

次いで、大人からの傷つき体験の有無に関する子どもの認識とのズレについて、すべての選択肢で、子どもの回答割合より、子どもがいない大人の回答割合が高く、また、「されたことはない(と思う)」と回答した子どもは 62.2%だったのに対し、子どものいない大人は 24.0%にすぎず、子どものいない大人の6割以上が、子どもは何らかの傷つき体験を経験しているものと認識している。

傷つき体験については、「友だち・先輩・後輩」についても同様に、すべての選択肢で、子どもの回答割合より、子どもがいない大人の回答割合が高く、また、「されたことはない(と思う)」と回答した子どもは 60.7%だったのに対し、子どものいない大人は 26.0%にすぎず、子どものいない大人の6割以上が、子どもは何らかの傷つき体験を経験しているものと認識している。

【子ども 問5、問10、問20 大人 問6、問8、問12】

大人は、子どもの実態を把握・理解しようとする、子どもの有無に関わらず、子どもの認識とはズレた認識を持つ可能性があることがうかがえた。子どもに関する施策を進めていくうえでも、大人は子どもの思いや意見を丁寧に受け止める必要があるものと考えられる。

◀札幌市の実態及びそれとの比較▶

- 子どもが「大切に思ってくれていると思える人」
 - ・「担任の先生」25.5%
 - ・「友だち・先輩・後輩」67.2%
- 子どもがいない大人が思う「子どもが大切に思ってくれていると思える人」
 - ・「担任の先生」9.5%
 - ・「友だち・先輩・後輩」38.7%
- 子どもの「大人からの傷つき体験」
 - ・「されたことはない」60.6%
- 子どもがいない大人が思う「子どもの大人からの傷つき体験」
 - ・「されたことはないと思う」16.3%
- 子どもの「友だち・先輩・後輩からの傷つき体験」
 - ・「されたことはない」56.8%
- 子どもがいない大人が思う「子どもの友だち・先輩・後輩からの傷つき体験」
 - ・「されたことはないと思う」18.1%

個々の回答割合については、多少の差異が見られるものの、全体の傾向としては、本市と同様に、子どもの実態と大人の認識にズレが見られ、中でも、子どものいない大人の7割以上が、子どもは何らかの傷つき体験を経験しているものと認識しており、本市の6割以上を超えた結果となっている。

6. 子どもを取り巻く大人の実態

(1) 大人の自己肯定感

大人の自己肯定感について、まず、自己肯定感の基本的な要素である「自分のことが好きか」という項目については、70.3%の大人が「そう思う」または「まあそう思う」と肯定的に捉えており、中でも、1番年長の子どもが就学前の親が80.5%と高くなっている。

【大人 問3、問21】

このほか、「自分は人から必要とされていると思うか」「誰かのために何かをしてあげたいと思うか」「社会に役立つことをしたいと思うか」のいずれの項目についても、肯定的に捉えている大人の割合が高く、中でも、「誰かのために何かをしてあげたいと思うか」の項目について、1番年長の子どもが就学前の親の80.5%が「そう思う」と回答している。

【大人 問3、問22、問23、問24】

＜札幌市の実態及びそれとの比較＞

- 「自分のことが好きか」
 - ・ 「そう思う」 30.4%
 - ・ 「まあそう思う」 45.4% 計 75.8%
 - ・ 「あまりそう思わない」 17.1%
 - ・ 「そう思わない」 2.8% 計 19.9%
- 「自分は人から必要とされていると思うか」
 - ・ 「そう思う」 32.9%
 - ・ 「まあそう思う」 46.1% 計 79.0%
 - ・ 「あまりそう思わない」 15.1%
 - ・ 「そう思わない」 2.0% 計 17.1%
- 「誰かのために何かをしてあげたいと思うか」
 - ・ 「そう思う」 47.5%
 - ・ 「まあそう思う」 41.6% 計 89.1%
 - ・ 「あまりそう思わない」 6.3%
 - ・ 「そう思わない」 1.1% 計 7.4%
- 「社会に役立つことをしたいと思うか」
 - ・ 「そう思う」 36.9%
 - ・ 「まあそう思う」 46.1% 計 83.0%
 - ・ 「あまりそう思わない」 11.0%
 - ・ 「そう思わない」 1.9% 計 12.9%

※札幌市では、子どもの有無別での集計を行っていない。

本市の結果と大きな差異は見られないほか、「自分は人から必要とされていると思うか」「誰かのために何かをしてあげたいと思うか」「社会に役立つことをしたいと思うか」のいずれの項目についても、肯定的に捉えている大人の割合が高い。

(2) 大人自身が「疲れること、不安に思うこと」

大人自身が「疲れること、不安に思うこと」として、

- ・「子どもの進路・将来」 42.2%
- ・「家計」 34.0%
- ・「子どものしつけ」 33.8%
- ・「自分の仕事」 28.5%
- ・「自分の体調」 24.7%

などが上位を占めた結果となったが、これらは、子どもがいる大人、また、自己肯定感が低い大人に多く見受けられた。

【大人 問19】

＜札幌市の実態及びそれとの比較＞

●大人自身が「疲れること、不安に思うこと」

- ・「子どもの進路・将来」 24.5%
- ・「家計」 25.8%
- ・「子どものしつけ」 17.4%
- ・「自分の仕事」 31.0%
- ・「自分の体調」 37.7%

上位項目の順番にばらつきがあるものの、札幌市の大人も、本市同様にさまざまな問題を抱えていることがうかがえる。

調査の結果、大人は自己を肯定的に捉えている割合が高く、また、「誰かのために何かをしてあげたい」「社会に役立つことをしたい」と考える大人が多いことがわかったが、一方で、多くの問題も抱えており、大人は、子どもが安心して充実した日常生活を送ることができる環境を整える役割を持つことから、これらを進めていくために、子どもを取り巻く大人への支援も考える必要がある。

7. 子どもの権利条約に対する認知度

子どもの権利条約の認知度については、「知っている」と回答した子どもが 5.6%、大人が 17.5%という結果だった。

知った方法としては、子どもが「学校の授業」で 35.9%、大人が「パンフレット、ポスターなど」で 41.5%だった。

【子ども 問 27、問 28 大人 問 25、問 26】

《札幌市の実態及びそれとの比較》

●子どもの権利条約の認知度

・「子ども」が「知っている」39.8%

・「大人」が「知っている」16.1%

●子どもが子どもの権利条約を知った方法

・「学校の授業」71.7%

●大人が子どもの権利条約を知った方法

・「パンフレット、ポスターなど」16.6%（最大値は「テレビ、ラジオ」53.5%）

子どもの権利条約の認知度については、本市の子どもは札幌市の子どもの約 1/7 と非常に大きな差異が見られる。また、子どもの権利条約を知った方法として、子どもが「学校の授業」と回答した割合についても、本市の子どもは札幌市の子どもの約 1/2 と大きな差異が見られる。

子どもの権利については、特に大人に対する学習機会が確保されていない現状にあることから、今後、市としても小・中学校での出前講座やPTA等の研修会への講師派遣などにより、子どもと大人と一緒に学習する機会の充実に努めていく必要がある。

8. 青森市の子どもに関する相談機関の認知度と制度への期待

子どもが何らかの傷つき体験をしたり、不安やストレスを感じたとき、その状況を速やかに改善し、安心して充実した日常生活を送ることができる環境にすることが重要であると考え。青森市には、子どもが悩んだり、困ったりしたとき、電話やメールなどで話を聞いてくれる相談窓口があるが、今回の調査で、「知っているところはない」あるいは「無回答」であった子どもの割合が63.0%と、認知度が低いことがうかがえた。(大人は30.1%)

また、利用状況については、子ども・大人とも1割に満たない結果となっている。なお、子どもが、相談窓口について「知っているところはあるが、利用したことはない」理由として、

- ・「相談しても、よくなれないと思ったから」14.6%
- ・「ちゃんと相談にのってくれるのか不安だったから」11.4%

と、相談窓口に対する信頼を寄せていない回答が多かったことがうかがえた。

【子ども 問29、問30 大人 問27、問28】

＜札幌市の実態及びそれとの比較＞

●子どもに関する相談機関の認知度

- ・子どもが「知っているところはない、無回答」20.0%
- ・大人が「知っているところはない、無回答」16.5%

●子どもが相談機関について「市っているところはあるが、利用したことはない」理由

- ・「相談しても、よくなれないと思ったから」13.4%
- ・「ちゃんと相談にのってくれるのか不安だったから」6.8%

子どもに関する相談機関の認知度について、「知っているところはない」あるいは「無回答」の割合が、本市の子どもは札幌市の子どもの3倍以上と非常に大きな差異が見られる。なお、相談機関の利用状況については、札幌市も子ども・大人とも1割前後と、本市と大きな差異は見られなかった。

しかしながら、子どもに関する相談窓口に対する必要性、あるいは要望は高く、「どんな話でも聞いて真剣に受け止めてくれること」については、子どもの66.7%、大人の85.7%が「望む」と回答しているほか、「解決方法を教えてくれること」については、子どもの56.0%、大人の72.0%が「望む」と回答しており、相談窓口のあり方や救済制度への期待をしていることがうかがえる。

【子ども 問31、問35 大人 問29、問33】

＜札幌市の実態及びそれとの比較＞

●子どもが相談窓口に対する必要性、要望

- ・「どんな話でも聞いて真剣に受け止めてくれることを望む」81.5%
- ・「解決方法を教えてくれることを望む」51.3%

●大人が相談窓口に対する必要性、要望

- ・「どんな話でも聞いて真剣に受け止めてくれることを望む」80.0%
- ・「解決方法を教えてくれることを望む」52.9%

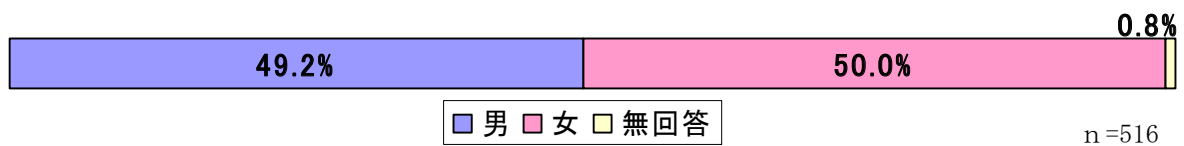
個々の回答割合については、多少の差異が見られるものの、本市同様、相談窓口のあり方や救済制度への期待があることがうかがえる。

子どもに関する相談窓口については、市としても、子どもの人権が正当に擁護されるシステムづくりを検討していくこととしているが、その際、子どもや大人の要望を踏まえ、さまざまな問題に対応できる制度を構築していく必要があると同時に、相談機関に関する情報提供の充実を図る必要があると考える。

3. 調査結果<子ども>

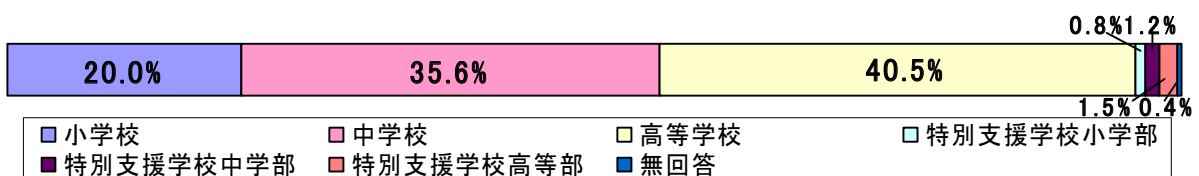
問1 あなたの性別を教えてください。

1. 男 2. 女



問2 あなたが通う学校を教えてください。

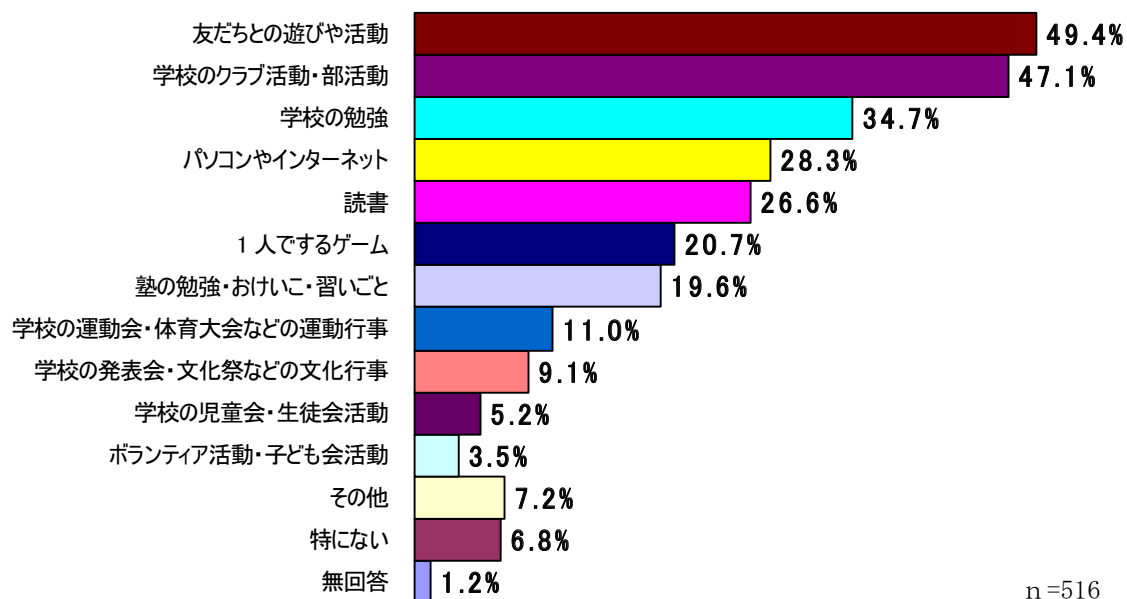
1. 小学校 2. 中学校 3. 高等学校
 4. 特別支援学校小学部 5. 特別支援学校中学部 6. 特別支援学校高等部



問3 あなたが、今、打ち込んでいることや、やりがいを感じていることは何ですか。

<〇はいくつでも>

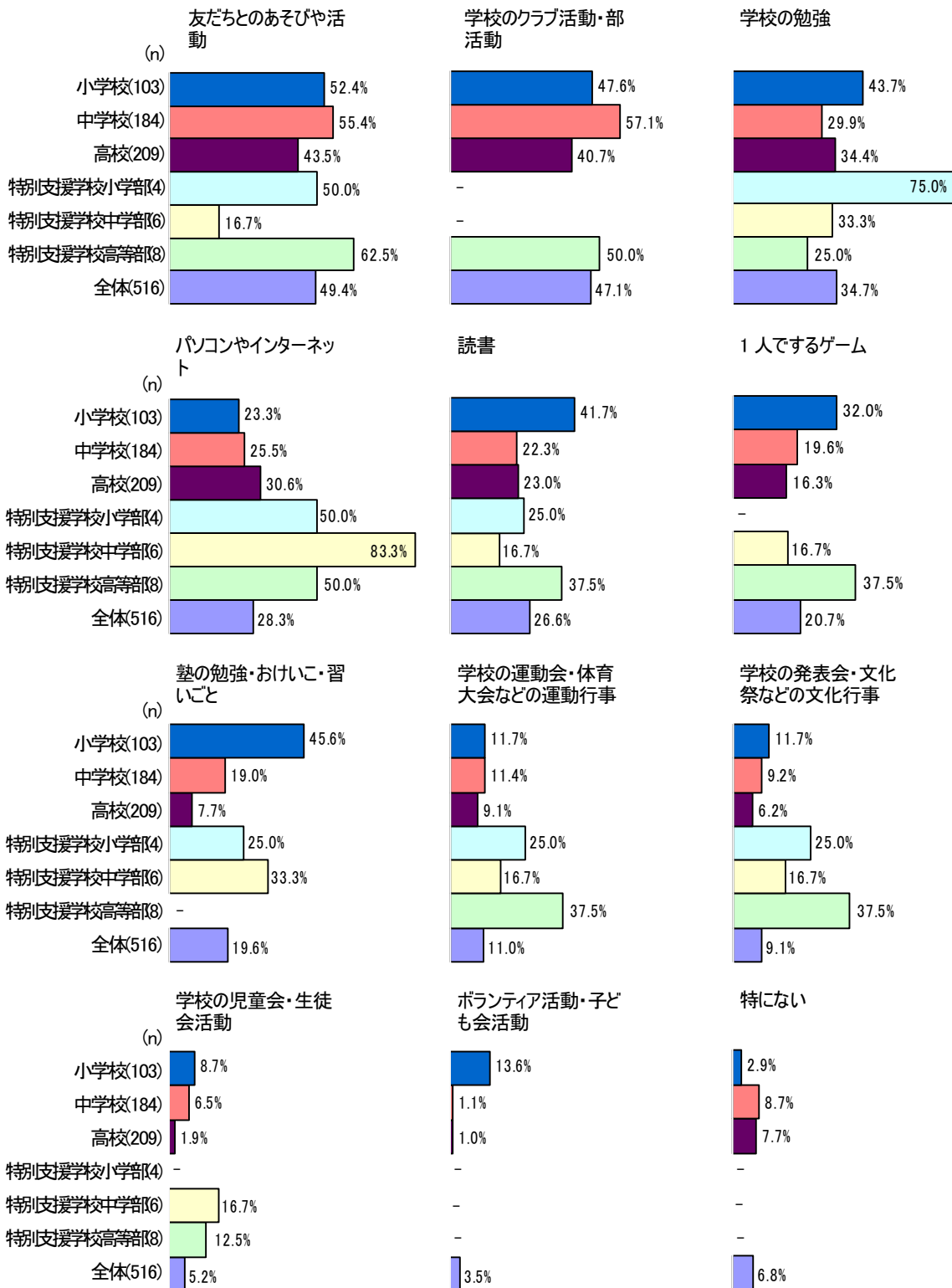
1. 学校の勉強
2. 学校のクラブ活動・部活動
3. 学校の児童会・生徒会活動
4. 学校の運動会・体育大会などの運動行事
5. 学校の発表会・文化祭などの文化行事
6. 塾の勉強・おけいこ・習いごと（水泳・ピアノ・習字・絵画・バレエなど）
7. ボランティア活動・子ども会活動
8. 読書
9. 友だちとの遊びや活動
10. パソコンやインターネット
11. 1人でするゲーム
12. 特にない
13. その他



※その他

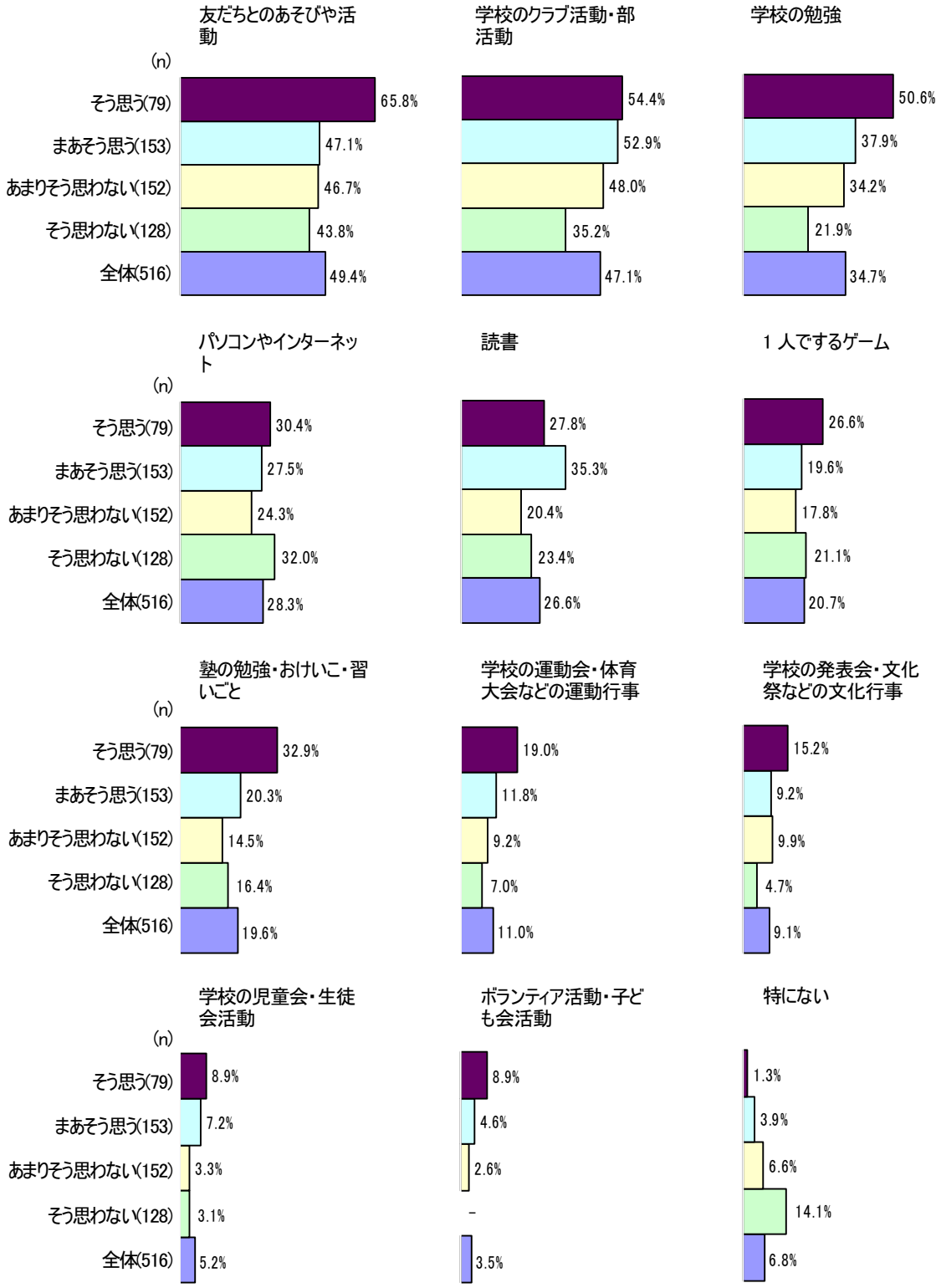
訓練、筋トレ、趣味、自分の夢をかなえるために努力すること、お菓子づくり、サッカー、まんが・小説・イラストをかくこと、カラオケ、ゲームセンター、収集、テレビ・DVDを見ること、まんがを見る、バスケットボール、絵を描く、一輪車、そろばん、髪いじり・ネイル、音楽、麻雀、ギター、カードゲーム、料理、歌、AKB48・SKE48などを調べる、インフルエンザにかからない、バンド活動、フラフープ

<学校の種別>クロス集計結果



自己肯定感別のクロス集計は、子ども問23「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

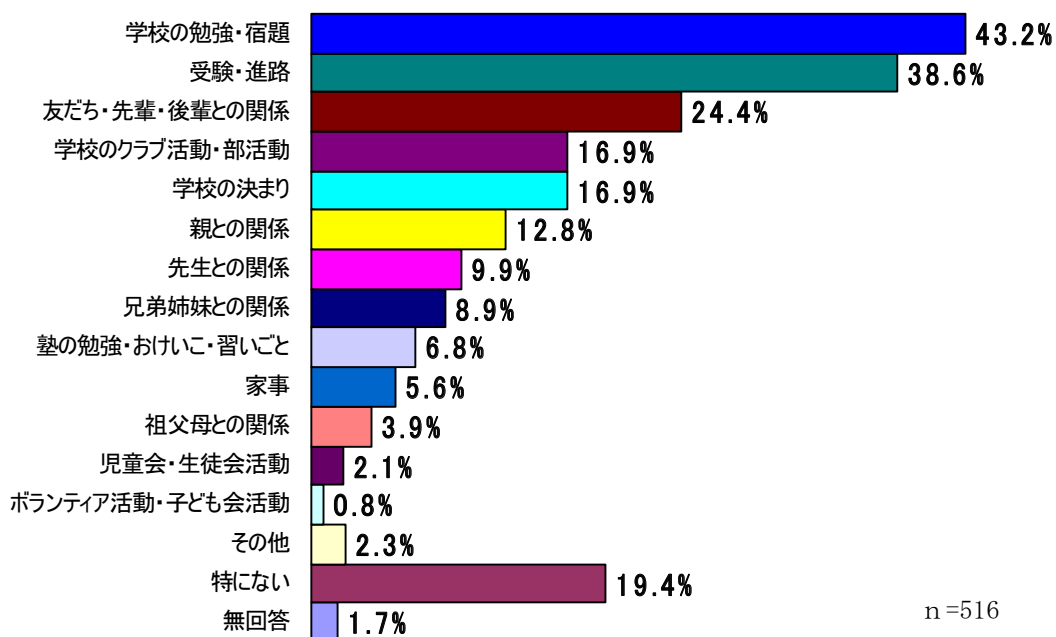
<自己肯定感別>クロス集計



問4 あなたは、次の中で疲れること、不安に思うことがありますか。

<〇はいくつでも>

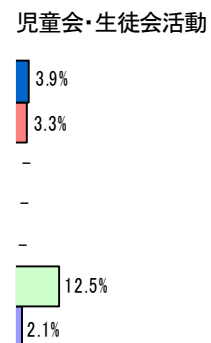
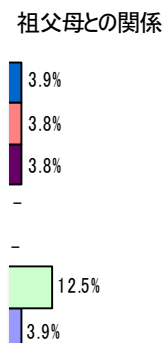
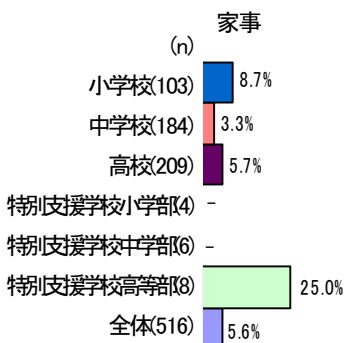
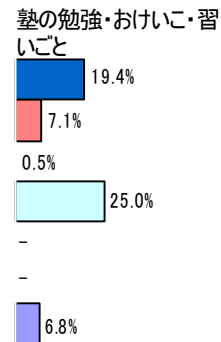
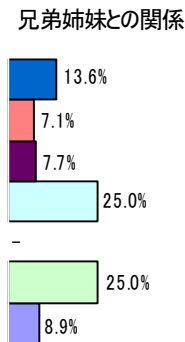
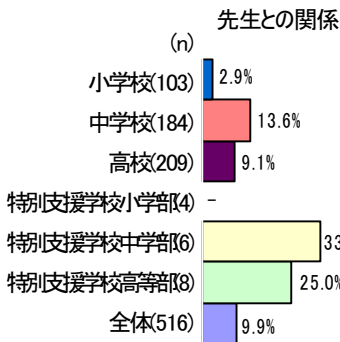
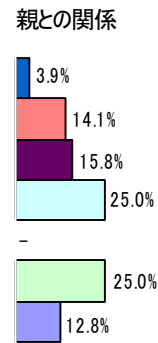
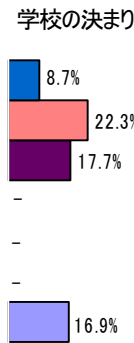
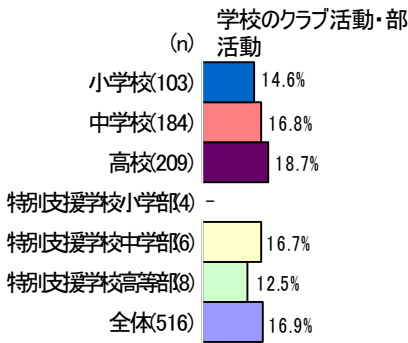
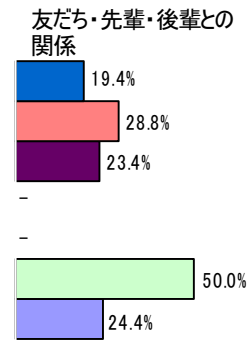
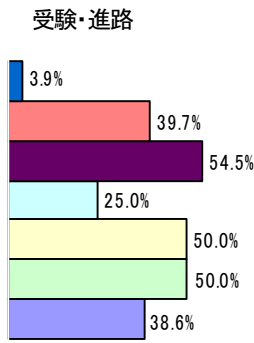
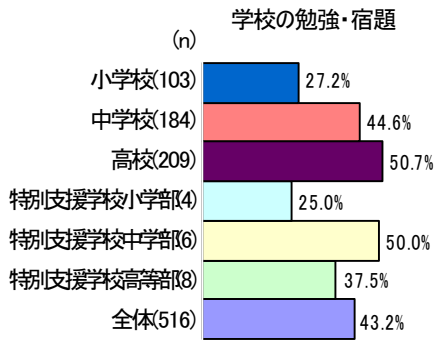
- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 親との関係 | 9. 学校のクラブ活動・部活動 |
| 2. 兄弟姉妹との関係 | 10. 児童会・生徒会活動 |
| 3. 祖父母との関係 | 11. 塾の勉強・おけいこ・習いごと |
| 4. 家事 | 12. ボランティア活動・子ども会活動 |
| 5. 先生との関係 | 13. 受験・進路 |
| 6. 友だち・先輩・後輩との関係 | 14. 特にない |
| 7. 学校の勉強・宿題 | 15. その他 |
| 8. 学校の決まり | |

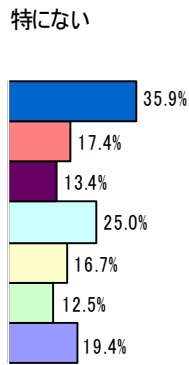
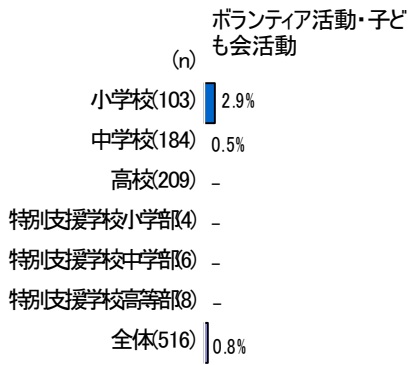


※その他

部活の顧問との関係、自分の将来、学校で取得するために、講習などがたくさんある資格が自分の夢を叶えるにあたって本当に必要なのかどうか、おじの手伝い、男女関係、全体的な人間関係、将来の仕事、人生の終わりについて、自分の体型、学校に通うこと

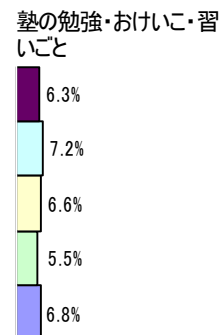
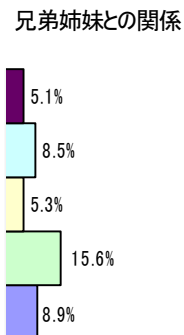
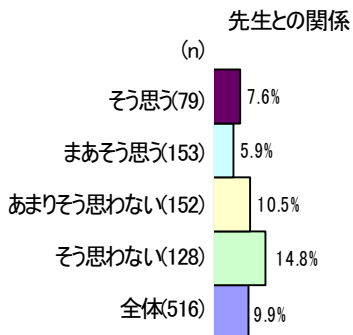
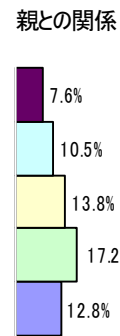
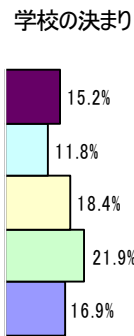
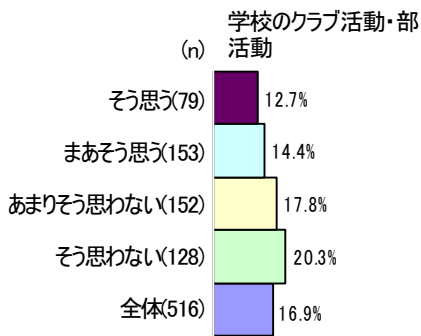
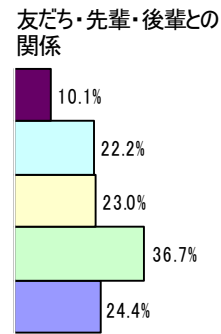
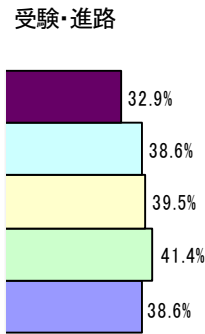
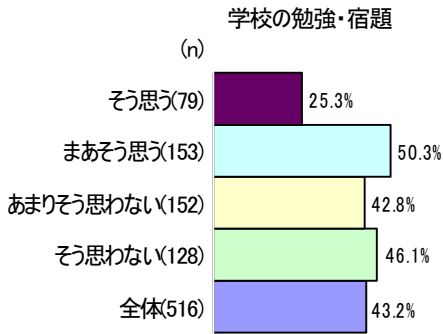
<学校の種別>クロス集計結果

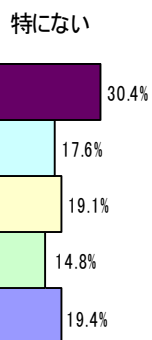
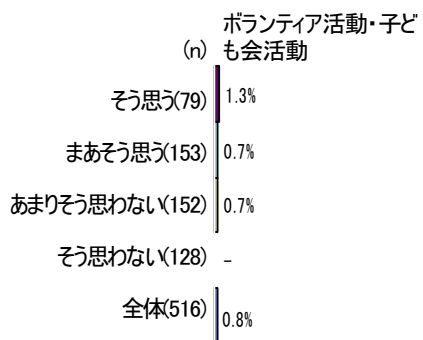
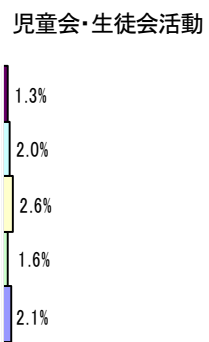
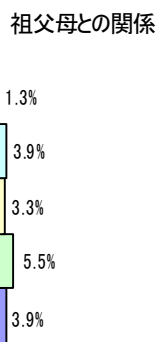
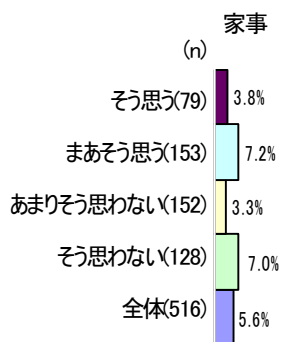




<自己肯定感別>クロス集計

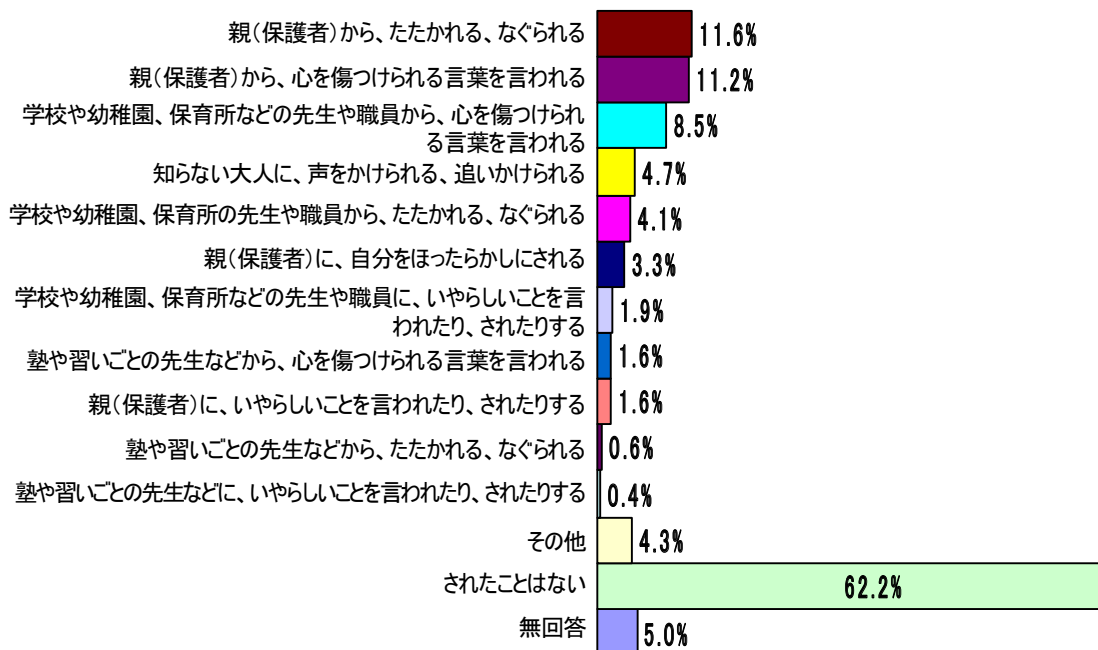
自己肯定感別のクロス集計は、子ども問23「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。





問5 あなたは、これまでに大人から次のようなことをされて、いやな思いをしたことがありますか。
 <〇はいくつでも>

1. 親（保護者）から、たたかれる、なぐられる
2. 親（保護者）から、心を傷つけられる言葉を言われる
3. 親（保護者）に、いやらしいことを言われたり、されたりする
4. 親（保護者）に、自分をほったらかしにされる
5. 学校や幼稚園、保育所などの先生や職員から、たたかれる、なぐられる
6. 学校や幼稚園、保育所などの先生や職員から、心を傷つけられる言葉を言われる
7. 学校や幼稚園、保育所などの先生や職員に、いやらしいことを言われたり、されたりする
8. 塾や習いごとの先生などから、たたかれる、なぐられる
9. 塾や習いごとの先生などに、心を傷つけられる言葉を言われる
10. 塾や習いごとの先生などに、いやらしいことを言われたり、されたりする
11. 知らない大人に、声をかけられる、追いかけるられる
12. されたことはない
13. その他（1～11以外に、誰からどんなことをされていやだったかを書いてください。）

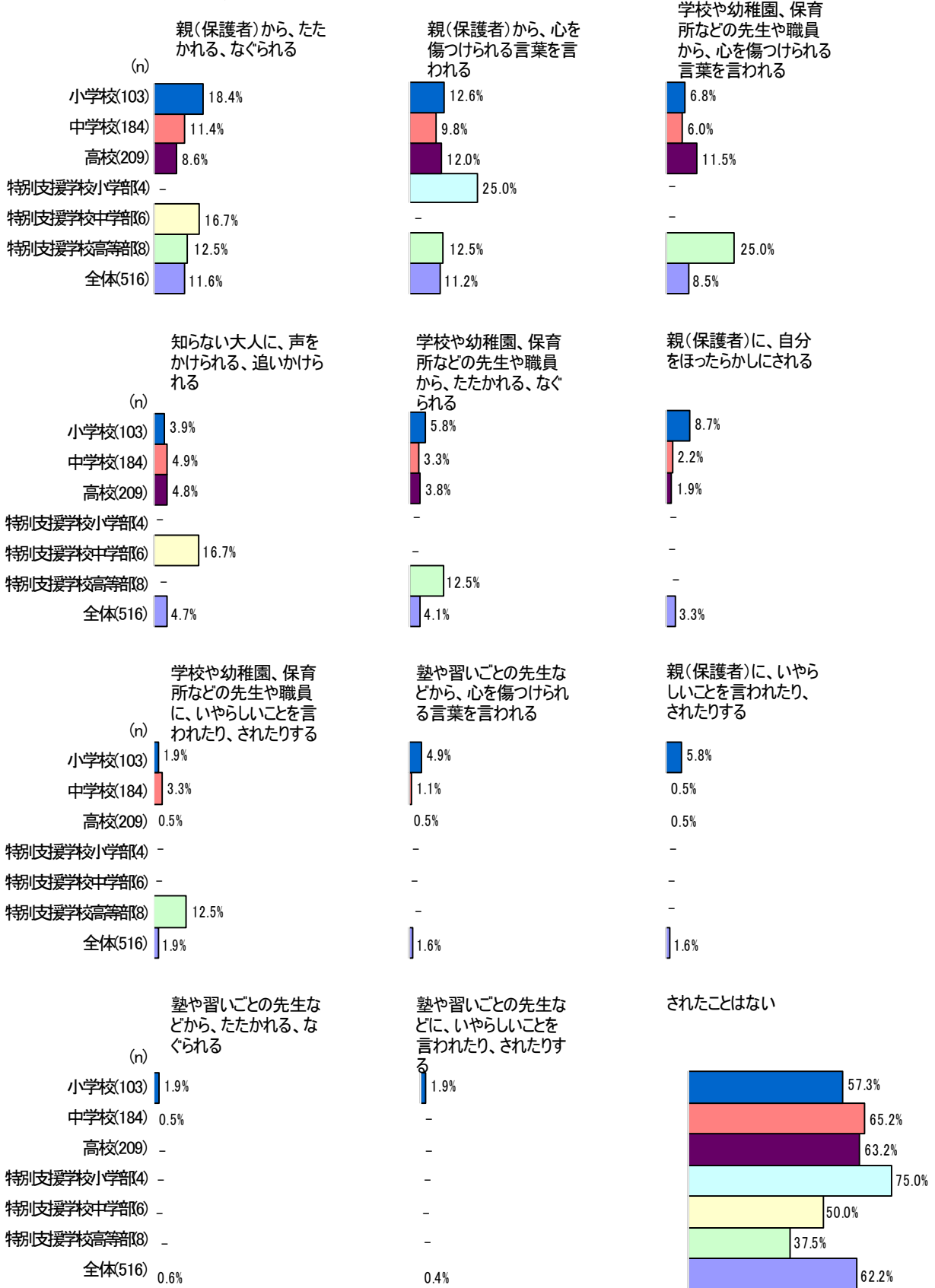


n = 516

※その他

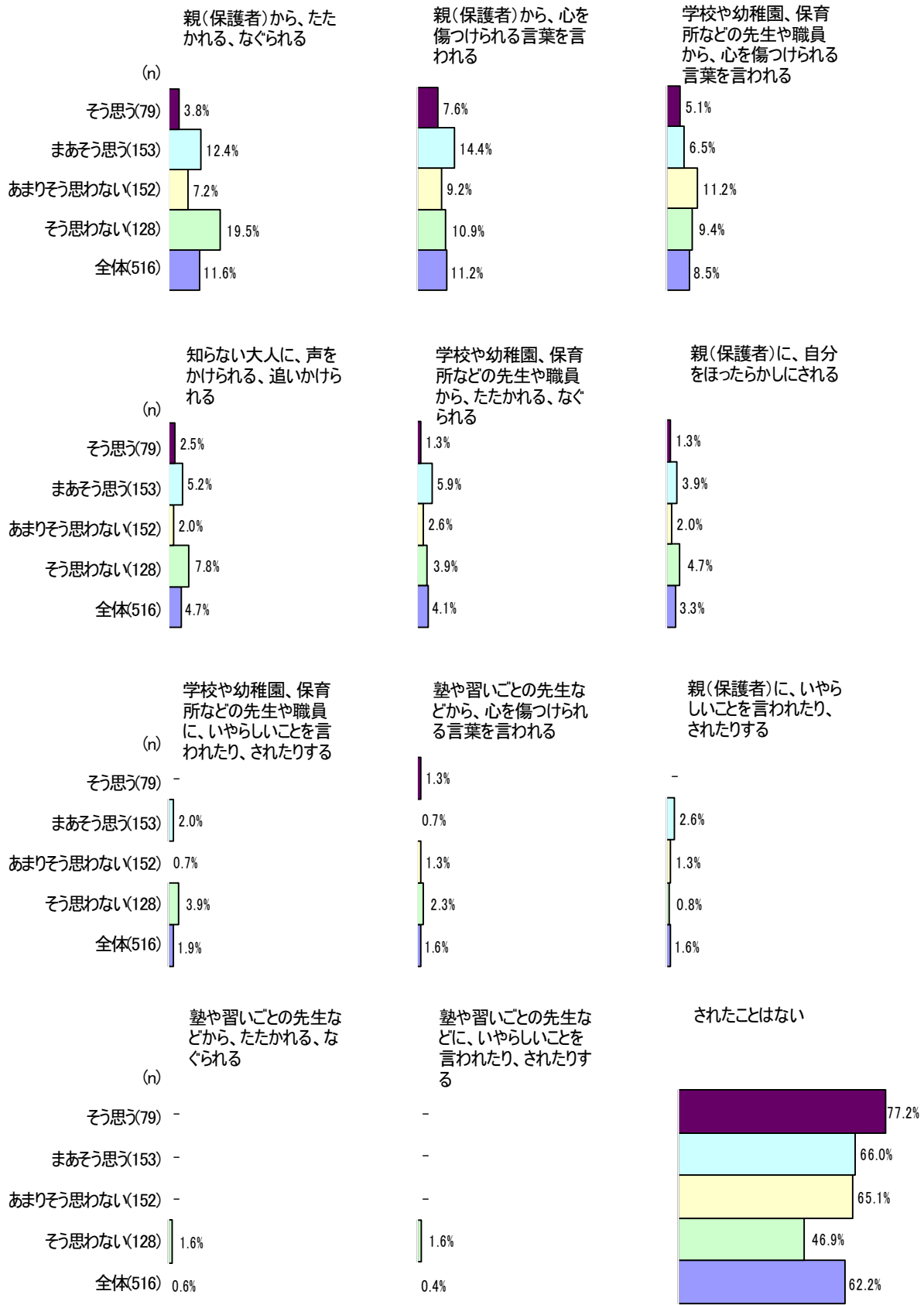
特定の先生から勉強のことで少し間違っただけですぐ怒る。
 夫婦げんかを止めようとして大声を出したら、父に「出て行け」と言われた。
 親や学校の先生以外の人に、自分の障害についていろいろ言われること。
 よく分からないことで怒られる。理不尽すぎる。
 おじに「お前が来ると金も使うし、気も使う」と言われたこと。
 にらまれる。
 何度も勘違いされた。
 「うるせえ」と店の人に言われた。
 親が常に命令口調。
 差別。
 電車で押されたこと。
 陰口を言われたこと。
 電車内で社会人から「席をゆずれ」と言われ、ゆずったら舌打ちされた。
 セクハラ、暴力。
 担任がイライラしていると、すぐ怒鳴ったり人の話を聞こうとしない。
 中学校の初日に、先生に気持ち悪いことを言われた。
 学校の先生に、部活をばかにされたこと、からかわれたこと。
 親の嫌がらせ、逆切れ。
 親に、姉とはいっぱい楽しそうに話をして、私とは「ふうん」で終わること。
 嫌な先生はたくさんいる。

<学校の種別>クロス集計結果



自己肯定感別のクロス集計は、子ども問23「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

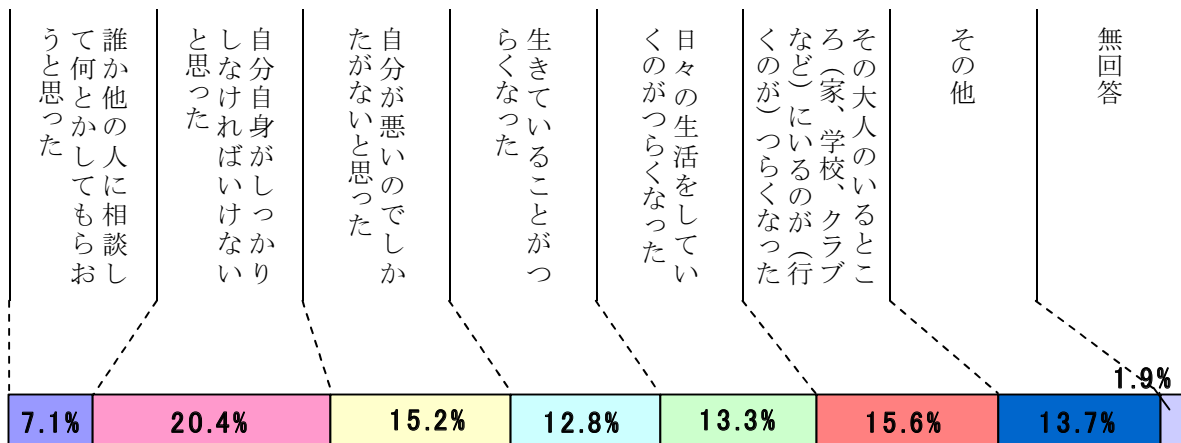
<自己肯定感別>クロス集計



問6 あなたは、大人から問5で○をつけたことをされたとき、どんな気持ちになりましたか。
1番近い気持ちはどれですか。

<○は1つ>

1. 誰か他の人に相談して何とかしてもらおうと思った
2. 自分自身がしっかりしなければいけないと思った
3. 自分が悪いのでしかたがないと思った
4. 生きていることがつらくなった
5. 日々の生活をしていくのがつらくなった
6. その大人のいるところ（家、学校、クラブなど）にいるのが（行くのが）つらくなった
7. その他

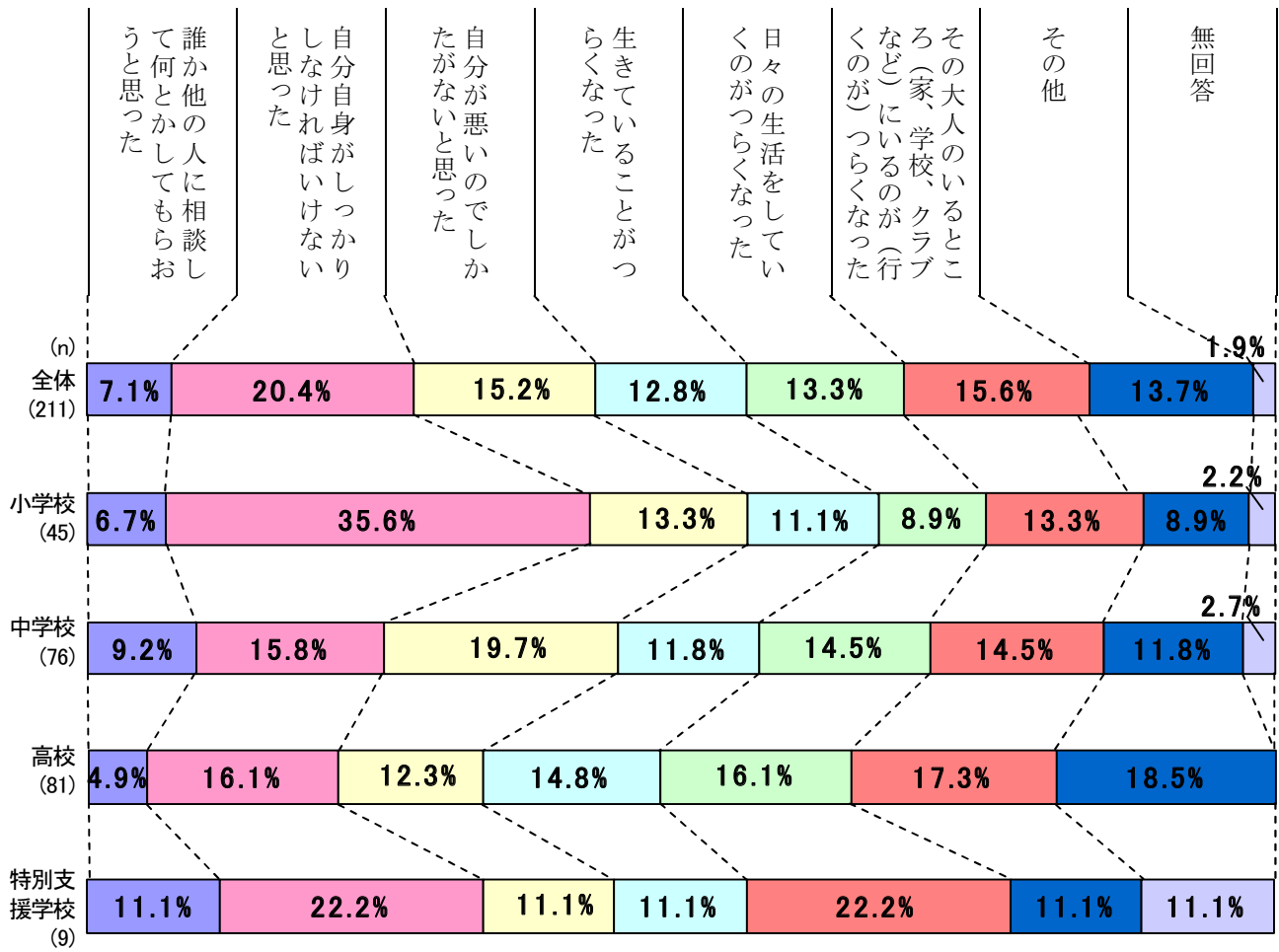


n=211

※その他

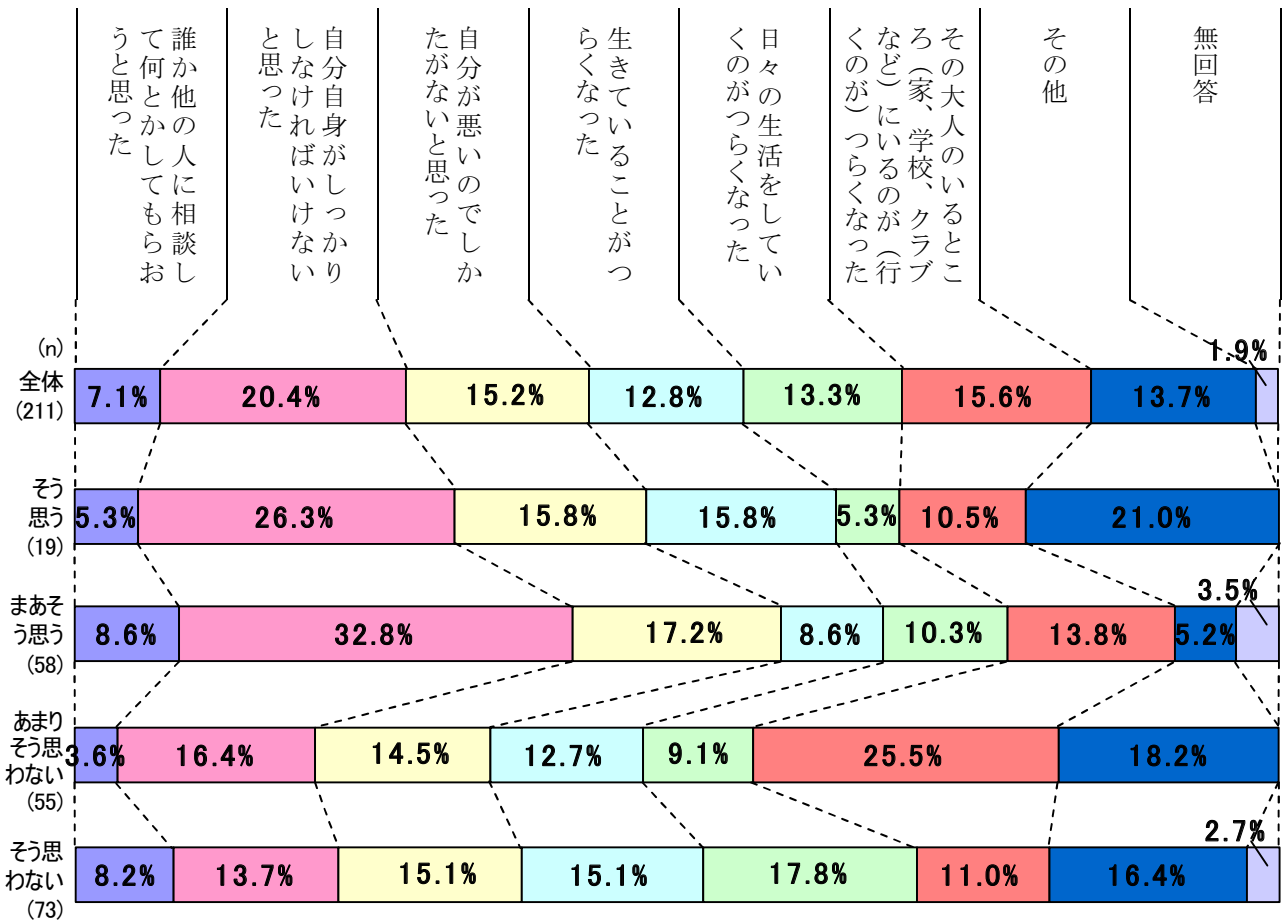
お葬式をしたくなった。
その人を殴れば気がすむ、とまで思った。
痛い。
気持ち悪かった。
自分が悪いのだけれど、一方的に相手が悪いと思い続ける。
一生やらないでほしいと思った。
何か物に当てたくなった。
キモイと思った。
そんなに何も思わなかった。
ロリコン野郎かと思った。
むかついた。
自分でも自覚のあることを指摘され、余計に傷ついた。
大人がいるところで楽しく笑うことができなくなった。
気にしないようにした。
死にたくなる。
ちゃんとやっているのに、いろいろ言われる。
学校に行きたくなくなった。
授業が嫌いになった。
またか、という気持ち。
納得がいかなかった。
すごい嫌。
腹が立った。
外に出かけたくなかった。
イライラした。

<学校の種別>クロス集計結果



自己肯定感別のクロス集計は、子ども問23「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

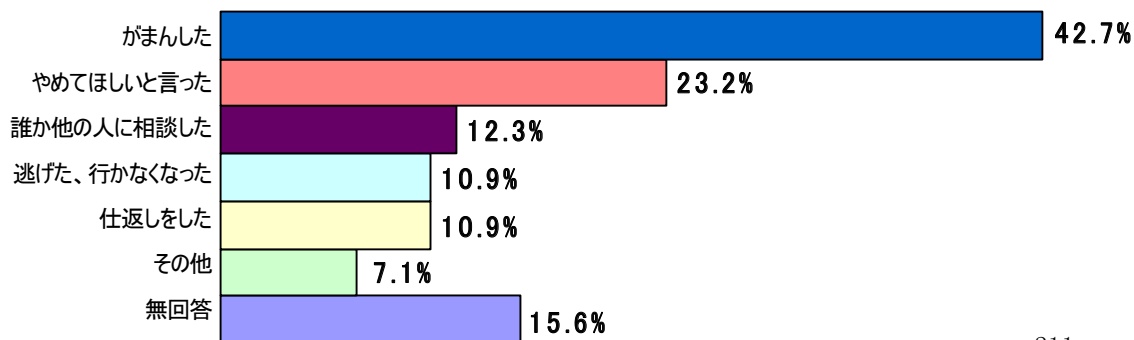
<自己肯定感別>クロス集計



問7 あなたは、大人から問5で○をつけたことをされたとき、どうしましたか。

<○はいくつでも>

1. やめてほしいと言った
2. 誰か他の人に相談した ⇒ 問8、問9へ
3. がまんした
4. 仕返しをした
5. 逃げた、行かなくなった
6. その他

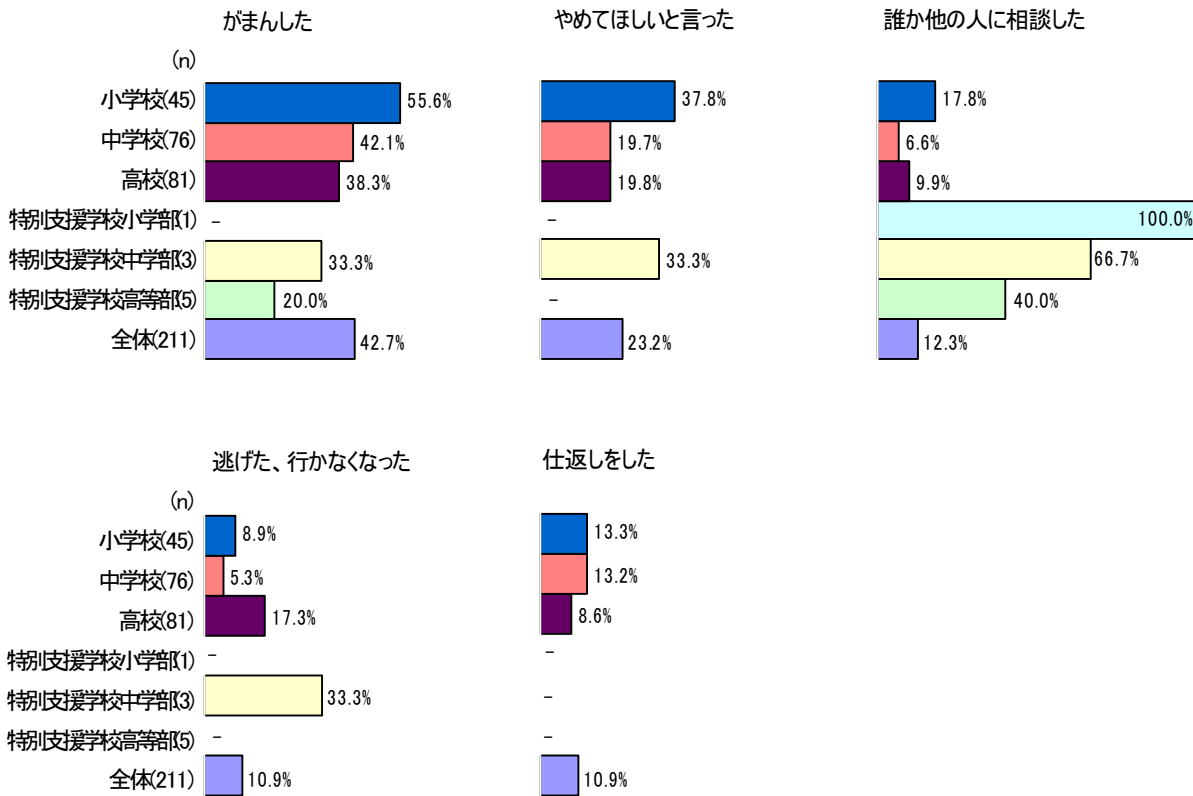


n=211

※その他

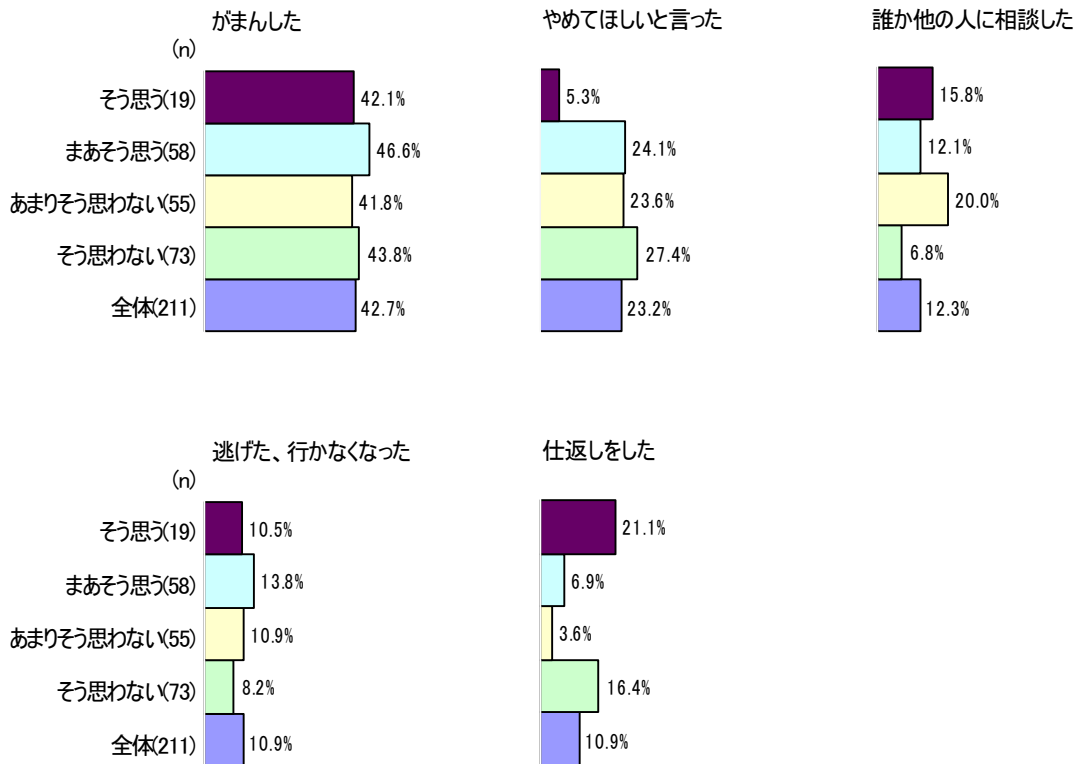
- 父と母が離婚すればいいと思った。
- 何も考えなかった。
- 知らないうちに解決した。
- それ相応の対応をした。
- 家出した。
- それを見た祖母が助けてくれたので何もしなかった。
- その人に本心を見せないように気をつけた。
- 無視した。
- 自傷した。
- さりげなく反抗した。
- 何もしていない。
- だまってる。
- 親に言う。
- 壁に穴をあけた。
- とりあえず言い返す。

<学校の種別>クロス集計結果



<自己肯定感別>クロス集計

自己肯定感別のクロス集計は、子ども問 23「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

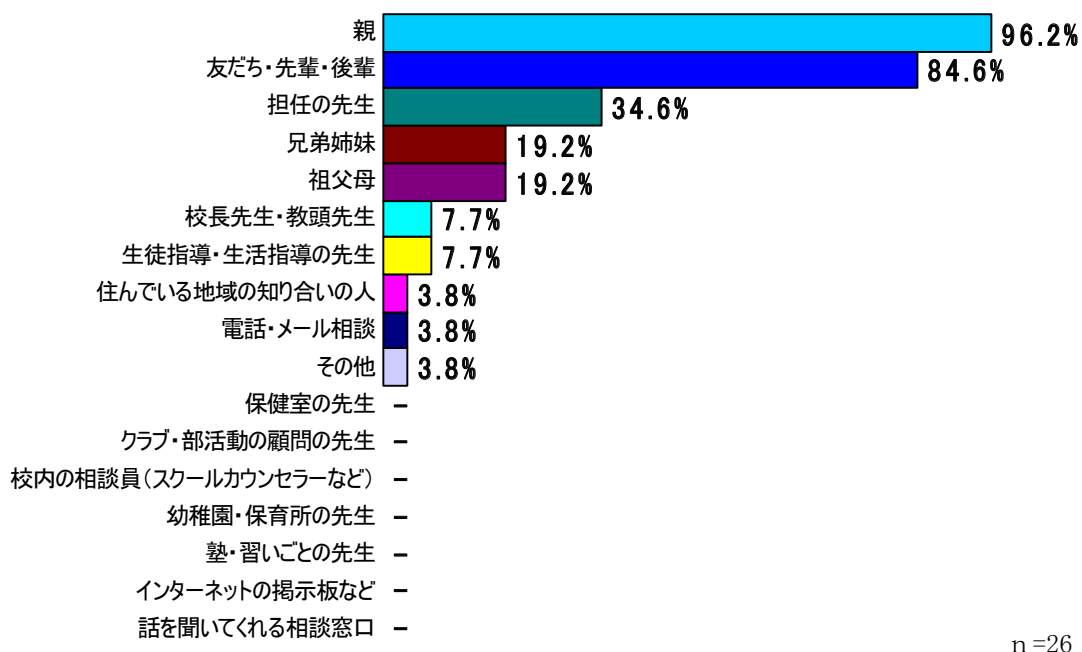


問8 (問7で「誰か他の人に相談した」と回答した人へ)

誰・どこに相談しましたか。

<〇はいくつでも>

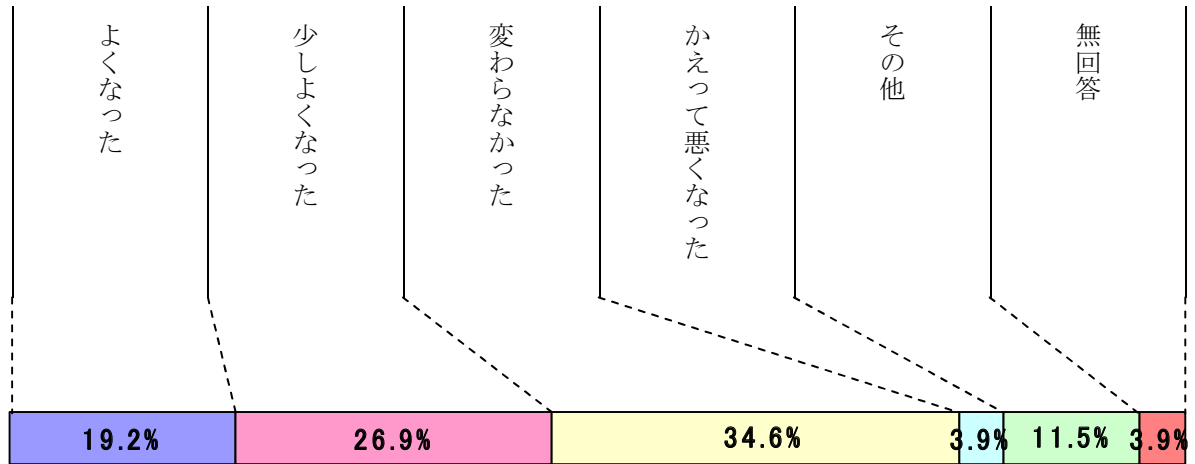
1. 親	10. 校内の相談員(スクールカウンセラーなど)
2. 兄弟姉妹	11. 幼稚園・保育所の先生
3. 祖父母	12. 塾・習いごとの先生
4. 友だち・先輩・後輩	13. 住んでいる地域の知り合いの人
5. 校長先生・教頭先生	14. インターネットの掲示板など
6. 担任の先生	15. 電話・メール相談
7. 保健室の先生	16. 話を聞いてくれる相談窓口
8. クラブ・部活動の顧問の先生	17. その他
9. 生徒指導・生活指導の先生	



※その他
恋人

問9 (問7で「誰か他の人に相談した」と回答した人へ)
 相談した結果、いやな思いをした状況からよくなりましたか。
 <〇は1つ>

- | | |
|------------|--------------|
| 1. よくなった | 4. かえって悪くなった |
| 2. 少しよくなった | 5. その他 |
| 3. 変わらなかった | |



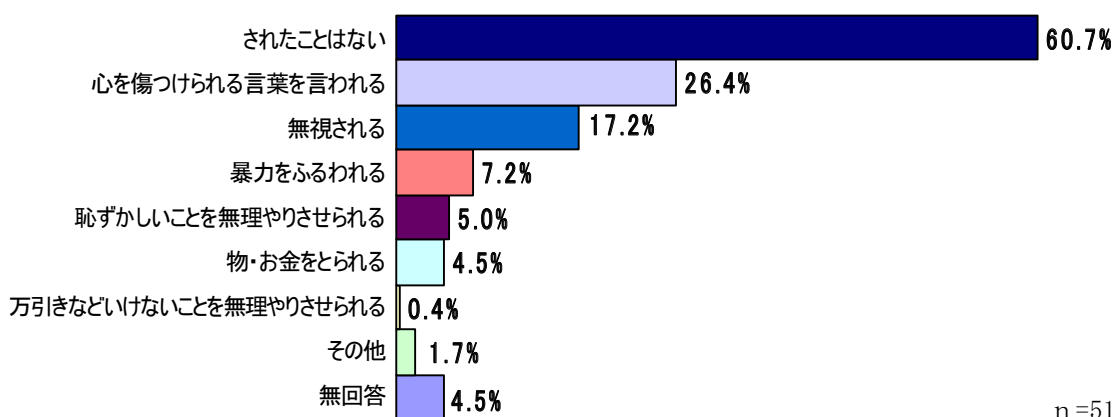
n=26

※その他
 まだよくわからない。
 やってくる本人に言ったのに変わらない。

問 10 あなたは、これまでに友だち・先輩・後輩から、次のようなことをされて、いやな思いをしたことがありますか。

<〇はいくつでも>

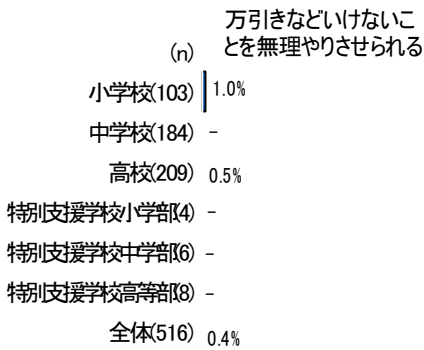
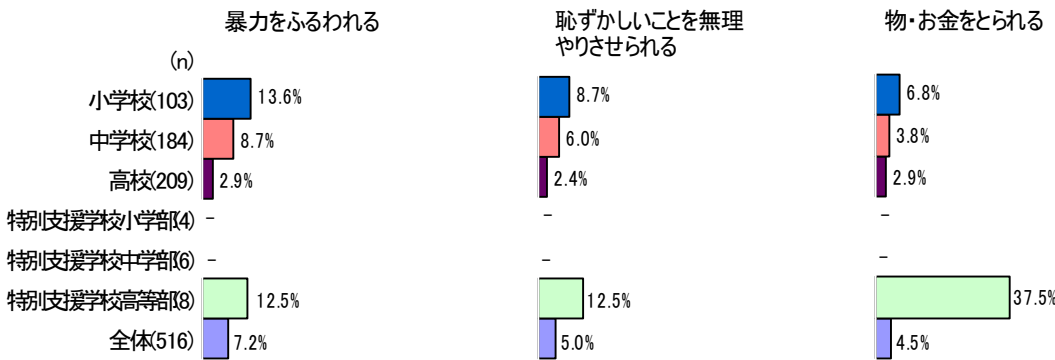
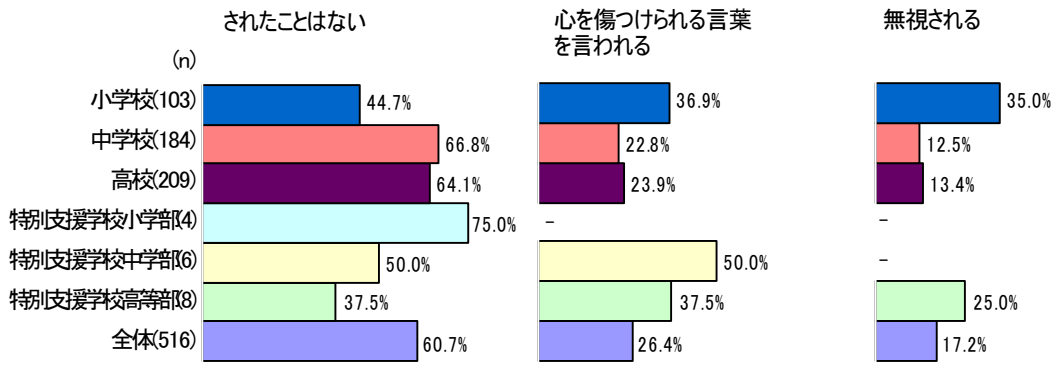
1. 無視される
2. 暴力をふるわれる
3. 心を傷つけられる言葉を言われる
4. 物・お金をとられる
5. 万引きなどいけないことを無理やりさせられる
6. 恥ずかしいことを無理やりさせられる
7. されたことはない
8. その他



※その他

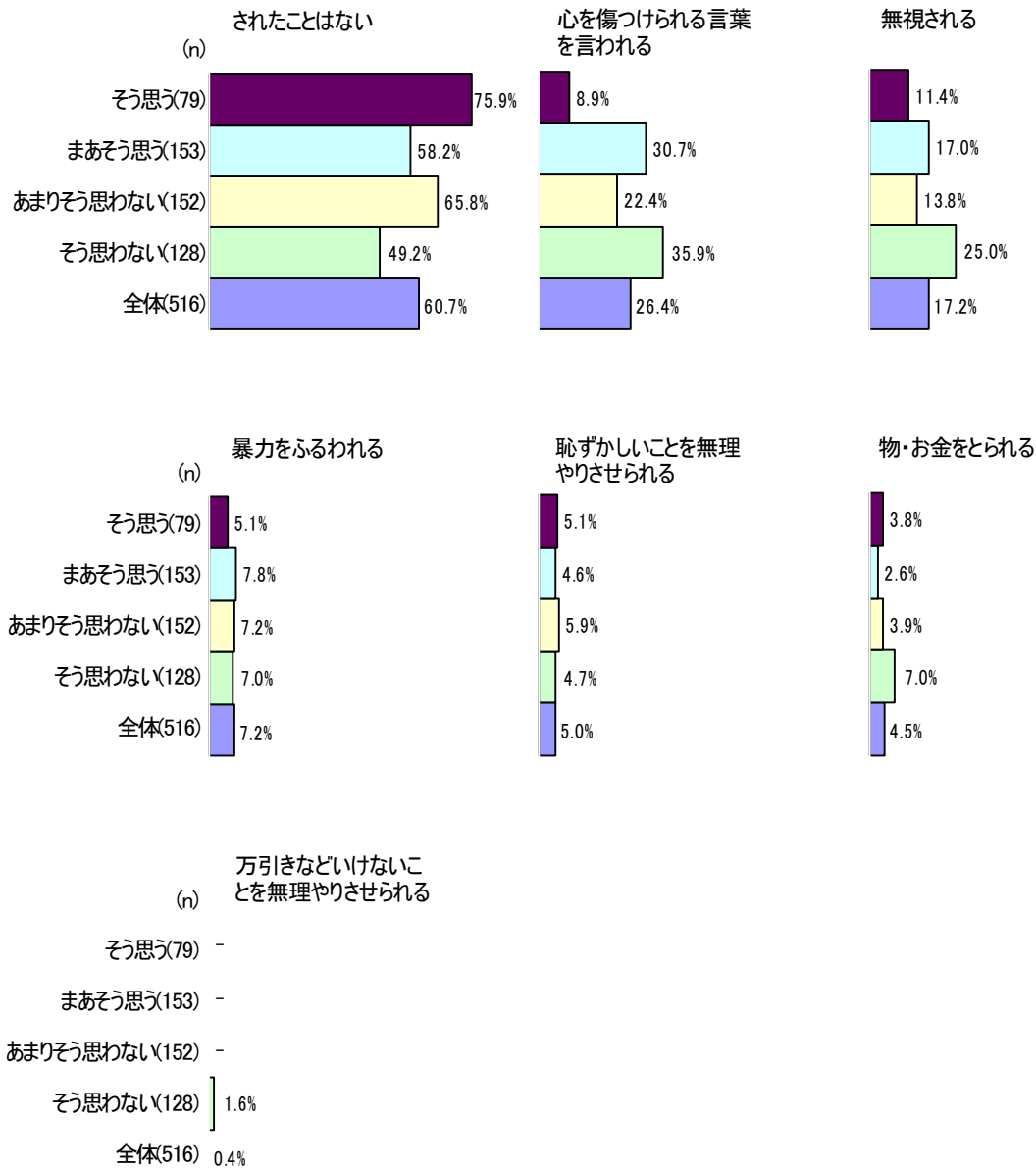
- 手紙で「うざい」など悪口を書かれた。
- けんかを売られた。
- いちいち友だちに合わせなければいけないのがいやだ。
- ネットでの悪口。
- 友だちの陰口を言う。
- 高いところが怖いのを知っていて、階段で背中を押ししたりちょっかいを出してくる。
- 「金くれ」と、うそのことでもただ単にしつこい。
- 1人ぼっちにさせられた。
- 陰で悪口を言われる。

<学校の種別>クロス集計結果



自己肯定感別のクロス集計は、子ども問23「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

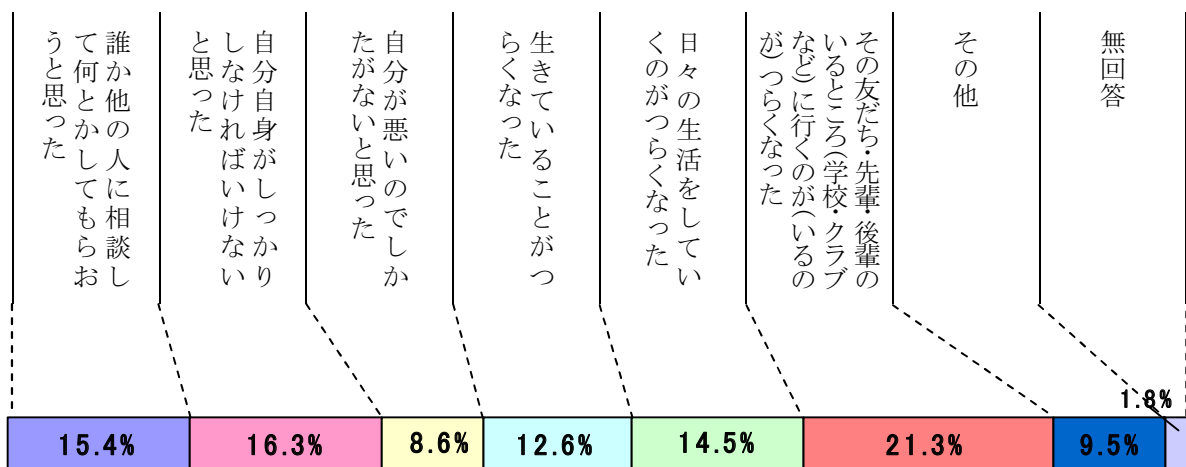
<自己肯定感別>クロス集計



問 11 あなたは、友だち・先輩・後輩から問 10 で○をつけたことをされたとき、どんな気持ちになりましたか。1 番近い気持ちはどれですか。

<○は1つ>

1. 誰か他の人に相談して何とかしてもらおうと思った
2. 自分自身がしっかりしなければいけないと思った
3. 自分が悪いのでしかたがないと思った
4. 生きていることがつらくなった
5. 日々の生活をしていくのがつらくなった
6. その友だち・先輩・後輩のいるところ（学校、クラブなど）に行くのが（いるのが）つらくなった
7. その他

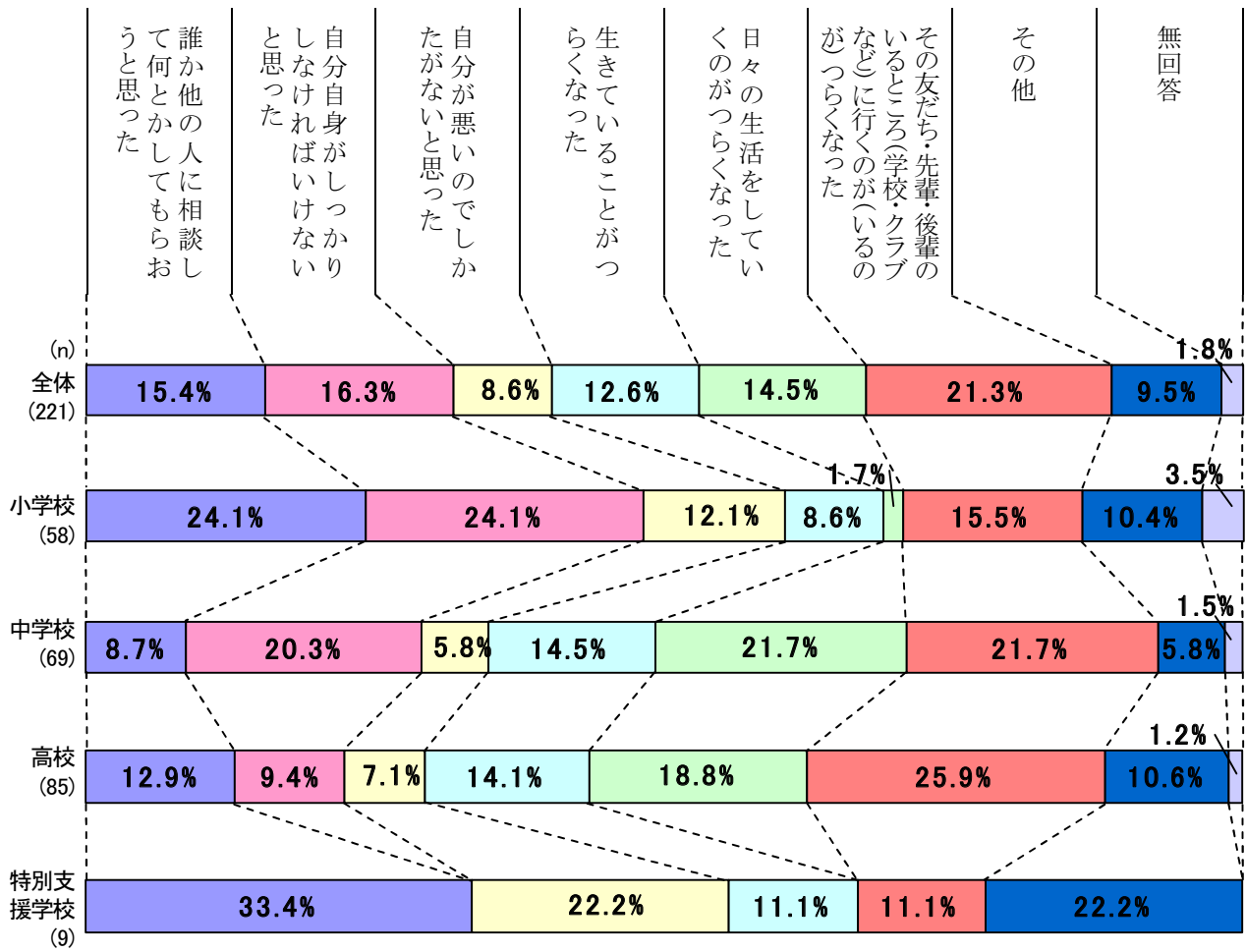


n = 221

※その他

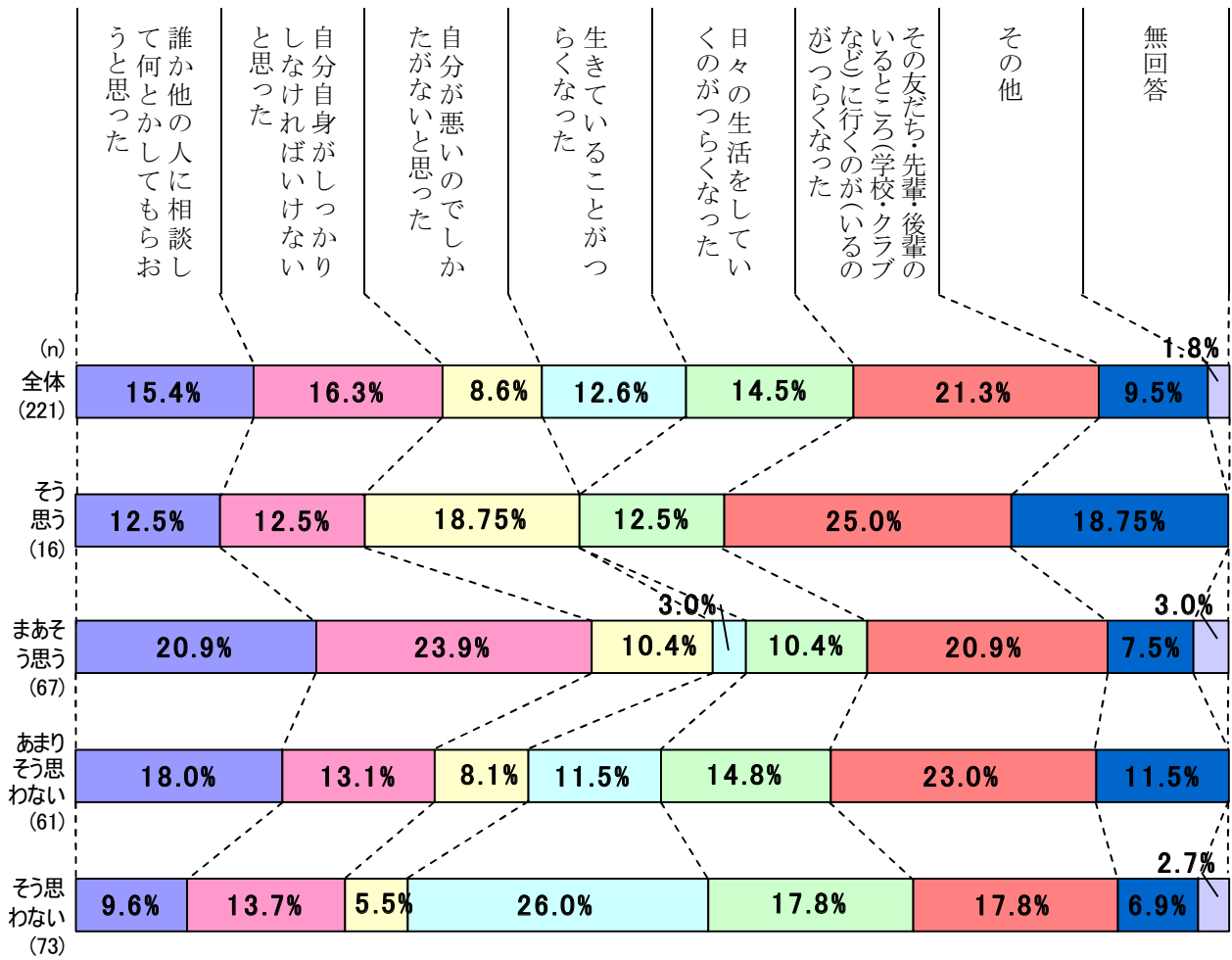
その時は命令されるがままだったけど、今じゃ腹が立っている。
 何とも思うことはなかったが、鬱陶しいと思った。
 仕返ししたくなった。
 あきらめかけた。
 人がいやになって、親も友だちも信じられなくなった。
 もっと話をしておこうと思った。
 やめてほしいと思った。
 面倒くさい。
 とりあえず素直に従う。
 気にしない。
 勝手に無視でも悪口でも言っていればいいと思った。
 殺意を覚えた。
 うざいなと思った。
 その時いやだった。
 ただしつこい。
 腹が立った。
 とてもいやな気持ちになった。
 いやなことをされてつらい気持ち。
 イライラした。

<学校の種別>クロス集計結果



自己肯定感別のクロス集計は、子ども問23「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

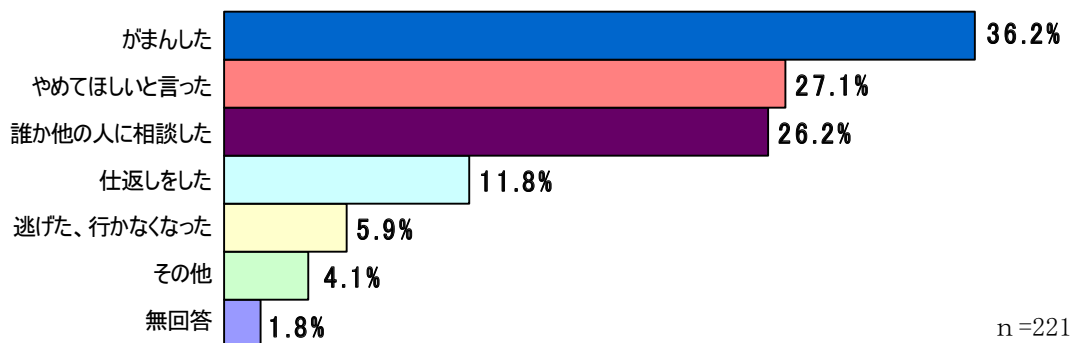
<自己肯定感別>クロス集計



問 12 あなたは、友だち・先輩・後輩から問 10 で○をつけたことをされたとき、どうしましたか。

<○はいくつでも>

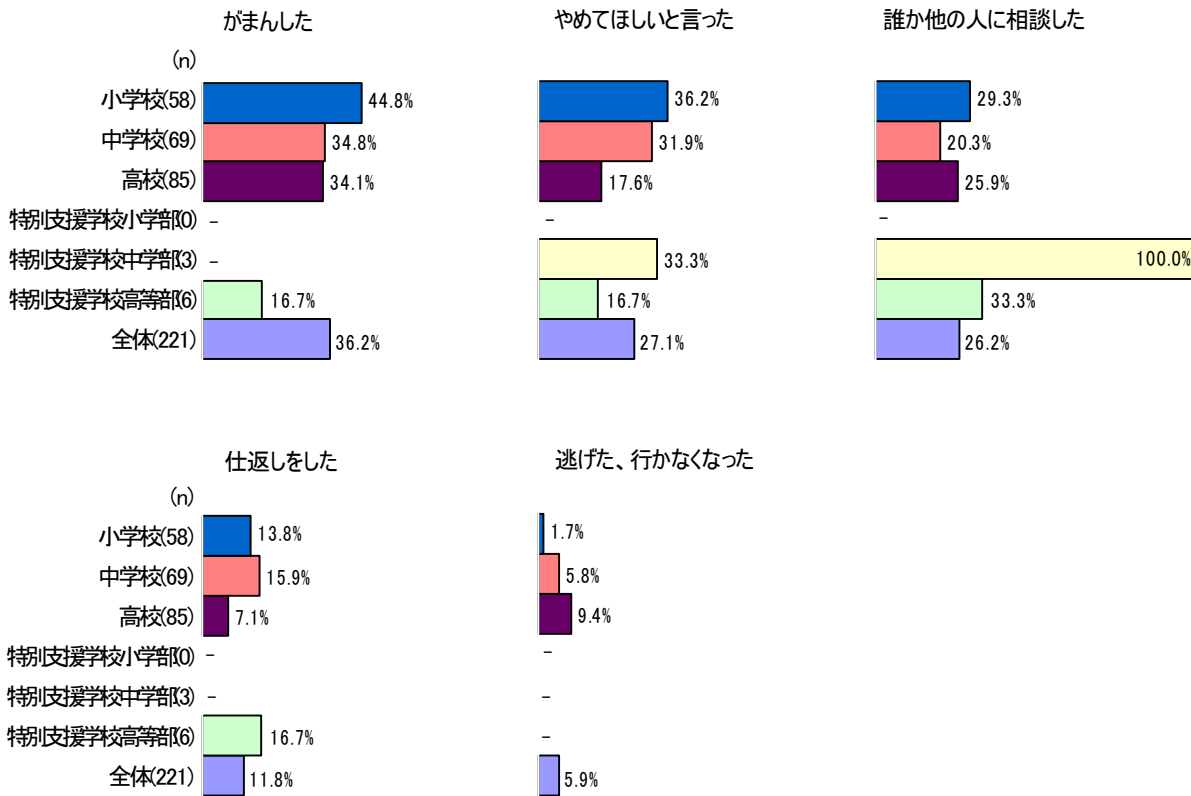
1. やめてほしいと言った
2. 誰か他の人に相談した ⇒ 問 13、問 14 へ
3. がまんした
4. 仕返しをした
5. 逃げた、行かなくなった
6. その他



※その他

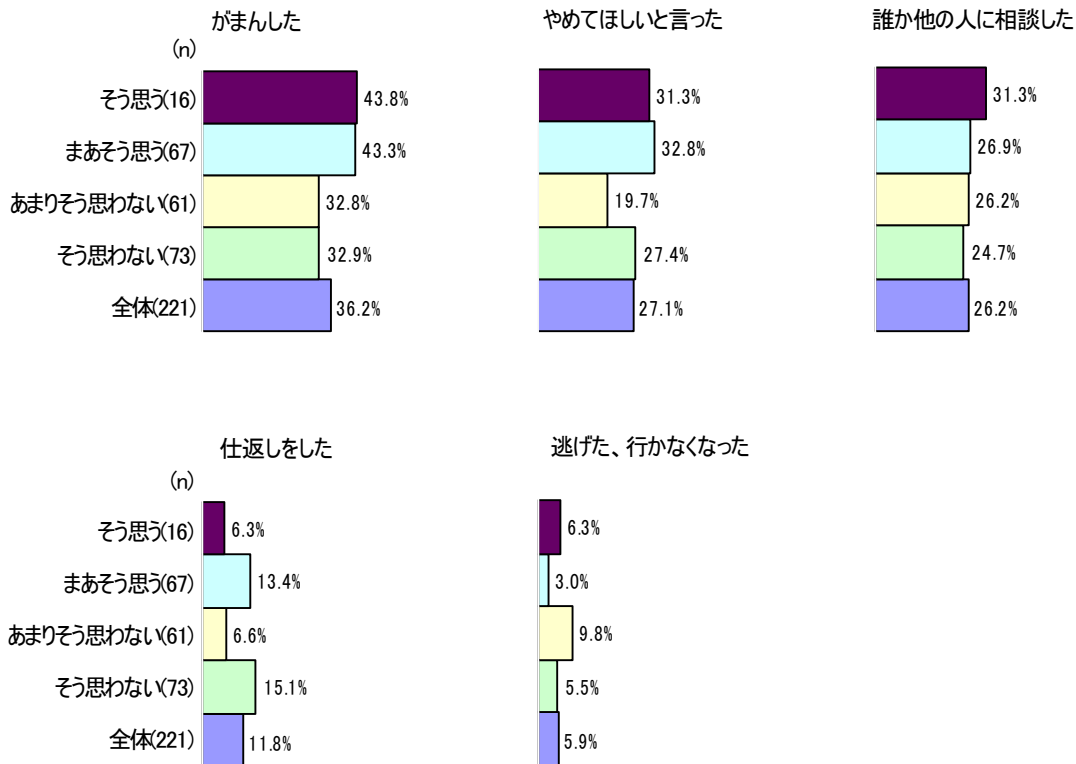
- 距離を置くようになった。
- あやまった。
- 気分転換をした。
- 自分は自分。他人に合わせない。
- 反論した。
- 別の話にうつろうと言った。
- 呼び出して話をつけた。
- 特に何もしていない。
- 心の中でイライラ。

<学校の種別>クロス集計結果



<自己肯定感別>クロス集計

自己肯定感別のクロス集計は、子ども問 23「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

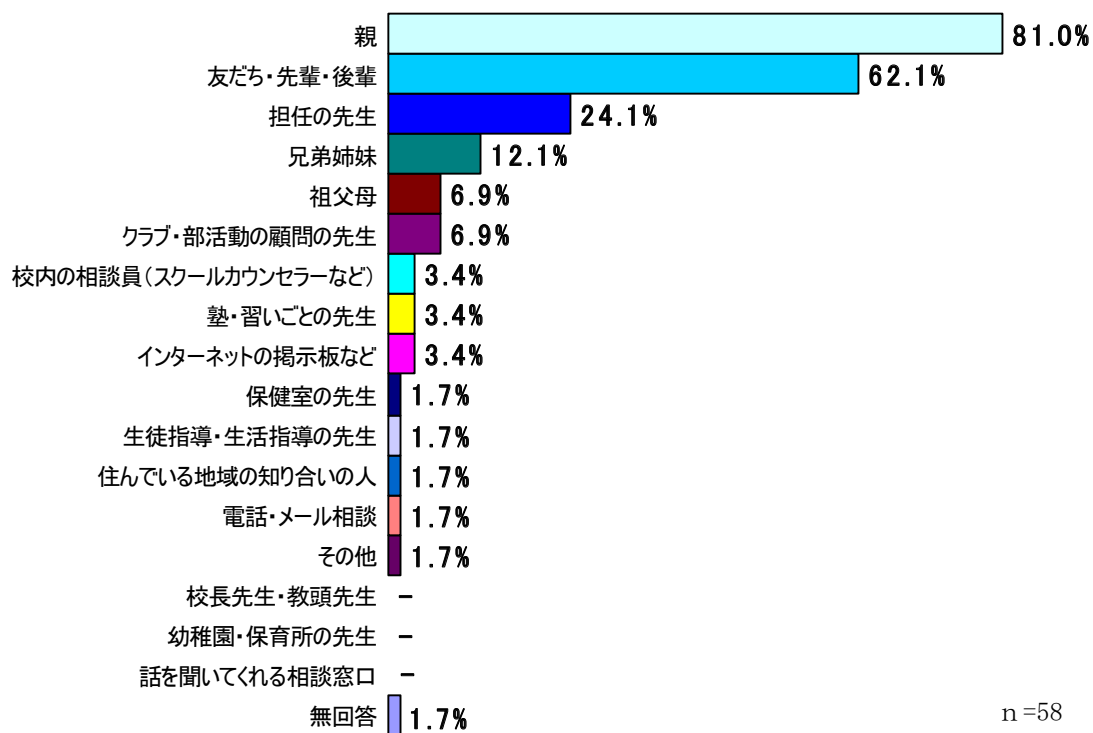


問 13 (問 12 で「誰か他の人に相談した」と回答した人へ)

誰・どこに相談しましたか。

<〇はいくつでも>

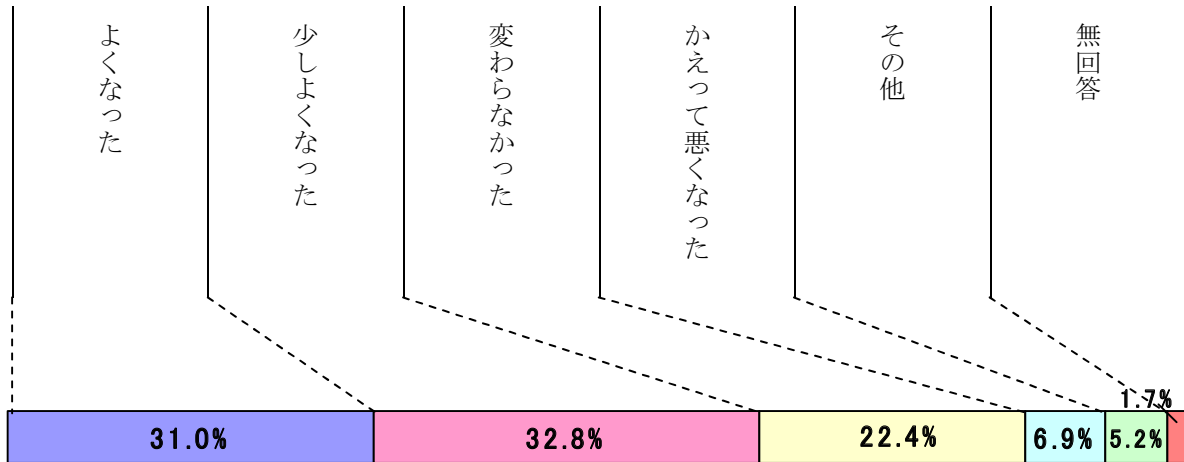
1. 親	10. 校内の相談員(スクールカウンセラーなど)
2. 兄弟姉妹	11. 幼稚園・保育所の先生
3. 祖父母	12. 塾・習いごとの先生
4. 友だち・先輩・後輩	13. 住んでいる地域の知り合いの人
5. 校長先生・教頭先生	14. インターネットの掲示板など
6. 担任の先生	15. 電話・メール相談
7. 保健室の先生	16. 話を聞いてくれる相談窓口
8. クラブ・部活動の顧問の先生	17. その他
9. 生徒指導・生活指導の先生	



※その他
恋人

問 14 (問 12 で「誰か他の人に相談した」と回答した人へ)
 相談した結果、いやな思いをした状況からよくなりましたか。
 <〇は1つ>

- | | |
|------------|--------------|
| 1. よくなった | 4. かえって悪くなった |
| 2. 少しよくなった | 5. その他 |
| 3. 変わらなかった | |

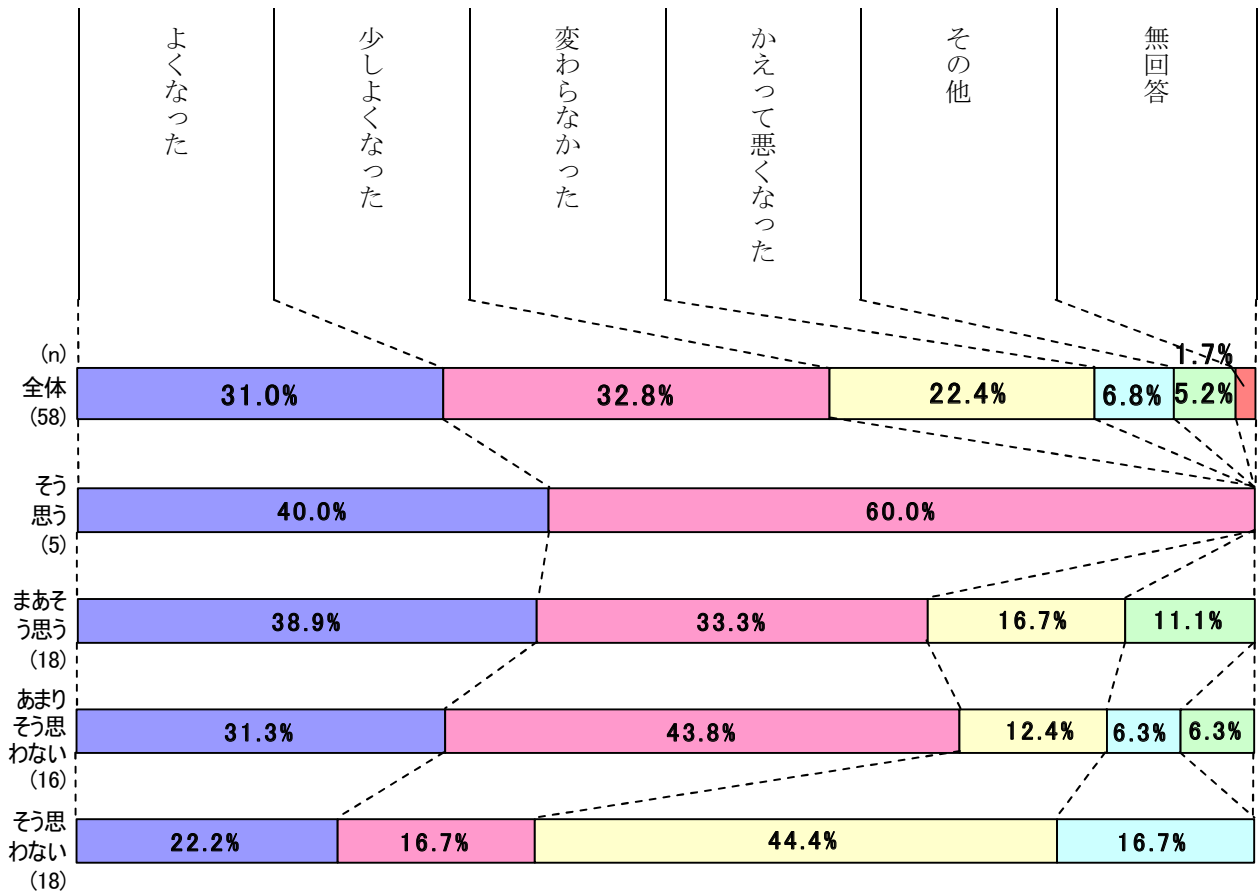


n=58

※その他
 気持ちは楽になった。
 その人と仲良くなった。
 友だちとの関係を浅くした。

自己肯定感別のクロス集計は、子ども問23「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

<自己肯定感別>クロス集計



問 15 あなたは、ほかの子どもが辛い目にあっているところを見たことがありますか。

<〇は1つ>

1. ある ⇒ 問 16へ 2. ない



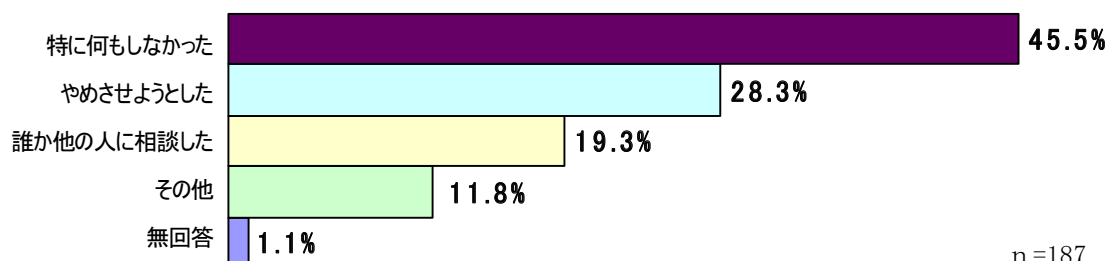
n=516

問 16 (問 15で「ある」と回答した人へ)

そのとき、あなたはどうしましたか。

<〇はいくつでも>

1. やめさせようとした
 2. 誰か他の人に相談した ⇒ 問 17へ
 3. 特に何もしなかった
 4. その他



n=187

※その他

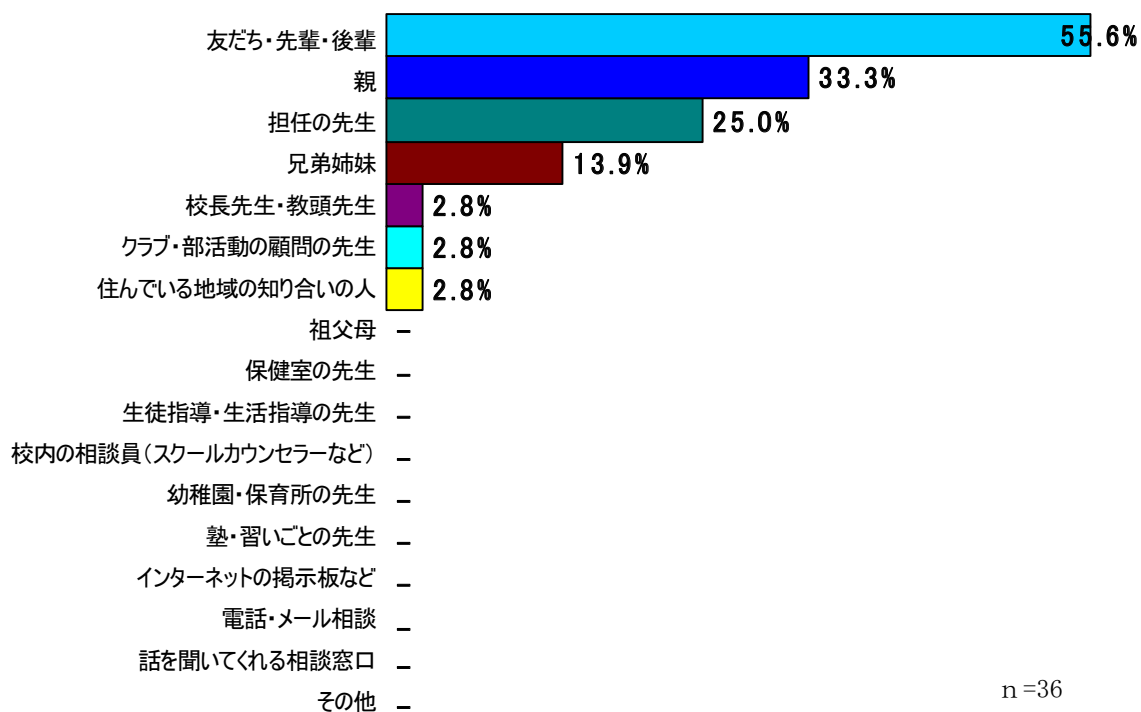
- 話をするようになった。
- 自分が相談にのった。
- その人のそばにいてあげた。
- 普通に接した
- やめさせようとしたけど無理だった。
- その人と仲良くなろうとした。
- すっきりした。
- その人のつらさが分かるから助けてあげた。
- 自分に関係ないのでどうでもいい。もし自分がやられたら殴る。
- 何もできなかった。
- なぐさめてあげた。
- 家族だから手が出せなかった。
- かわいそうだと思った。

問 17 (問 16 で「誰か他の人に相談した」と回答した人へ)

誰・どこに相談しましたか。

<〇はいくつでも>

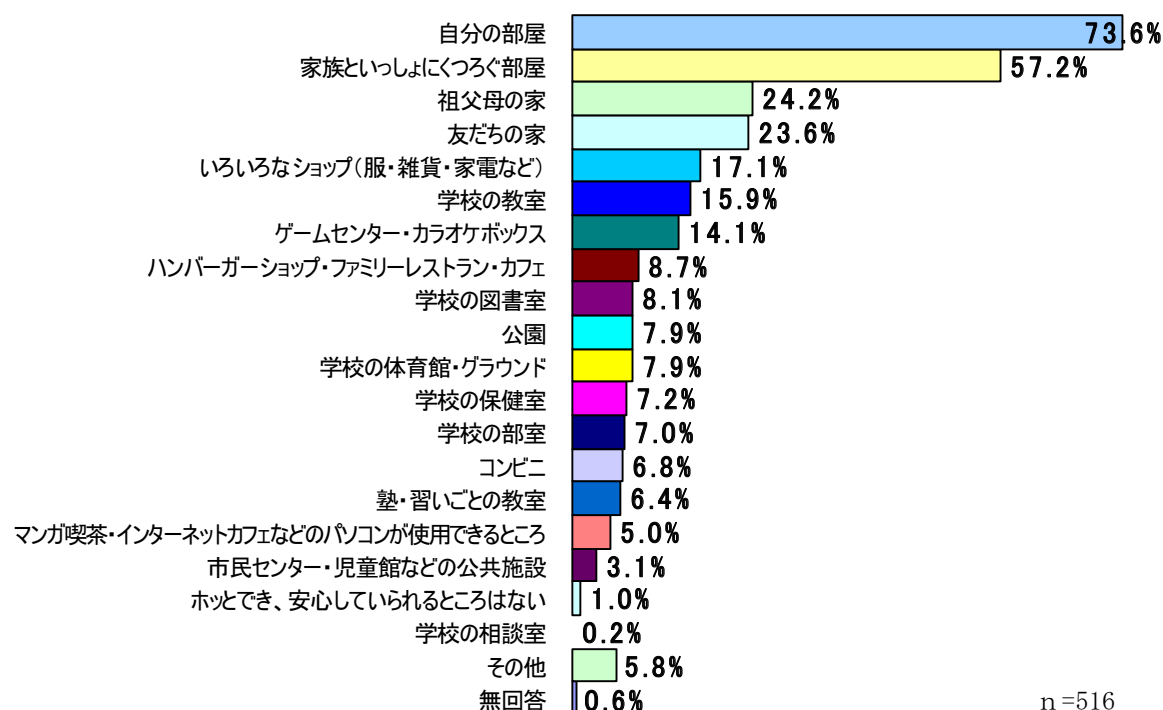
1. 親	10. 校内の相談員(スクールカウンセラーなど)
2. 兄弟姉妹	11. 幼稚園・保育所の先生
3. 祖父母	12. 塾・習いごとの先生
4. 友だち・先輩・後輩	13. 住んでいる地域の知り合いの人
5. 校長先生・教頭先生	14. インターネットの掲示板など
6. 担任の先生	15. 電話・メール相談
7. 保健室の先生	16. 話を聞いてくれる相談窓口
8. クラブ・部活動の顧問の先生	17. その他
9. 生徒指導・生活指導の先生	



問 18 あなたにとって、ホッとでき、安心していられるところはどこですか。

〈〇はいくつでも〉

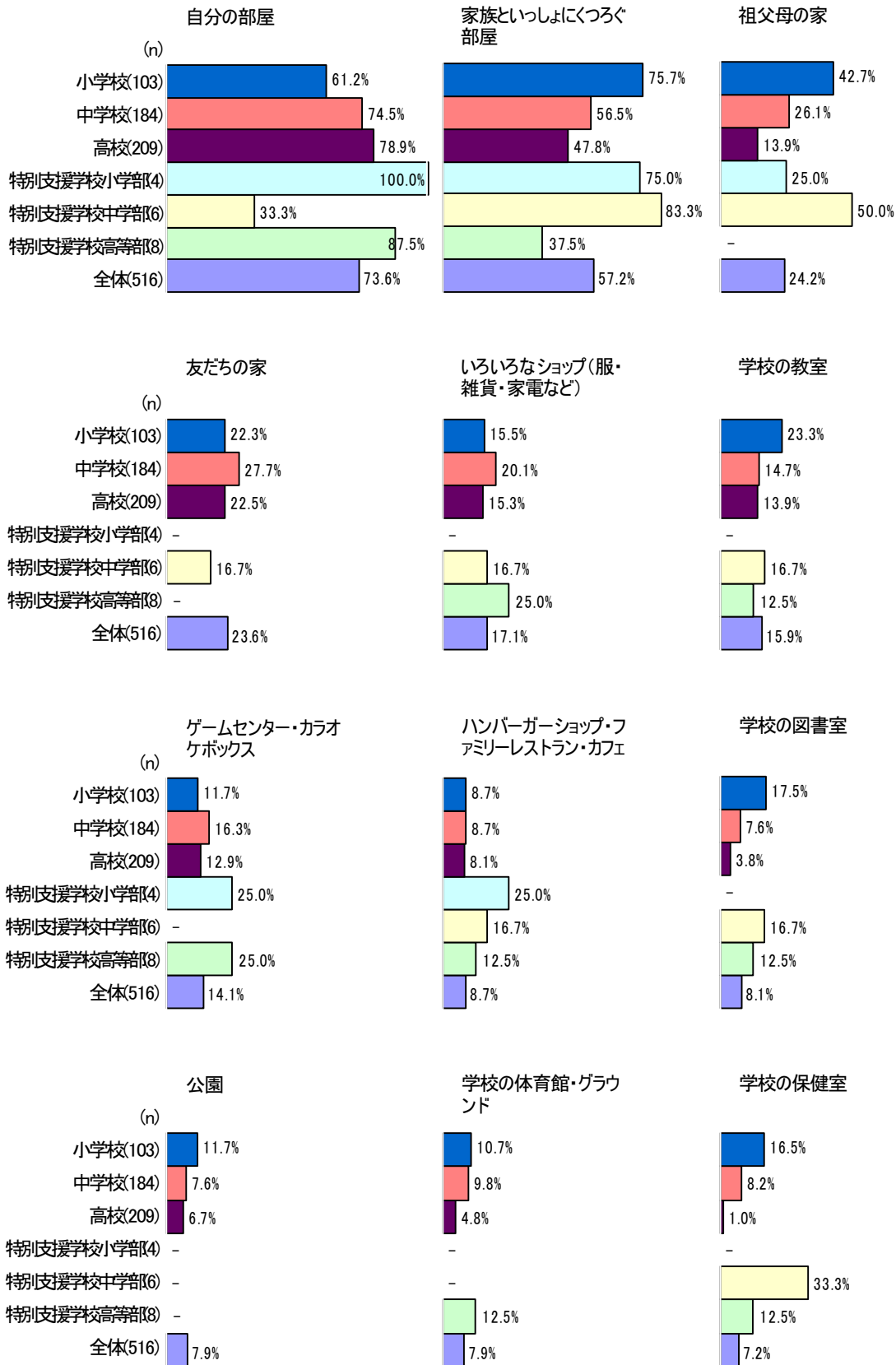
1. 自分の部屋	11. 市民センター・児童館などの公共施設
2. 家族といっしょにくつろぐ部屋	12. 公園
3. 友だちの家	13. 塾・習いごとの教室
4. 祖父母の家	14. コンビニ
5. 学校の教室	15. ゲームセンター・カラオケボックス
6. 学校の保健室	16. ハンバーガーショップ・ファミリーレストラン・カフェ
7. 学校の相談室	17. マンガ喫茶、インターネットカフェなどパソコンが使用できる場所
8. 学校の図書室	18. いろいろなショップ（服・雑貨・家電など）
9. 学校の体育館・グラウンド	19. ホッとでき、安心していられるところはない
10. 学校の部室	20. その他

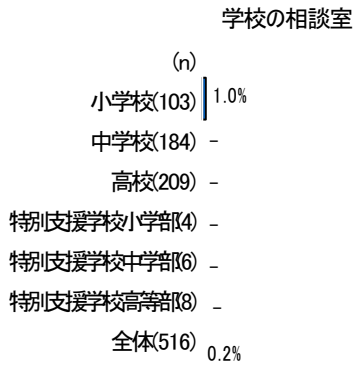
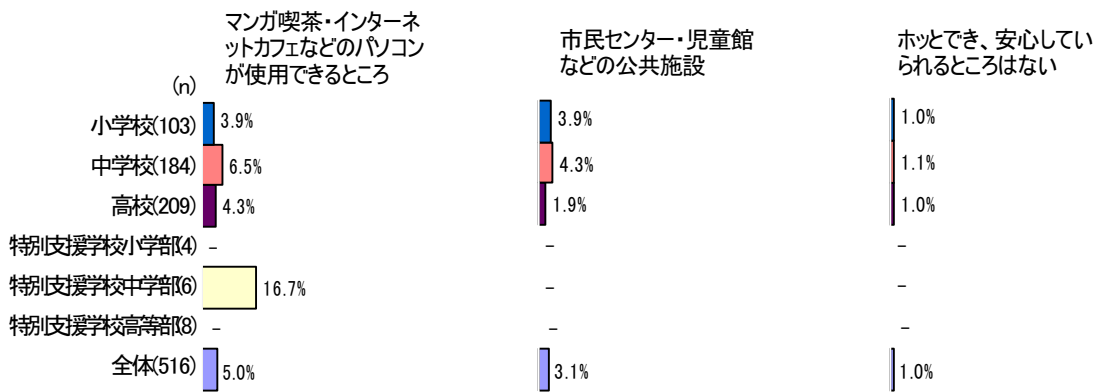
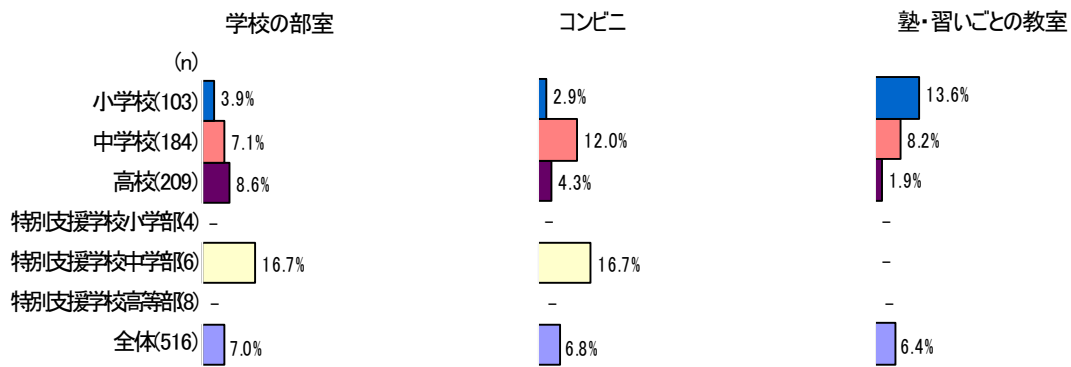


※その他

寺、神社、心霊スポット、図書館、寄宿舍、トイレ、お風呂、布団の中、どこでも安心していられる、ライブハウス、ライブホール、姉の部屋、学校の第2音楽室、ベッドと壁の隙間、外、1人でいられるところ、お母さんのそば、彼氏の家、文房具店、芝生のグラウンド、誰もいない教室など静かな場所、狭くて暗いところ、ゲーム倉庫、アニメイト、自分の生まれたところ、本屋、車の中、中学の部室

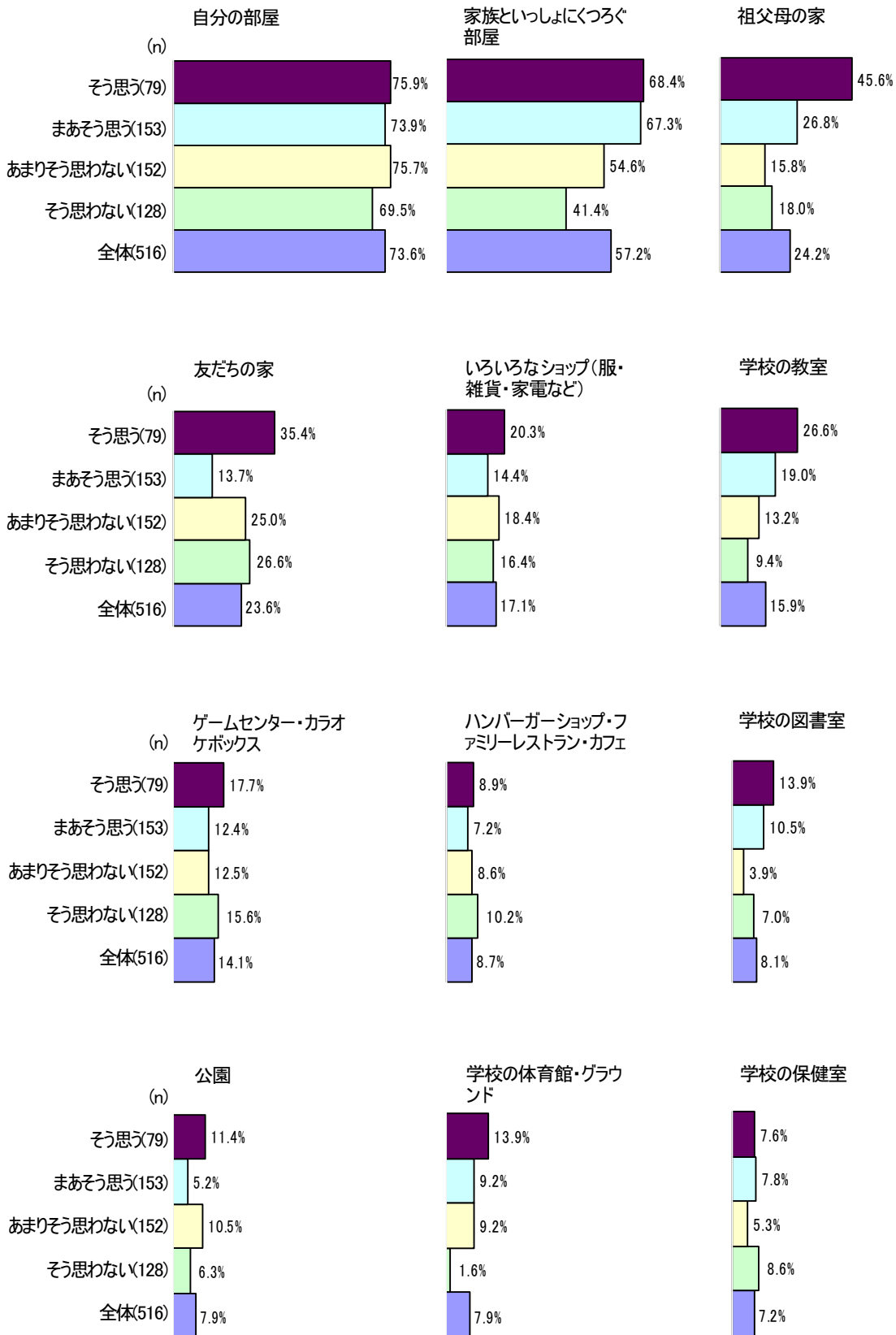
<学校の種別>クロス集計結果

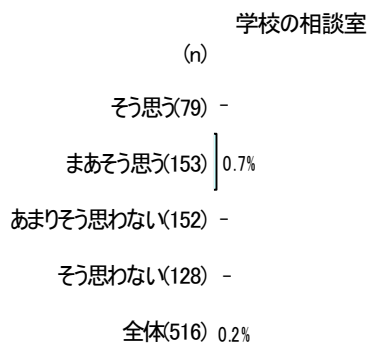
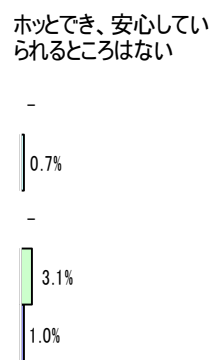
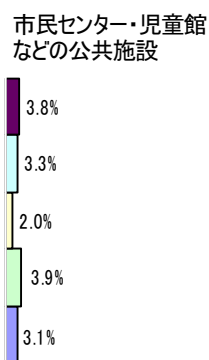
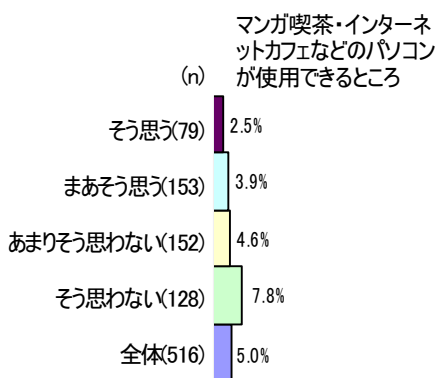
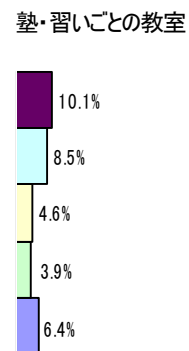
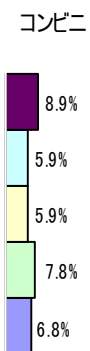
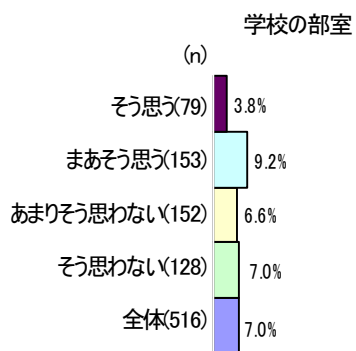




自己肯定感別のクロス集計は、子ども問23「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

<自己肯定感別>クロス集計

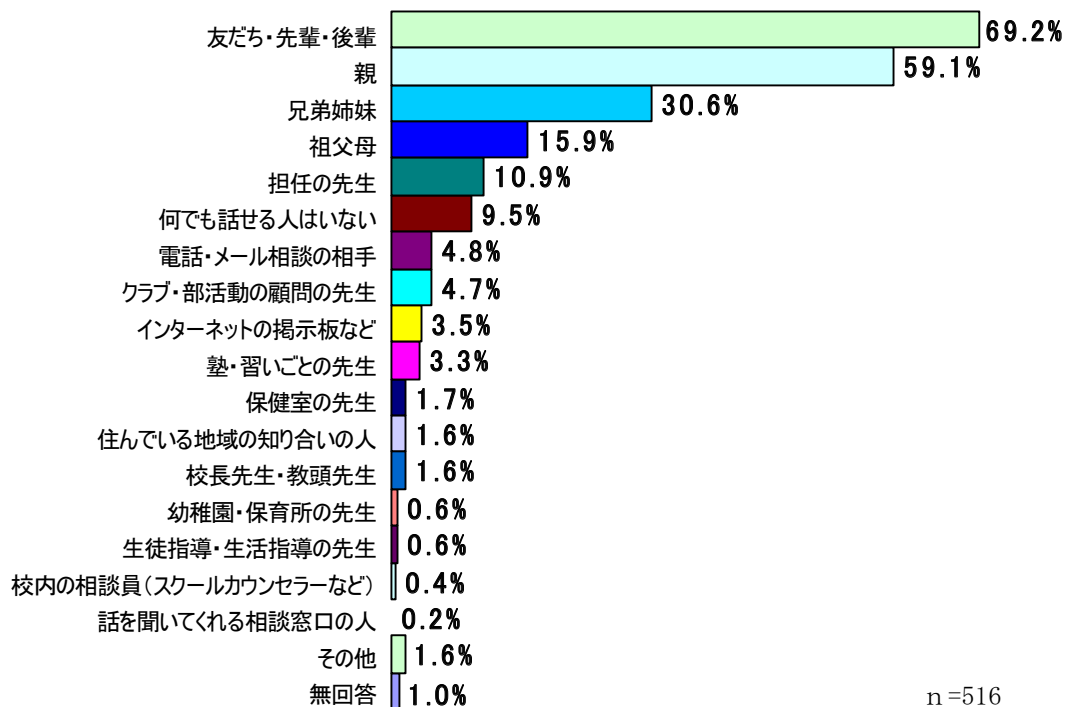




問 19 あなたにとって、自分が話したいこと（楽しかったこと、悩みなど）を何でも話せる人は誰ですか。

〈〇はいくつでも〉

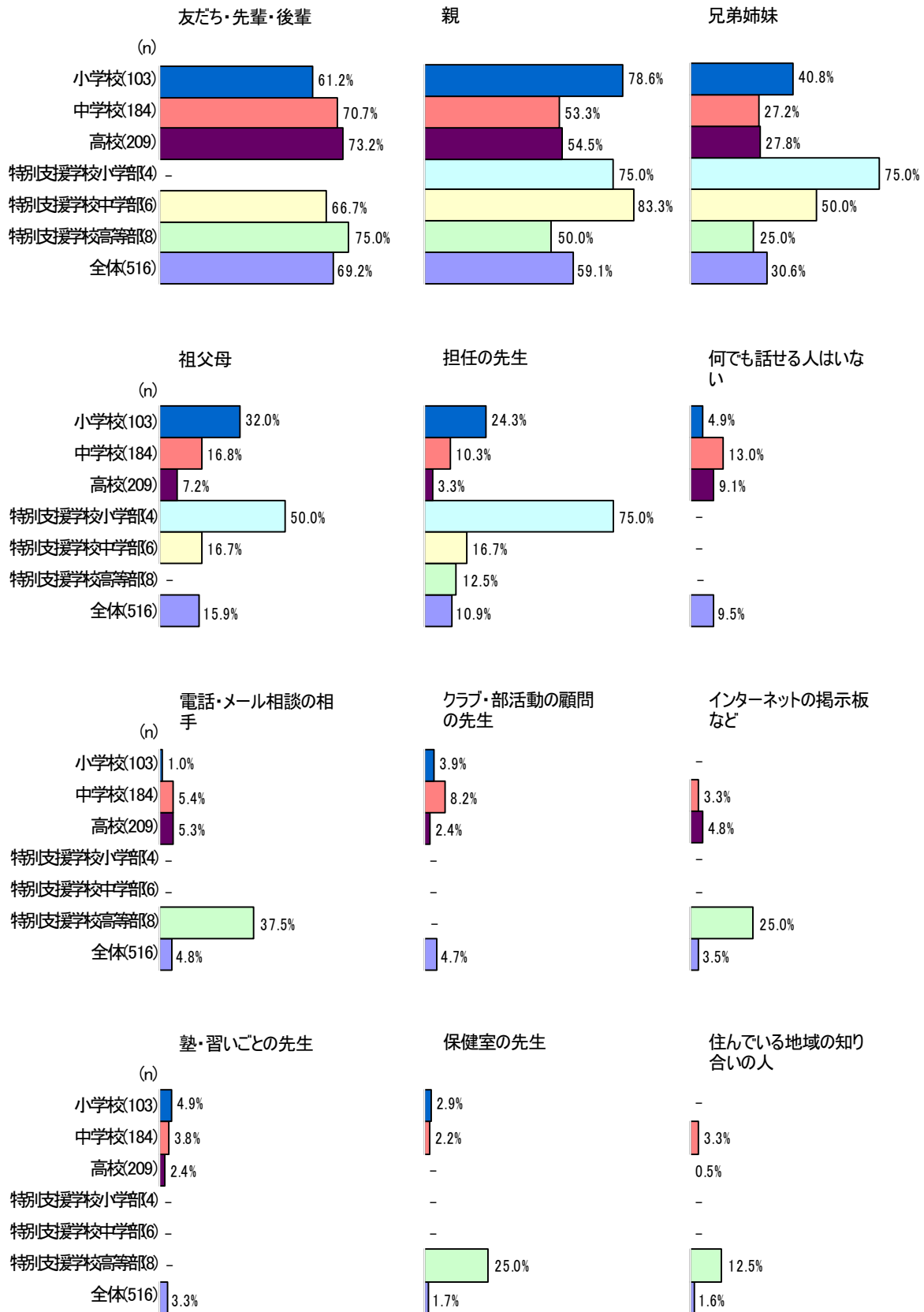
1. 親	10. 校内の相談員(スクールカウンセラーなど)
2. 兄弟姉妹	11. 幼稚園・保育所の先生
3. 祖父母	12. 塾・習いごとの先生
4. 友だち・先輩・後輩	13. 住んでいる地域の知り合いの人
5. 校長先生・教頭先生	14. インターネットの掲示板など
6. 担任の先生	15. 電話・メール相談
7. 保健室の先生	16. 話を聞いてくれる相談窓口の人
8. クラブ・部活動の顧問の先生	17. 何でも話せる人はいない
9. 生徒指導・生活指導の先生	18. その他

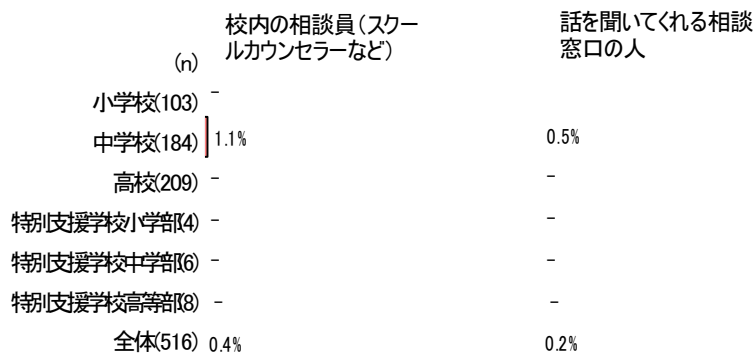
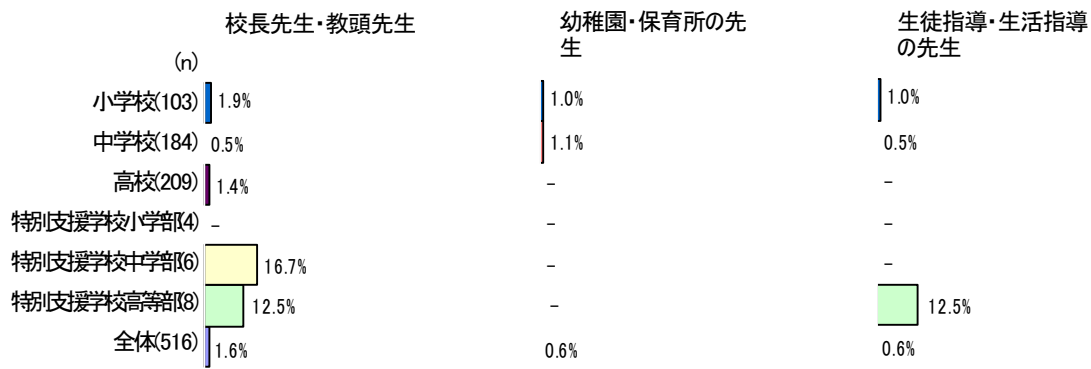


※その他

訓練の先生、恋人、言いにくいこと以外なら親に言った、チャット相手、同じ趣味を持った人、特定の友だち1人、いとか

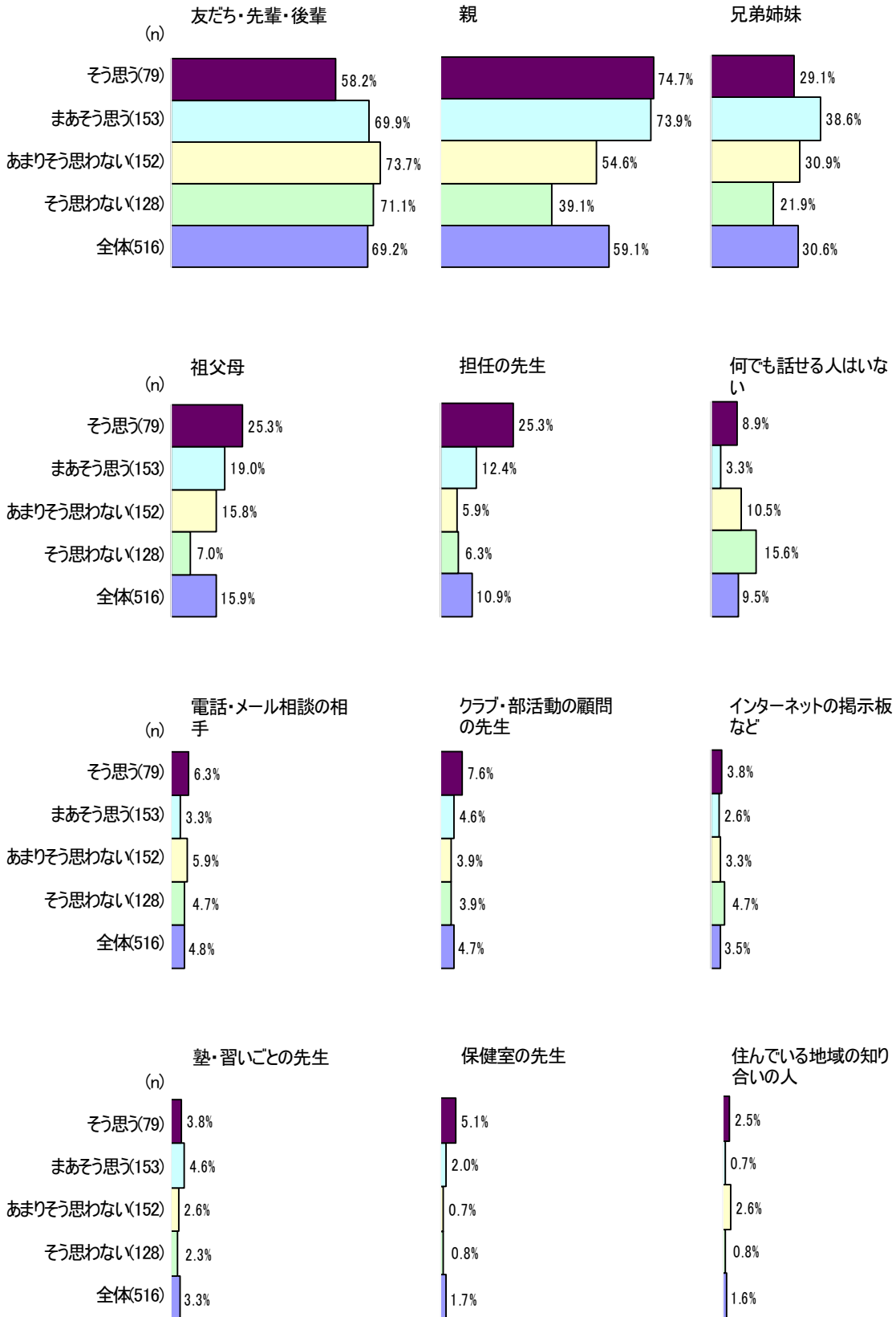
<学校の種別>クロス集計結果

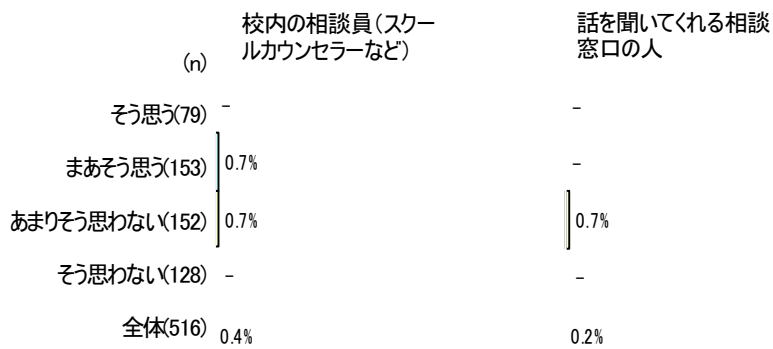
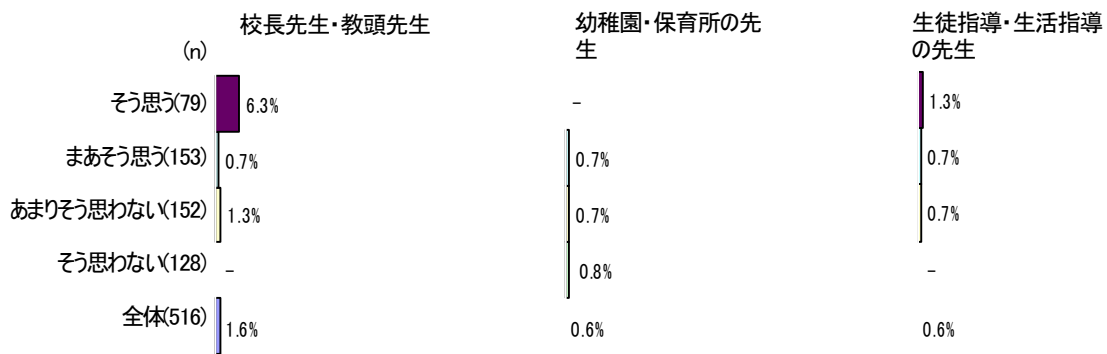




自己肯定感別のクロス集計は、子ども問23「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

<自己肯定感別>クロス集計

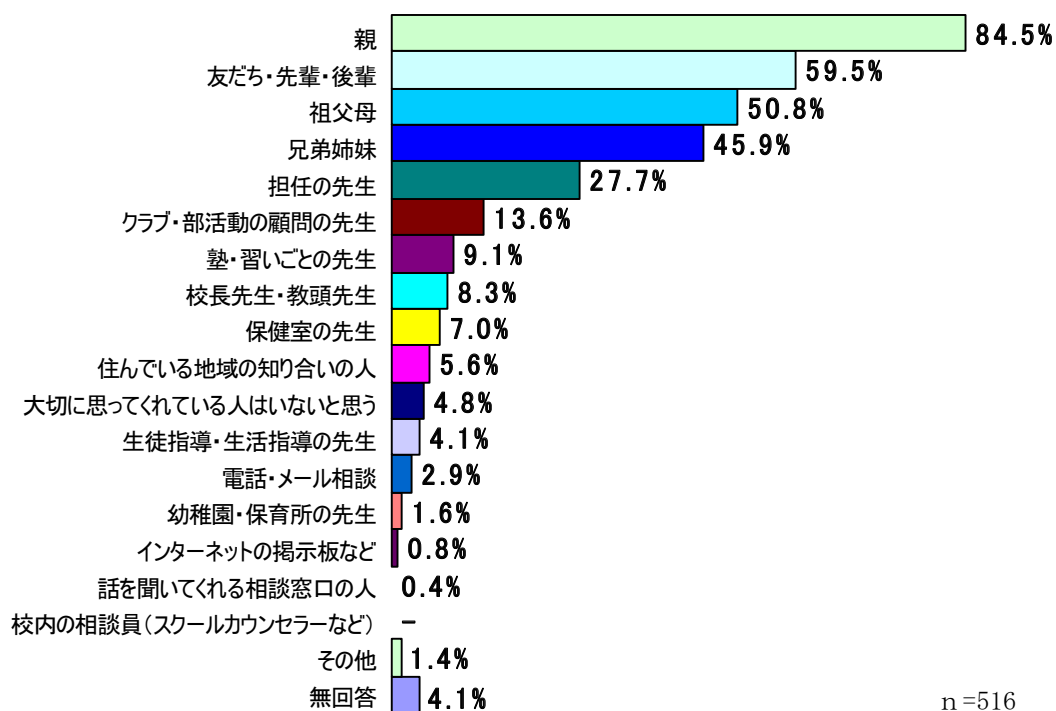




問 20 あなたにとって、あなたを大切に思ってくれていると思える人は誰ですか。

〈〇はいくつでも〉

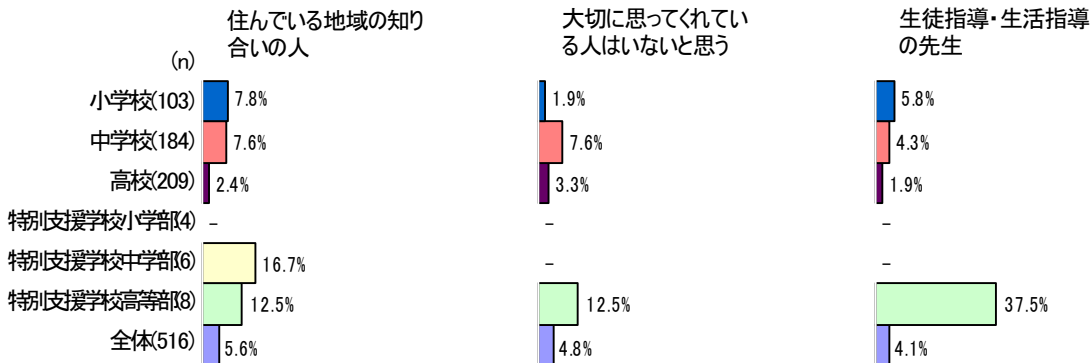
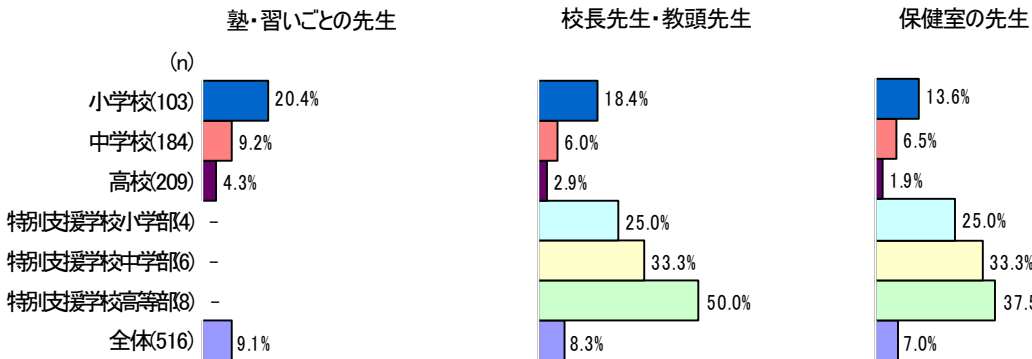
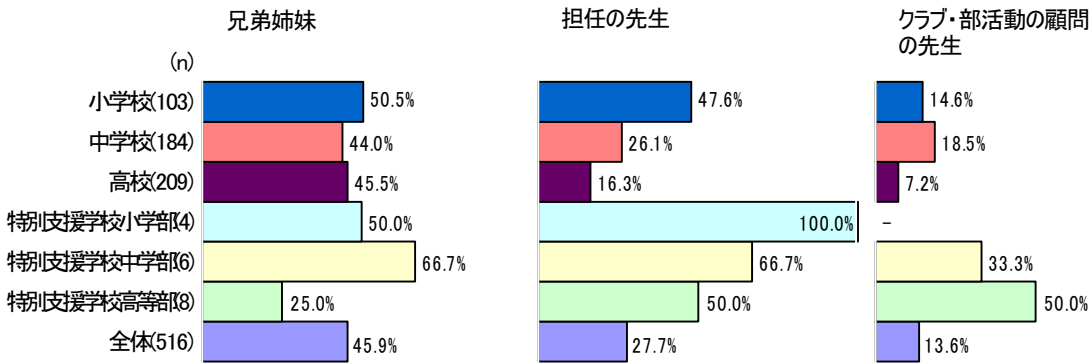
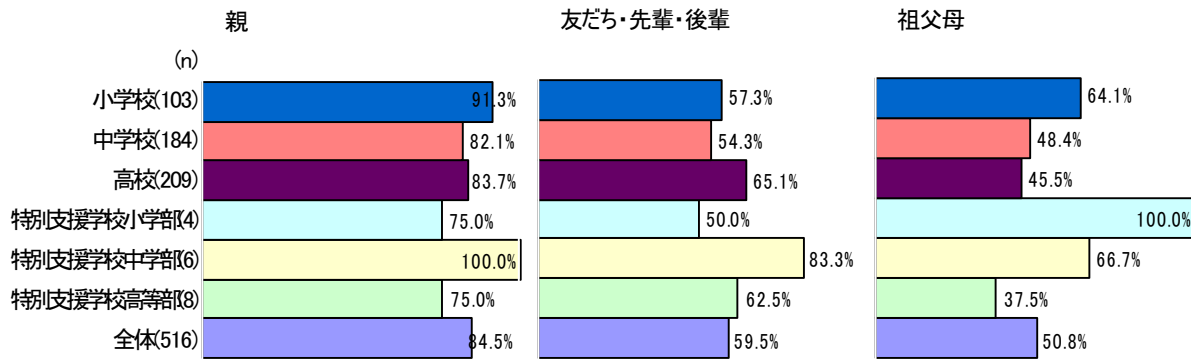
1. 親	10. 校内の相談員(スクールカウンセラーなど)
2. 兄弟姉妹	11. 幼稚園・保育所の先生
3. 祖父母	12. 塾・習いごとの先生
4. 友だち・先輩・後輩	13. 住んでいる地域の知り合いの人
5. 校長先生・教頭先生	14. インターネットの掲示板など
6. 担任の先生	15. 電話・メール相談
7. 保健室の先生	16. 話を聞いてくれる相談窓口の人
8. クラブ・部活動の顧問の先生	17. 大切に思ってくれている人はいないと思う
9. 生徒指導・生活指導の先生	18. その他

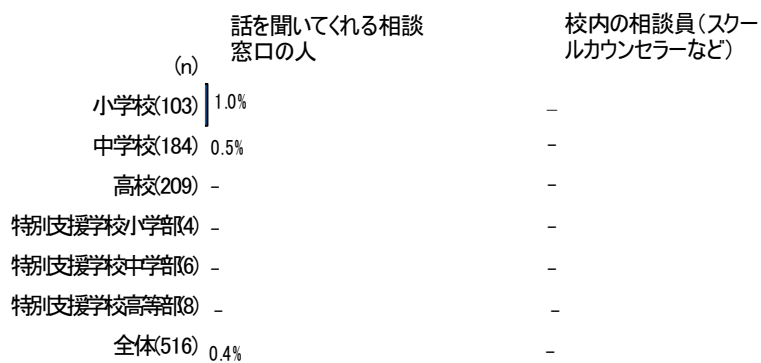
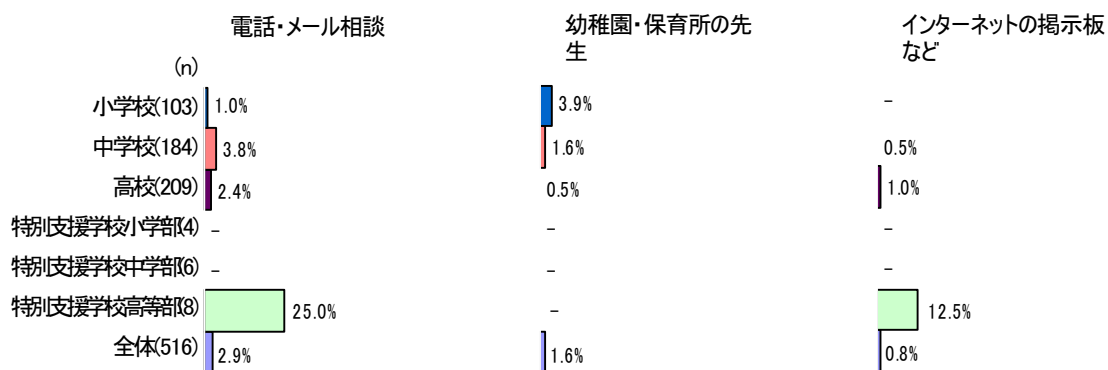


※その他

訓練の先生、恋人、相手が本当に思っていることなんて知らない

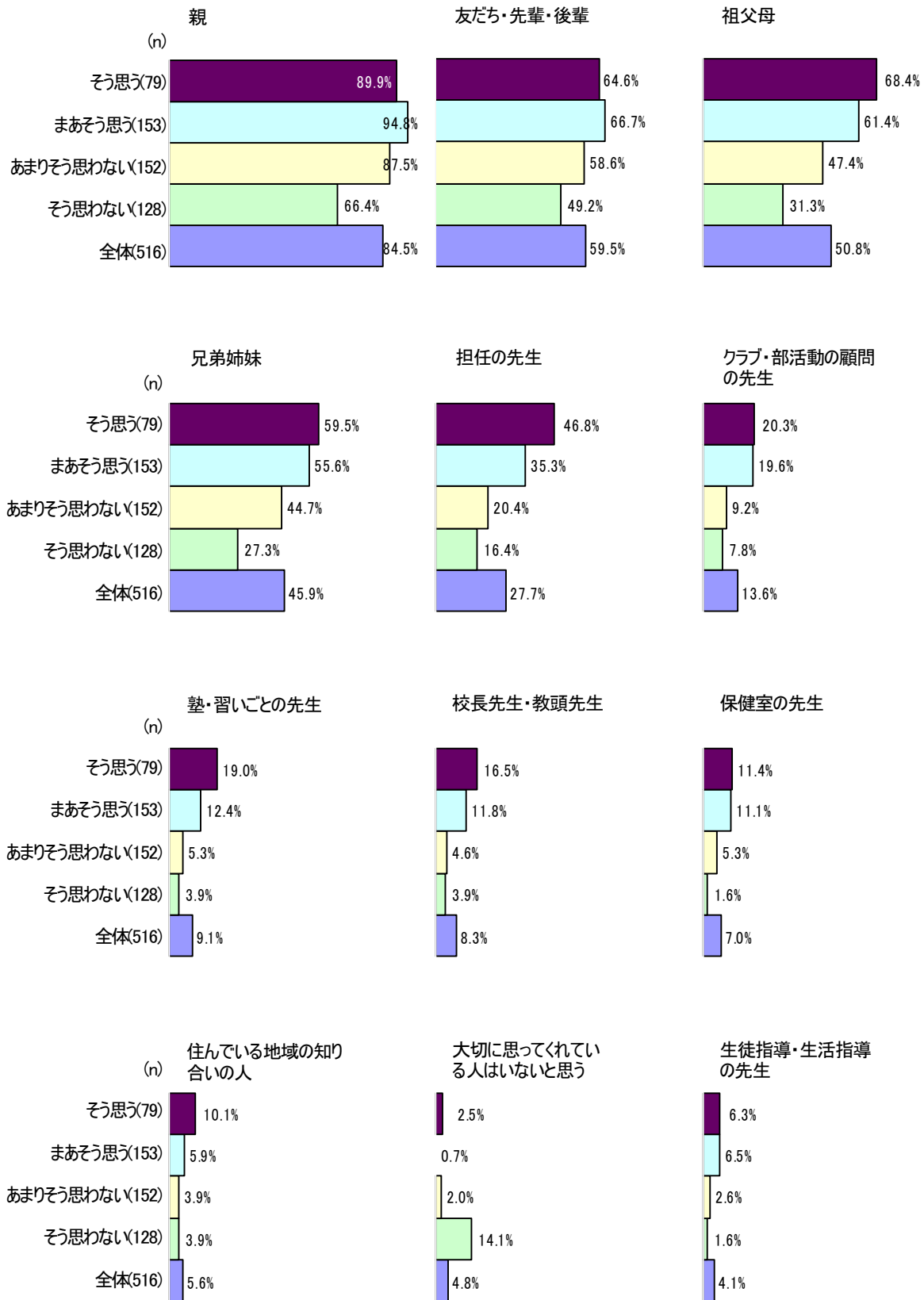
<学校の種別>クロス集計結果

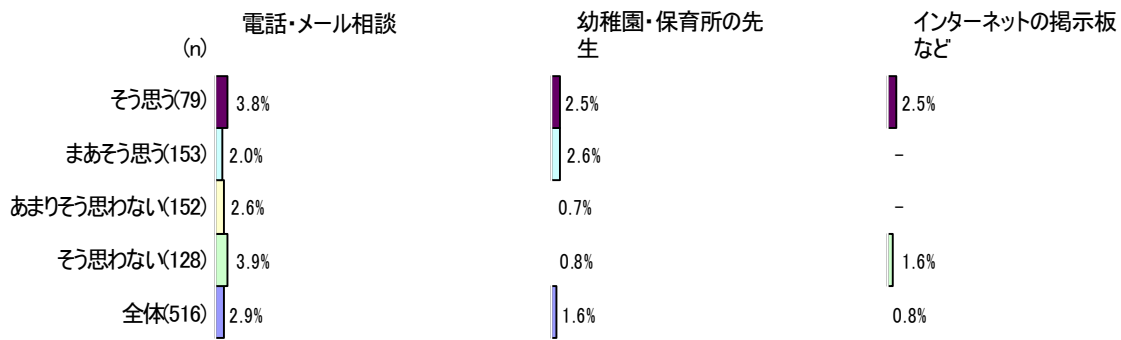




自己肯定感別のクロス集計は、子ども問23「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

<自己肯定感別>クロス集計



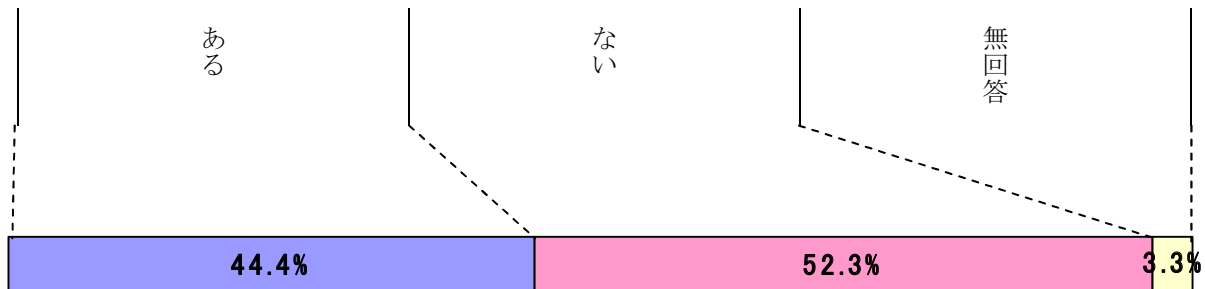


Category	話を聞いてくれる相談窓口の人 (%)	校内の相談員(スクールカウンセラーなど) (%)
そう思う(79)	-	-
まあそう思う(153)	0.7%	-
あまりそう思わない(152)	-	-
そう思わない(128)	0.8%	-
全体(516)	0.4%	-

問 21 あなたは、日頃、納得のいかないことや、おかしいと感じることはありますか。

<〇は1つ>

1. ある ⇒ 問 22 へ 2. ない



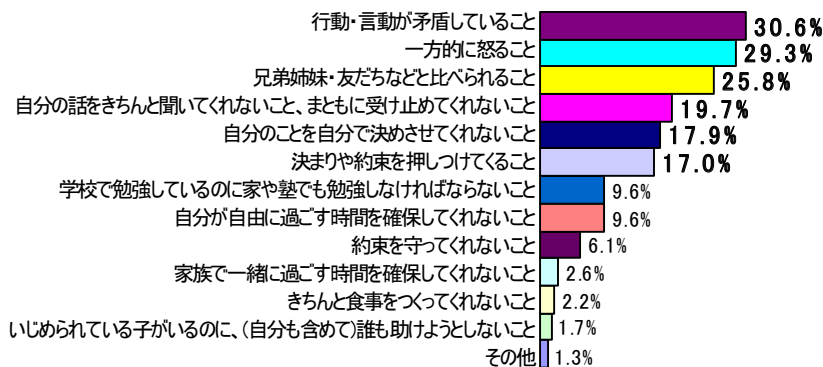
n=516

問 22 (問 21 で「ある」と回答した人へ)

誰に対して、どのようなことに納得がいかなかったり、おかしいと感じましたか。

<あてはまるところに〇をつけてください。(〇はいくつでも)>

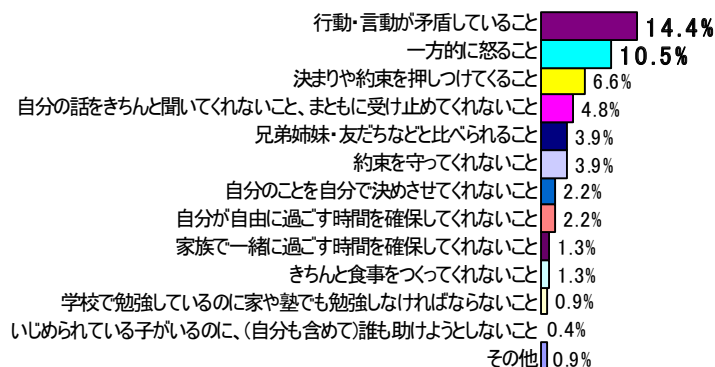
①親



- ◆「約束を守ってくれないこと」
 - ・祖母の家に連れていってくれない
 - ・買うと言ったのに買わない
 - ・遊ぶ約束、出かける約束を守らない
 - ・裏切ること
 - ・何時に迎えにきてと言ってもこないこと
- ◆「その他」
 - ・人の好きなものや好きなことをすべて否定してくるところ
 - ・自分に対する態度

n=229

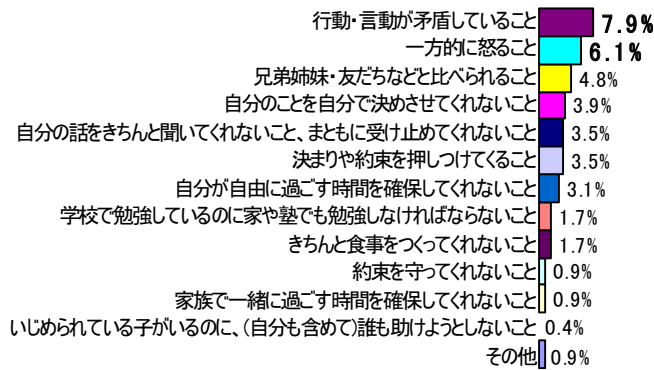
②兄弟姉妹



- ◆「約束を守ってくれないこと」
 - ・ゲームの貸し借り
 - ・裏切ること
 - ・門限を守らない
 - ・家に友だちを連れてきてはいけない
 - ・お金を返してくれない
 - ・秘密を誰かに言う
- ◆「その他」
 - ・自分の機嫌で物事を進める
 - ・何もしていないのに急に怒る
 - ・強く押しつけてくる

n=229

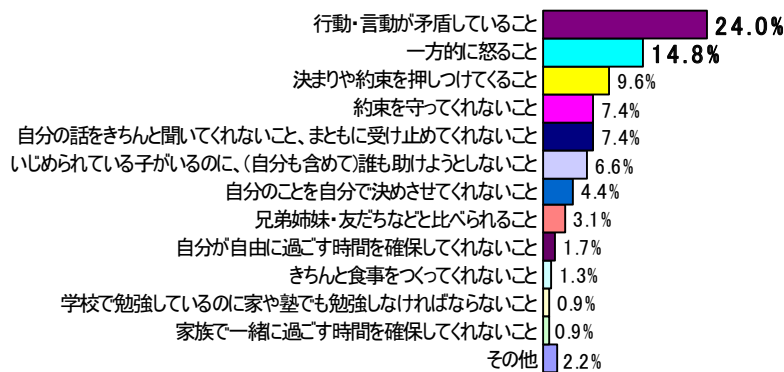
③祖父母



- ◆「約束を守ってくれないこと」
 - ・前から言っていた約束
- ◆「その他」
 - ・人の好きなものや好きなことをすべて否定してるところ
 - ・気持ち悪い

n = 229

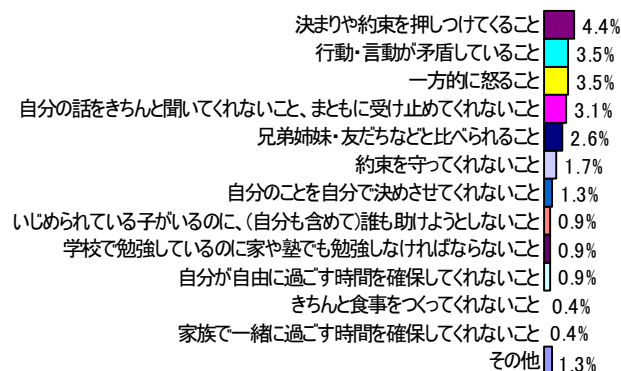
④友だち・先輩・後輩



- ◆「約束を守ってくれないこと」
 - ・相手から誘ってきたのに、約束を守ってくれなかった、遊ぶ約束
 - ・1人の友だちが遊ばなくなると、もう1人が「うちもやっぱ遊ばない」と言ったこと
 - ・裏切ること
 - ・秘密を誰かに言う
 - ・何時までどこどこでと言って約束しても、勝手に場所を変えて1人ぼっちになる
- ◆「その他」
 - ・どうして人の悪口ばかり言って笑っていられるのか
 - ・自分勝手すぎる
 - ・自分の好きな人にわざと話す
 - ・何もしていないのに急に怒る
 - ・強く押してくる

n = 229

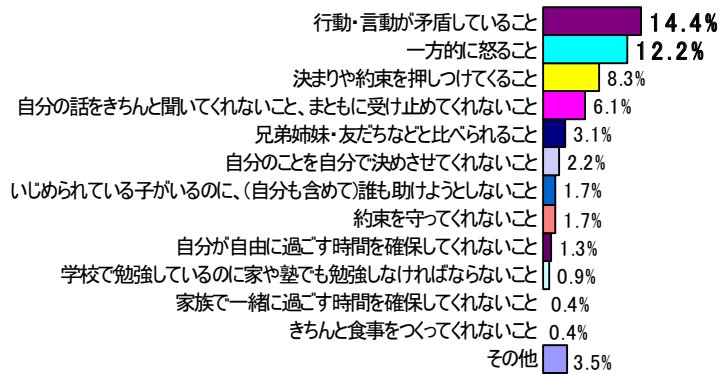
⑤校長先生・教頭先生



- ◆「その他」
 - ・成績で何でも決められ、差別のようかことをしてくること
 - ・自分で言ったのに、私が違うと言ったら「迷惑なんだよ！」と言われた
 - ・男の先生が差別する

n = 229

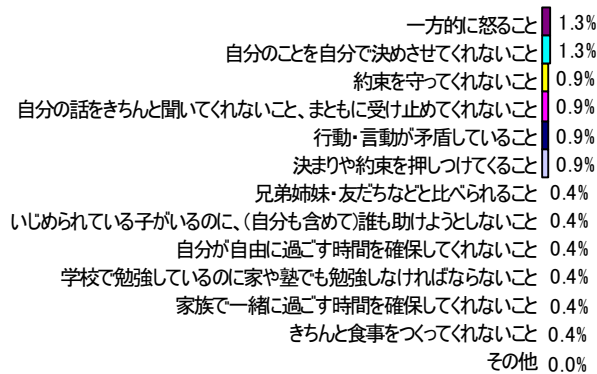
⑥担任の先生



- ◆「その他」
- ・成績で何でも決められ、差別のようなことをしてくること
 - ・余計なことをする(いじめの原因)
 - ・男女差別
 - ・頭のいい人や愛嬌がある子にだけ対応が違う
 - ・ひいき
 - ・男子、女子問わず腹部あたりをなぐる
 - ・セクハラ
 - ・人に頭をぶつける、机を思いきり蹴る、本をとりあげて捨てる、ものを投げる、など

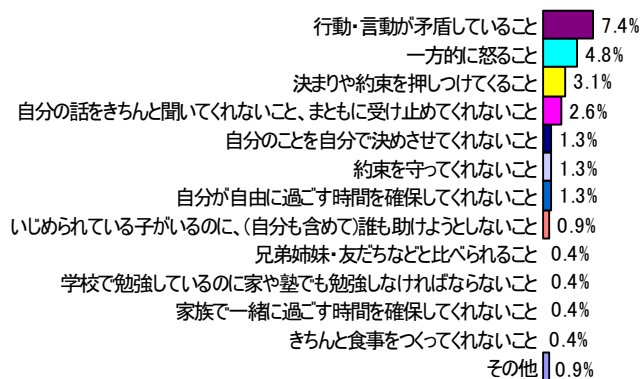
n = 229

⑦保健室の先生



n = 229

⑧クラブ・部活動の先生



- ◆「約束を守ってくれないこと」
- ・怒るときは叩かないで怒ると約束したのに、すぐ破った
- ◆「その他」
- ・機嫌が悪いとあたってくる
 - ・口が悪い

n = 229

⑨生徒指導・生活指導の先生

決まりや約束を押しつけてくること	3.9%
一方的に怒ること	3.5%
行動・言動が矛盾していること	3.1%
自分の話をきちんと聞いてくれないこと、まともに受け止めてくれないこと	1.7%
自分のことを自分で決めさせてくれないこと	0.9%
学校で勉強しているのに家や塾でも勉強しなければならないこと	0.9%
約束を守ってくれないこと	0.4%
自分が自由に過ごす時間を確保してくれないこと	0.4%
いじめられている子がいるのに、(自分も含めて)誰も助けようとしらないこと	0.4%
兄弟姉妹・友だちなどと比べられること	0.4%
家族と一緒に過ごす時間を確保してくれないこと	0.4%
きちんと食事をつくってくれないこと	0.4%
その他	0.4%

◆「その他」
・余計なことをする(いじめの原因)

n = 229

⑩校内の相談員 (スクールカウンセラーなど)

約束を守ってくれないこと	0.9%
一方的に怒ること	0.9%
決まりや約束を押しつけてくること	0.4%
行動・言動が矛盾していること	0.4%
自分の話をきちんと聞いてくれないこと、まともに受け止めてくれないこと	0.4%
自分のことを自分で決めさせてくれないこと	0.4%
学校で勉強しているのに家や塾でも勉強しなければならないこと	0.4%
自分が自由に過ごす時間を確保してくれないこと	0.4%
いじめられている子がいるのに、(自分も含めて)誰も助けようとしらないこと	0.4%
兄弟姉妹・友だちなどと比べられること	0.4%
家族と一緒に過ごす時間を確保してくれないこと	0.4%
きちんと食事をつくってくれないこと	0.4%
その他	0.0%

◆「約束を守ってくれないこと」
・言わないと言ったのに言うところ

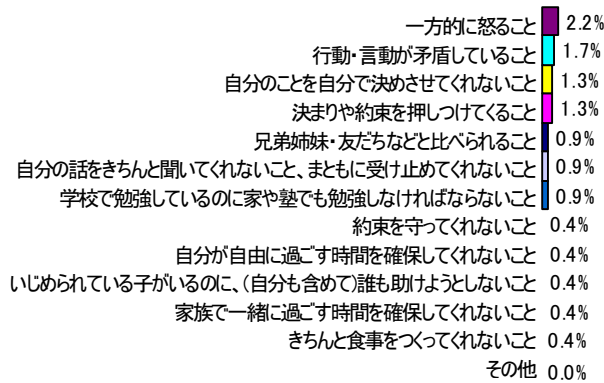
n = 229

⑪幼稚園・保育所の先生

決まりや約束を押しつけてくること	0.9%
一方的に怒ること	0.9%
約束を守ってくれないこと	0.4%
行動・言動が矛盾していること	0.4%
自分の話をきちんと聞いてくれないこと、まともに受け止めてくれないこと	0.4%
自分のことを自分で決めさせてくれないこと	0.4%
学校で勉強しているのに家や塾でも勉強しなければならないこと	0.4%
自分が自由に過ごす時間を確保してくれないこと	0.4%
いじめられている子がいるのに、(自分も含めて)誰も助けようとしらないこと	0.4%
兄弟姉妹・友だちなどと比べられること	0.4%
家族と一緒に過ごす時間を確保してくれないこと	0.4%
きちんと食事をつくってくれないこと	0.4%
その他	0.0%

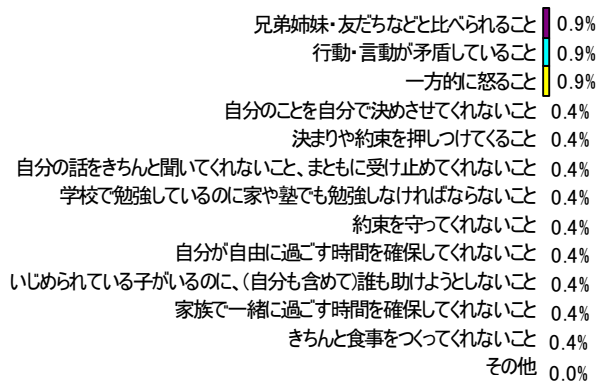
n = 229

⑫塾・習いごとの先生



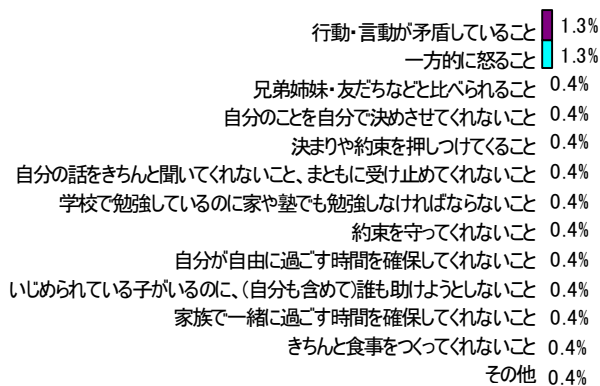
n = 229

⑬住んでいる地域の知り合いの人



n = 229

⑭インターネットの掲示板など



◆「その他」
・どうして人の悪口ばかり言って笑っていら
れるのか

n = 229

⑮電話・メール相談

行動・言動が矛盾していること	0.9%
一方的に怒ること	0.9%
兄弟姉妹・友だちなどと比べられること	0.4%
自分のことを自分で決めさせてくれないこと	0.4%
決まりや約束を押しつけてくること	0.4%
自分の話をきちんと聞いてくれないこと、まともに受け止めてくれないこと	0.4%
学校で勉強しているのに家や塾でも勉強しなければならないこと	0.4%
約束を守ってくれないこと	0.4%
自分が自由に過ごす時間を確保してくれないこと	0.4%
いじめられている子がいるのに、(自分も含めて)誰も助けようとしないうこと	0.4%
家族と一緒に過ごす時間を確保してくれないこと	0.4%
きちんと食事をつくってくれないこと	0.4%
その他	0.0%

n = 229

⑯話を聞いてくれる相談窓口

一方的に怒ること	0.9%
行動・言動が矛盾していること	0.4%
兄弟姉妹・友だちなどと比べられること	0.4%
自分のことを自分で決めさせてくれないこと	0.4%
決まりや約束を押しつけてくること	0.4%
自分の話をきちんと聞いてくれないこと、まともに受け止めてくれないこと	0.4%
学校で勉強しているのに家や塾でも勉強しなければならないこと	0.4%
約束を守ってくれないこと	0.4%
自分が自由に過ごす時間を確保してくれないこと	0.4%
いじめられている子がいるのに、(自分も含めて)誰も助けようとしないうこと	0.4%
家族と一緒に過ごす時間を確保してくれないこと	0.4%
きちんと食事をつくってくれないこと	0.4%
その他	0.0%

n = 229

⑰その他

行動・言動が矛盾していること	2.2%
約束を守ってくれないこと	1.3%
決まりや約束を押しつけてくること	0.9%
一方的に怒ること	0.4%
兄弟姉妹・友だちなどと比べられること	0.4%
自分のことを自分で決めさせてくれないこと	0.4%
自分の話をきちんと聞いてくれないこと、まともに受け止めてくれないこと	0.4%
学校で勉強しているのに家や塾でも勉強しなければならないこと	0.4%
自分が自由に過ごす時間を確保してくれないこと	0.4%
いじめられている子がいるのに、(自分も含めて)誰も助けようとしないうこと	0.4%
家族と一緒に過ごす時間を確保してくれないこと	0.4%
きちんと食事をつくってくれないこと	0.4%
その他	2.2%

- ◆「約束を守ってくれないこと」
 - ・お菓子を賭けてのじゃんけん
 - ・席替えすると言ったのにしなかった
- ◆「その他」
 - ・ゲームで負けたからといって、キレてもう1度やり直す
 - ・とにかくうざい
 - ・毎日毎日同じような生活を送っていること
 - ・英語の意味がない
 - ・学校をつぶしてほしい
 - ・「なんで？」がすべて分かることができないこと

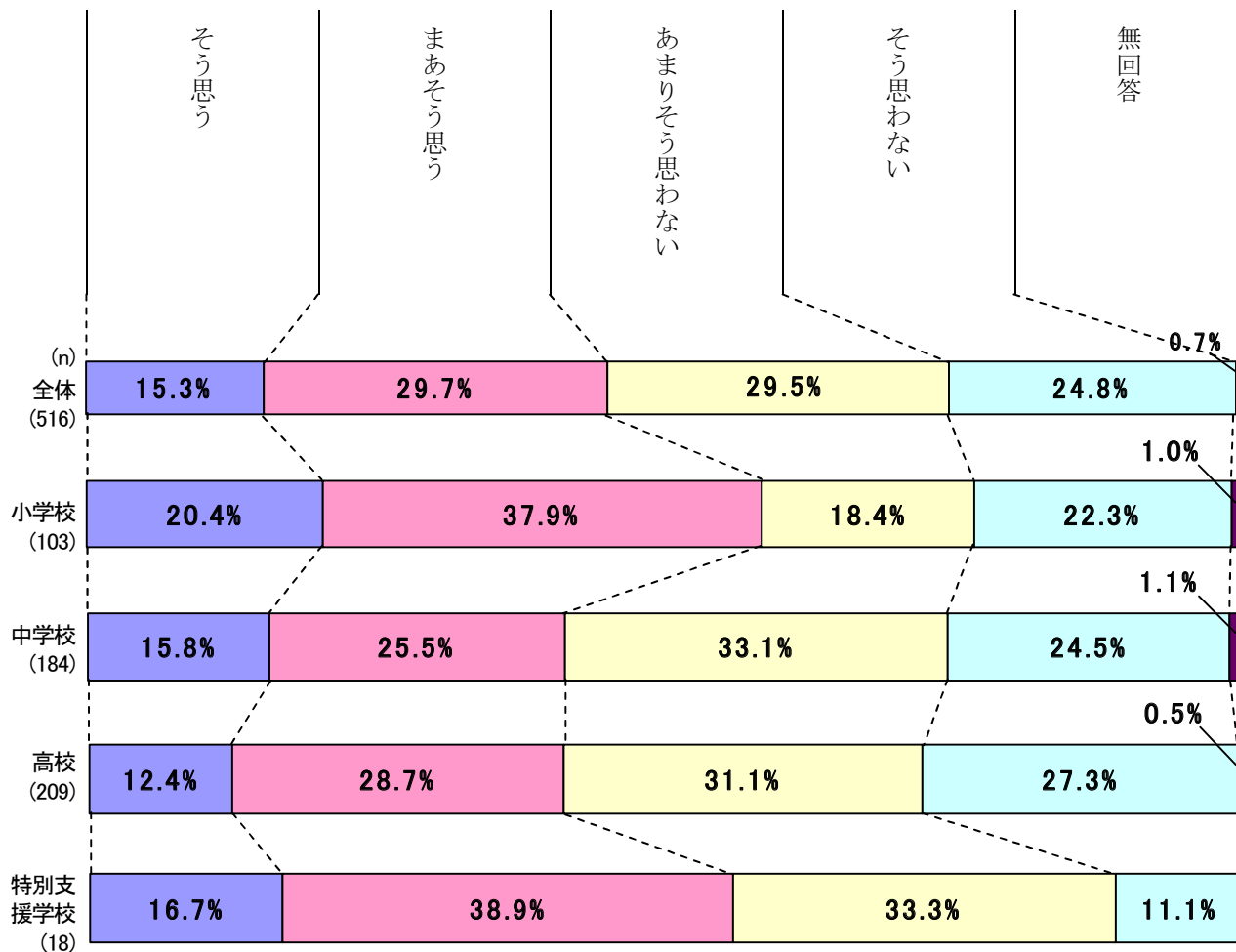
n = 229

問 23 あなたは、自分のことが好きですか。

<〇は1つ>

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. そう思う | 3. あまりそう思わない |
| 2. まあそう思う | 4. そう思わない |

<学校の種別>クロス集計

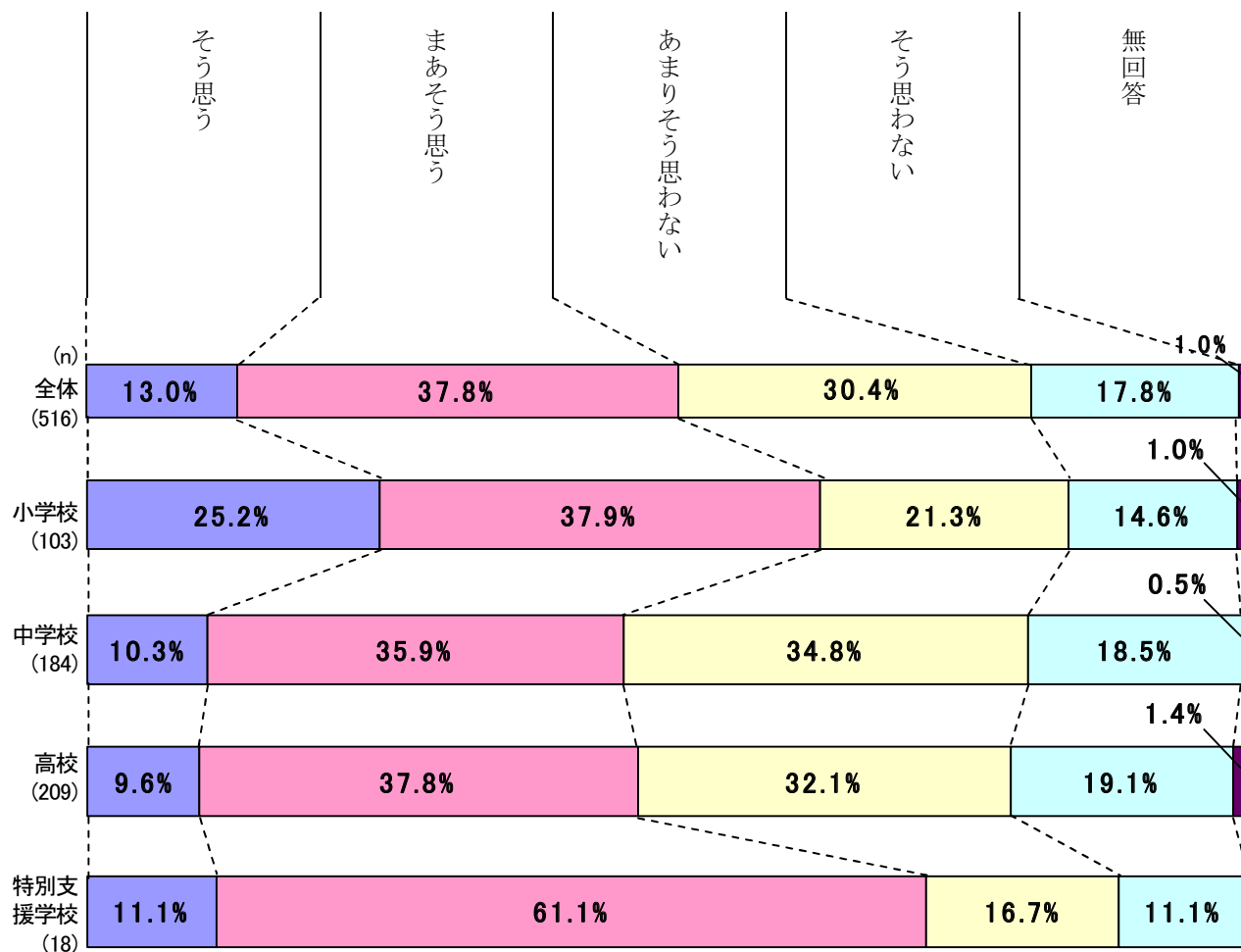


問 24 あなたは、自分が人から必要とされていると思いますか。

<〇は1つ>

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. そう思う | 3. あまりそう思わない |
| 2. まあそう思う | 4. そう思わない |

<学校の種別>クロス集計

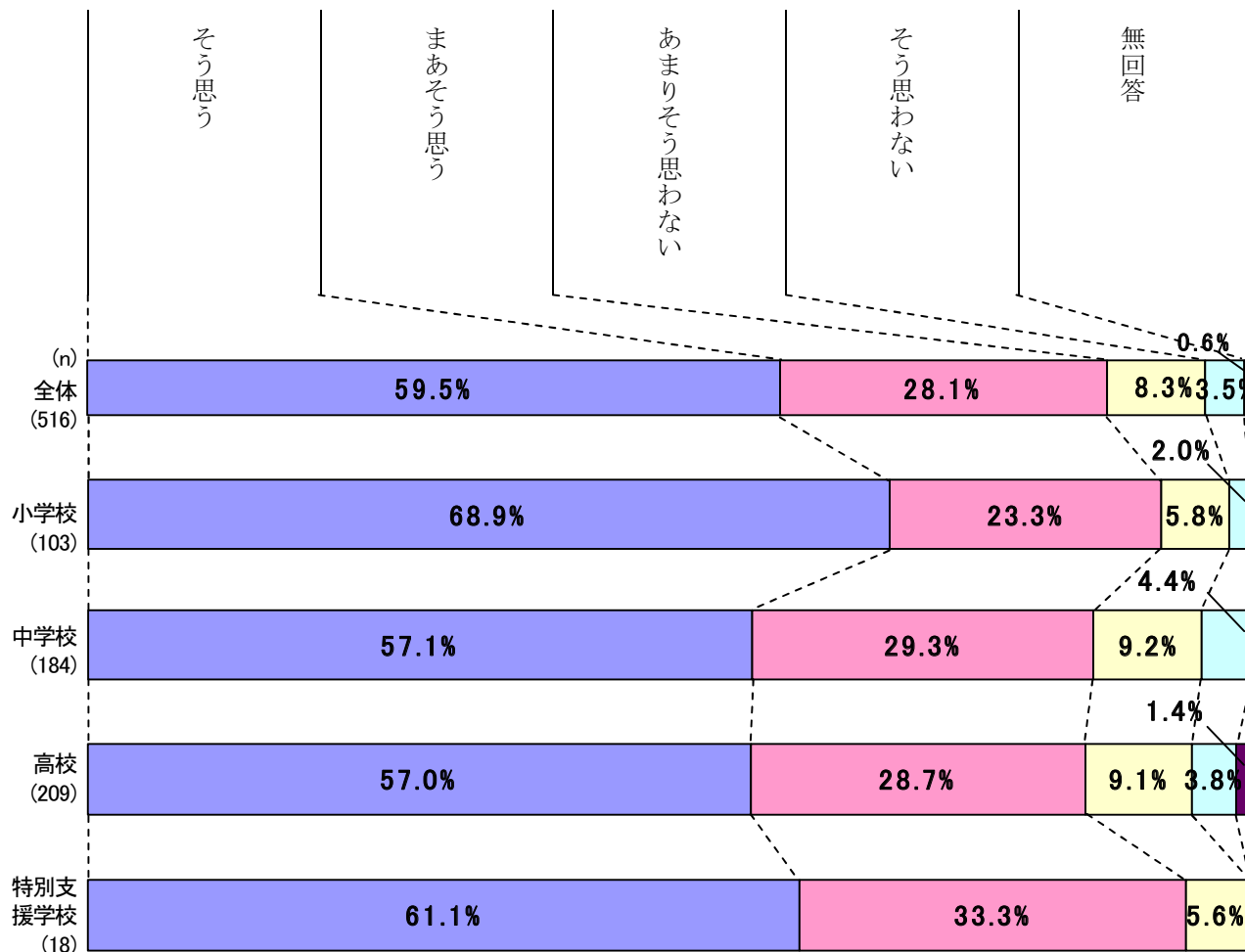


問 25 あなたは、誰かのために何かをしてあげたいと思いますか。

<〇は1つ>

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. そう思う | 3. あまりそう思わない |
| 2. まあそう思う | 4. そう思わない |

<学校の種別>クロス集計

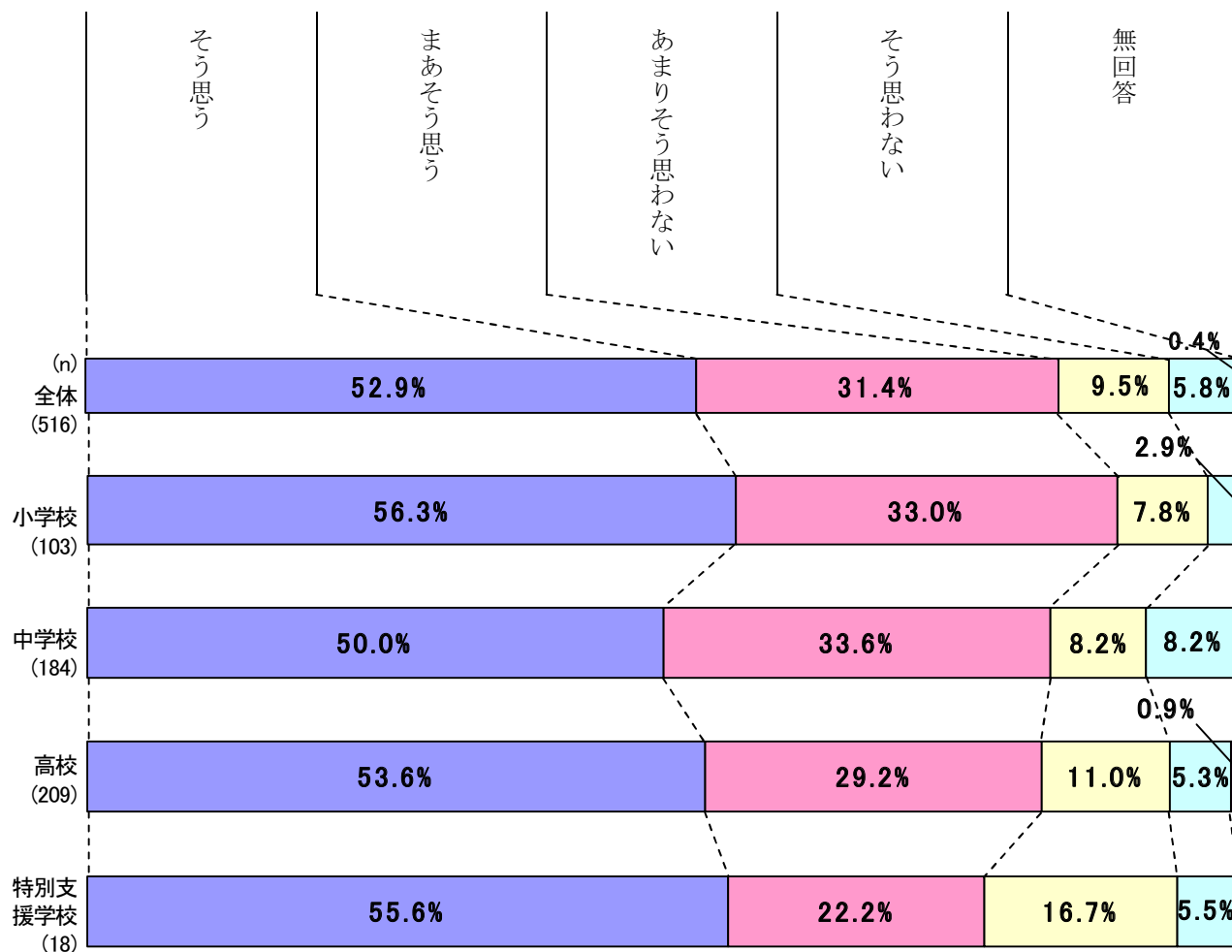


問 26 あなたは、社会に役立つことをしたいと思いますか。

<〇は1つ>

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. そう思う | 3. あまりそう思わない |
| 2. まあそう思う | 4. そう思わない |

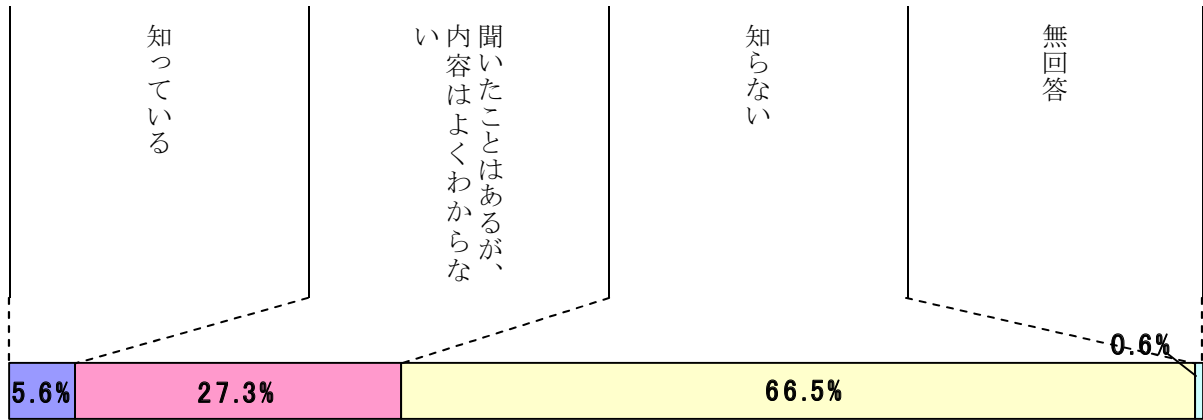
<学校の種別>クロス集計



問 27 あなたは、「子どもの権利条約」を知っていますか。

<〇は1つ>

1. 知っている ⇒ 問 28 へ
2. 聞いたことはあるが、内容はよくわからない ⇒ 問 28 へ
3. 知らない



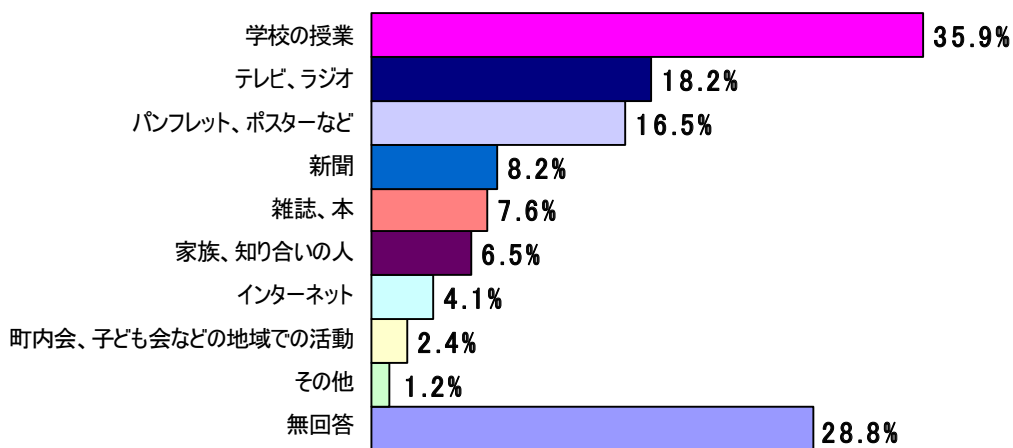
n=516

問 28 (問 27 で「知っている」「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」と回答した人へ)

あなたは、「子どもの権利条約」をどのような方法で知りましたか。

<〇はいくつでも>

1. パンフレット、ポスターなど
2. 雑誌、本
3. 学校の授業
4. 町内会、子ども会などの地域での活動
5. 家族、知り合いの人
6. 新聞
7. テレビ、ラジオ
8. インターネット
9. その他



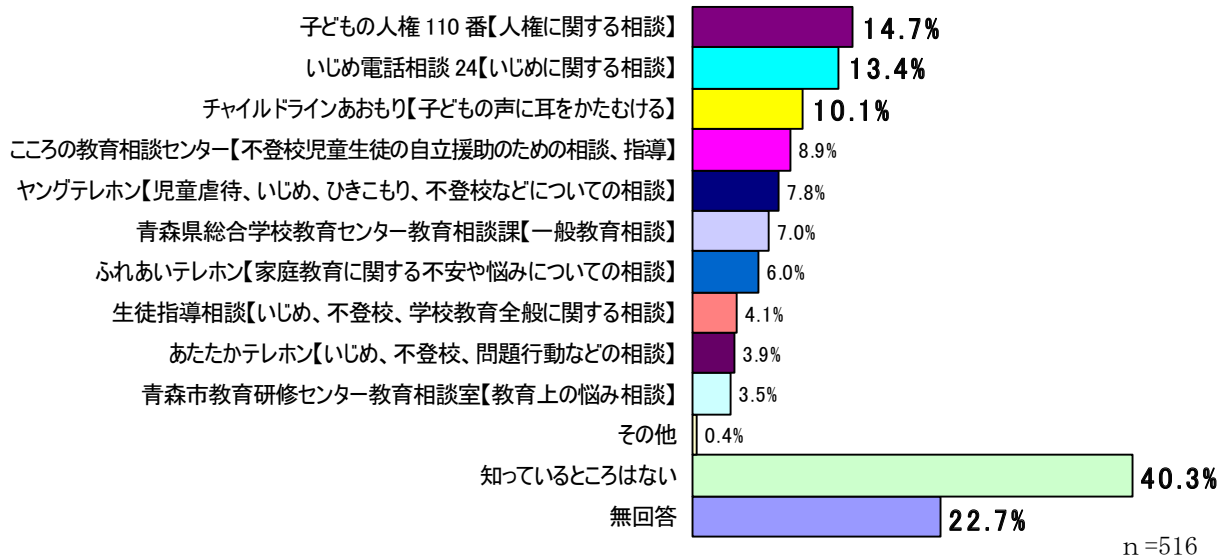
n=170

※その他

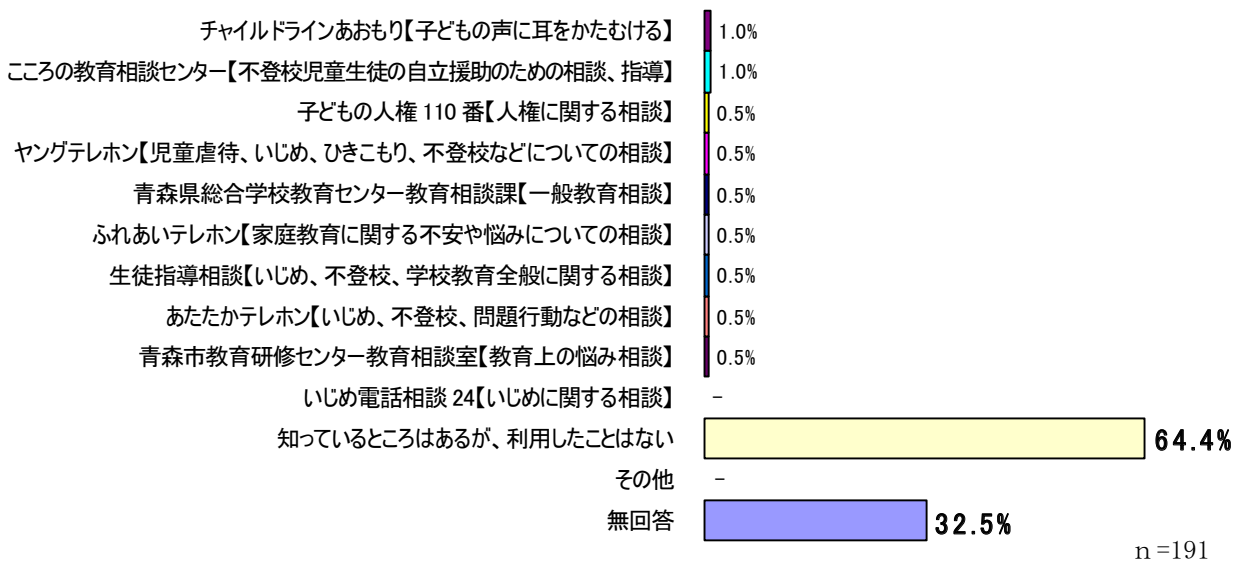
このアンケートを渡されたとき。
中学のときに学校代表としてイベントに行った。

問 29 青森市には、子どもが悩んだり、こまったりしたとき、電話やメールなどで話を聞いてくれる相談窓口があります。この中で、あなたが知っているところはどれですか。実際に利用したことがあるところはどれですか。
 <あてはまるところに○をつけてください。(○はいくつでも) >

○知っているところ



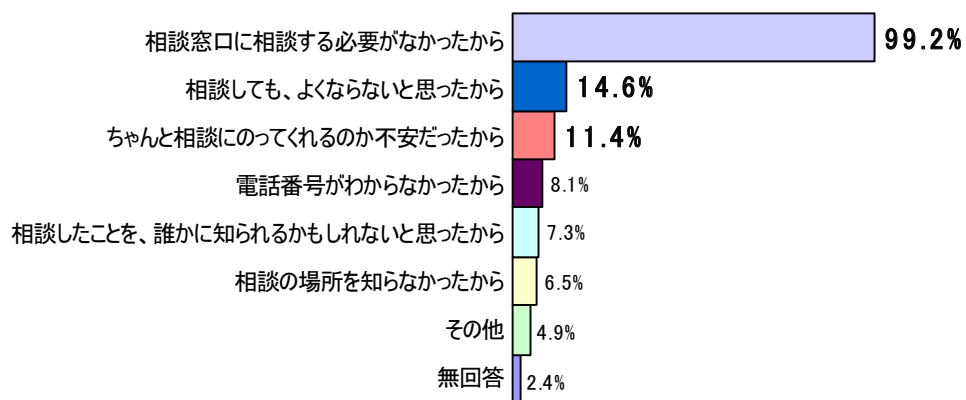
○利用状況



問 30 (問 29 で「知っているところはあるが、利用したことはない」と回答した人へ)
 あなたが利用しなかった理由は何ですか。

<〇はいくつでも>

1. 電話番号がわからなかったから
2. 相談の場所を知らなかったから
3. ちゃんと相談にのってくれるのか不安だったから
4. 相談したことを、誰かに知られるかもしれないと思ったから
5. 相談しても、よくならないと思ったから
6. 相談窓口で相談する必要がなかったから
7. その他



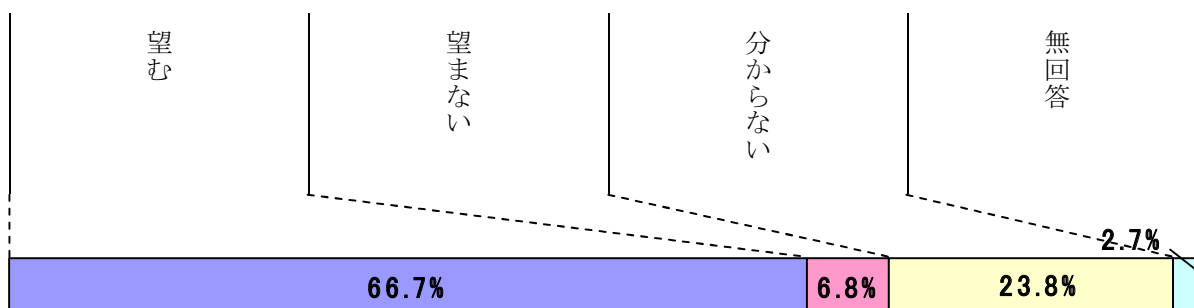
※その他

- 言いにくい。どんな人が聞いてくれるのか。
- 恥ずかしいから。
- 親が聞いてくれたから。
- 不安などを抱えていなかったから。

問 31 あなたは、相談窓口を利用しようとするとき、どんな話でも聞いて真剣に受け止めてくれることを望みますか。

<〇は1つ>

1. 望む 2. 望まない 3. わからない

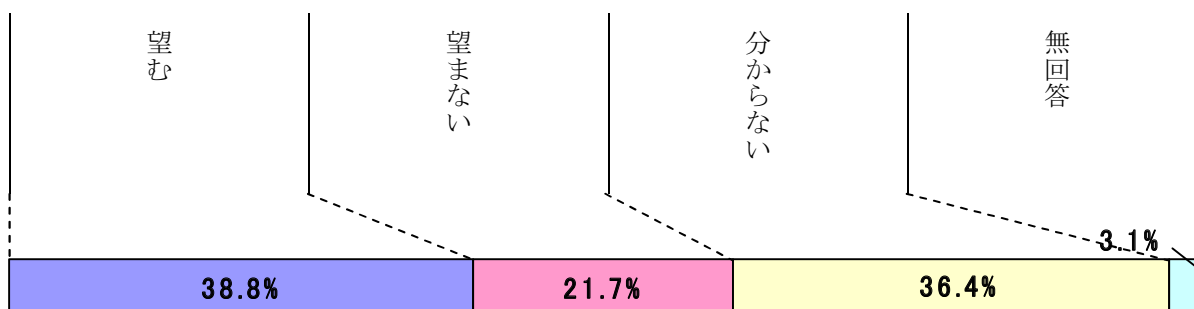


n=516

問 32 あなたは、相談窓口を利用しようとするとき、自分と年齢の近い話し相手がいることを望みますか。

<〇は1つ>

1. 望む 2. 望まない 3. わからない

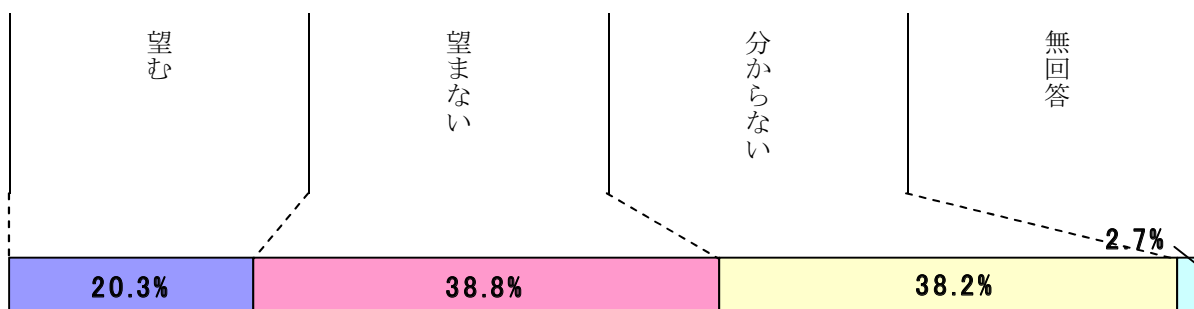


n=516

問 33 あなたは、相談窓口を利用しようとするとき、自分の気持ちや意見を代わりに伝えてくれることを望みますか。

<〇は1つ>

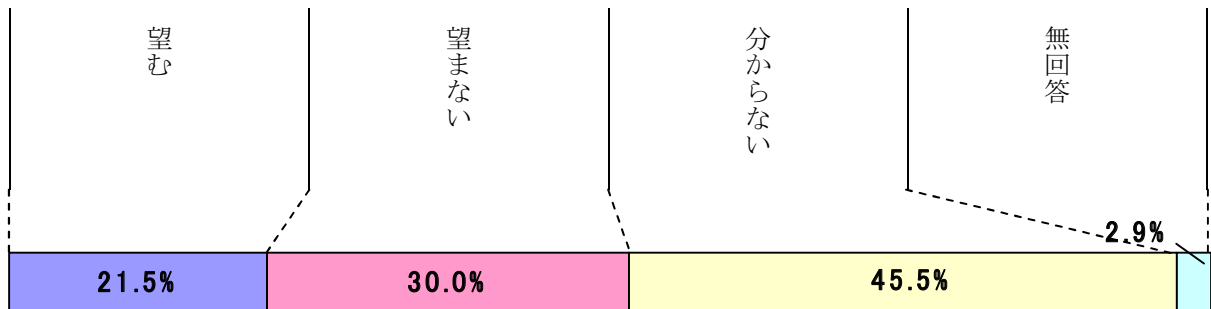
1. 望む 2. 望まない 3. わからない



n=516

問 34 あなたは、こまったとき、相談窓口に逃げることができることを望みますか。
 <〇は1つ>

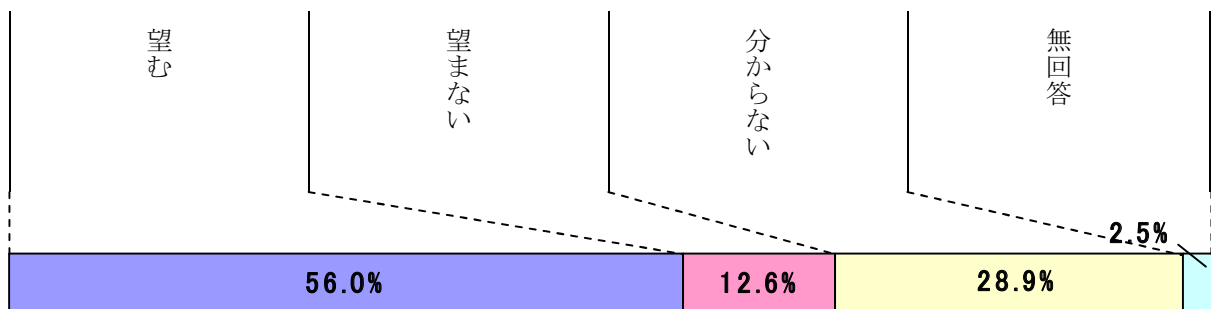
1. 望む 2. 望まない 3. わからない



n = 516

問 35 あなたは、相談窓口を利用しようとするとき、解決方法を教えてくれることを望みますか。
 <〇は1つ>

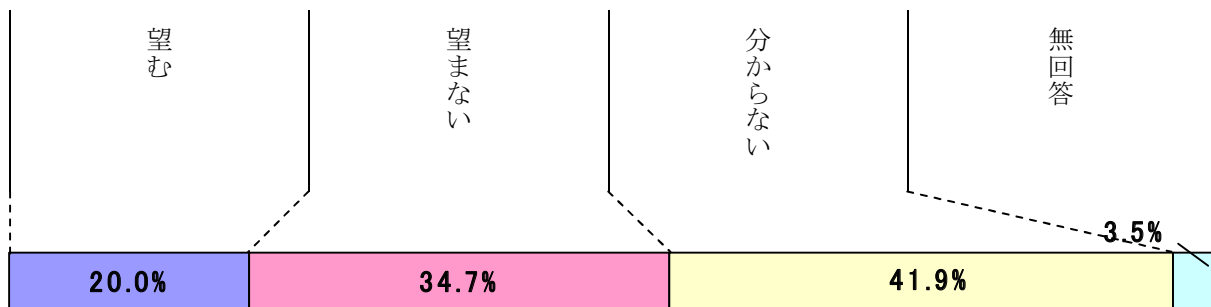
1. 望む 2. 望まない 3. わからない



n = 516

問 36 あなたは、相談窓口の人に、問題解決のため、関係する人たちの間に入って調整してくれることを望みますか。
 <〇は1つ>

1. 望む 2. 望まない 3. わからない



n = 516

問 37 さいごに、あなたが思う「こうだったら子どもの生活がより良くなるだろう」というアイデアがあったら記入してください。

親・大人に関する意見	50 件
学校・先生に関する意見	42 件
子ども自身に関する意見	29 件
いじめに関する意見	22 件
生活環境に関する意見	22 件
悩み相談に関する意見	12 件
地域・交流に関する意見	8 件
子育て支援に関する意見	7 件
その他の意見	11 件
計	203 件

親・大人に関する意見

No.	意見内容	意見者
1	時には「やさしく」、時には「きびしく」。	小学生
2	大人が子どもの言うことをまず最初に全部聞いて、理解してから大人が怒ればいい。一方的に怒らないでほしい。意見を押し付けないでほしい。	小学生
3	恐怖にすることはやめてほしい。	小学生
4	母親が怒らないで話を聞いてくれる。	小学生
5	友だちのように話してくれるとうれしい。	小学生
6	親がもう少し優しくしてくれたらいいと思う。	小学生
7	いじめや虐待をしなくなれば、されている人も笑顔になって、子どもの生活がよくなると思う。	小学生
8	親が暴力などをふらなければいいと思った。	小学生
9	親に虐待されている子などは、親がもっとしっかりとしたらいいと思う。	小学生
10	やっぱり親や祖母、友だちなどが優しく、自分のことを大切にするような人になることだと思います。	小学生
11	家の中がちらかったりしないようにする。だめなときは怒って、良いことをしたときはしっかりほめてあげる。	小学生
12	叱ってるように聞こえることがあります。なので優しく、悪いことをしたらきちんと叱るというふうにやるといいと思います。	小学生
13	話を普通に聞いてくれたらいいと思う。	小学生
14	怒るときは怒って、優しくしてほしいと思います。	小学生
15	子どもの間で問題があるかどうか、ちゃんと見ていたらいいと思う。親が子どもにかまってくれたらいいと思う。	中学生
16	何もしないでただ見守ってほしい。	中学生
17	親や友だちと仲良くすごせる。	中学生
18	最低で邪魔で汚い大人が消えればいい。人のことも理解しようともせず上辺だけで気にかけてるふりなんてする奴がこの世から消える。早く開放してよ。もう疲れた。	中学生
19	大人たちはみんな「お前のためだ」とか言っているけど、結局、自分を守りたいだけ。ほっといてほしい。不良はほっとくとそのうち静かになるんだからかまわなければいいと思う。やりたいようにやらせれば、回りのまじめな人にも被害がいかないと思います。	中学生

No.	意見内容	意見者
20	親とか周りの大人が「最低でも～高校には入って」みたいなことをあまり言わないでほしい。	中学生
21	何事にもあまり怒らないようにする。	中学生
22	悪いことはしっかり怒り、いいことはほめる。	中学生
23	怒る親をなくせばいい。親が優しくなればいいと思う。	中学生
24	ぼくたち子どもの話をよく聞くこと。あまり子どもには関わらないで見守ってほしい。	中学生
25	親が子どもの話をちゃんときいてあげること。	中学生
26	子どもの意見をきくこと。	中学生
27	大人が思っているほど、子どもは何もできないわけじゃないから、もっと子どもを1人の人間として認めてもいいと思う。	中学生
28	常識的な知識を教える。	中学生
29	優しくしてほしい。	中学生
30	何でもかんでも「大人だから」ということはやめたほうがいいのかと思う。	中学生
31	児童虐待をなくし、さらに、いじめなどを確実になくしていったほうが安心して生活できると思う。	中学生
32	子ども扱いをせず、甘く見ないでほしい。もっと子どもが自由に生きれて、正しい道を歩むべきとは限らないけど、いくつもの失敗をして大人になって後悔しないような人生にしてほしいと思う。結局、大人が1番子どもっぽい。子どもにあって大人にないものもある。そのところに気付いてほしい。	中学生
33	親や子どもがきちんと話し合えるような家族関係。	中学生
34	大人意見が全て正しいと思う大人が1人でも少なくなれば、子どもたちものびのび生活できると思う。正しいことは正しい、違うことは違うと言える大人が増えて欲しい。	高校生
35	親に対する、子どもの気持ちを知ってもらったり、子どもとの接し方を知ることのできる研修会のようなものを「絶対参加」でやるべきだと思う。	高校生
36	親がちゃんとしていけばいい。	高校生
37	大人がちゃんと見守ってくれること。	高校生
38	とりあえず、あまり騒ぎすぎずに周囲の安全を守ってもらえれば、それだけで生活は良くなると思います。切実に。	高校生
39	高校生になっても親が1回1回口出ししてくるのがウザイから口出ししなきゃ子どもが良くなる。	高校生
40	不良にならせないようにする。	高校生
41	決まりごとを減らし、子どもの意見を取り入れることをもっとすればいいと思う。	高校生
42	周りにいい大人がいない。本当にいやになる。もっと支えてくれる人がいればいいと思う。	高校生
43	大人は子どもから目をそむけないことだ。	高校生
44	大人が子育てや教育をしっかりすること。	高校生
45	子どもと親が真剣に話し合う。	高校生
46	子どもの意見もちゃんと聞く。	高校生
47	大人はもっと子どもの気持ちを考えてほうがいい。	高校生
48	大人が子どもの生活に干渉しすぎないこと。1人の人として扱うこと。自分ばかり正しいと思わないでほしい。	高校生
49	親にもっとしっかりしてほしい。	高校生
50	大人が一方的におしつけるだけのものに自分の考えを言う必要はないと思う。	特別支援学校児童生徒

学校・先生に関する意見

No.	意見内容	意見者
1	学校は毎日行くのはつらいから、3日に1度。行っても5時間は勉強する。	小学生
2	叩いたりせずに悪いところを注意する。	小学生
3	塾がある人には宿題を出さない。	小学生
4	ダルい集会とかがなくなるといい。登校時間を遅くすればいい。	中学生
5	先生の言葉遣い。	中学生
6	問題のもととなる不良生徒は別にすべきだと思う。	中学生
7	校則が厳しすぎると思う	中学生
8	40分授業。テストの問題を教える。勉強できない人には、ちゃんと教える。(分かりやすく)	中学生
9	決まりごとをなくす。	中学生
10	学校で30分くらいの自由時間があったらいい。	中学生
11	休みの日を増やすか、1日の授業時間を減らすか、テストの回数を減らして欲しい。	中学生
12	差別とかひいきとかしない先生しかいなくなればいい。	中学生
13	荒れる生徒とか不良が出てくるのは、先生たちが自由にやらせてくれないからだと思います。自分の人生なんだから何しようが関係ないし、何か言われると逆に荒れるだけだと思う。	中学生
14	勉強に集中したい人が集まるクラス。	中学生
15	担任を選べる学校。	中学生
16	部活は入りたい人が入って入りたくない人は入らなくていいと思う。	中学生
17	担任を選べる学校。	中学生
18	担任がえこひいきすることがない。担任を選べる学校。部活に入らなくてもいい学校。	中学生
19	学校を自由登校にして、勉強はしたいやつだけして、したくない人はしなくていいと思う。	中学生
20	親や先生がちゃんと子どもの気持ちを知り、子どもたちが楽しく暮らしていけるようになればいいと思います。	中学生
21	子どもの意見を最後まで聞く。学校の校則ばかり押し付けないでほしい。押し付けるんだったら、自分たちも生徒と同じ校則をできるだけ守ってほしい。	中学生
22	話を真剣に受け止めてくれる学校の先生がいたらいいと思う。	中学生
23	学校だったら担任が自分のどこがだめなのかきちんと見る。	中学生
24	子どもの言うことをちゃんと受け止めてくれる。生徒が困っている先生を変える。	中学生
25	先生を自分たちの意志でかえることができる。	中学生
26	どの先生でも生徒に平等に接すること。	中学生
27	1人が独立していたら同学年、また、同じクラスメイトなんだから優しく接してあげる。	中学生
28	子どものことを真剣に考えてくれる先生や親が増えれば良くなると思う。	高校生
29	先生方がクラスでのよい雰囲気を作っていくこと。	高校生
30	勉強して子どものころから教養をつけさせる。	高校生
31	学校の先生にもっとしっかりしてほしい。学校の先生でたまに自分のことしか考えていない先生がいる。	高校生
32	差別なし！男子がいちいちうるさい。関係もないのにキモイとか言うな！	高校生
33	先生が生徒をさんづけする。差別しない。たたかない。大きい声でどなりつけない。	高校生

No.	意見内容	意見者
34	男子がいちいちキモイ。顔がキモイくせに人に言わない。まじそういうのはやめたほうがいいと思う。	高校生
35	先生たちが人によって態度を変えたり注意をしないのはおかしいと思う。ひいきすぎるからやめてほしい。	高校生
36	クラスの男子もうるさいから黙らしてほしい。	高校生
37	自由があったらいいと思う。学校が寒い。そして女子はズボン。	高校生
38	先生たちの差別をなくしてほしい。	高校生
39	男子がいちいちうるさい。	高校生
40	頭いい、悪いをなくして、ちゃんとみんなを見てほしい。あと、同じ頭悪い人なのに、なついている子だけかわいがるのはおかしい。ひいきなくなったほうがいい。	高校生
41	怒らないで勉強を教えてください。常に怒らないでほしいです。	特別支援学校児童生徒
42	普通学校と違い、ほぼ1人1学級の特別支援学校は、先生と生徒の距離が短く、自分自身のことをしっかりみてくれるので、生徒も先生を信頼することができるが、普通学校にいる友だちが「普通高の担任は別に自分の生徒1人1人のことはしっかり分かっていないと思う。」と言っていて、確かに30~40人生徒の相手をするのは大変だと思うが、生徒、子どものことを第一に考えるならば、そういうことも必要なのでは？と考える。	特別支援学校児童生徒

子ども自身に関する意見

No.	意見内容	意見者
1	その人の気持ちになってくれること。	小学生
2	自分勝手にしないで、きちんと仲良くするとより良くなると思います。	小学生
3	自分のことを自分で決められる。	小学生
4	早寝早起きをして、ゲームは1時間くらいにするといい。	小学生
5	みんなが仲良く楽しくやって、助け合いながら頑張っていくとよくなると思う。	小学生
6	だめなことと良いことのけじめをつけさせる。	小学生
7	自分に自信を持つこと。	中学生
8	もっとその人と話したり遊んだりしてあげる。	中学生
9	自分次第だと思う。	中学生
10	1人1人が相手を想い、互いに悪いことは悪いと言える人になる。	中学生
11	今までの考えで子どもは充実した生活を送ることができる。	中学生
12	親から友だち、先輩、後輩など大切にする。今の環境をありがたく思うこと。	中学生
13	子どもはそれぞれが対等になる必要がある。	中学生
14	元気に生きる。	中学生
15	みんな仲良くする。	中学生
16	友だちや先輩に気を使わなくてもいい生活になったらもっとよくなると思う。	中学生
17	団体行動をもっと増やして、みんな仲良くしていけばいいと思う。	中学生
18	楽しみを増やしていつでも前向きに生きていけるようにする。	中学生
19	注意し合える。	中学生
20	親や友だちと仲良くすごせる。	中学生
22	自分の意見をしっかり言って、相手のこともしっかり考える。	中学生
21	遊ぶときは遊んだりできる時間。	中学生
23	思いやりがある。	高校生
24	周りをもっといろんな人に気を配ることができて、イヤなことがあっても、それを広い心で許し、良い友だち関係を作っていけばいいと思う。	高校生
25	子どもの意見第一。	高校生
26	自由であること。	高校生
27	のんびり生きる。	高校生
28	徳のある人間が増えれば良い。	高校生
29	子どもも精神ケアなどがもっと親しみ深いものになればいいのではないだろうか。(誰もが1度は受けてみるなど)	特別支援学校児童生徒

いじめに関する意見

No.	意見内容	意見者
1	いじめがなくなって、無視もしたりしないと子どもの生活がよくなる。	小学生
2	いじめや虐待をしなくなれば、されている人も笑顔になって、子どもの生活がよくなると思う。	小学生
3	私はいじめのない生活だったら、より良くなると思います。	小学生
4	いじめなどがなく、先生も見て見ぬふりをしないできちんと止めればいいと思う。	小学生
5	いじめがすぐ見つかる。	小学生
6	いじめなど、人を傷つけたりするのが少ないと、悲しむ人も少なくなると思う。	中学生
7	児童虐待をなくし、さらに、いじめなどを確実になくしていったほうが安心して生活できると思う。	中学生
8	いじめなし制度とかつくればいいと思う。	中学生
9	いじめがない生活。	中学生
10	いじめがない。差別がない。仲間はずれしない。大人がしっかりする。	中学生
11	いじめのない生活があれば、より良くなると思います。	中学生
12	いじめをなくすために、生徒同士がお互いにしっかり向き合って話す時間を与えて、より絆を深め合えるようにしたら、意見が合うかもしれないから仲良くなれると思う。	中学生
13	いじめがなく、安心して暮らすことができること。	中学生
14	いじめがなくなる。	中学生
15	いじめ問題。	中学生
16	先生が生徒にもう少し関心を持って、イジメなどを発見できるようにしてほしい。	高校生
17	学校だったらどこでもないけど、いじめにあって困っている人はまだいっぱいいると思う。見て見ぬふりが多い。もっと気にしたほうがいい。	高校生
18	今は小学生低学年でもいじめが起こっています。そのことを先生、大人たちが知ろうとしていない。もっと子どもの目線から考えてほしい。今はすごく陰湿ないじめなので、クラスのメンバーももしかしたら気付いていないようないじめもある。	高校生
19	いじめ防止をもっとしたほうがいい。いじめをした人への罰を大きくするか。	高校生
20	小学校、中学校でのいじめの問題が増加しているため、学校内でカウンセラーの先生のところへ相談しやすい環境を作るようにすればいいと思う。	高校生
21	いじめがない。	高校生
22	いじめなくなれ。	高校生

生活環境に関する意見

No.	意見内容	意見者
1	子どもが安全に遊べる広い公園があればいい。	小学生
2	子どもが安全に遊べる施設があつたらいいと思う。	小学生
3	遊園地を作ってほしい。	小学生
4	子どもだけで安全に行ける場所を作ってほしい。	小学生
5	悪いことをしないように防犯カメラを多く設置すればいいと思う。青森市がもっと有名になるように店をたくさん作ってほしい。不審者や悪いことをする人がいなくなってほしい。	小学生
6	今の自然が子どもたちに残るようにしたい。	小学生
7	公園などの遊ぶところが増えたらよくなると思う。	小学生
8	今は雪が積もっていて山ができて曲がり角では車がきているかどうか分からないから、そういうのを直してほしい。	小学生
9	もっと遊べるところが増えたらうれしい。バスケットゴールがついてる公園があつたらいい。	中学生
10	小学生は学区外禁止なので、バスの利用カードはあまり意味がないと思う。なので、中学生も無料カードを配付してほしい。	中学生
11	総合体育館が増えて、釣りができるところが増える。	中学生
12	広い空き地などをつくり、もっと外で遊べるようにすること。	中学生
13	子どもが楽しくすごせるようにする。	中学生
14	道路整備。	中学生
15	ちゃんと除雪をしてほしい。	高校生
16	もっと排雪やってほしい。	高校生
17	通学路を整備して、変質者などがいなくなるようにしてほしいです。	高校生
18	過ごしやすい環境をつくる。	高校生
19	図書館などの公共施設をもっと増やす。バスなどの公共機関を増やす。	高校生
20	生活環境をよくする。	高校生
21	自然がいっぱいでゲームより外で遊ぶほうが楽しいと思える環境。	特別支援学校児童生徒
22	町やゲームセンター、カラオケなど、不良の溜まり場を安全なものとしてくれたら、もっと小さな子どもも安心できるのではないだろうか。	特別支援学校児童生徒

悩み相談に関する意見

No.	意見内容	意見者
1	もっと電話番号（相談窓口）をもっと簡単にする。（111 など）	小学生
2	相談窓口はあるといいと思います。	小学生
3	無理に抱え込まないように本当に相談できる人に相談できる。	小学生
4	相談や困っていることがあったら、すぐに助けが求められるような環境をつくったり、お互いに助け合っていけるようにする。	中学生
5	人には言えない悩みなど気軽に相談できて、解決してくれたら良くなるかなと思います。	中学生
6	相談窓口では、ただ「うんうん」と聞いてくれるだけでいいときもあると思う。また、自分と年齢の近い話し相手がいると、分かってくれることが少しでも多いと思う。ほか、解決方法を教えても100%は解決しないし、問題解決のため関係する人たちの間に入って調整することは無理だ。	中学生
7	相談窓口は電話しかないから、言葉で伝えられない人もいると思うから、手紙とかでも受ければもっとよくなると思う。	中学生
8	年に1度でも自分の悩みを素直に打ち明けられる機会を設けてほしい。	高校生
9	進学・進路に悩む人が気楽に相談できる施設をつくる。	高校生
10	頻繁に相談教室などを開き、相談しやすい環境を作るべきだと思う。	高校生
11	何かつらいことがあったとき、頼れる人がいなかったら、相談窓口のようなものは必要かもしれないが、問題の解決策を教えるだけでは、子どもの生活はより良くなると思う。問題の解決方法を子ども自らに考えさせ、自分にも非があったらと謙虚に考えさせるようにすれば、子どもは一步、精神的に大人になれると思うので、本人が子どもを良い方向に導くような相談の受けこたえをすれば良いと思う。	高校生
12	家に親以外の悩みを聞いてくれる人がいたらいい。	特別支援学校児童生徒

地域・交流に関する意見

No.	意見内容	意見者
1	もっとふれあう。	中学生
2	いろいろの人とふれ合うこと。	中学生
3	近所での交流を深める。	高校生
4	地域ぐるみの付き合い。大人が子どもをきちんと見ていることを伝える。近所どうしであいさつとか何か活動する。	高校生
5	近所どうしで1度は子ども会のようなものを開く。	高校生
6	市内の子どもどうしで交流できる機会を増やすようなイベントを行う。	高校生
7	いろんな人と交流する機会があればいいと思う。	高校生
8	積極的に交友の輪を広げる。	高校生

子育て支援に関する意見

No.	意見内容	意見者
1	子ども手当を増やして欲しい。	小学生
2	子ども手当を増やす。	小学生
3	子ども手当を増やして欲しい。	小学生
4	子ども手当を増やして欲しい。	小学生
5	子ども手当を増やして欲しい。	小学生
6	お金のない家庭にお金をやる。	中学生
7	母子家庭の場合や片親のときは、子ども手当以外にもお金を支給してほしいです。片親はとても生活が苦しい。あと、給料高い人が多く税金をとられて、低い人は少しだけしかとらないっておかしい。とにかく片親にもっと支給金を。	中学生

その他の意見

No.	意見内容	意見者
1	ケータイを持たせる。ドラえもんがいたらいい。	小学生
2	子どもにいろんな体験をさせるため、農業や漁業、工業、商業を盛んにさせ、将来の夢を確実にさせる。	中学生
3	若い親に子を産ませない。昔やくざの人に子を産ませない。	中学生
4	母子家庭の親が出稼ぎに行かなくてもいいような月給	中学生
5	まず地球に危険がおとずれたりしなかったら。	中学生
6	しっかりした大人が存在し、次の世代に国債などを残していかないこと。	高校生
7	「ほたるの墓」を見せる	高校生
8	どうなっても良くなれないと思う。どうせ子どもだし。	高校生
9	こんなアンケート受けたくなかった	高校生
10	全国子どもアンケートとして名前を書いてやったほうがいいと思う。いま、誰がどんな被害を受けているか把握できて対策をたてられるから。	高校生
11	テレビのCMに子どものためにはよくない映像を流さない	高校生

4. 調査結果<大人>

問1 あなたの性別を教えてください。

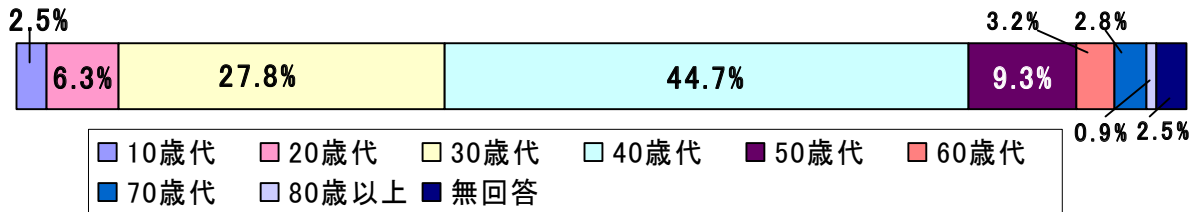
1. 男 2. 女



n=474

問2 あなたの年齢を教えてください。

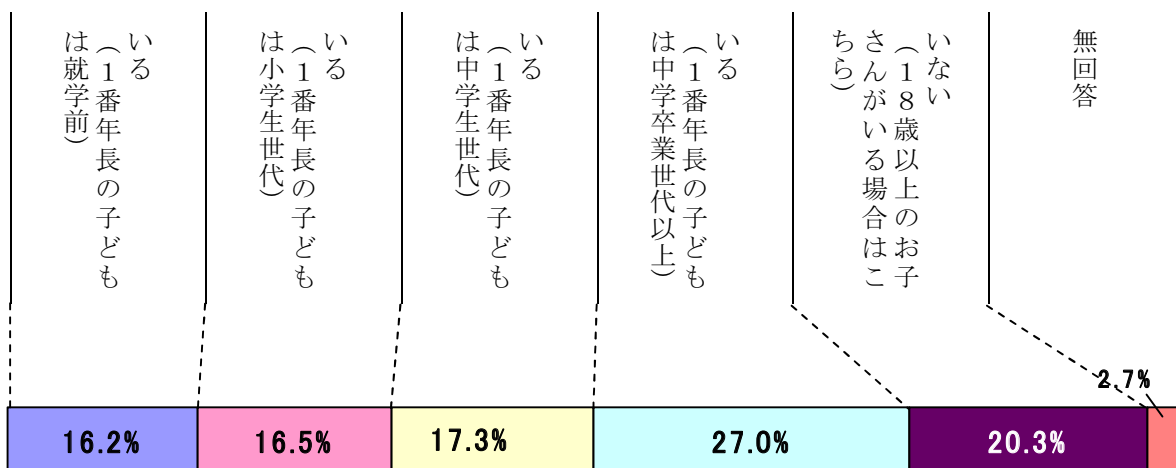
1. 10歳代 5. 50歳代
 2. 20歳代 6. 60歳代
 3. 30歳代 7. 70歳代
 4. 40歳代 8. 80歳以上



n=474

問3 あなたには、0歳から17歳までのお子さんがいますか。

1. いる (1番年長の子どもは就学前)
 2. いる (1番年長の子どもは小学生世代)
 3. いる (1番年長の子どもは中学生世代)
 4. いる (1番年長の子どもは中学卒業世代以上)
 5. いない (18歳以上のお子さんがある場合はこちら)

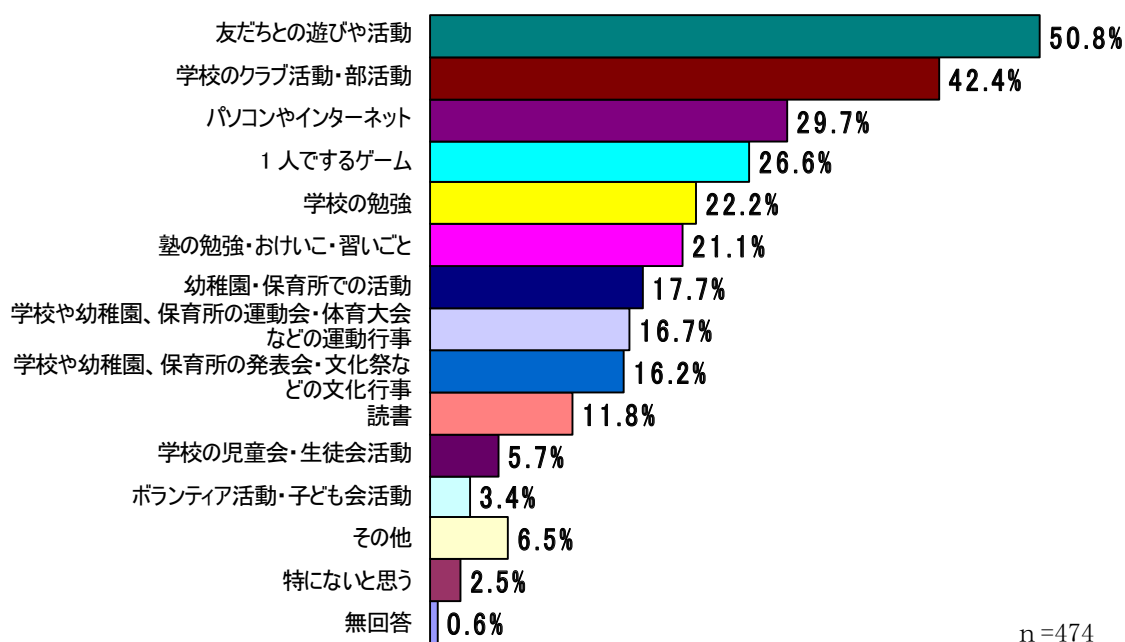


n=474

問 4 あなたから見て、子どもが、今、打ち込んでいることや、やりがいを感じていることは、
 どんなことだと思いますか。

<〇はいくつでも>

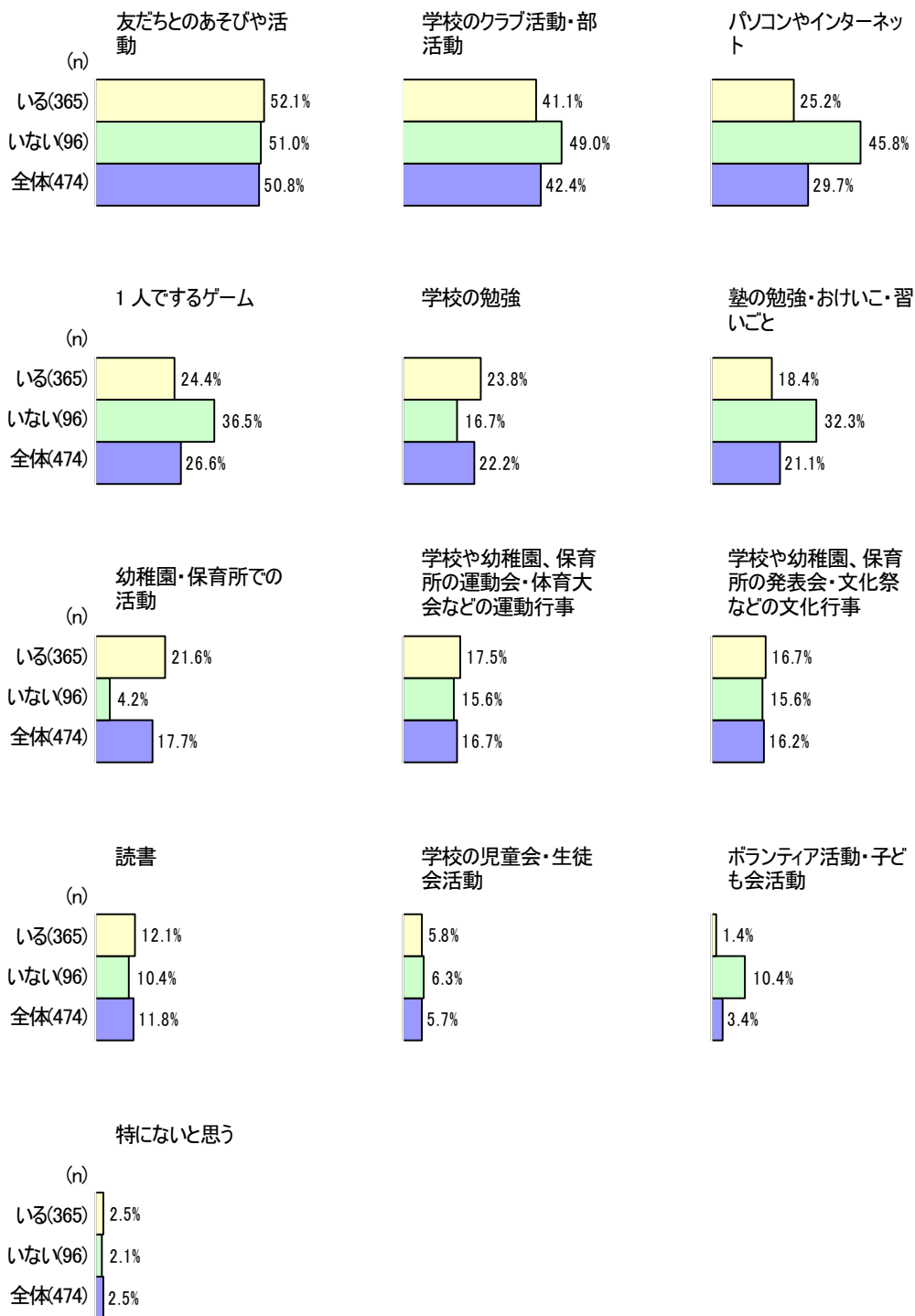
1. 学校の勉強
2. 幼稚園・保育所での活動
3. 学校のクラブ活動・部活動
4. 学校の児童会・生徒会活動
5. 学校や幼稚園、保育所の運動会・体育大会などの運動行事
6. 学校や幼稚園、保育所の発表会・文化祭などの文化行事
7. 塾の勉強・おけいこ・習いごと（水泳・ピアノ・習字・絵画・バレエなど）
8. ボランティア活動・子ども会活動
9. 読書
10. 友だちとの遊びや活動
11. パソコンやインターネット
12. 1人でするゲーム
13. 特にないと思う
14. その他



※その他

兄弟と会話しながら観るDVD、家での遊び、ブロック遊び、親と遊ぶこと、1人遊び、1人でする身の回りのこと、お料理、一般で募集されるイベントへの参加、おえかき、おままごと、妹の世話、家族でのゲーム（テレビゲーム、カードゲーム、人生ゲームなど）、おしゃれ、ごっこあそび、親が教えてる運動（スキー、テニス）、つみき等のおもちゃ遊び、本人が興味を持っていること、ねぶたばやしの練習、字を書く・読むこと、お手伝い、踊り、将棋、ラジコン、イラストを描くこと、趣味、ギター、歌、通信教育（絵、イラスト）、留学準備

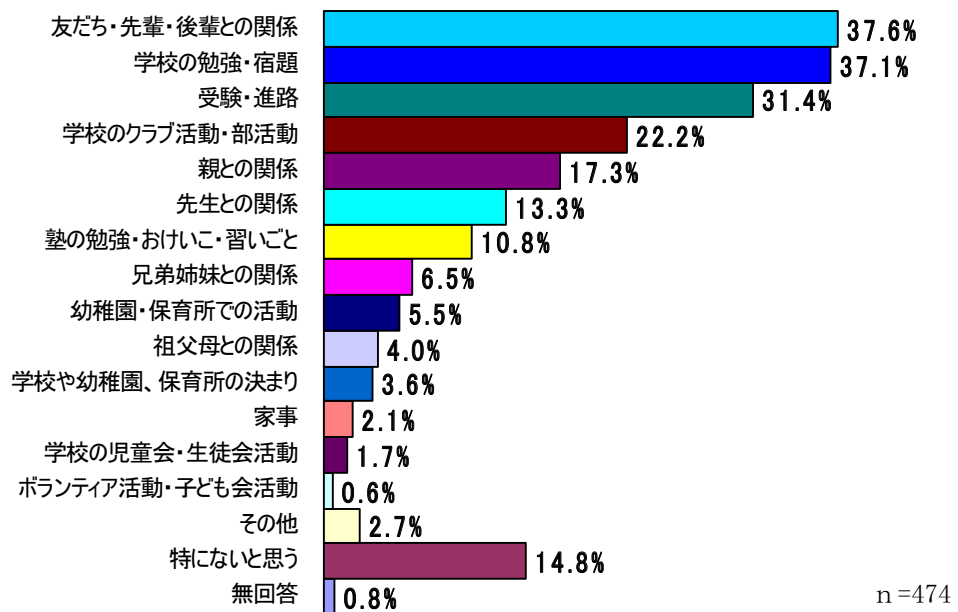
<子どもの有無別>クロス集計結果



問5 あなたから見て、子どもは、どんなことで疲れたり、不安に思ったりすることがあると思いますか。

<〇はいくつでも>

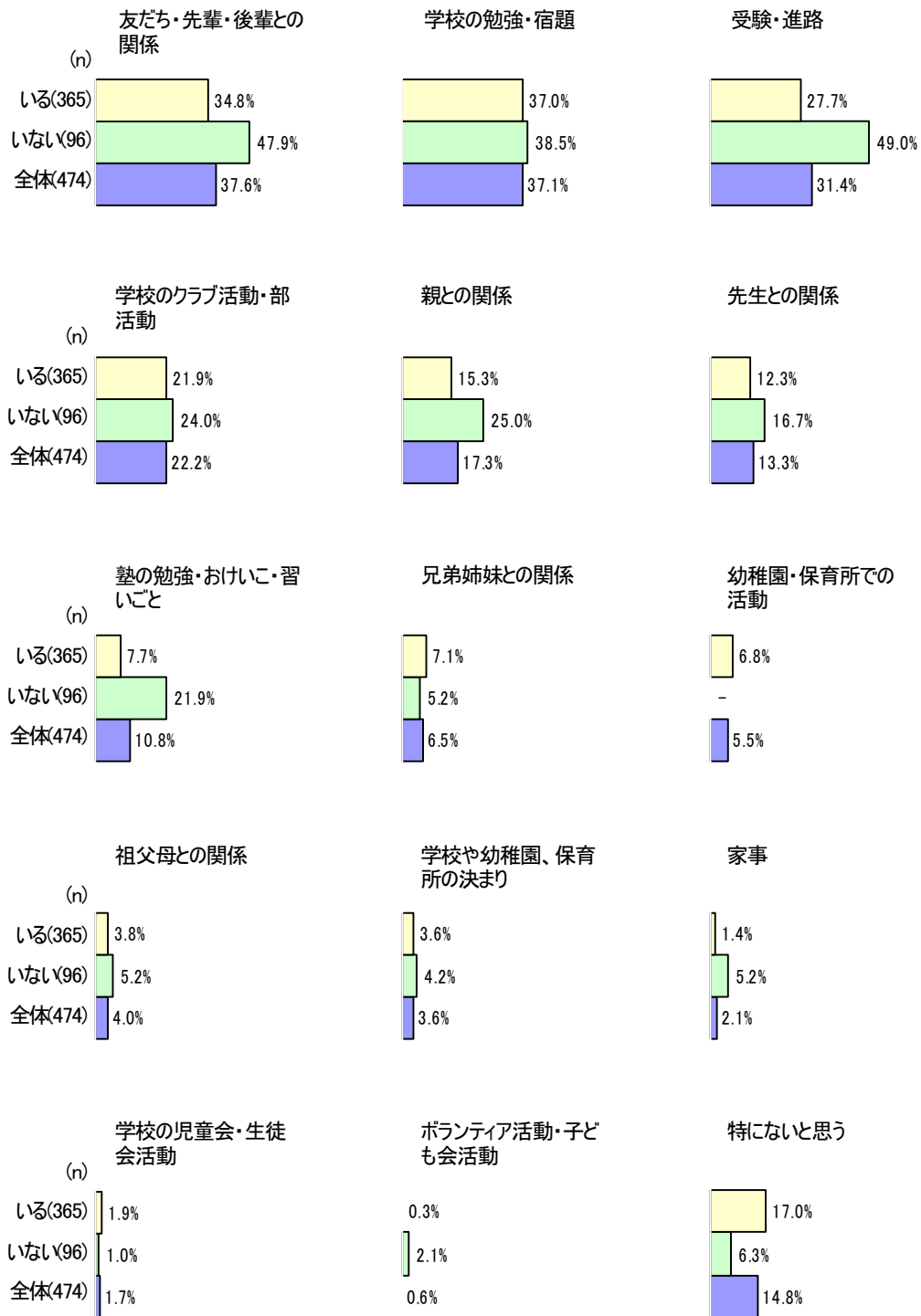
1. 親との関係	9. 学校のクラブ活動・部活動
2. 兄弟姉妹との関係	10. 児童会・生徒会活動
3. 祖父母との関係	11. 幼稚園・保育所での活動
4. 家事	12. 塾の勉強・おけいこ・習いごと
5. 先生との関係	13. ボランティア活動・子ども会活動
6. 友だち・先輩・後輩との関係	14. 受験・進路
7. 学校の勉強・宿題	15. 特にないと思う
8. 学校や幼稚園、保育所の決まり	16. その他



※その他

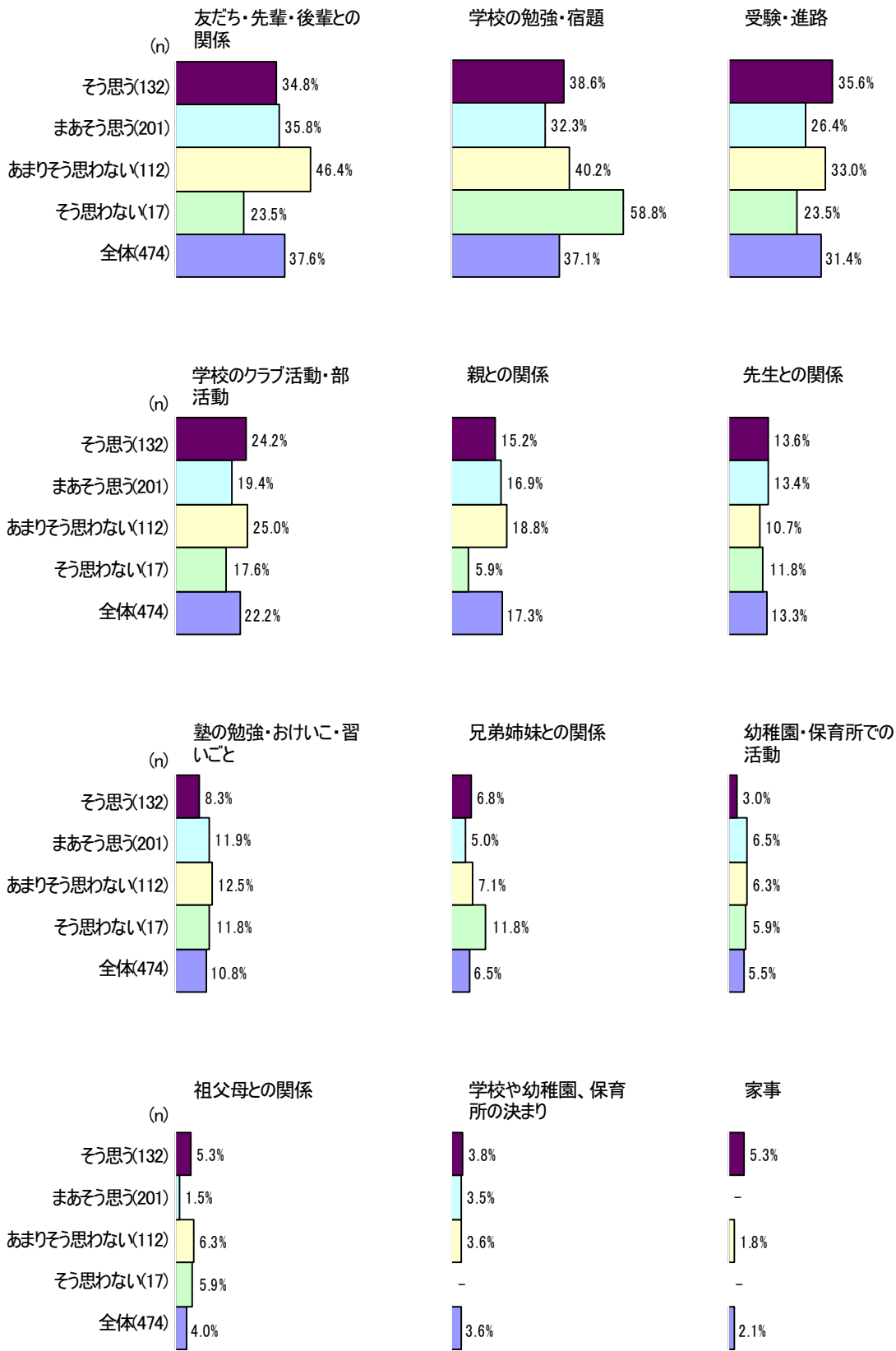
- 無視されること。
- 私欲が思うようにいかないとき。
- 家庭の経済事情。
- 地震などの災いごと。
- まだ小さいので親から離れるとき。
- 子どもを取り巻く日々のできごと。
- 祖母の妹（未婚）と同居について。
- 学校が荒れていること。
- 部活動のOBの嫌がらせ（なぐる）。
- 体型。

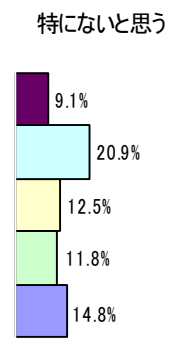
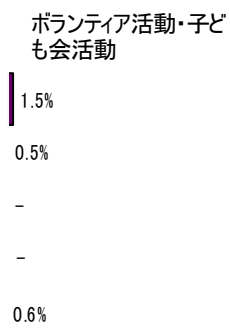
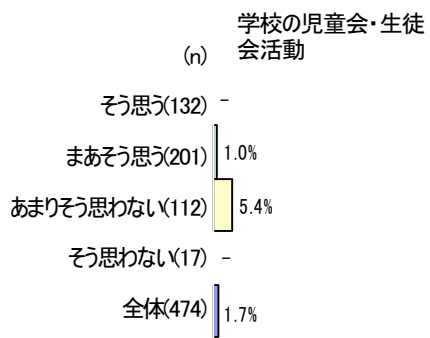
<子どもの有無別>クロス集計結果



自己肯定感別のクロス集計は、大人問21「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

<大人の自己肯定感別>クロス集計結果

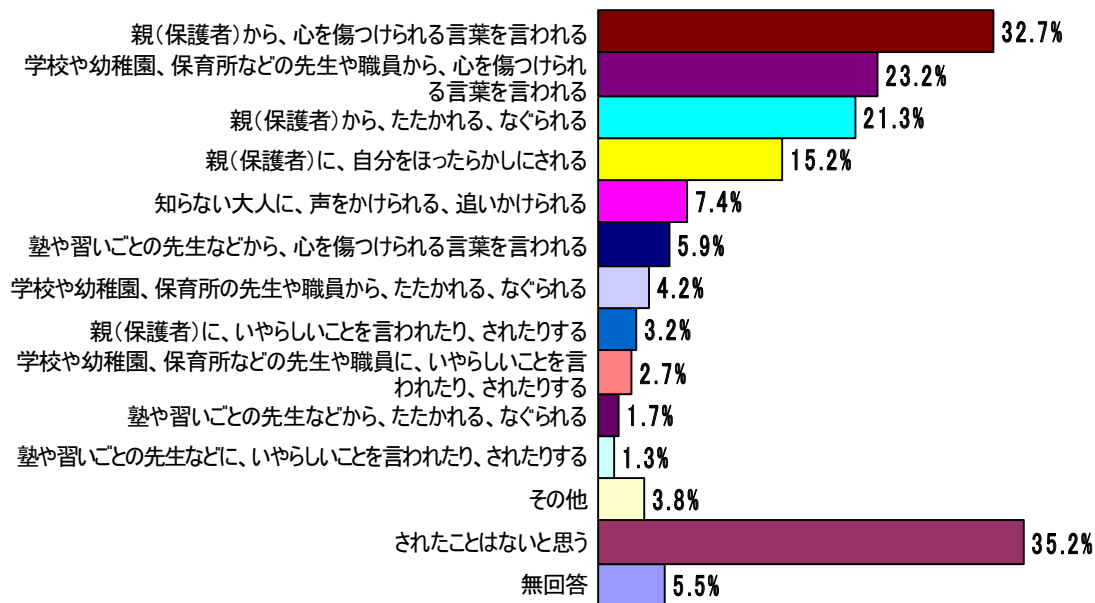




問 6 あなたから見て、子どもは、大人との関わりにおいて、次のようなことをされて、いやな思いをしたことがあると思いますか。

<〇はいくつでも>

1. 親（保護者）から、たたかれる、なぐられる
2. 親（保護者）から、心を傷つけられる言葉を言われる
3. 親（保護者）に、いやらしいことを言われたり、されたりする
4. 親（保護者）に、自分をほったらかしにされる
5. 学校や幼稚園、保育所などの先生や職員から、たたかれる、なぐられる
6. 学校や幼稚園、保育所などの先生や職員から、心を傷つけられる言葉を言われる
7. 学校や幼稚園、保育所などの先生や職員に、いやらしいことを言われたり、されたりする
8. 塾や習いごとの先生などから、たたかれる、なぐられる
9. 塾や習いごとの先生などに、心を傷つけられる言葉を言われる
10. 塾や習いごとの先生などに、いやらしいことを言われたり、されたりする
11. 知らない大人に、声をかけられる、追いかけられる
12. されたことはないと思う
13. その他



n=474

※その他

兄弟をかわいすぎる。

（親や知らない大人に）怒られる、注意される。

生活の中で、せかされたり、ちょっとしたイヤミを言われたり、ハツパをかけられたりすること。

学校の先生に否定される。（作品等）

“叱る”と“怒る”の違いを自覚しているつもりです。いずれも“しつけ”の範疇です。

友だちとのおもちゃの貸し借りなど。

親がへんな名前をつける。

他の子がいじめにあっているのに気付いたとき。

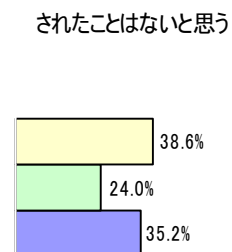
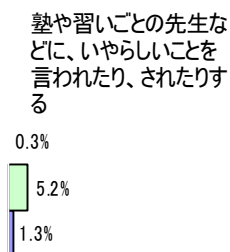
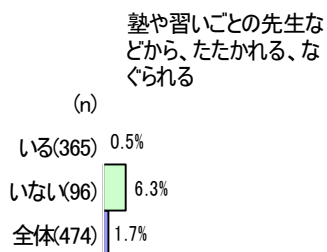
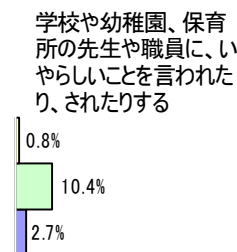
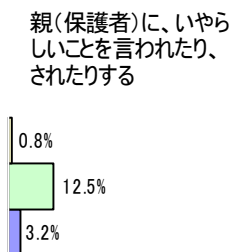
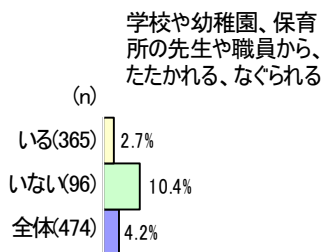
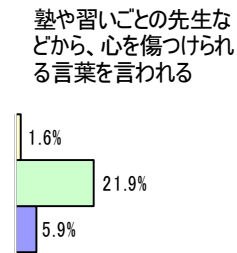
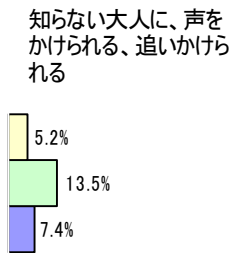
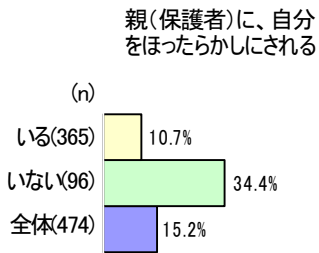
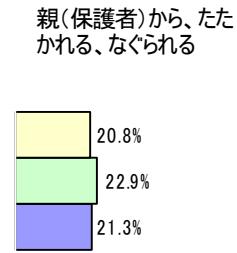
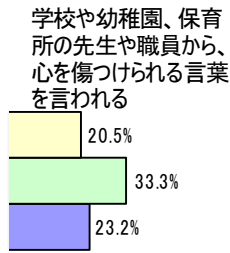
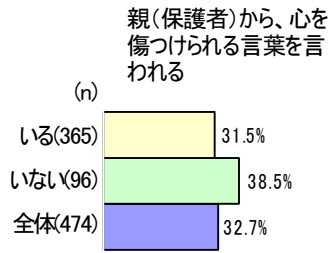
学童保育（なかよし会）の先生にいじめられた。

名前を間違われて記念品を作られた。

部活のOBが口悪すぎる。

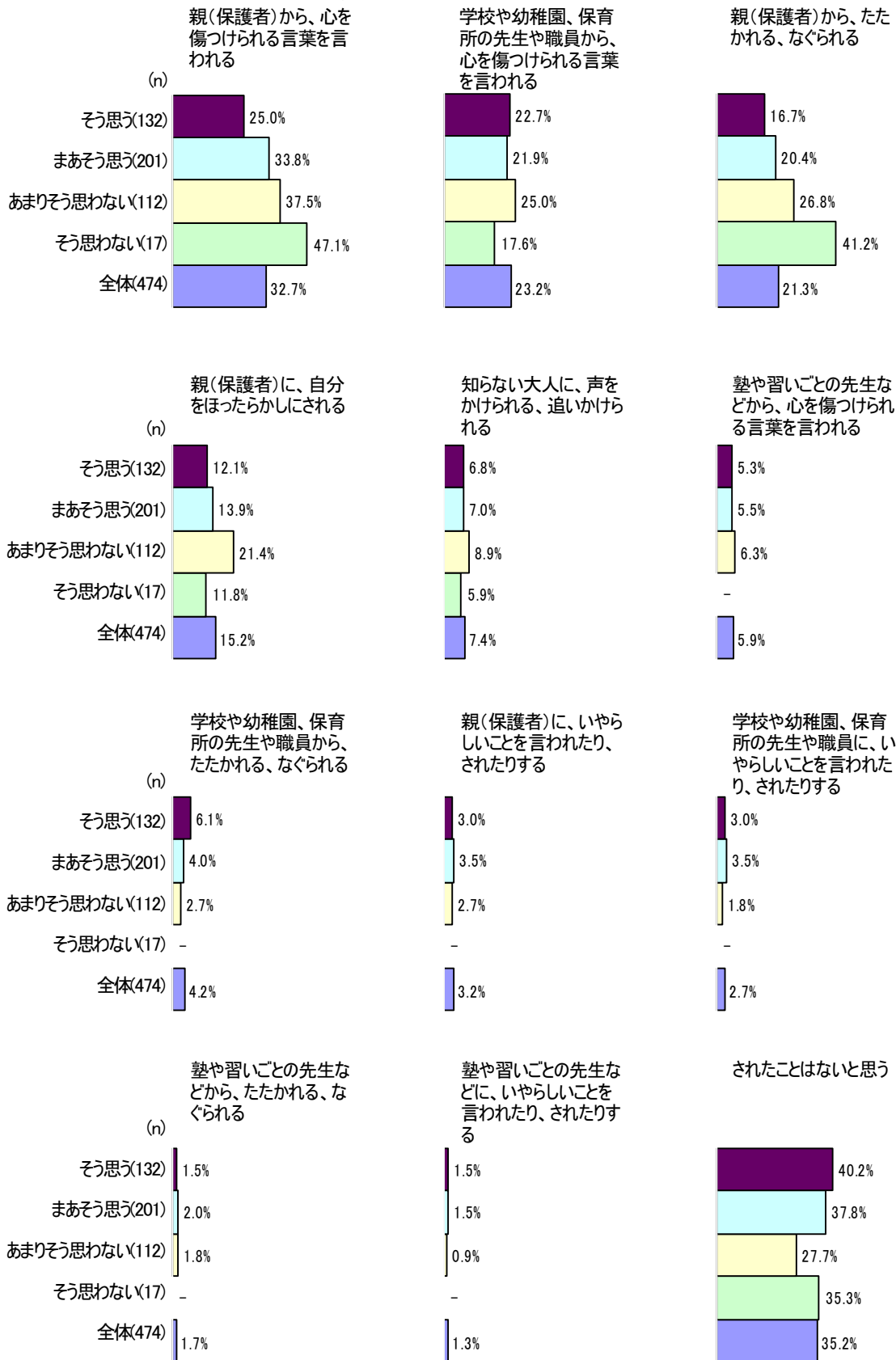
祖父母の言動。（心を傷つけられる言葉を言われる、たたかれる、親の悪口を平気で言う。）

<子どもの有無別>クロス集計結果



自己肯定感別のクロス集計は、大人問21「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

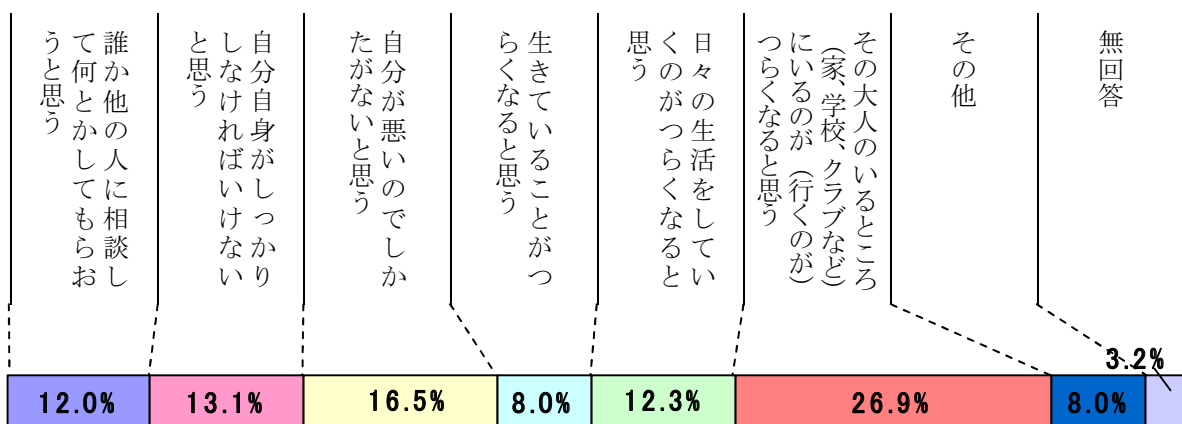
<大人の自己肯定感別>クロス集計結果



問7 あなたから見て、子どもが、問6で○をつけたことをされたとき、どんな気持ちになると
 思いますか。1番近い気持ちはどれだと思いますか。

<○は1つ>

1. 誰か他の人に相談して何とかしてもらおうと思う
2. 自分自身がしっかりしなければいけないと思う
3. 自分が悪いのでしかたがないと思う
4. 生きていることがつらくなると思う
5. 日々の生活をしていくのがつらくなると思う
6. その大人のいるところ（家、学校、クラブなど）にいるのが（行くのが）つらくなる
 と思う
7. その他

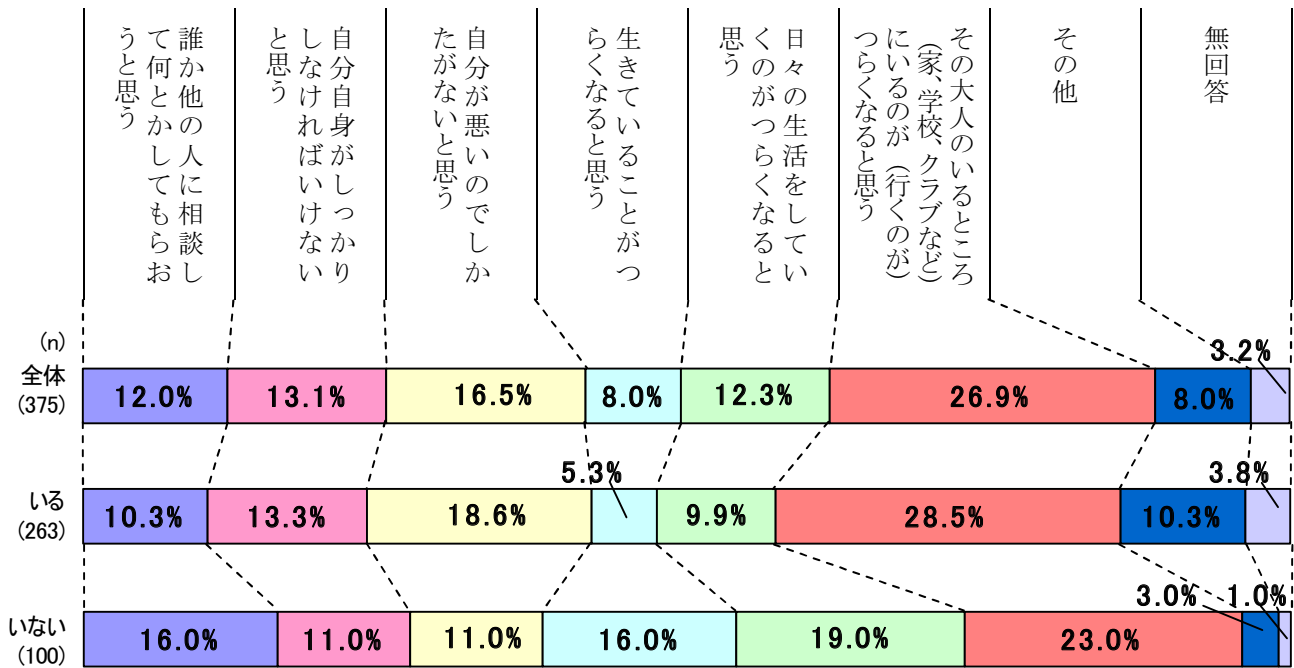


n=375

※その他

- イライラする。
- 淋しい思いをいただろうと思う。
- なぜ怒られたか分からない。
- 悲しい。
- 泣く。
- 自殺したくなると思う。
- いやだなと思うくらい。
- 学校に行きたくない。
- 悲しい、淋しいというものが直感的に1番強かったのではと思う。
- なんで?という気持ちだと思う。
- 大人が信用できなくなると思う。
- 反感を持つと思う。なぜ言われるか内容が理解できない。
- その人が嫌いになり、近づかないと思う。
- 親と相談して、自分で何とかする。
- すねる、いじける。
- 怒りと落ち込み。
- 自分が何をしたわけではないのに、祖父の代のことを言われ、意味が判らないと思う。
- 次の日になるとけろっとしている。

<子どもの有無別>クロス集計結果



自己肯定感別のクロス集計は、大人問21「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

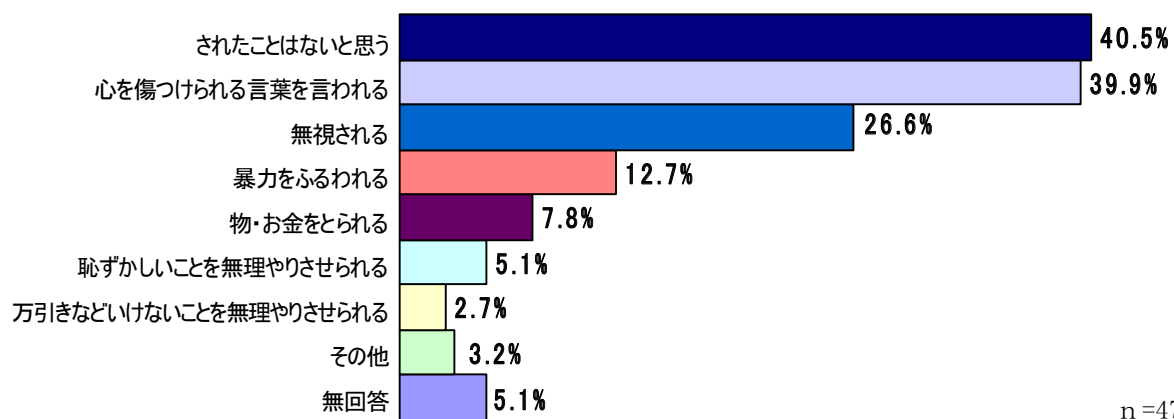
<大人の自己肯定感別>クロス集計結果

	誰か他の人に相談して何とかしてもらおうと思う	自分自身がしつかりしなればいけないと思う	自分が悪いのでしかたがないと思う	生きていくことがつらくなると思う	日々の生活をしていくのがつらくなると思う	その大人のいるところ(家、学校、クラブなど)にいるのが(行くのが)つらくなると思う	その他	無回答
(n) 全体 (375)	12.0%	13.1%	16.5%	8.0%	12.3%	26.9%	8.0%	3.2%
そう 思う (105)	15.2%	8.6%	15.2%	8.6%	14.3%	25.7%	9.5%	2.9%
まあそ う思う (158)	12.7%	13.3%	17.7%	6.3%	11.4%	26.6%	7.6%	4.4%
あまり そう思 わない (87)	9.2%	17.2%	17.2%	8.1%	11.5%	28.7%	8.1%	
そう思 わない (13)	15.4%	15.4%	15.4%	15.4%	15.4%	30.7%	7.7%	

問 8 あなたから見て、子どもは、友だち・先輩・後輩との関わりにおいて、次のようなことをされて、いやな思いをしたことがあると思いますか。

<〇はいくつでも>

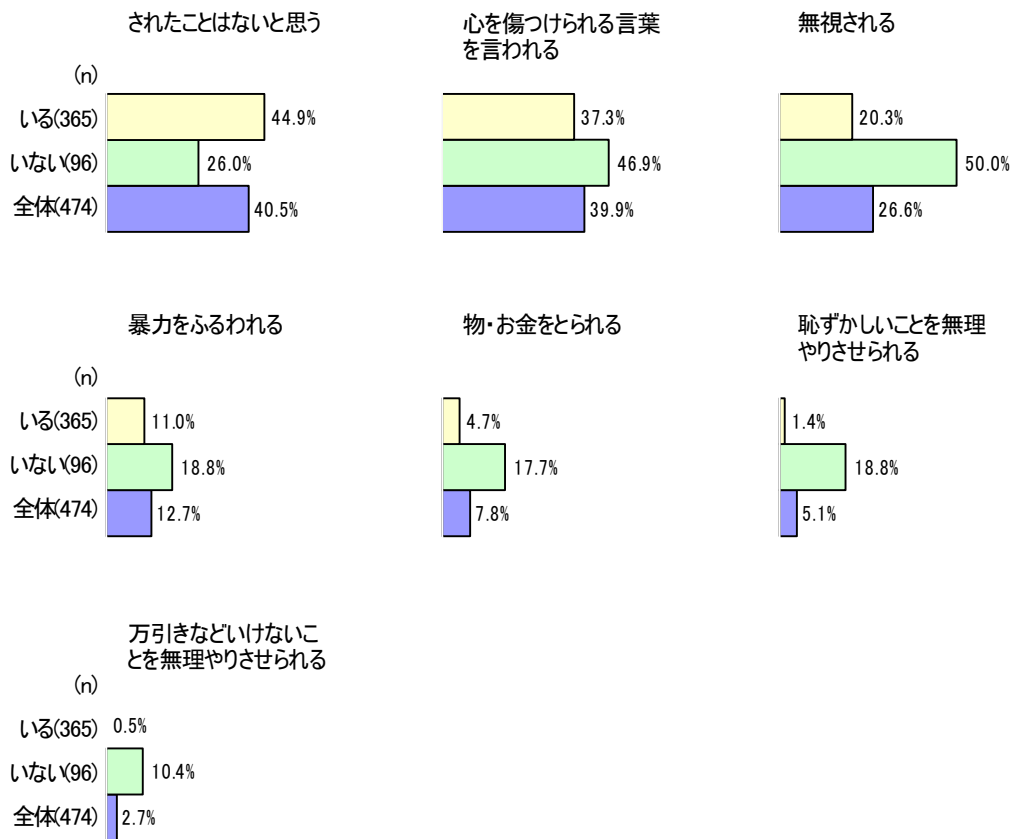
1. 無視される
2. 暴力をふるわれる
3. 心を傷つけられる言葉を言われる
4. 物・お金をとられる
5. 万引きなどいけないことを無理やりさせられる
6. 恥ずかしいことを無理やりさせられる
7. されたことはないと思う
8. その他



※その他

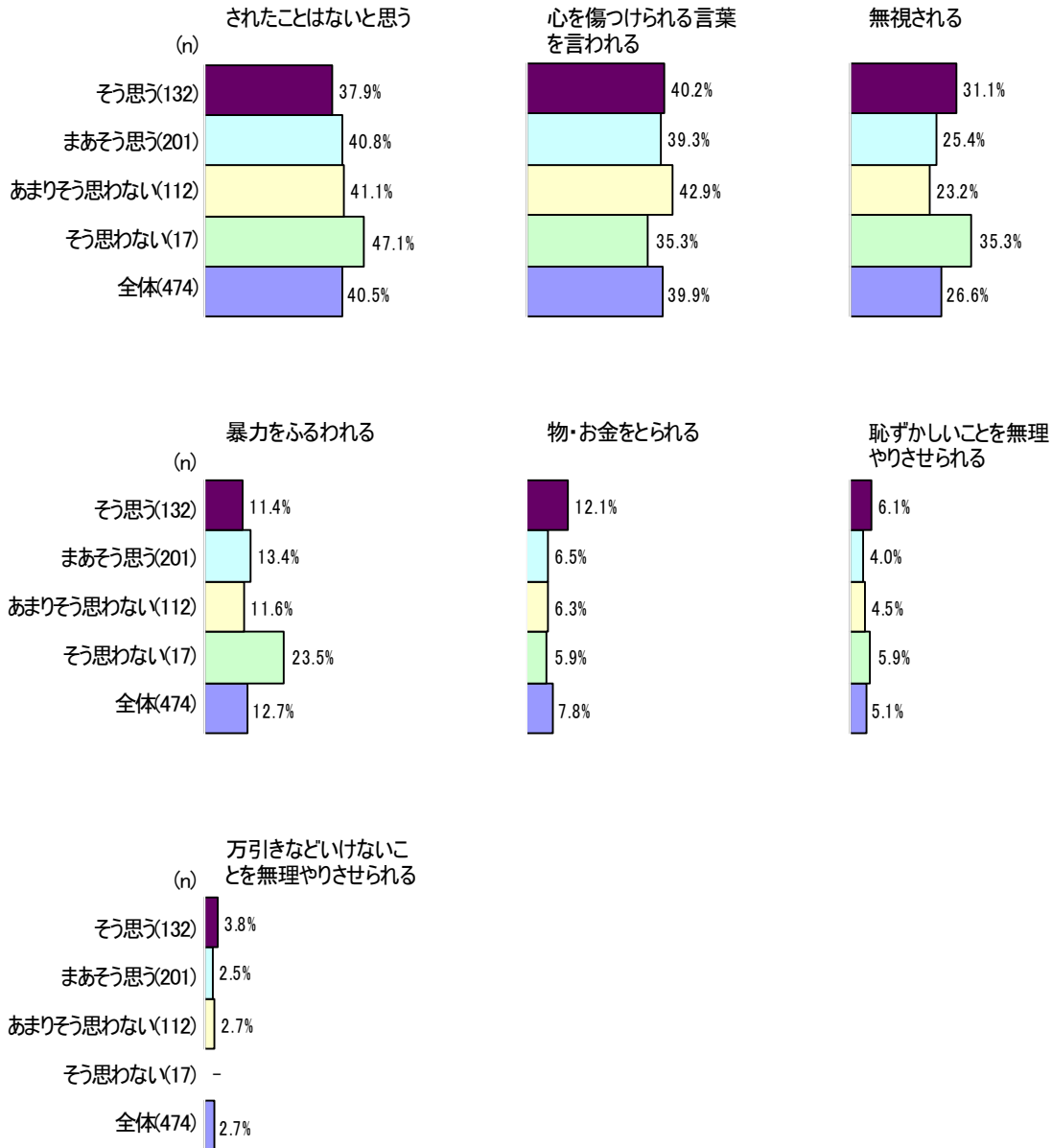
- おもちゃの取り合い。
- 相手からにらまれる。(特に相手が集団でいるとき)
- 意地悪をされる。(つねったり、おっつけたり)
- いやな思いをする(される)理由がわかっていないと思う。
- 遊ぶ約束を守ってもらえなかったとき。
- 慣れるまで後輩とうまく関係づくりができなかった。
- 何か悪いことを自分のせいにさせられる。
- 無理なことをわざと言う。夜中に電話してくる。
- インターネット上での誹謗中傷。

<子どもの有無別>クロス集計結果



自己肯定感別のクロス集計は、大人問21「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

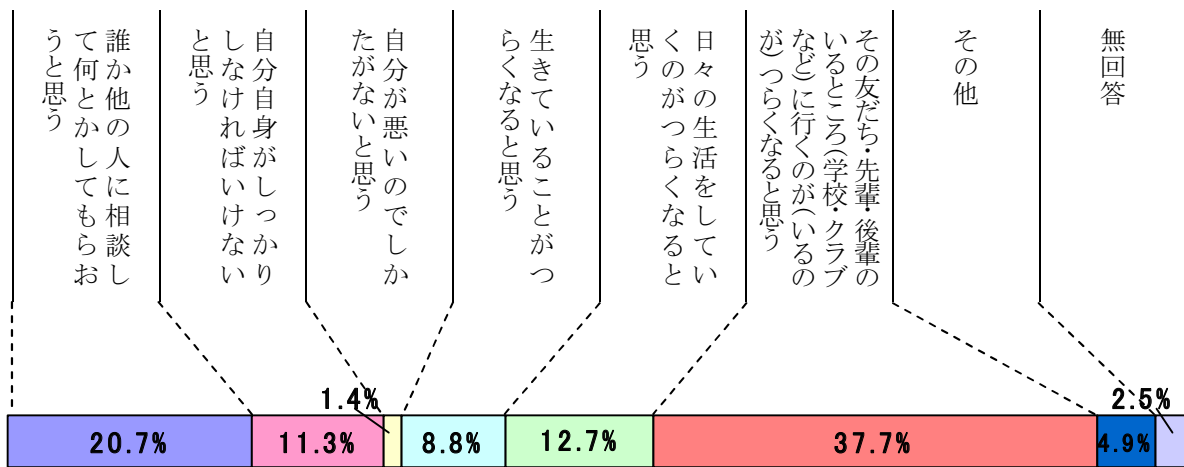
<大人の自己肯定感別>クロス集計結果



問9 あなたから見て、子どもが、問8で○をつけたことをされたとき、どんな気持ちになりますか。1番近い気持ちはどれだと思いますか。

<○は1つ>

1. 誰か他の人に相談して何とかしてもらおうと思う
2. 自分自身がしっかりしなければいけないと思う
3. 自分が悪いのでしかたがないと思う
4. 生きていることがつらくなると思う
5. 日々の生活をしていくのがつらくなると思う
6. その友だち・先輩・後輩のいるところ（学校、クラブなど）に行くのが（いるのが）つらくなると思う
7. その他

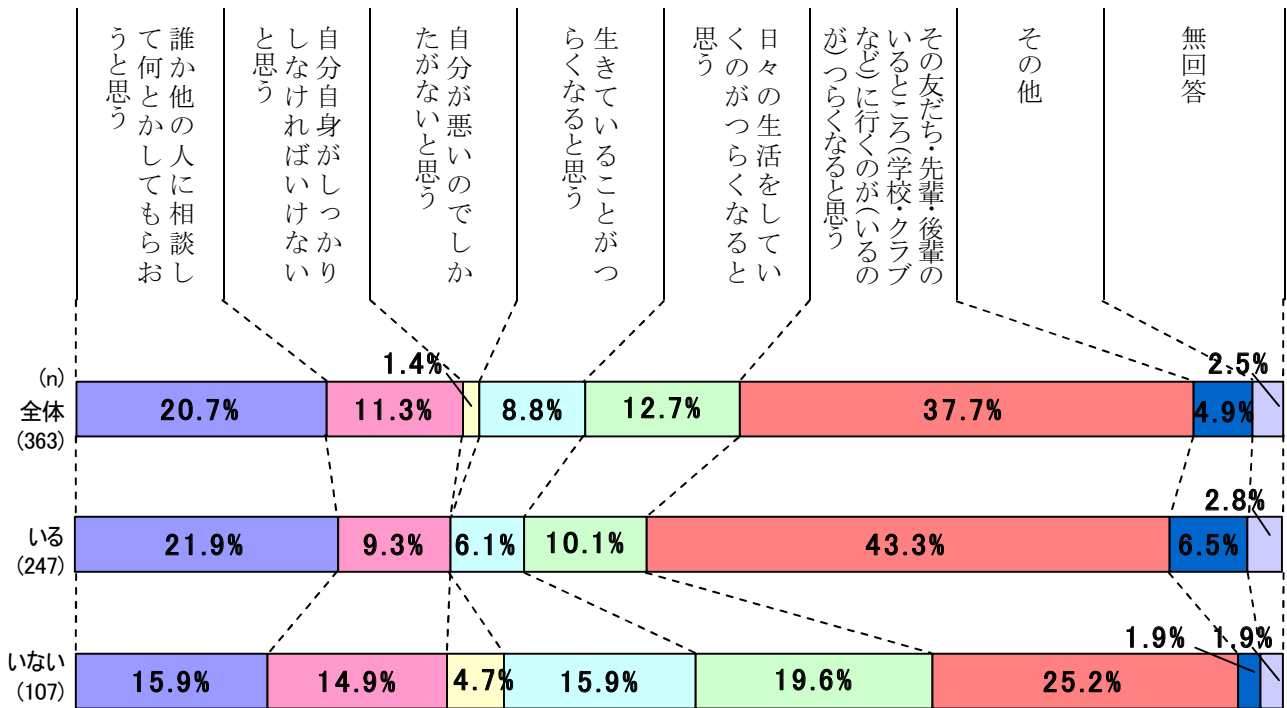


n=363

※その他

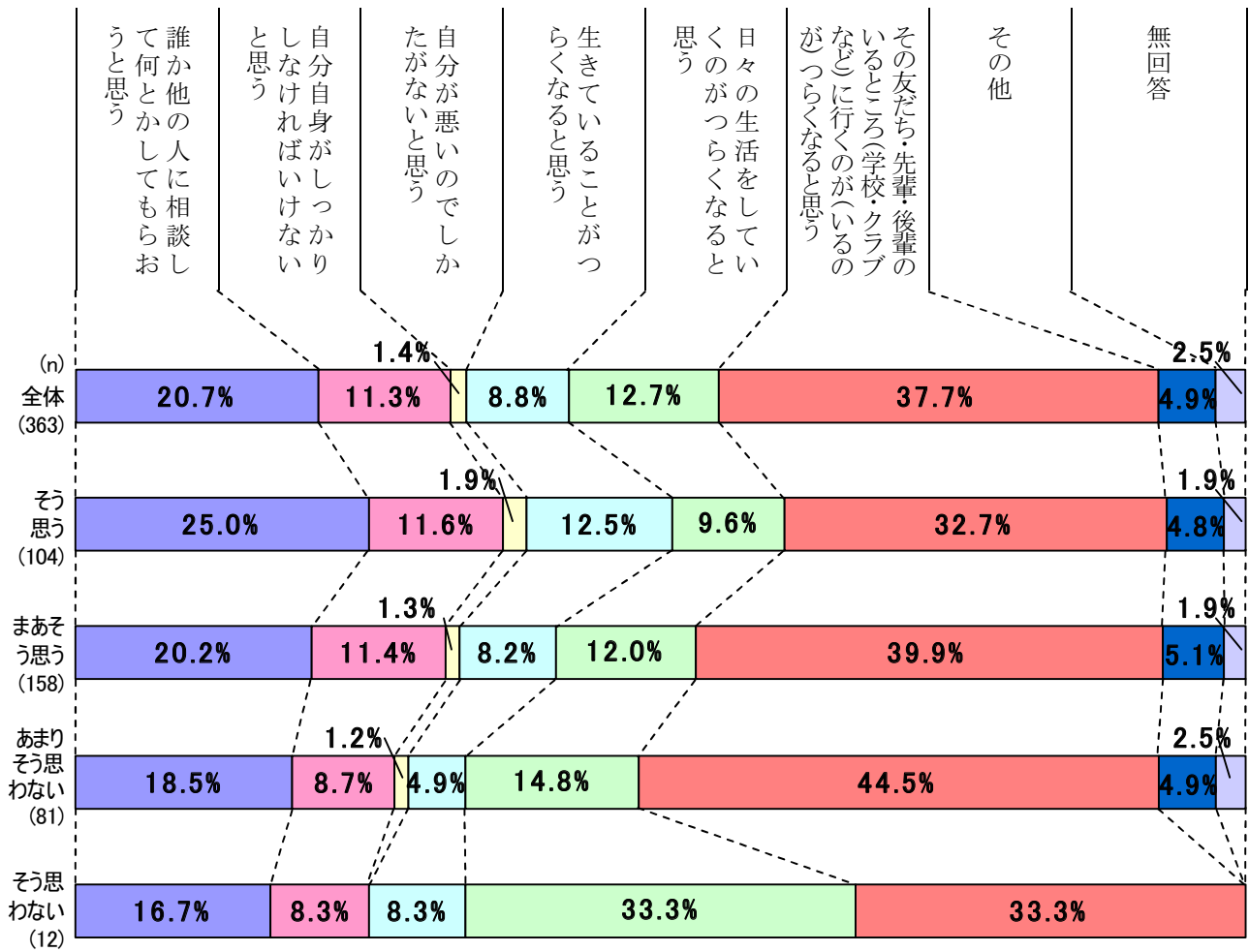
- 相手のことがむかつく。
- おたがいさま。
- 悲しい。
- 我慢する。
- やり返すと思う。（まだ幼くて言葉で伝えられないこともあるので）
- 理由がわからないと思う。
- 学校の先生がうまく関わり、相談に乗ってくれたようです。
- 人間を信用できなくなると思う。
- 友だちに相談したり話を聞いてもらおうと思う。
- 親と相談して自分で耐える。

<子どもの有無別>クロス集計結果



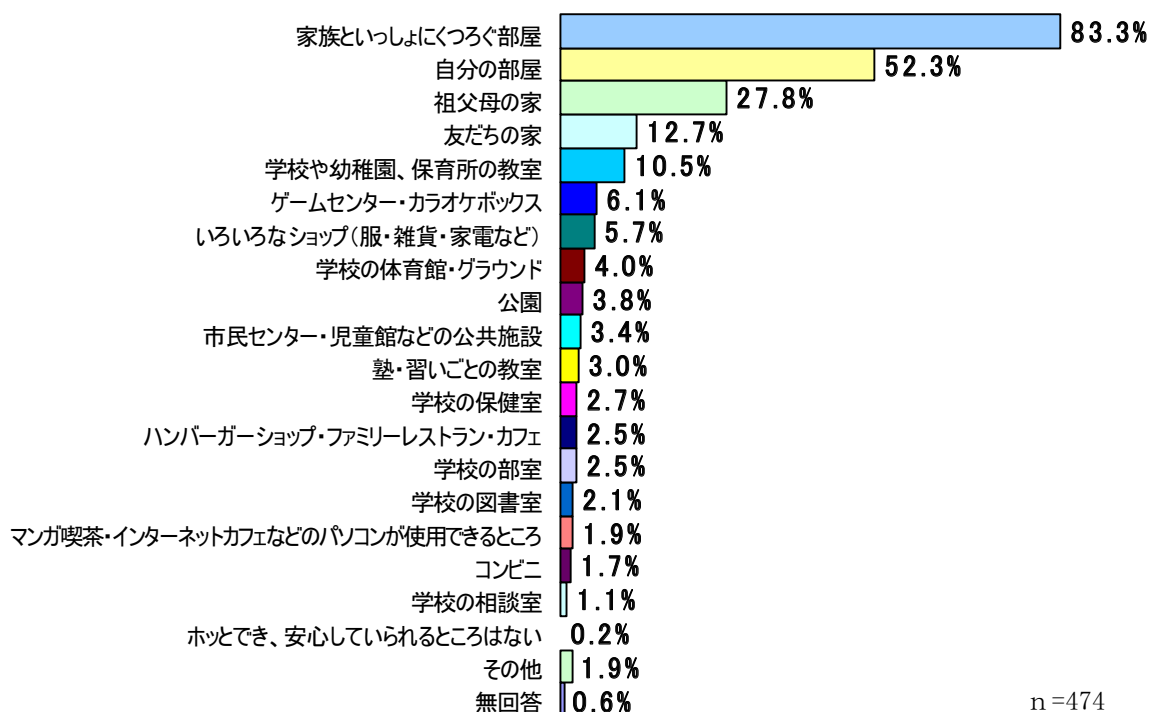
自己肯定感別のクロス集計は、大人問21「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

<大人の自己肯定感別>クロス集計結果



問 10 あなたから見て、子どもがホッとでき、安心していられるところはどこだと思いますか。
 <〇はいくつでも>

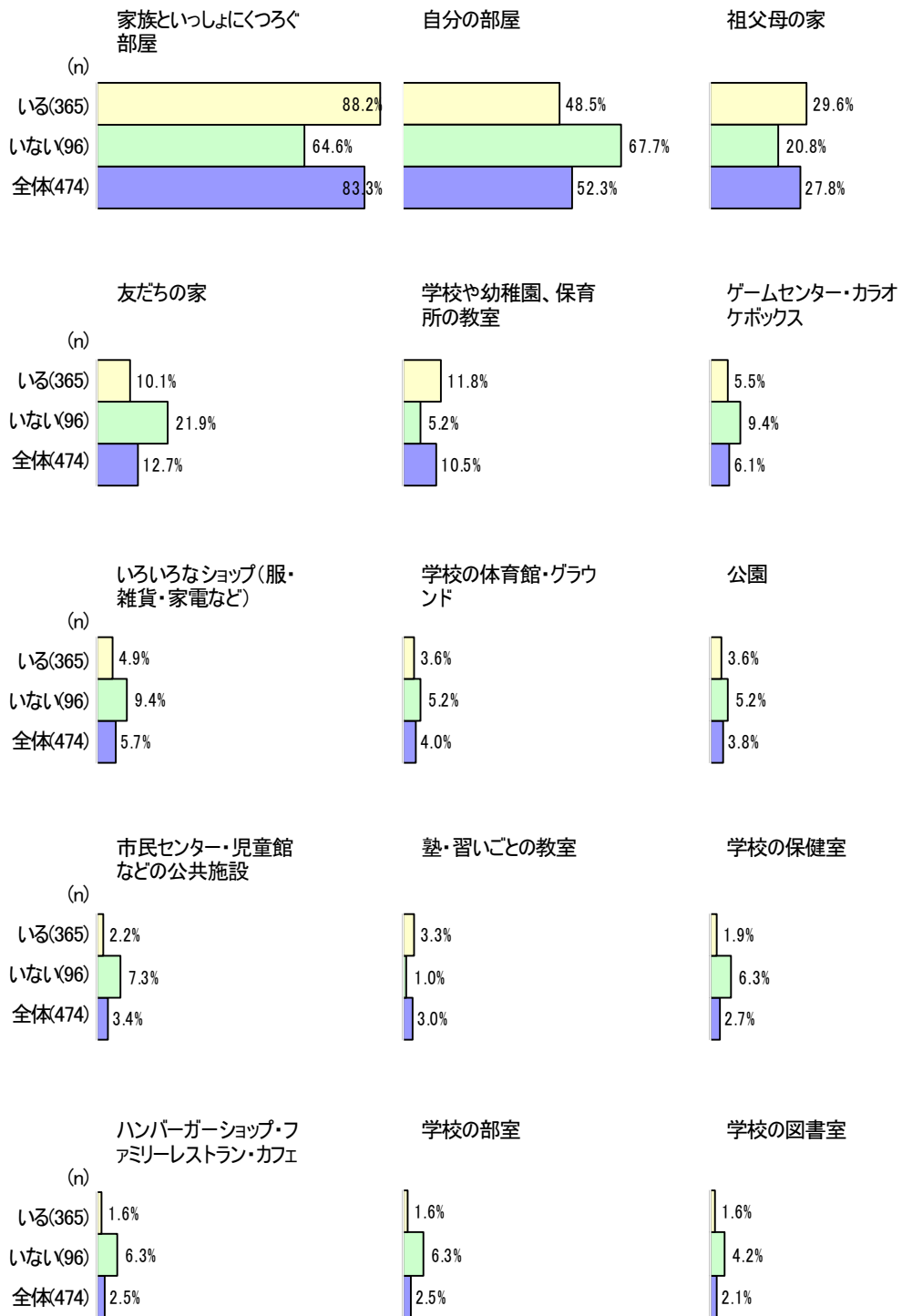
1. 自分の部屋	11. 市民センター・児童館などの公共施設
2. 家族といっしょにくつろぐ部屋	12. 公園
3. 友だちの家	13. 塾・習いごとの教室
4. 祖父母の家	14. コンビニ
5. 学校や幼稚園、保育所の教室	15. ゲームセンター・カラオケボックス
6. 学校の保健室	16. ハンバーガーショップ・ファミリーレストラン・カフェ
7. 学校の相談室	17. マンガ喫茶、インターネットカフェなどパソコンが使用できる場所
8. 学校の図書室	18. いろいろなショップ（服・雑貨・家電など）
9. 学校の体育館・グラウンド	19. ホッとでき、安心していられるところはないと思う
10. 学校の部室	20. その他

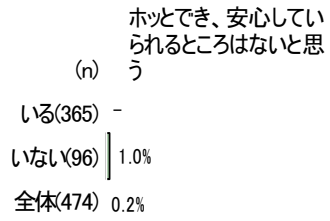
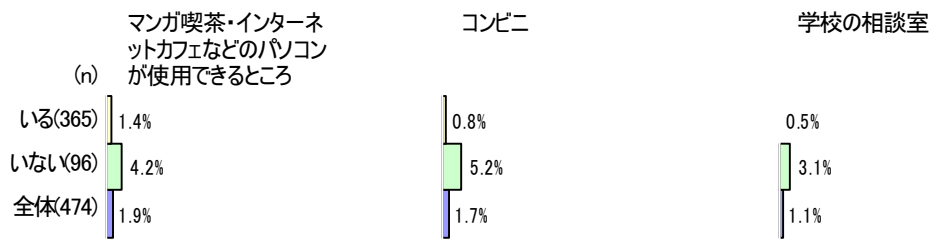


※その他

親や先生、友だちなど、いつも一緒にいてくれる人がいるところ。
 自分の家。
 お風呂。
 父親のいない自宅。
 友だちと一緒にいるとき。
 トイレ、車の中。

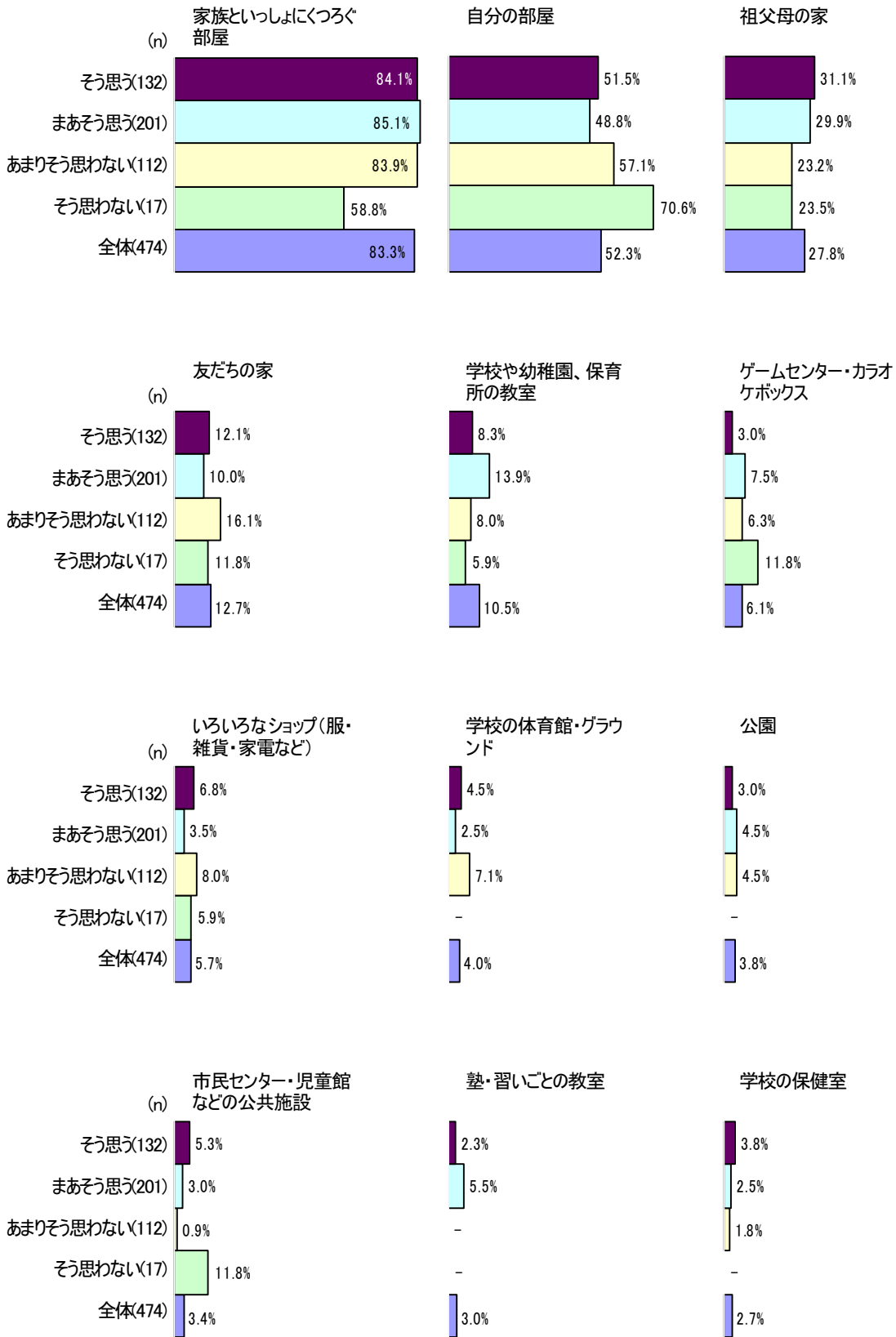
<子どもの有無別>クロス集計結果

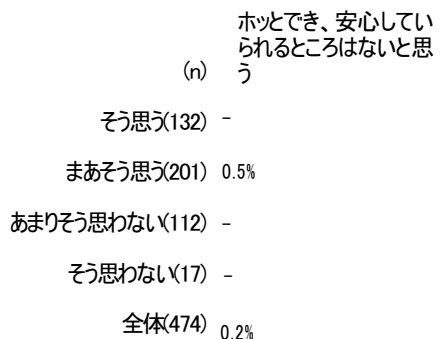
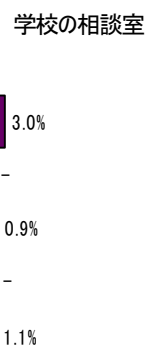
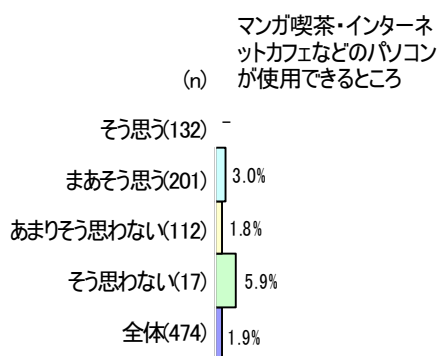
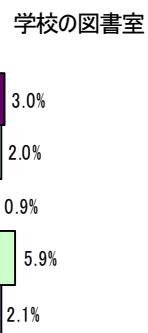
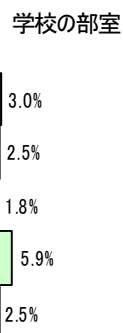
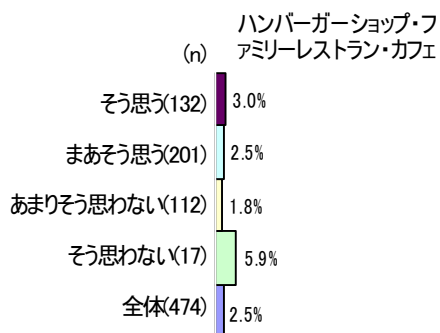




自己肯定感別のクロス集計は、大人問21「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

<大人の自己肯定感別>クロス集計結果

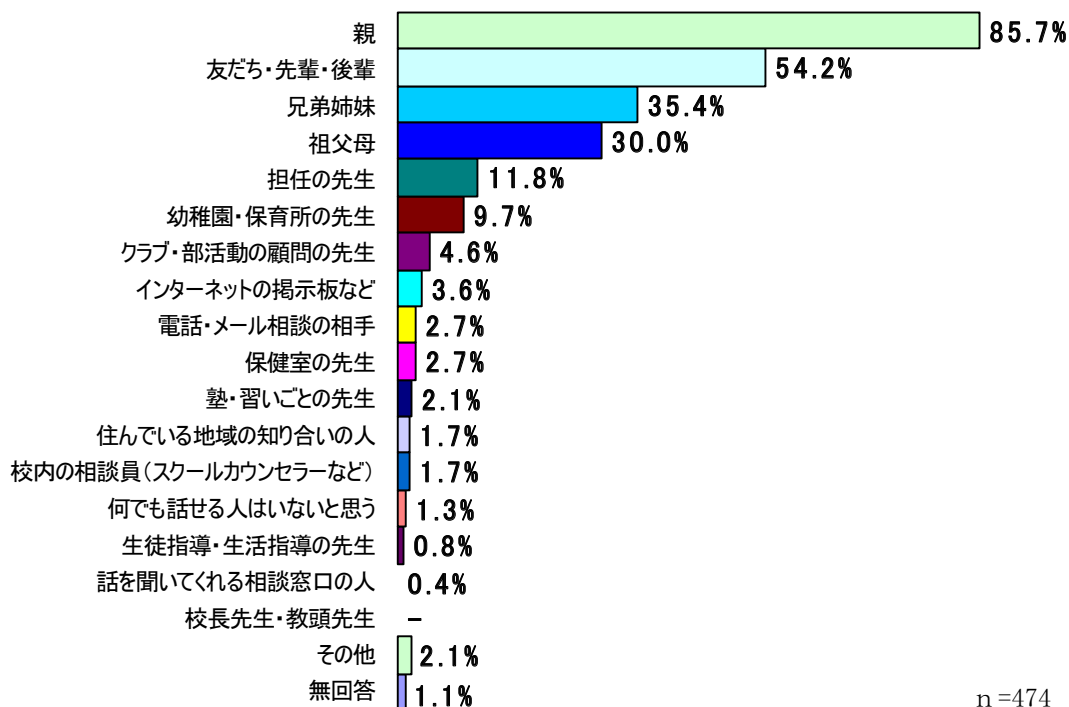




問 11 あなたから見て、子どもが、楽しかったことや悩みなど、話したいことを何でも話せる人は誰だと思いますか。

<〇はいくつでも>

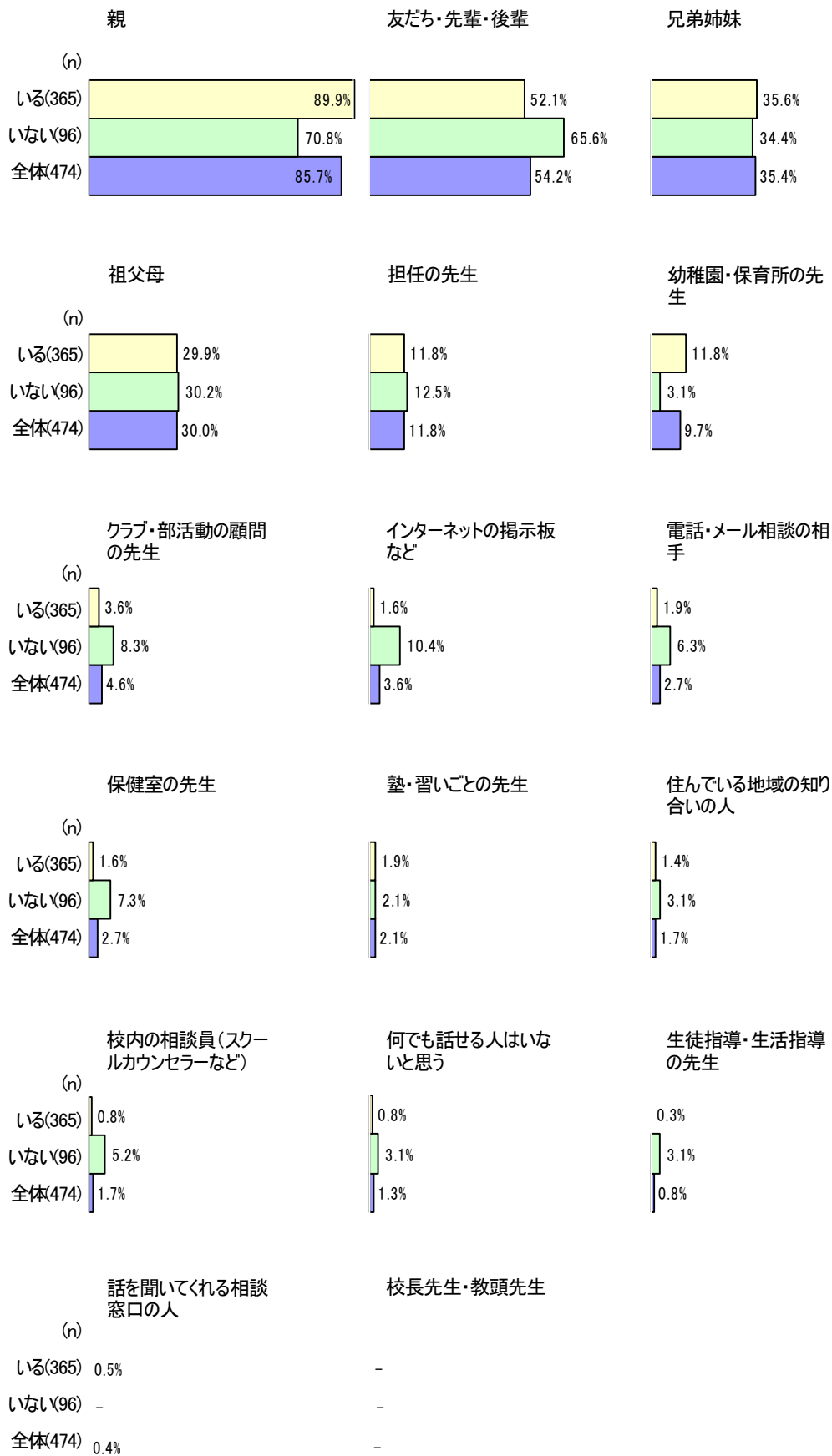
1. 親	10. 校内の相談員(スクールカウンセラーなど)
2. 兄弟姉妹	11. 幼稚園・保育所の先生
3. 祖父母	12. 塾・習いごとの先生
4. 友だち・先輩・後輩	13. 住んでいる地域の知り合いの人
5. 校長先生・教頭先生	14. インターネットの掲示板など
6. 担任の先生	15. 電話・メール相談の相手
7. 保健室の先生	16. 話を聞いてくれる相談窓口の人
8. クラブ・部活動の顧問の先生	17. 何でも話せる人はいないと思う
9. 生徒指導・生活指導の先生	18. その他



※その他

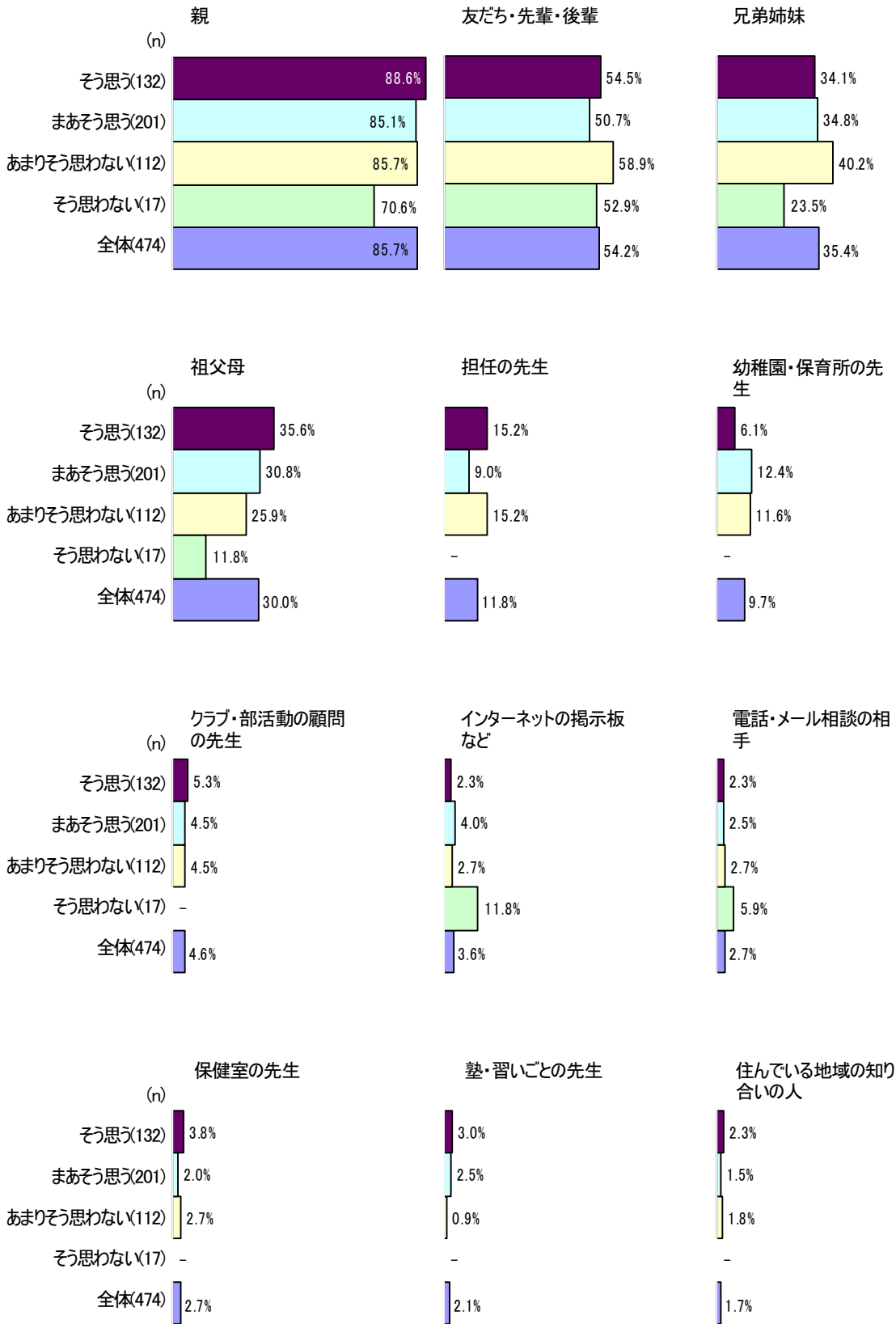
叔母、親せき、彼氏、自分もそうだったが何でも話すことはないと思う

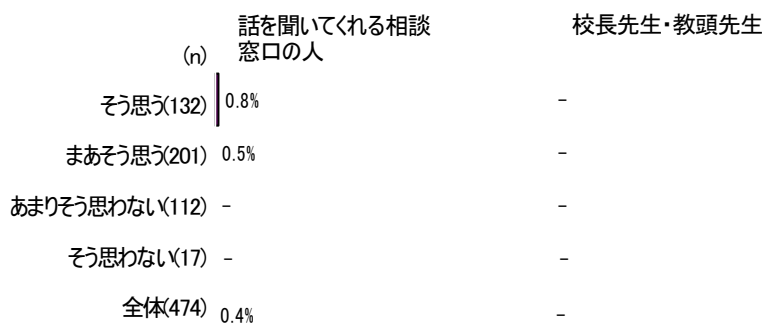
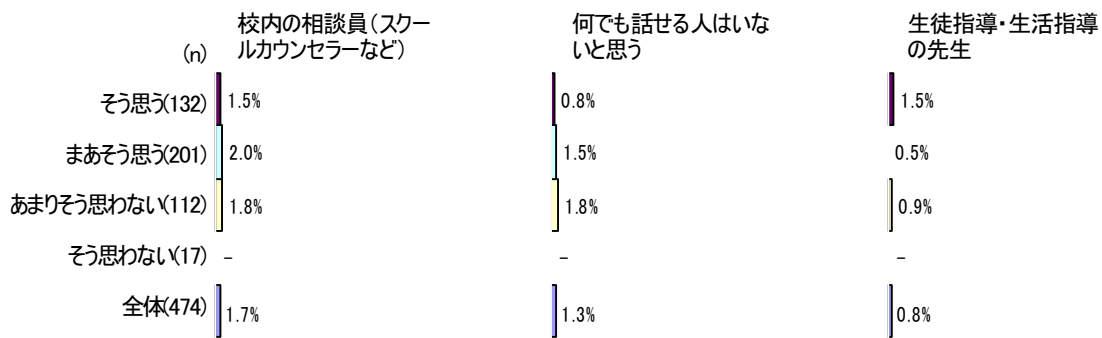
<子どもの有無別>クロス集計結果



自己肯定感別のクロス集計は、大人問21「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

<大人の自己肯定感別>クロス集計結果

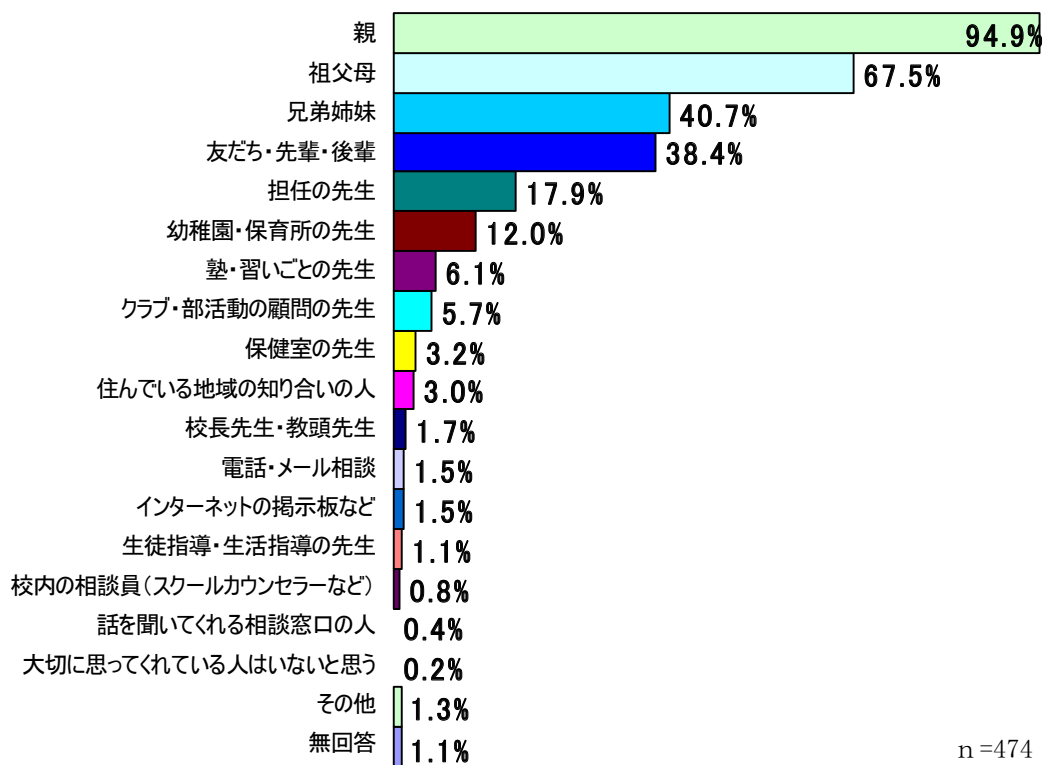




問 12 あなたから見て、子どもが、「この人は自分のことを大切にしてくれている」と感じている人は誰だと思いますか。

〈〇はいくつでも〉

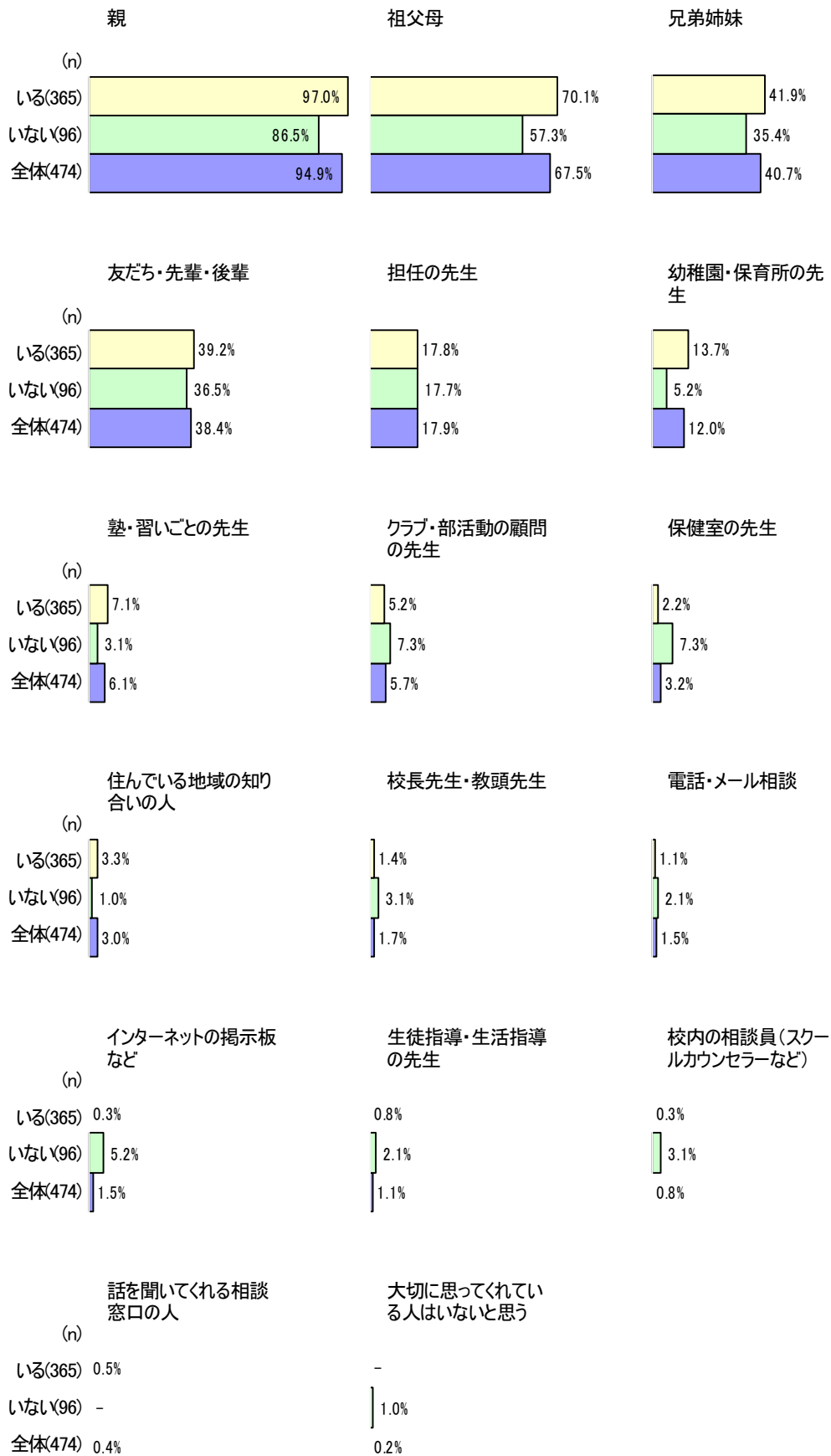
1. 親	10. 校内の相談員(スクールカウンセラーなど)
2. 兄弟姉妹	11. 幼稚園・保育所の先生
3. 祖父母	12. 塾・習いごとの先生
4. 友だち・先輩・後輩	13. 住んでいる地域の知り合いの人
5. 校長先生・教頭先生	14. インターネットの掲示板など
6. 担任の先生	15. 電話・メール相談の相手
7. 保健室の先生	16. 話を聞いてくれる相談窓口の人
8. クラブ・部活動の顧問の先生	17. 大切に思ってくれている人はいないと思う
9. 生徒指導・生活指導の先生	18. その他



※その他

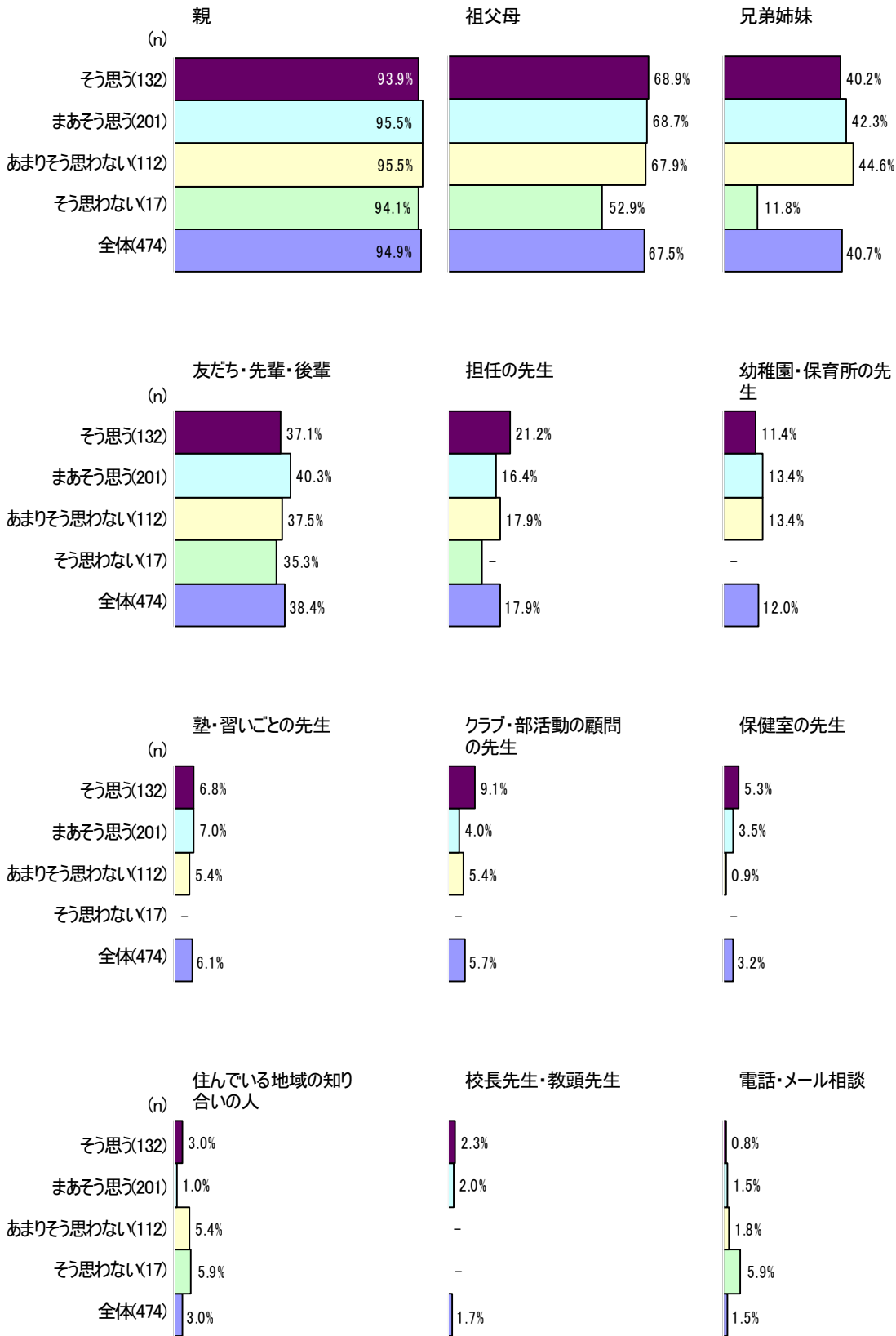
叔母、親せき、おじさん、おばさん、児童館の先生、彼氏

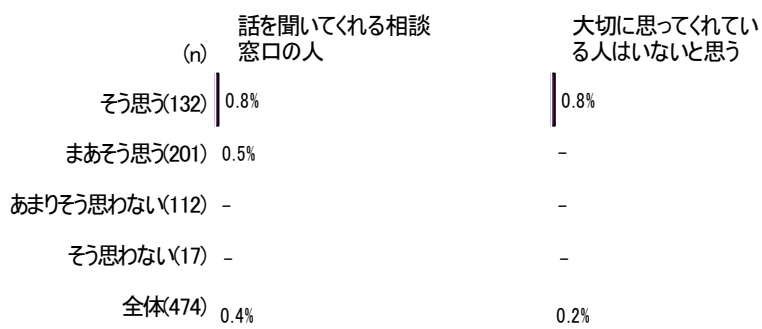
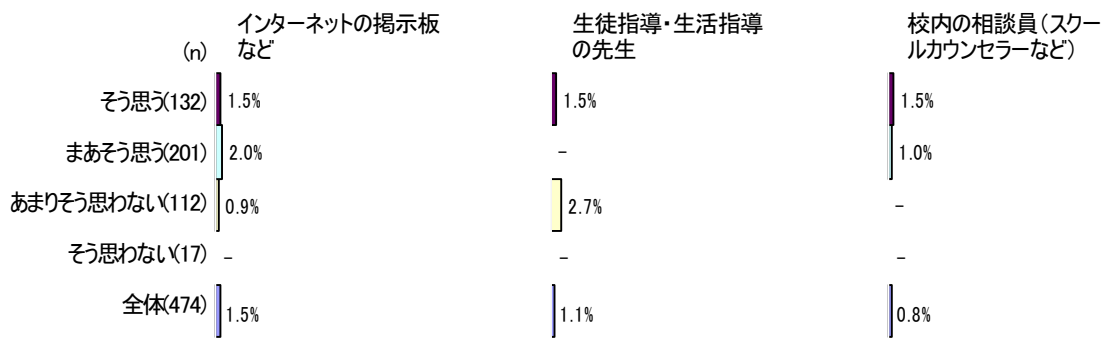
<子どもの有無別>クロス集計結果



自己肯定感別のクロス集計は、大人問21「あなたは、自分のことが好きですか」という問いの回答結果を対象としている。

<大人の自己肯定感別>クロス集計結果

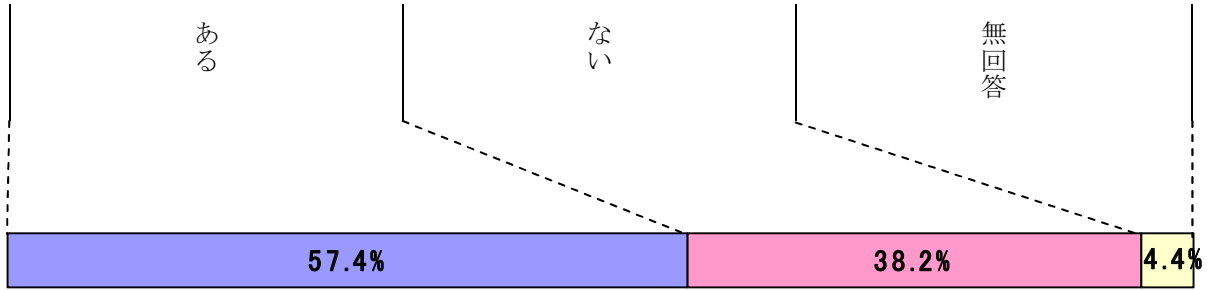




問 13 あなたから見て、子どもが、日頃、納得のいかないことや、おかしいと感じることはあると思いますか。

<○は1つ>

1. ある ⇒ 問 14へ 2. ない

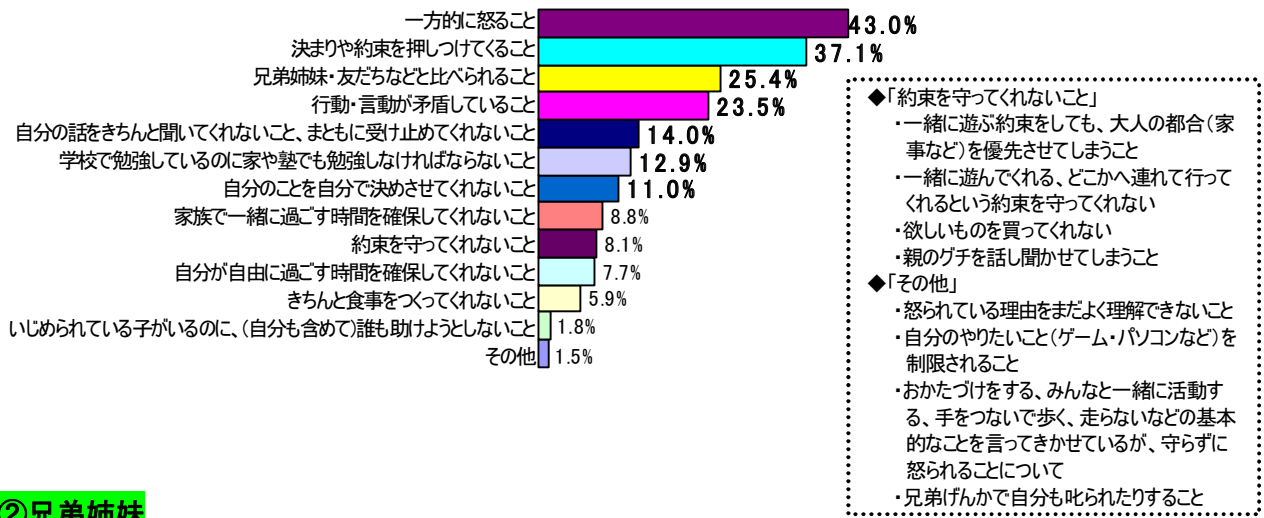


n=474

問 14 (問 13で「ある」と回答した人へ)

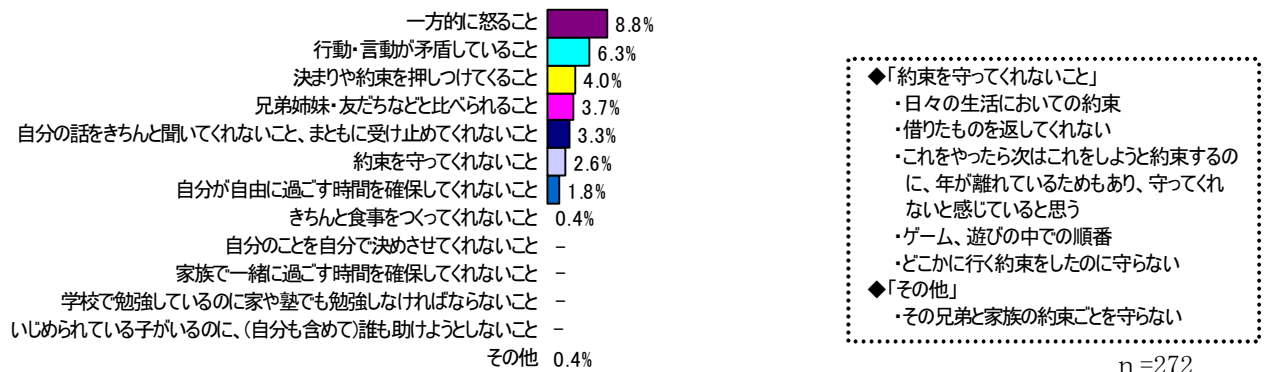
誰に対して、どのようなことに納得がいかなかったり、おかしいと感じると思いますか。
<あてはまるところに○をつけてください。(○はいくつでも)>

①親



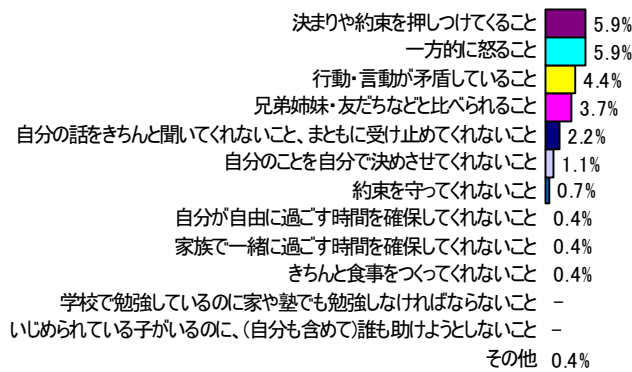
n =272

②兄弟姉妹



n =272

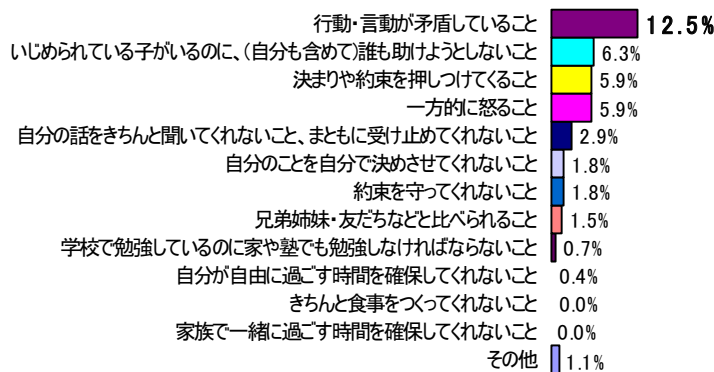
③祖父母



◆「その他」
 ・怒られている理由をまだよく理解できないこと

n = 272

④友だち・先輩・後輩

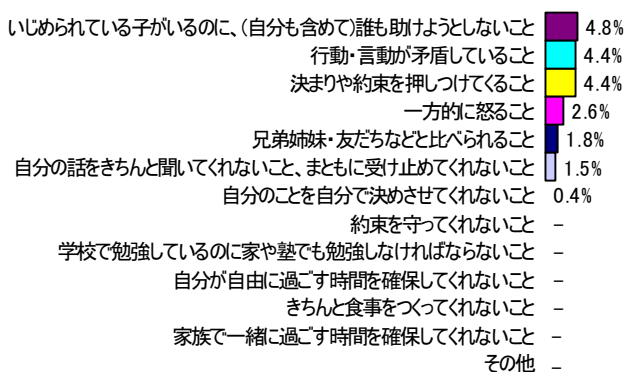


◆「約束を守ってくれないこと」
 ・行事へ一緒に参加することや旅行、遊び、おでかけをする約束を守ってくれない
 ・借りたものを返してくれない
 ・遊ぶ約束をしても留守だったり、当日キャンセルされたりする

◆「その他」
 ・うらやましさを妬み
 ・相手によって言葉遣いや態度が違うこと
 ・裏表がある(二面性)

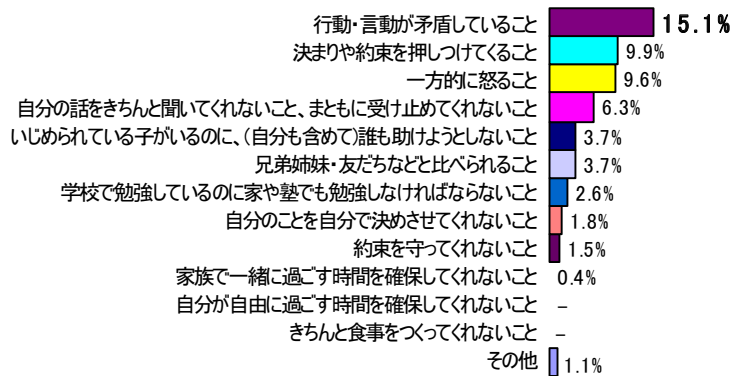
n = 272

⑤校長先生・教頭先生



n = 272

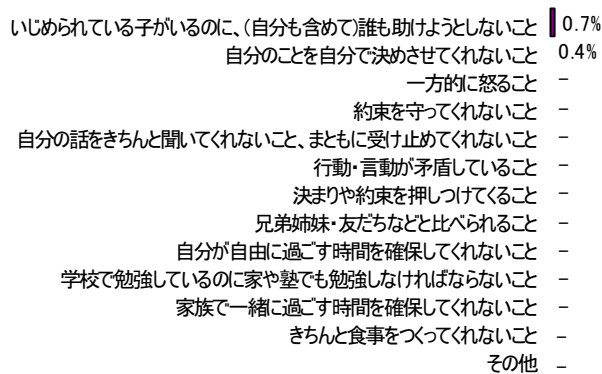
⑥担任の先生



- ◆「約束を守ってくれないこと」
 - ・日々の生活における約束
 - ・発表会とかで代表役をやらせませんが、次の日に違う人になっていた
 - ・テストの点数があがれば通信簿を上げてくれると言ったのに、上がらなかった
- ◆「その他」
 - ・他のクラス担任と比べてしまう
 - ・うらやましく思ったりもしている
 - ・他の人と一緒にさせられること
 - ・自分よりも下のレベルのことをやらされること
 - ・小学校の副担任みたいな先生が、子どもを怒るのはいいのですが、子どもが学校に行きたくないと思わせるのはどうでしょうか。他にもそう思っている子がいるようです。

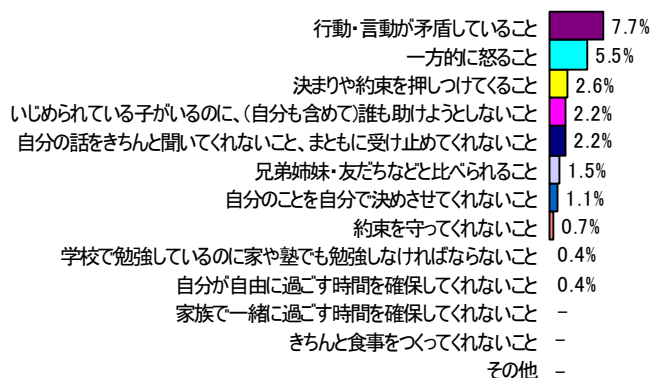
n = 272

⑦保健室の先生



n = 272

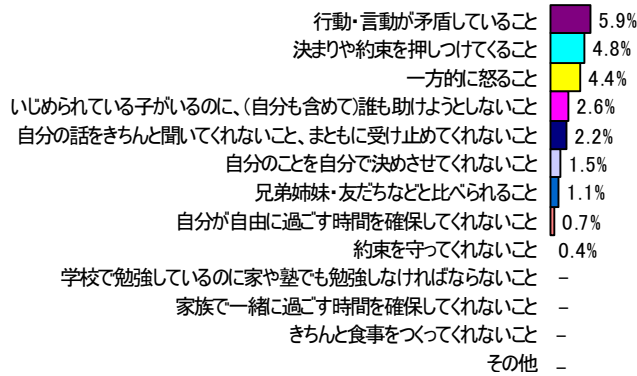
⑧クラブ・部活動の先生



- ◆「約束を守ってくれないこと」
 - ・部活動終了時間は19時と決まっているのに守っていない

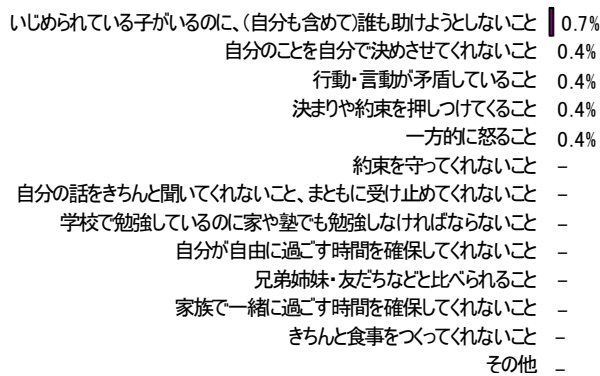
n = 272

⑨生徒指導・生活指導の先生



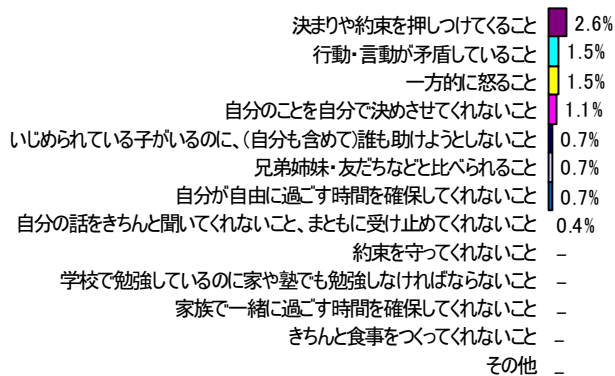
n = 272

⑩校内の相談員（スクールカウンセラーなど）



n = 272

⑪幼稚園・保育所の先生



n = 272

⑫塾・習いごとの先生

兄弟姉妹・友だちなどと比べられること	1.5%
決まりや約束を押しつけてくること	1.5%
一方的に怒ること	1.5%
自分の話をきちんと聞いてくれないこと、まともに受け止めてくれないこと	1.1%
学校で勉強しているのに家や塾でも勉強しなければならないこと	0.7%
行動・言動が矛盾していること	0.7%
いじめられている子がいるのに、(自分も含めて)誰も助けようとしていないこと	0.4%
自分が自由に過ごす時間を確保してくれないこと	0.4%
自分のことを自分で決めさせてくれないこと	-
約束を守ってくれないこと	-
家族と一緒に過ごす時間を確保してくれないこと	-
きちんと食事をつくってくれないこと	-
その他	-

n = 272

⑬住んでいる地域の知り合いの人

兄弟姉妹・友だちなどと比べられること	0.4%
行動・言動が矛盾していること	0.4%
一方的に怒ること	0.4%
自分のことを自分で決めさせてくれないこと	-
決まりや約束を押しつけてくること	-
自分の話をきちんと聞いてくれないこと、まともに受け止めてくれないこと	-
学校で勉強しているのに家や塾でも勉強しなければならないこと	-
約束を守ってくれないこと	-
自分が自由に過ごす時間を確保してくれないこと	-
いじめられている子がいるのに、(自分も含めて)誰も助けようとしていないこと	-
家族と一緒に過ごす時間を確保してくれないこと	-
きちんと食事をつくってくれないこと	-
その他	-

n = 272

⑭インターネットの掲示板など

行動・言動が矛盾していること	0.4%
一方的に怒ること	-
兄弟姉妹・友だちなどと比べられること	-
自分のことを自分で決めさせてくれないこと	-
決まりや約束を押しつけてくること	-
自分の話をきちんと聞いてくれないこと、まともに受け止めてくれないこと	-
学校で勉強しているのに家や塾でも勉強しなければならないこと	-
約束を守ってくれないこと	-
自分が自由に過ごす時間を確保してくれないこと	-
いじめられている子がいるのに、(自分も含めて)誰も助けようとしていないこと	-
家族と一緒に過ごす時間を確保してくれないこと	-
きちんと食事をつくってくれないこと	-
その他	-

n = 272

⑮電話・メール相談

行動・言動が矛盾していること	0.4%
一方向的に怒ること	-
兄弟姉妹・友だちなどと比べられること	-
自分のことを自分で決めさせてくれないこと	-
決まりや約束を押しつけてくること	-
自分の話をきちんと聞いてくれないこと、まともに受け止めてくれないこと	-
学校で勉強しているのに家や塾でも勉強しなければならないこと	-
約束を守ってくれないこと	-
自分が自由に過ごす時間を確保してくれないこと	-
いじめられている子がいるのに、(自分も含めて)誰も助けようとしらないこと	-
家族と一緒に過ごす時間を確保してくれないこと	-
きちんと食事をつくってくれないこと	-
その他	-

n = 272

⑯話を聞いてくれる相談窓口

一方向的に怒ること	-
行動・言動が矛盾していること	-
兄弟姉妹・友だちなどと比べられること	-
自分のことを自分で決めさせてくれないこと	-
決まりや約束を押しつけてくること	-
自分の話をきちんと聞いてくれないこと、まともに受け止めてくれないこと	-
学校で勉強しているのに家や塾でも勉強しなければならないこと	-
約束を守ってくれないこと	-
自分が自由に過ごす時間を確保してくれないこと	-
いじめられている子がいるのに、(自分も含めて)誰も助けようとしらないこと	-
家族と一緒に過ごす時間を確保してくれないこと	-
きちんと食事をつくってくれないこと	-
その他	-

n = 272

⑰その他

行動・言動が矛盾していること	1.1%
一方向的に怒ること	1.1%
いじめられている子がいるのに、(自分も含めて)誰も助けようとしらないこと	0.4%
決まりや約束を押しつけてくること	0.4%
約束を守ってくれないこと	-
兄弟姉妹・友だちなどと比べられること	-
自分のことを自分で決めさせてくれないこと	-
自分の話をきちんと聞いてくれないこと、まともに受け止めてくれないこと	-
学校で勉強しているのに家や塾でも勉強しなければならないこと	-
自分が自由に過ごす時間を確保してくれないこと	-
家族と一緒に過ごす時間を確保してくれないこと	-
きちんと食事をつくってくれないこと	-
その他	1.5%

◆「その他」

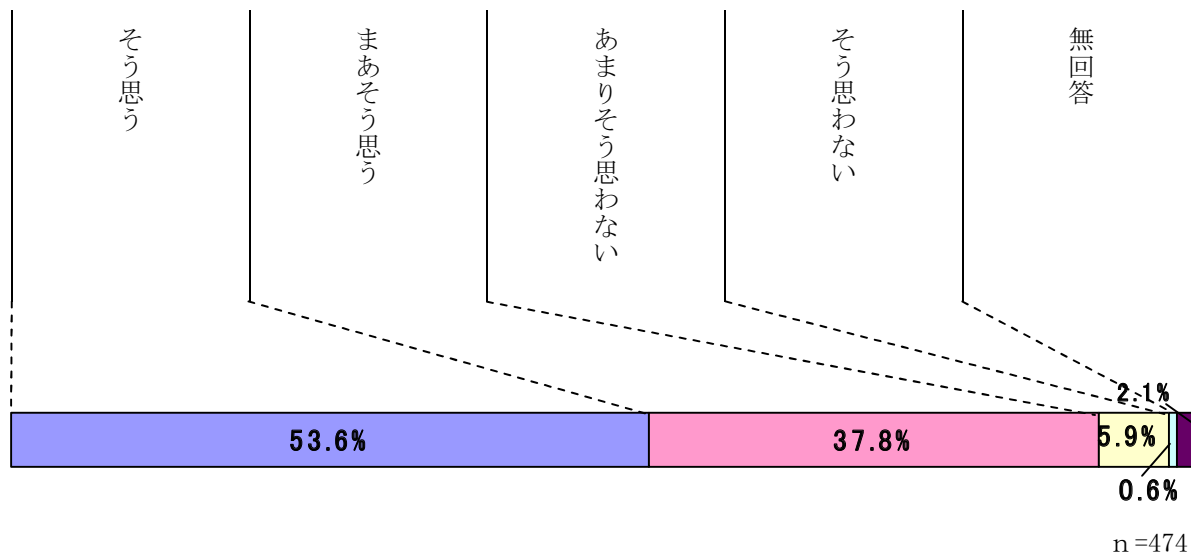
- ・おかたづけをする、みんなと一緒に活動する、手をつないで歩く、走らないなどの基本的なことを言っかけているが、守らずに怒られることについて
- ・中学の数学、大人になっても使うの？と聞かれた
- ・交通ルールや公共道徳を守らない、守ろうとしない大人たち、意味もなく突き飛ばされたり転ばされたり、車に乗せられそうになったり追いかけられたりしていること

n = 272

問 15 あなたから見て、子どもは、自分のことが好きだと思いますか。

<〇は1つ>

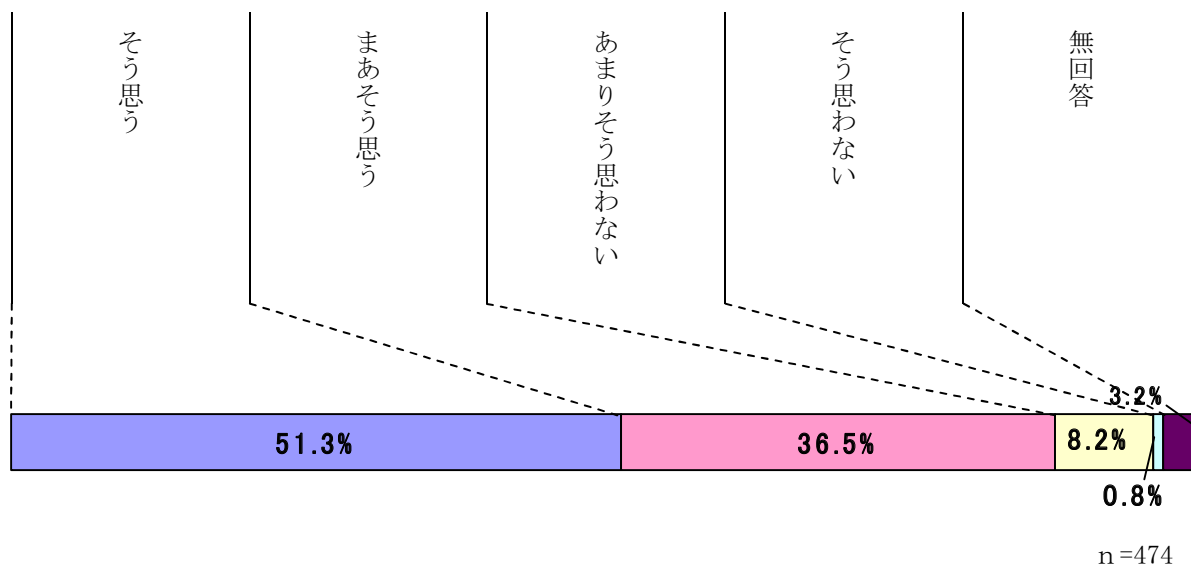
- | | |
|-----------|--------------|
| 1. そう思う | 3. あまりそう思わない |
| 2. まあそう思う | 4. そう思わない |



問 16 あなたから見て、子どもは、自分が人から必要とされている、と思っていると思いますか。

<〇は1つ>

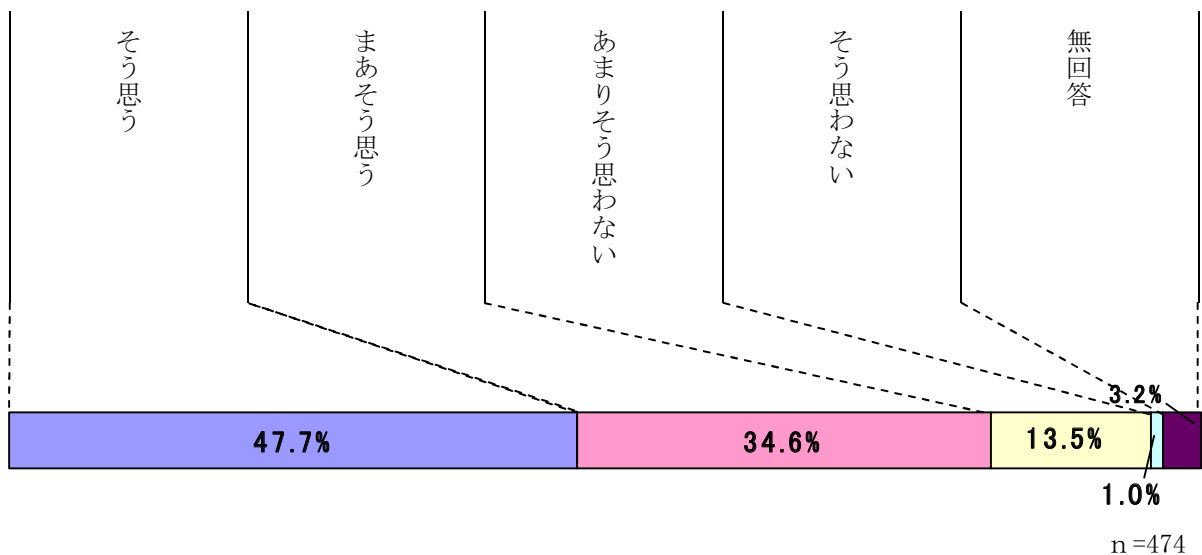
- | | |
|-----------|--------------|
| 1. そう思う | 3. あまりそう思わない |
| 2. まあそう思う | 4. そう思わない |



問 17 あなたから見て、子どもは、誰かのために何かをしてあげたい、と思っていると思いますか。

<〇は1つ>

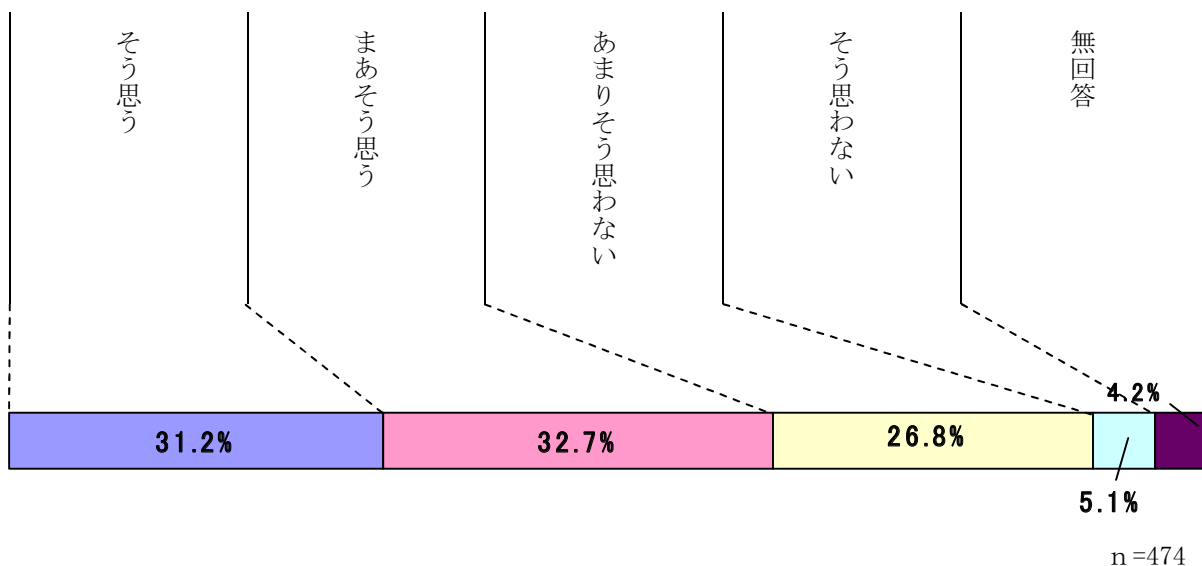
- | | |
|-----------|--------------|
| 1. そう思う | 3. あまりそう思わない |
| 2. まあそう思う | 4. そう思わない |



問 18 あなたから見て、子どもは、社会に役立つことをしたい、と思っていると思いますか。

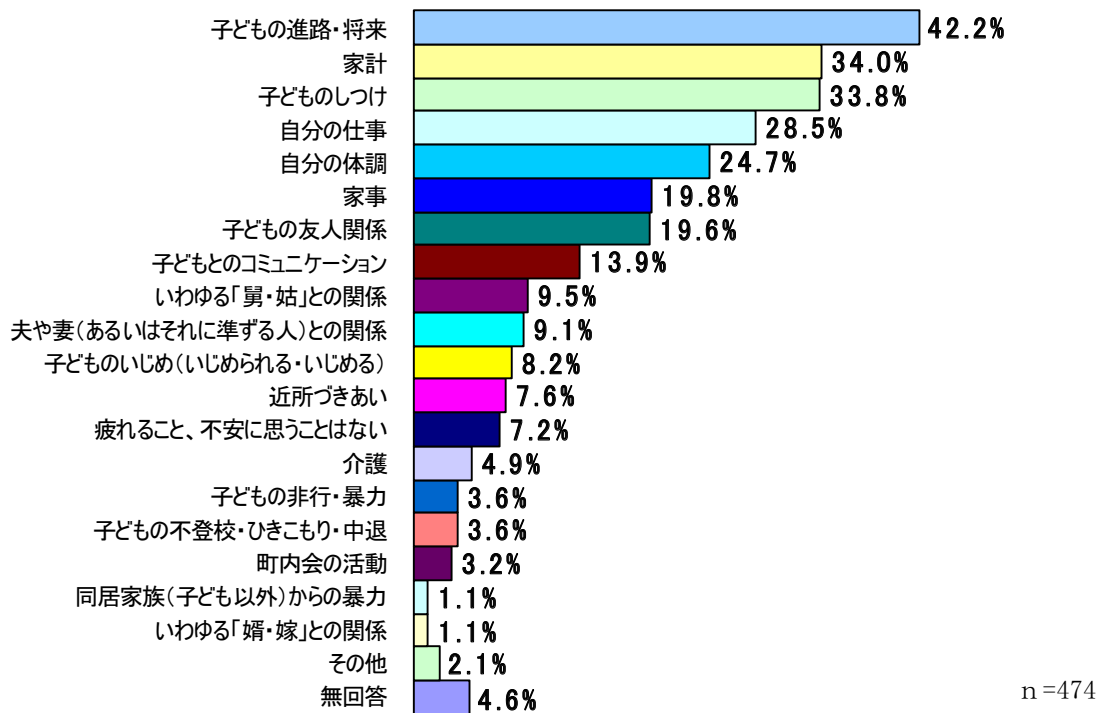
<〇は1つ>

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. そう思う | 3. あまりそう思わない |
| 2. まあそう思う | 4. そう思わない |



問 19 あなたが、日頃疲れること、または不安に思うことはどんなことですか。
 <〇はいくつでも>

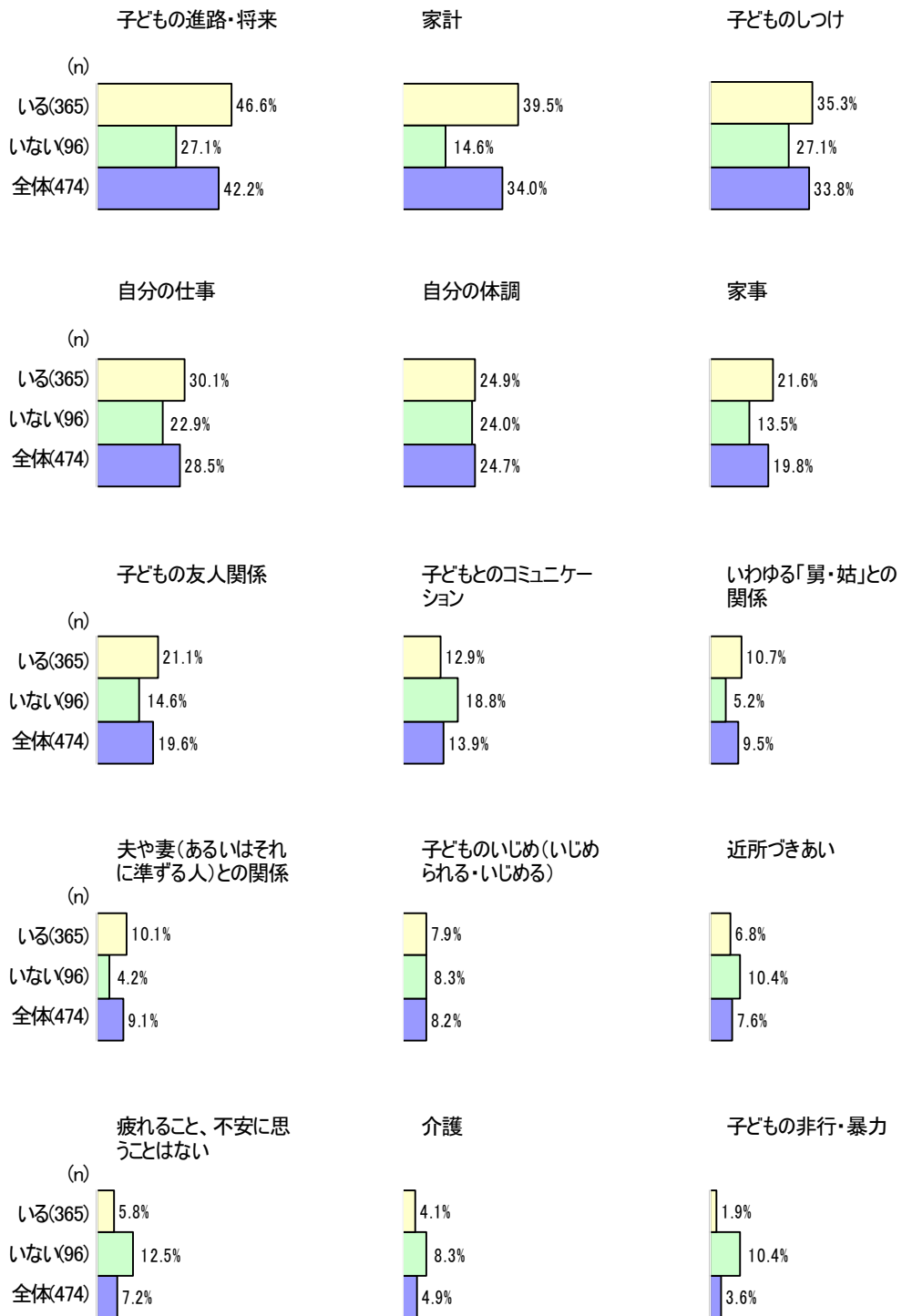
1. 子どもとのコミュニケーション
2. 子どものしつけ
3. 子どもの進路・将来
4. 子どもの友人関係
5. 子どものいじめ（いじめられる・いじめる）
6. 子どもの不登校・ひきこもり・中退
7. 子どもの非行・暴力
8. 家事
9. 家計
10. 介護
11. 夫や妻（あるいはそれに準ずる人）との関係
12. いわゆる「舅・姑」との関係
13. いわゆる「婿・嫁」との関係
14. 同居家族（子ども以外）からの暴力
15. 近所づきあい
16. 町内会の活動
17. 自分の仕事
18. 自分の体調
19. 疲れること、不安に思うことはない
20. その他

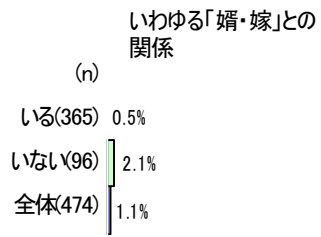
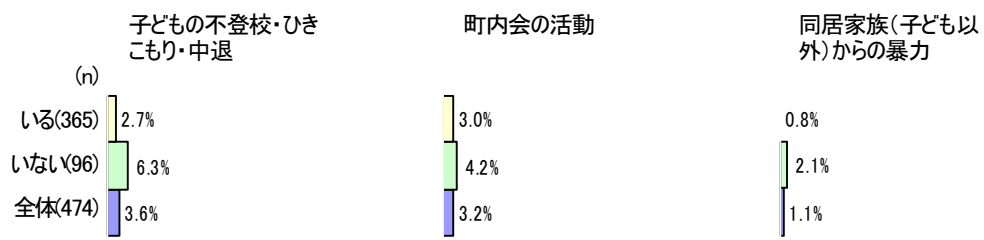


※その他

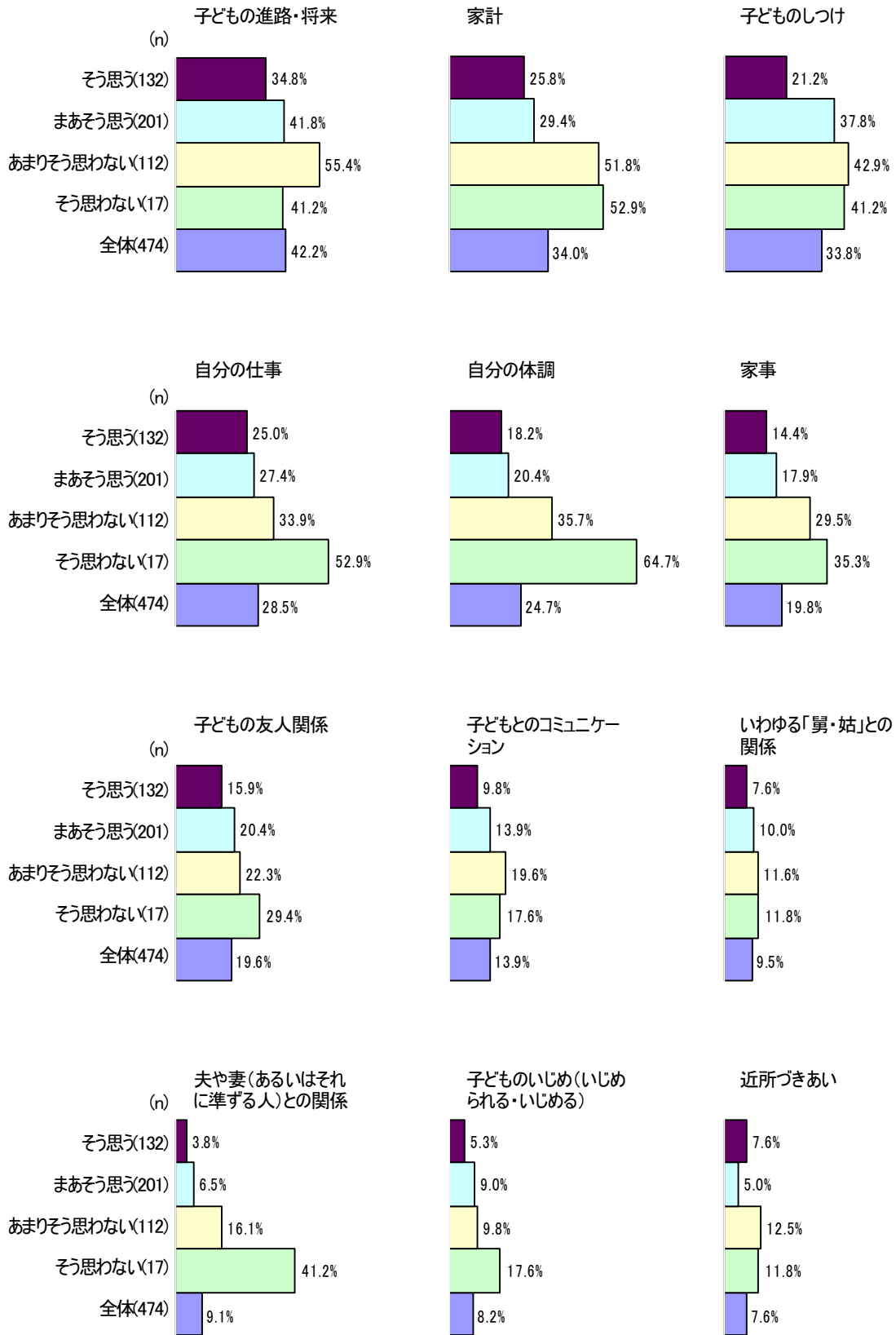
- 勉強。
- 自分の将来、進路。
- 自分の甲斐性のなさに日々疲れています。
- 障害のある子どもの将来のこと。
- 両親との関係。
- 病気のせいで子どもに迷惑をかけていること。
- 仕事にどんどん時間をとられていくのに、収入が減っていき、それが子どもの学力や健康に影響してきていること。
- 地球環境。
- 学校の委員会活動。
- P T A活動。

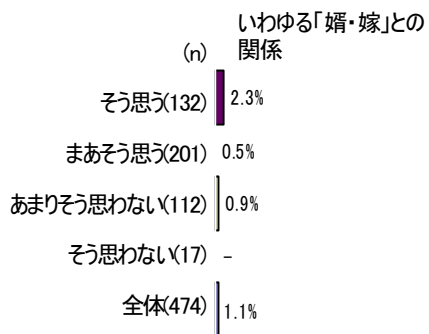
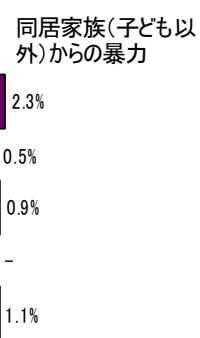
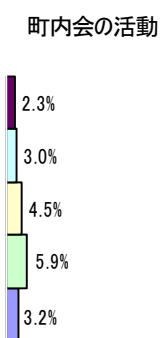
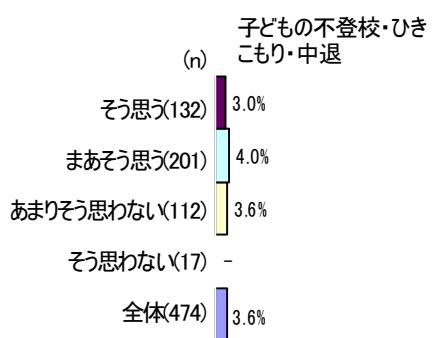
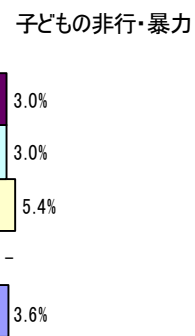
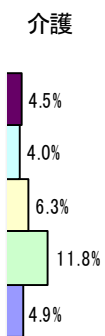
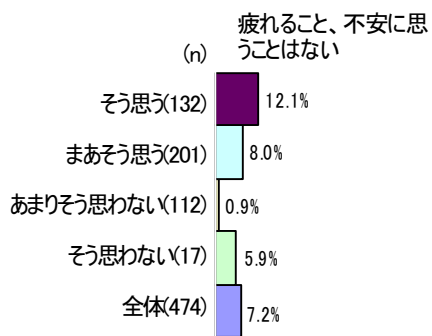
<子どもの有無別>クロス集計結果





<大人の自己肯定感別>クロス集計結果

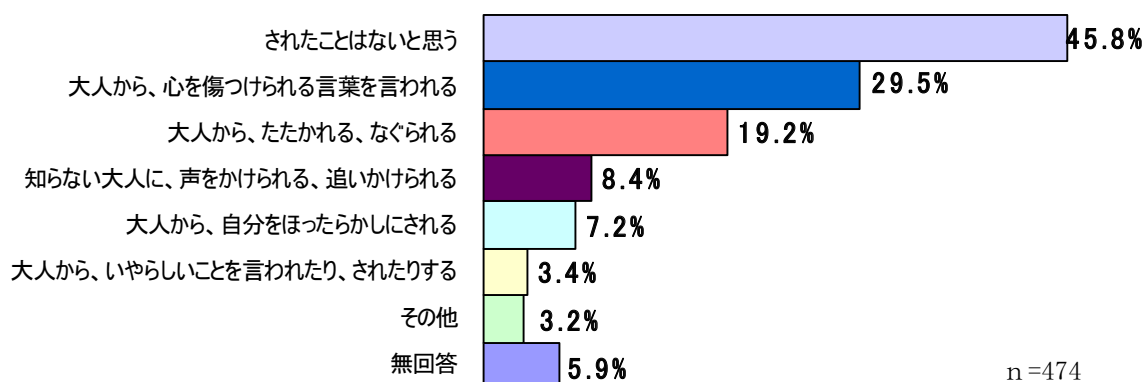




問 20 あなたの子どもの頃の体験として、大人との関わりで、次のようなことをされて、いやな思いをしたことがありますか。

<〇はいくつでも>

1. 大人から、たたかれる、なぐられる
2. 大人から、心を傷つけられる言葉を言われる
3. 大人から、いやらしいことを言われたり、されたりする
4. 大人から、自分をほったらかしにされる
5. 知らない大人に、声をかけられる、追いかける
6. されたことはないと思う
7. その他



※その他

担任からの体罰。

私の時代、先生からなぐられたりするのは当然のことだと思っていた。

学校の担任が非常に悪印象を今までも持っている。(全員の前でいやなことを言うなど)

子ども心に手本にならない大人がいっぱいいるという事実がわかる。

両親が大切に育ててくれたので、いやな思いをしたことはありません。

夫婦げんか。

小学校1年生のときに自分の言うことを信じてもらえず、ウソを強要されたとき。

小学校の先生が信用できなかった。

今思うとイヤだったなと思うが、その当時はあまり気にとめなかった。

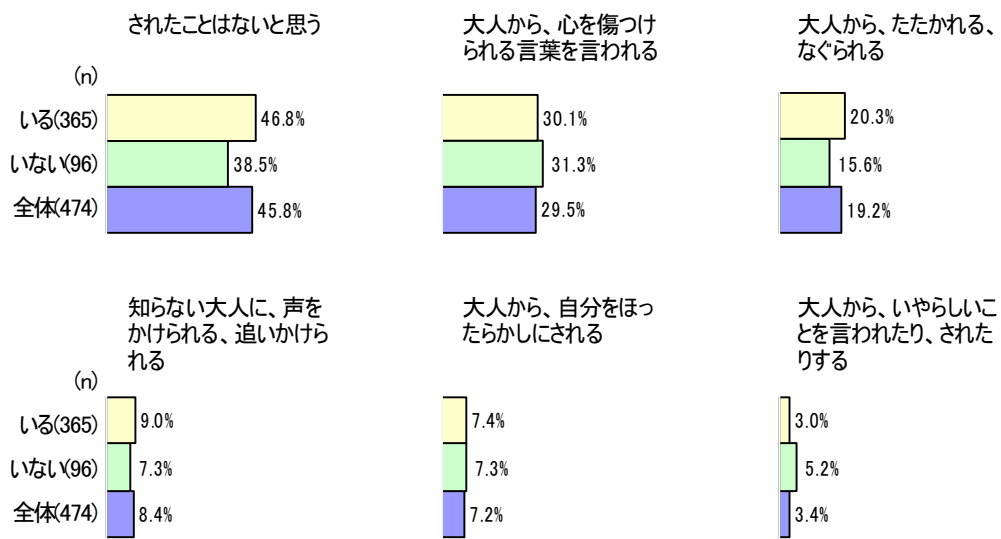
先生(小学校)にどろぼう扱いされたことがある。

暗い部屋に閉じ込められる。(しつけと称して)

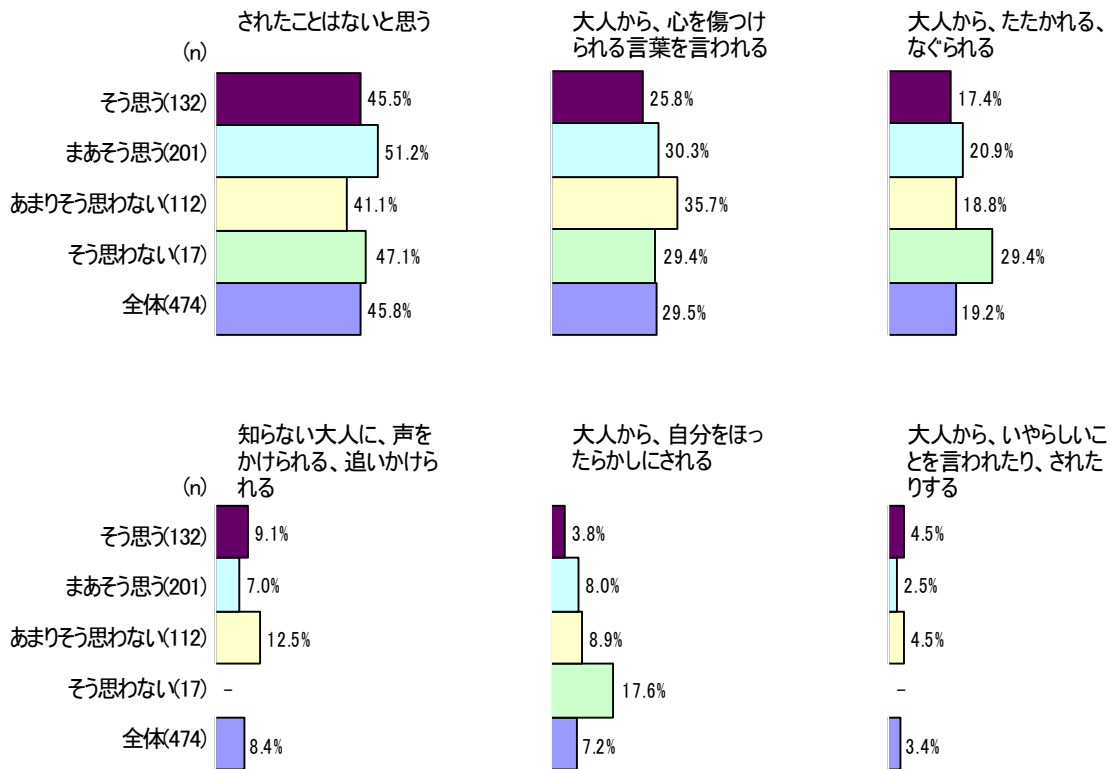
担任の先生がクラス内のいじめを見て見ぬふりしたこと。

たたかれたことはないとは言えないが、自分も悪かったときもあったので、しかたないと思う。

<子どもの有無別>クロス集計結果



<大人の自己肯定感別>クロス集計結果

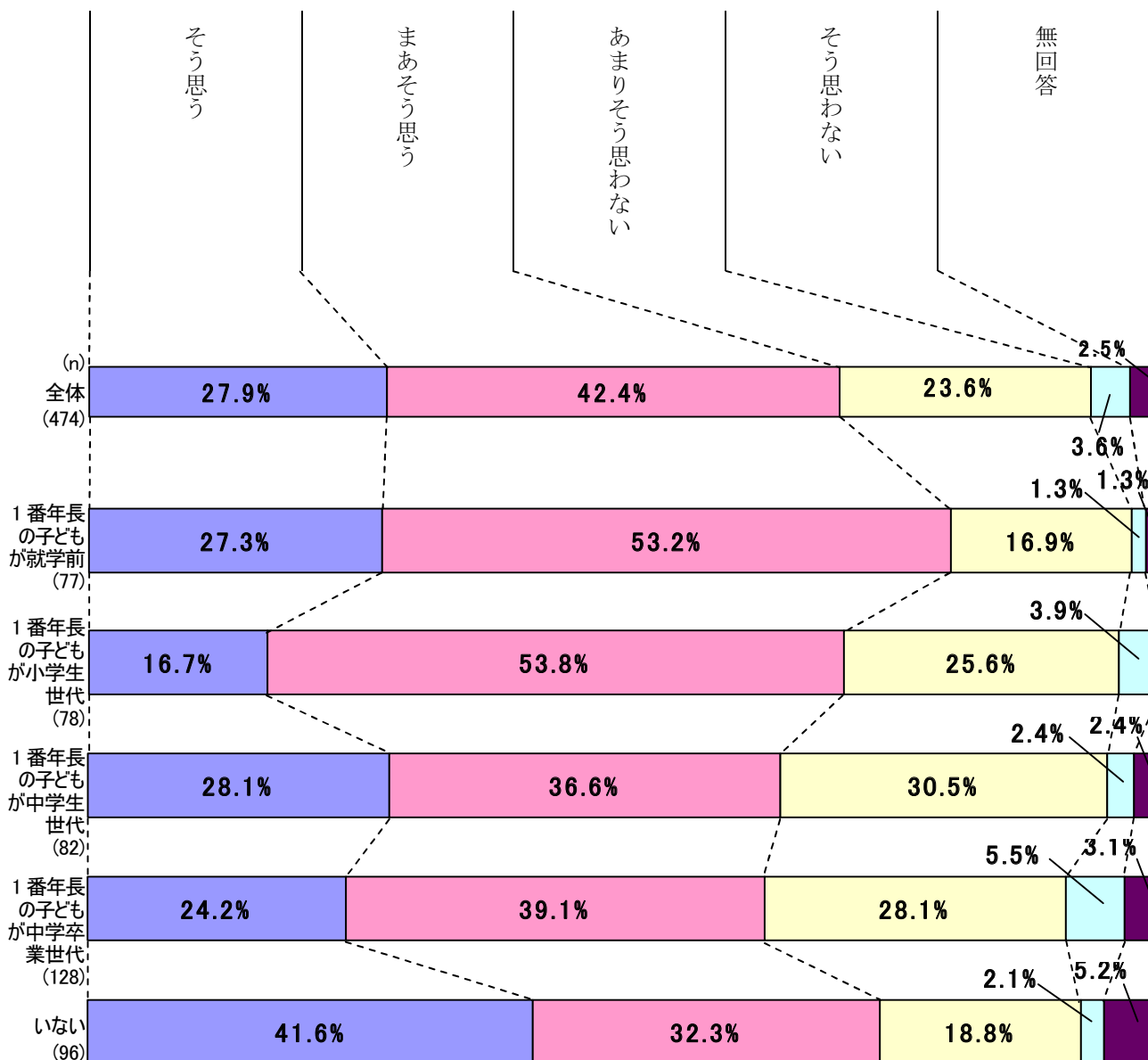


問 21 あなたは、自分のことが好きですか。

<〇は1つ>

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. そう思う | 3. あまりそう思わない |
| 2. まあそう思う | 4. そう思わない |

<子どもの有無及びその世代別>クロス集計

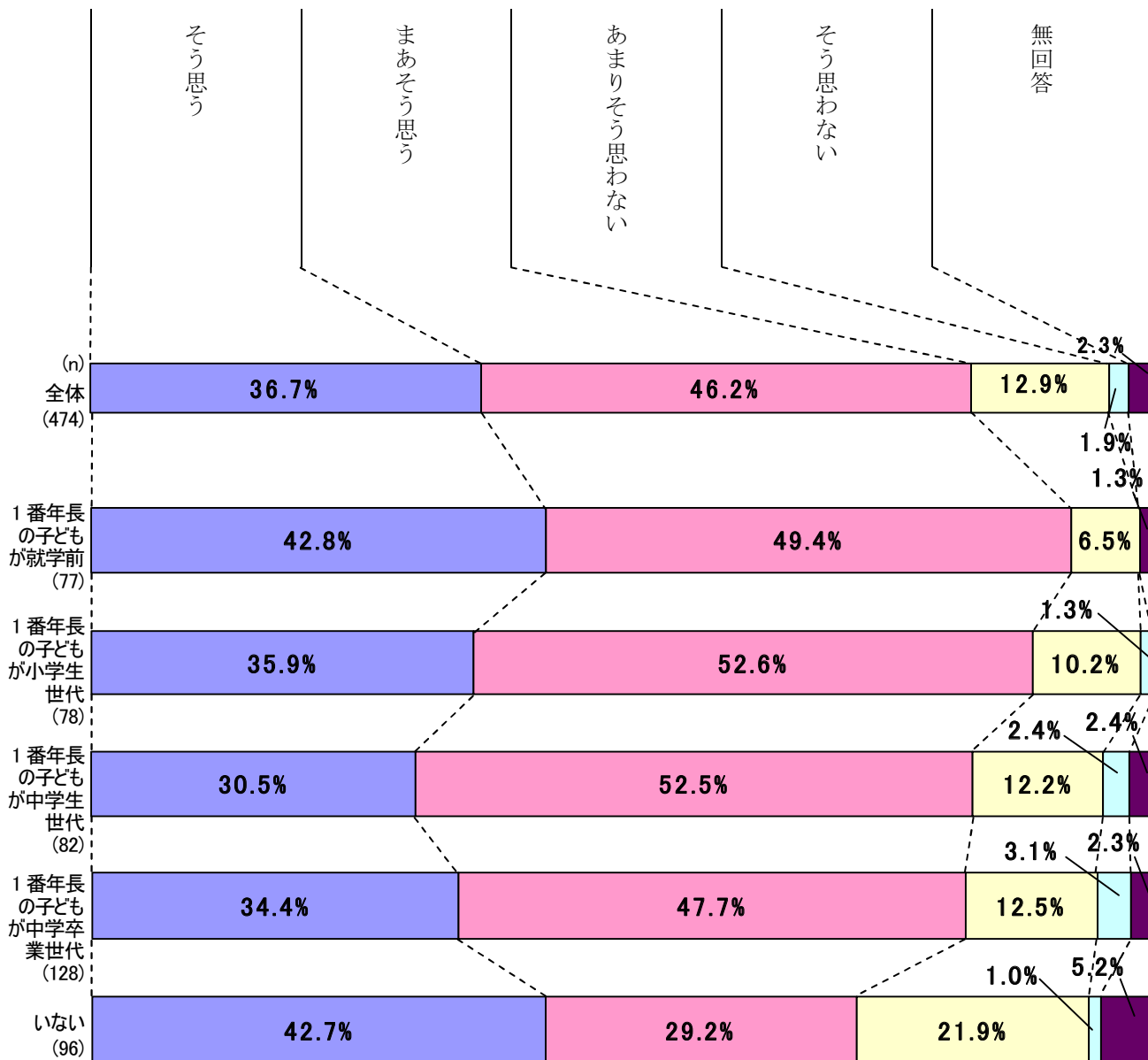


問 22 あなたは、自分が人から必要とされていると思いますか。

<〇は1つ>

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. そう思う | 3. あまりそう思わない |
| 2. まあそう思う | 4. そう思わない |

<子どもの有無及びその世代別>クロス集計

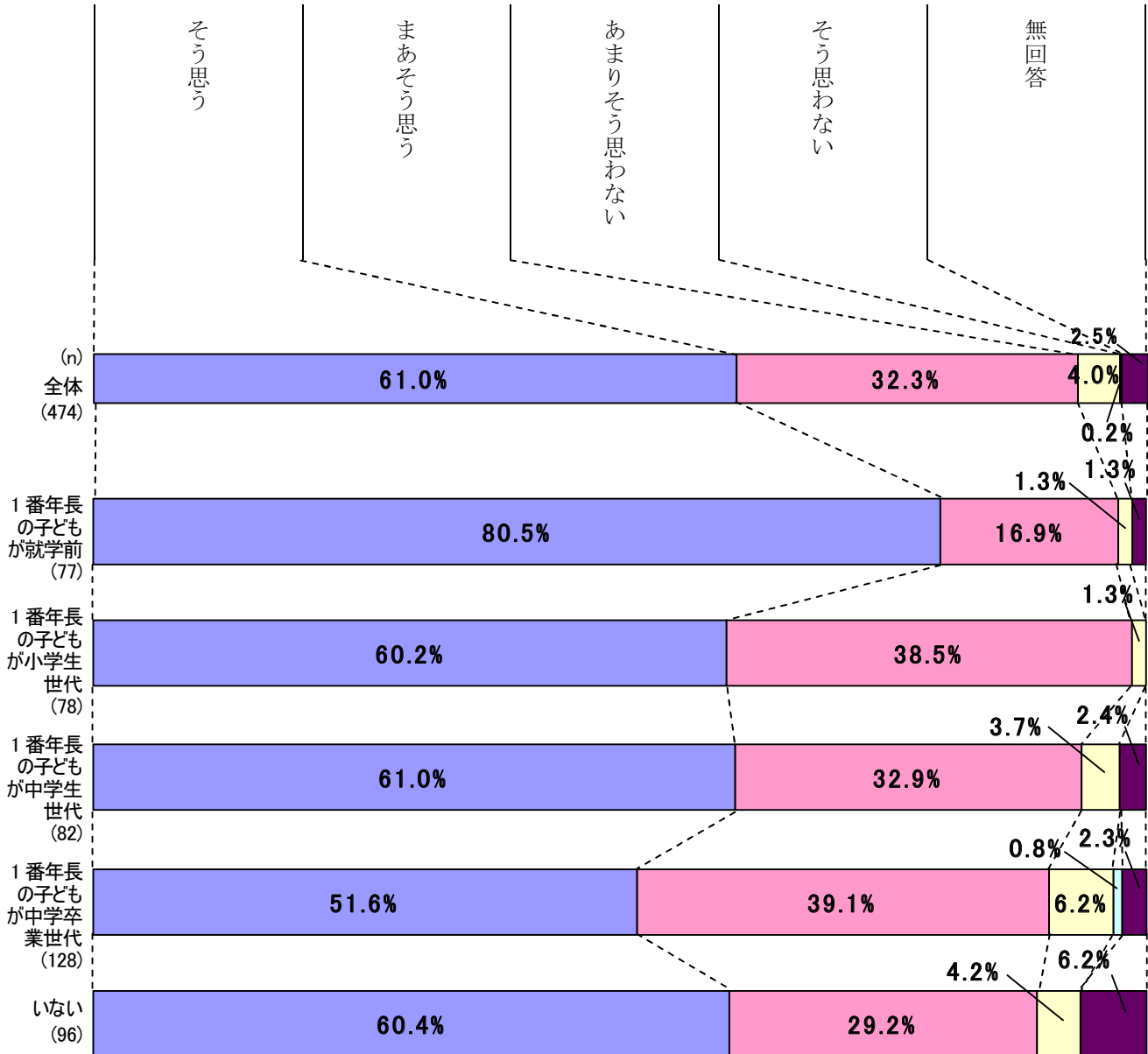


問 23 あなたは、誰かのために何かをしてあげたいと思いますか

<〇は1つ>

- | | |
|-----------|--------------|
| 1. そう思う | 3. あまりそう思わない |
| 2. まあそう思う | 4. そう思わない |

<子どもの有無及びその世代別>クロス集計

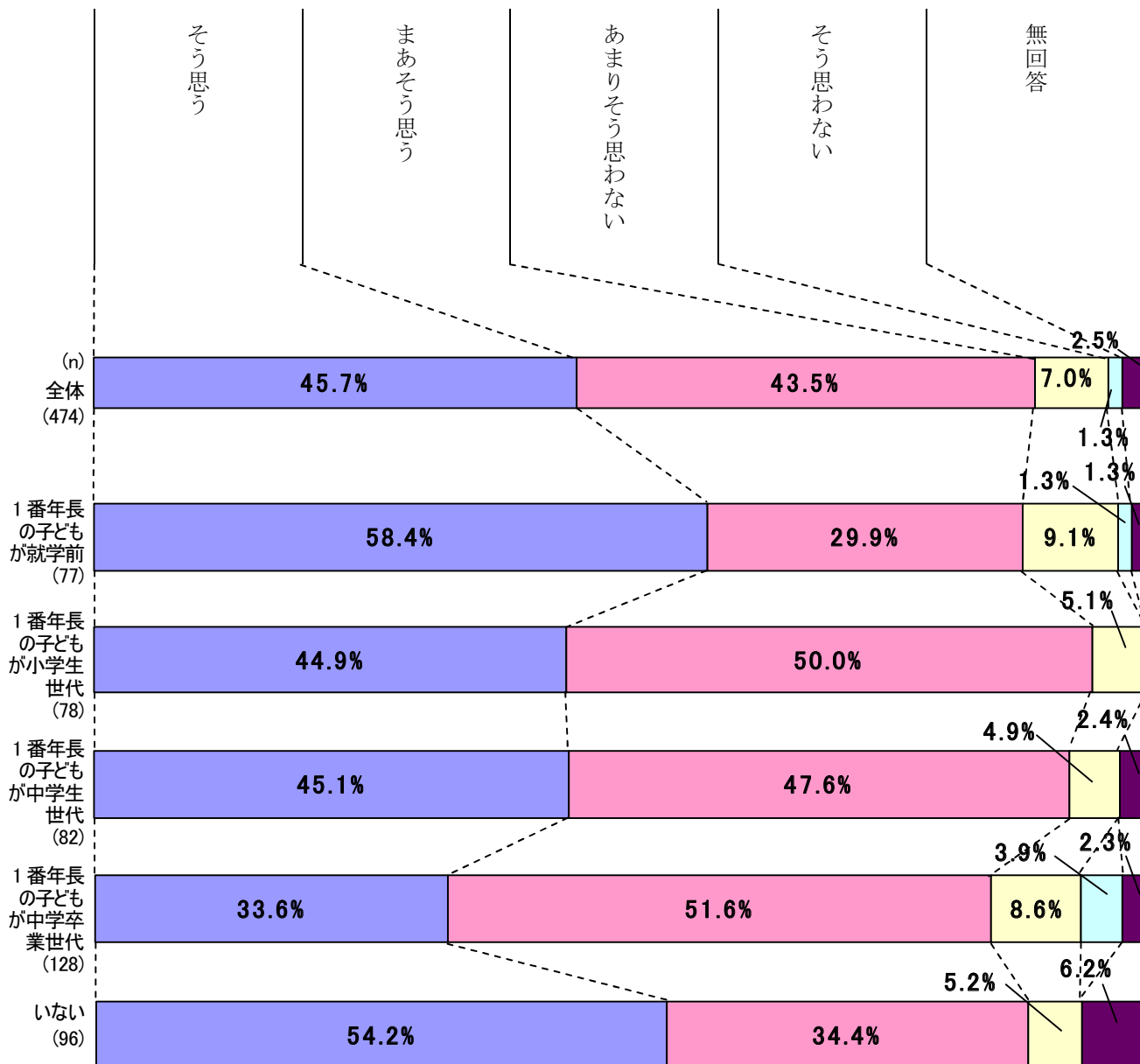


問 24 あなたは、社会に役立つことをしたいと思いませんか

<〇は1つ>

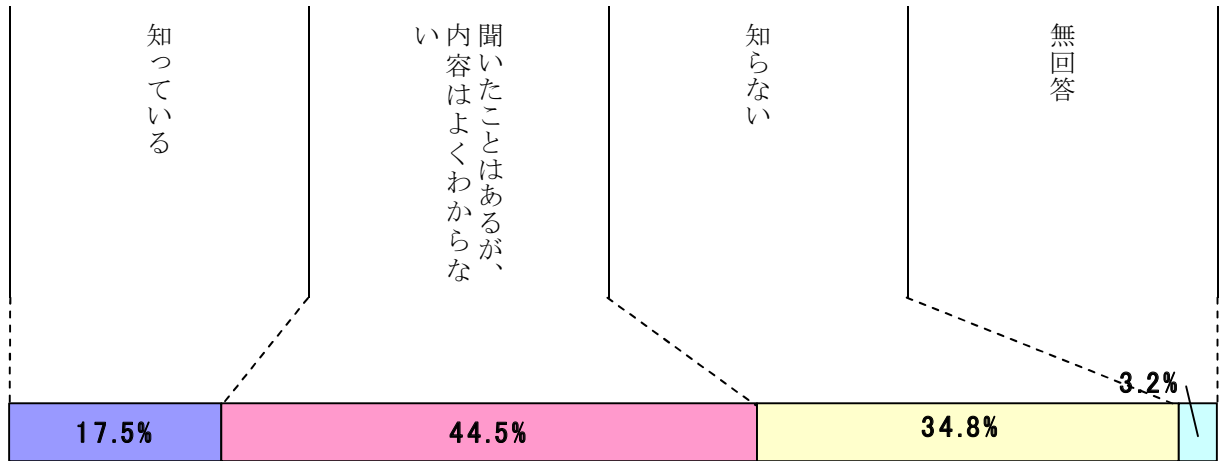
- | | |
|-----------|--------------|
| 1. そう思う | 3. あまりそう思わない |
| 2. まあそう思う | 4. そう思わない |

<子どもの有無及びその世代別>クロス集計



問 25 あなたは、「子どもの権利条約」を知っていますか。
 <〇は1つ>

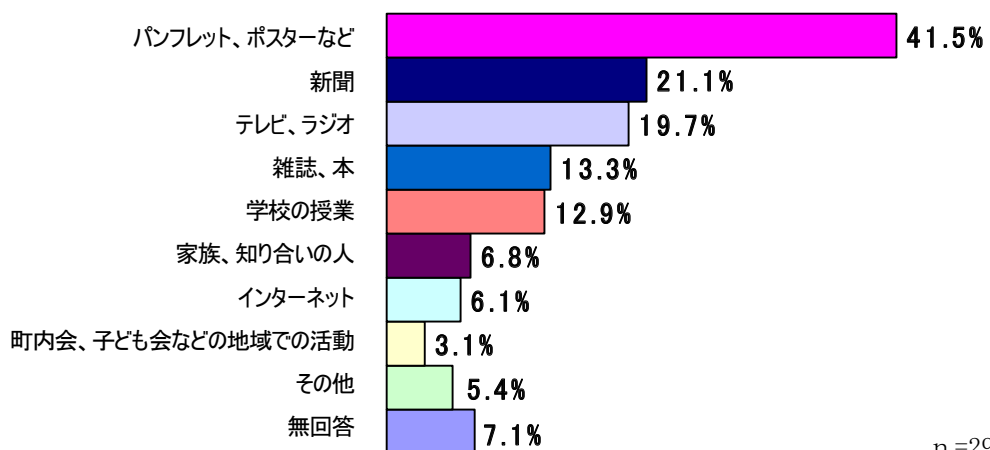
1. 知っている ⇒ 問 26 へ
 2. 聞いたことはあるが、内容はよくわからない ⇒ 問 26 へ
 3. 知らない



n=474

問 26 (問 25 で「知っている」「聞いたことはあるが、内容はよくわからない」と回答した人へ)
 あなたは、「子どもの権利条約」をどのような方法で知りましたか。
 <〇はいくつでも>

1. パンフレット、ポスターなど
 2. 雑誌、本
 3. 学校の授業
 4. 町内会、子ども会などの地域での活動
 5. 家族、知り合いの人
 6. 新聞
 7. テレビ、ラジオ
 8. インターネット
 9. その他



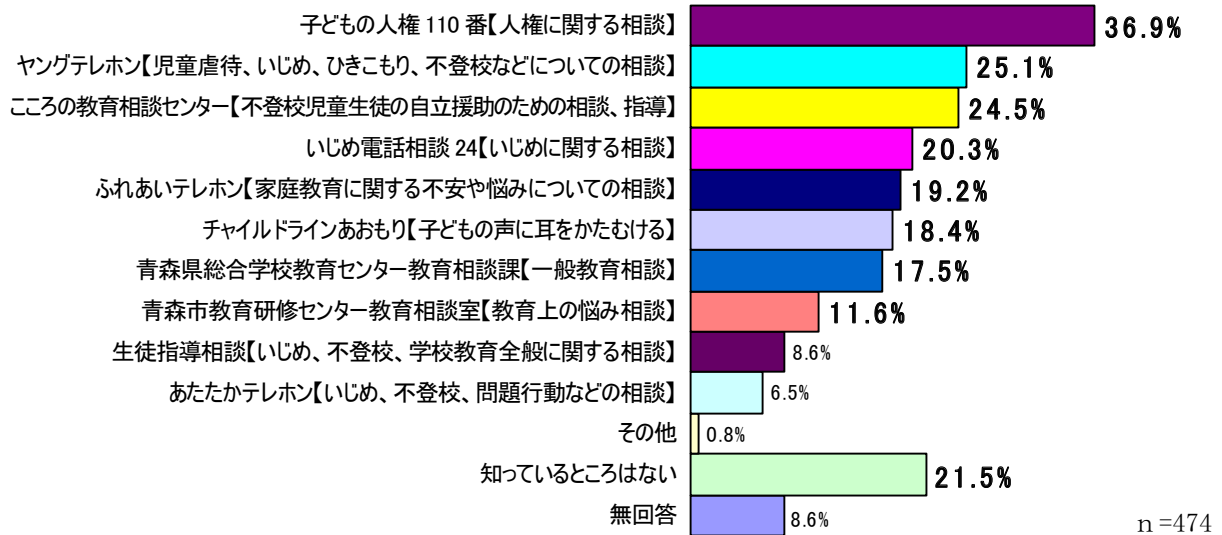
n=294

※その他

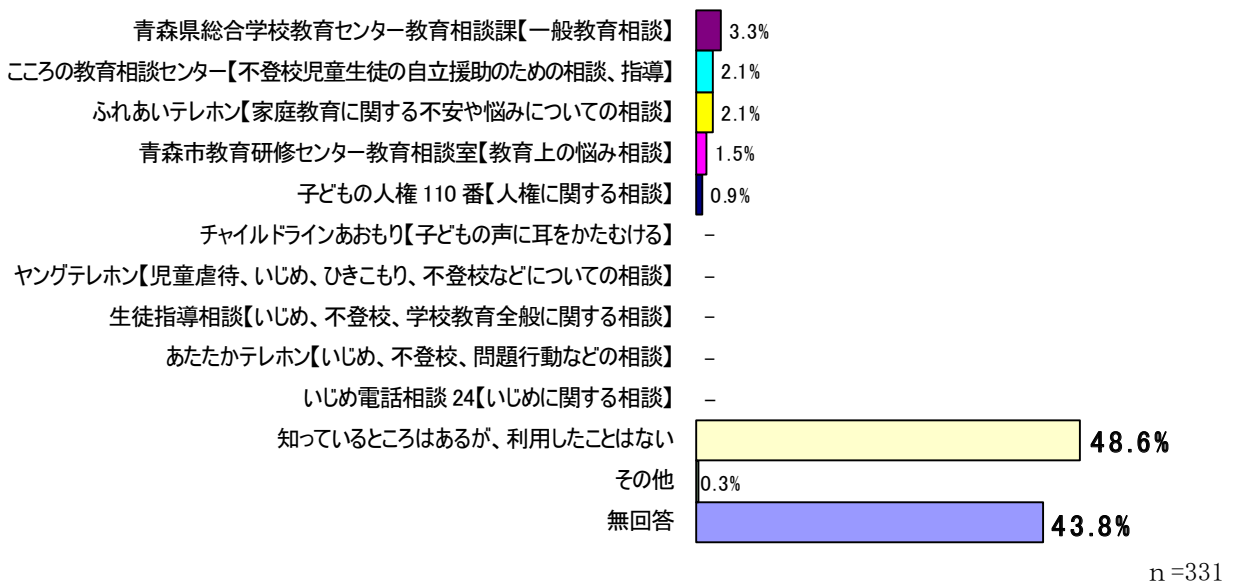
何となく聞いたことがある、仕事、知人、女性大学の講座、広報あおもり、言葉として聞いたことはあるが意味まではわからない、知識として、サークル活動している人たちから

問 27 青森市には、子どもが悩んだり、こまったりしたとき、電話やメールなどで話を聞いてくれる相談窓口があります。この中で、あなたが知っているところはどれですか。実際に利用したことがあるところはどれですか。
 <あてはまるところに○をつけてください。(○はいくつでも) >

○知っているところ



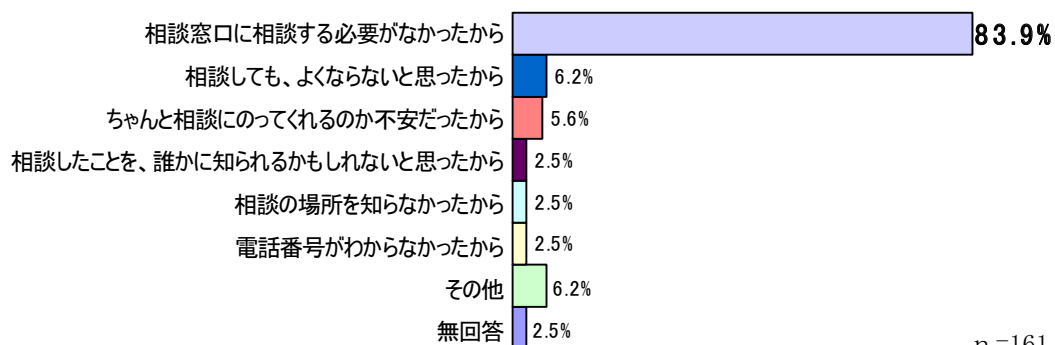
○利用状況



問 28 (問 27 で「知っているところはあるが、利用したことはない」と回答した人へ)
 あなたが利用しなかった理由は何ですか。

<〇はいくつでも>

1. 電話番号がわからなかったから
2. 相談の場所を知らなかったから
3. ちゃんと相談にのってくれるのか不安だったから
4. 相談したことを、誰かに知られるかもしれないと思ったから
5. 相談しても、よくならないと思ったから
6. 相談窓口で相談する必要がなかったから
7. その他



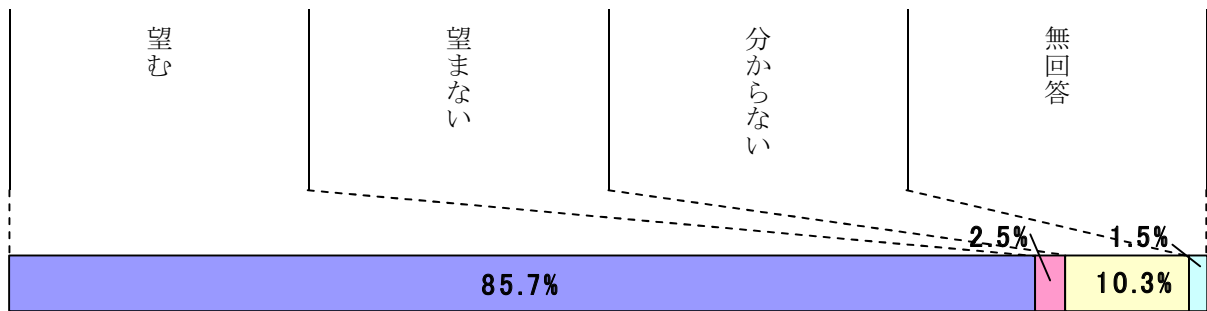
※その他

平日仕事をしていて、休日だと子どももいて、相談窓口も休みだったりするため。
 まだ相談する事項がない。
 元気プラザの3歳6か月健診の中の相談できるところ。
 学校の先生や本人と話をして解決できたから。
 相談したあと、うまく自分が処理できるか不安だったから。
 自分と相談できる人がいたことで解決できた。
 まわりの家族や友人に相談したから。
 電話できません。FAXが必要です。耳の不自由人のためFAXをしてほしいです。

問 29 あなた自身が、子どものことについて悩んだり困ったりして、相談窓口・制度を利用しようとする場合、どんな話でも聞いて真剣に受け止めてくれることを望みますか。

<〇は1つ>

1. 望む 2. 望まない 3. わからない

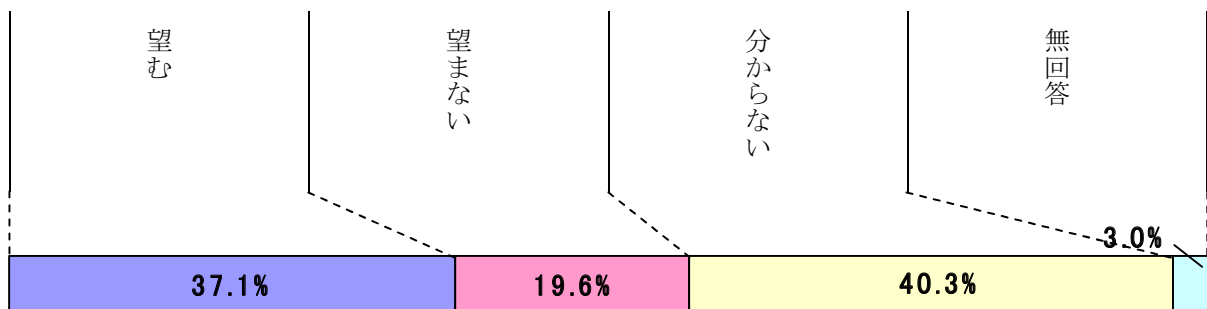


n=474

問 30 あなた自身が、子どものことについて悩んだり困ったりして、相談窓口・制度を利用しようとする場合、子どもと年齢の近い話し相手がいることを望みますか。

<〇は1つ>

1. 望む 2. 望まない 3. わからない

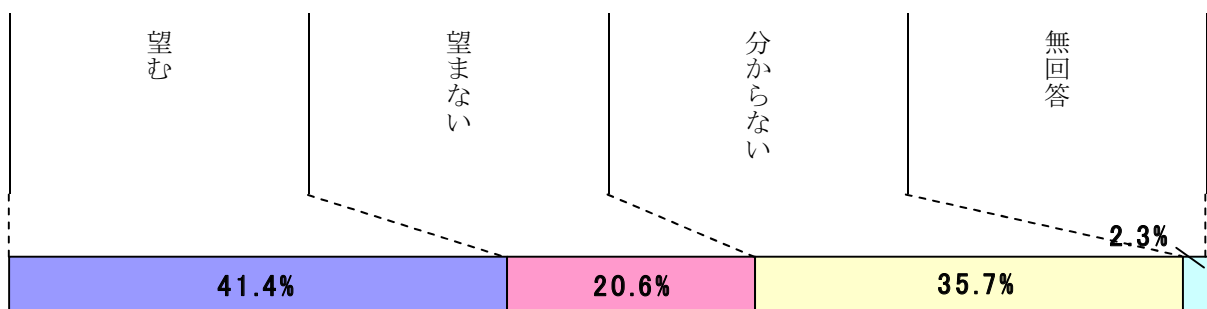


n=474

問 31 あなた自身が、子どものことについて悩んだり困ったりして、相談窓口・制度を利用しようとする場合、子どもの気持ちや意見を代わりに伝えてくれることを望みますか。

<〇は1つ>

1. 望む 2. 望まない 3. わからない

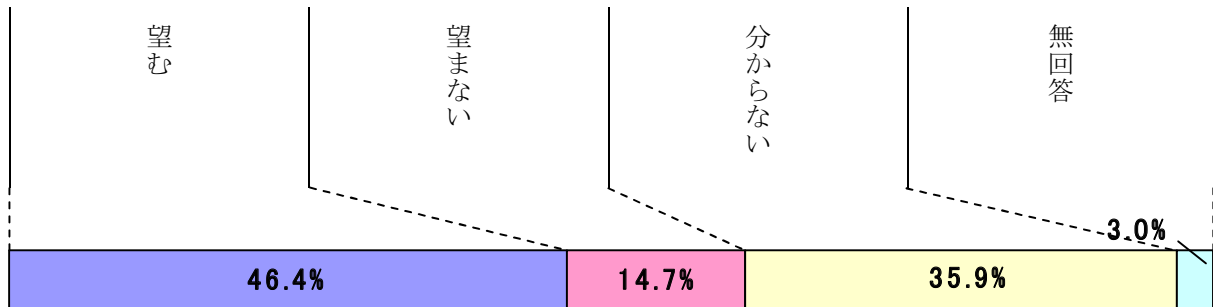


n=474

問 32 あなたは、子どもが悩んだり困ったりしたとき、相談窓口に逃げることができることを望みますか。

<○は1つ>

1. 望む 2. 望まない 3. わからない

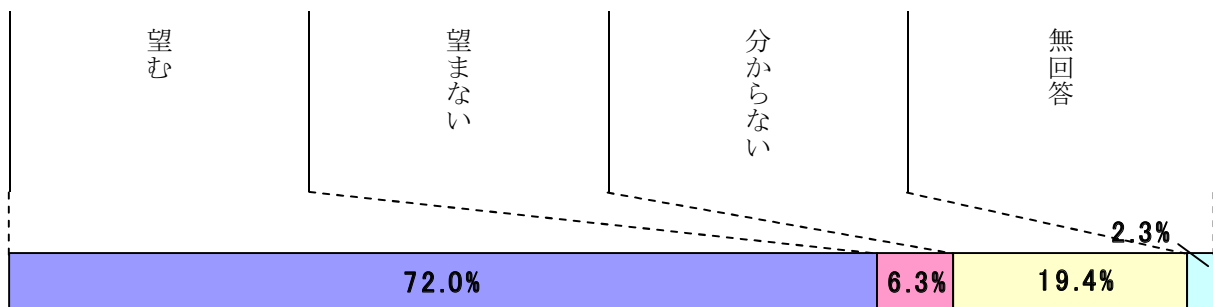


n=474

問 33 あなた自身が、子どものことについて悩んだり困ったりして、相談窓口・制度を利用しようとする場合、解決方法を教えてくれることを望みますか。

<○は1つ>

1. 望む 2. 望まない 3. わからない

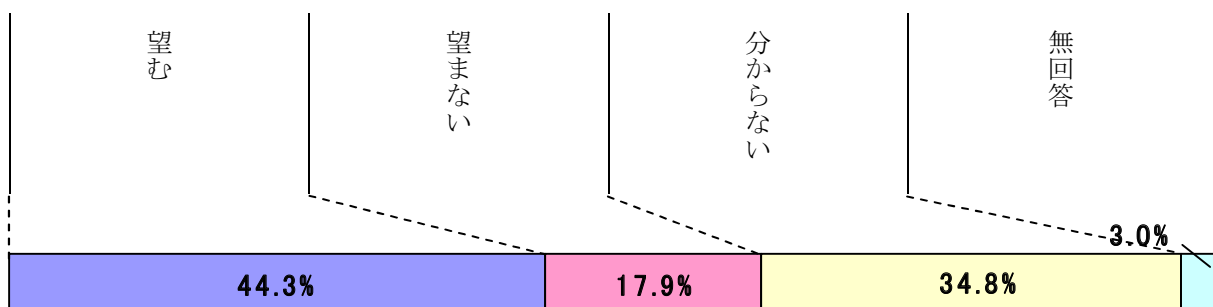


n=474

問 34 あなたは、相談窓口の人に、問題解決のため、関係する人たちの間に入って、調整してくれることを望みますか。

<○は1つ>

1. 望む 2. 望まない 3. わからない



n=474

青森市子どもの権利に関する 子ども・大人の実態把握調査報告書

健康福祉部子どもしあわせ課

〒030-8555 青森市中央1丁目22番5号

TEL 017-734-5348 FAX 017-722-5678

HP <http://www.city.aomori.aomori.jp/>